

こどもエコクラブくしろのみなさんへ

師範から一言――

小見出しやレイアウト、イラストにいたる細かいところまで、こだわりが感じられ、活動 20 年にふさわしい新聞に仕上がっていると思います。活動スケジュールに天気と気温が書かれているところなども、日本中の友達が新聞をみるのでとても参考になります。7 月、8 月の夏でも 30℃を超えていないので、北海道のすずしさが分かります。

トンボは観察イラストとなっていますが、写真をさつえいしてそれを見ながら描いたのでしょうか？胸部のもようまでスケッチしているので、トンボの観察になれていることがうかがえます。イラストを描くことは、トンボを見分けるためのとくちょうを覚えるのにとってもいいですね。

私の住む神奈川では、県内の水辺のある自然豊かな公園では、アキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネ、コノシメトンボなどをよく見かけます。赤トンボではありませんが、よく間ちがえられるショウジョウトンボとウスバキトンボはとても多く飛んでいます。ウスバキは北海道では 9 月頃でしょうか？！

私の生まれ育った関東では、子供の頃からザリガニといえば、アメリカザリガニでした。ニホンザリガニやウチダザリガニを野外で見ることはありません。そのアメリカザリガニも外来種であり、日本中に広がっていますね。駆除するための活動もいたるところで行われていますが、あつという間に広がったほど日本の環境に適応していて繁殖力が高いので、ゼロにするまでは大変です。釧路湿原の水辺環境とそこにくらす在来生物を守るためにも、ウチダザリガニの調査防除活動をこれからもがんばってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

たくさん「こどもエコクラブくしろ」のメンバーが新聞作りしてくれたことと思いますが、文章は自筆ではないのでそれぞれの記事やイラストは何人くらいでどのような分担で書いてくれたのかが分かりません。新聞のスペースもあると思いますが、記事の最後にかっこ()で担当してくれた代表者の名前を書いたりして工夫をしてみてください。

外来生物3原則として書いてある「飼ったり」「捨てたり」「広めたりしない」は大切ですね。ミシシッピーアカミミガメは大量に捨てられる恐れもあり、特定外来生物への指定が見送られています。一度、人の生活に入り込んでしまう(例えばペットとして)と色々なことを考えないといかなくなります。外来生物の問題だけでなく環境問題は、正解がないものもたくさんあるので、ぜひ意見を発信していきましょう。



北海道羽幌町 北海道海鳥センター・ジュニアレンジャー
壁新聞のタイトル:自然保護戦隊 ジュニアレンジャー

01-02

北海道海鳥センター・ジュニアレンジャーのみなさんへ

師範から一言――

ポスターのように配色が目立って、鳥たちが遠くからでも目にとまる新聞です。色紙を切りとって鳥をはり付けているので、立体的に見えます。記事をそれぞれの鳥(巣箱やネコ)の中に書いてあるのもいいアイデアだと思います。マガンが 1 万 4000 羽もとんでくるとはすごいですね。フンをうけてしまうこともいい経験です。ところでこの飛んでくるマガンの数はどのように数えるのでしょうか？飛んでいるときというより、飛び立つときあるいは沼にもどってくるときに数えるのかな。こんなにたくさんのマガンがくるのも、田んぼにエサがあるからなので、田んぼも含めた地域の自然を大切にしてください。

天売島での海鳥観察を通して、海鳥の生活環境や生態が分かってくると思います。絶滅危惧種であるウミガラスが暮らせる島でありつづけてほしいですね。ウトウは穴だらけのがけに帰ってくることや、ケイマフリがウトウの巣の近くにある岩場に昼間いることなど、ジュニアレンジャーのみんなにとっては当たり前の光景かもしれませんが、なかなかできる経験ではありませんし、観察力もすばらしいと思います。

年間をとおして、いろいろな観察の他に、巣箱や松ぼっくりクリスマスツリーづくりで自然と触れ合い、ゴミ拾いや海岸せいそうをするなど、たくさんさんの活動をしてくださいました。これからも楽しく、海鳥のくらす環境を見守ってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ネコの保護の活動は、海鳥を保護することにつながるのですね。ネコは元々は飼われていたものでしょうか？ネコが野生動物を食べてしまう問題は他の地域でもききますが、ネコの飼育のモラルの問題も含めていろいろな考えがあります。ネコは飼い主さんと家の中で暮らすのが良さそうです。人間のくらしに野生動物が関わることによっておこる問題はたくさんありますので、そういう問題にぶつかってしまったら、よく考えて話し合ってみてください。

スノーシューをはいての冬の動物さがしは、足あとを追ったり、木の冬芽をみたりとよい経験をしましたね。写真にうつっているみんなも暖かそうなジャケットを着ていますが、見つけた冬芽はどうでしたか？寒さから大切な芽をどのように守るかは種類によってさまざまなので、今度の冬もたくさん探して比較してみてください。動物の足あとをみると、動物に出会うことができなくても、どのように歩いて何をしたのか分かったりするので、想像をめぐらせてみてください。

おおぼし保育園 エコフレンドのみなさんは、保育園の小さな子どもから児童クラブの小学5年生までが活動されています。特にごみ分別や回収、清掃活動などを中心に、みんなで協力しながら活動を続けておられます。

壁新聞は全体がカラフルで、写真もたくさんあり、活動の様子がよくわかってとても見やすく、ステキですね。あちらこちらに星☆☆でかざってあるのは、おお「ぼし」保育園だからでしょうか？ とてもかわいいですね。保育園の写真もあり、みなさんがどんなところにいるのかがわかりますね。

たくさん集めたペットボトルキャップは、みなさんで洗って、かわかして、きれいにまとめて送られている様子が良くわかります。キャップを集めるのに協力してくれた人たちも、これを見たら「なるほど、きれいにしてから送るのか！」と感心してくれると思います。

それから、清掃活動の様子もわかりやすいですね。町にはタバコが落ちていることが多いことなどがわかります。ごみを捨てないでくださいと呼びかけをされているのも良いですね。

あと、照明を LED にかえたということなので、電気が少なくてすみますね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

● ペットボトルキャップは、とてもたくさん集まりましたね。どれぐらいの期間に、どれぐらい集まったのでしょうか？ 何個集まったのかを数えるのは大変ですが、袋にいれた状態で重さをはかってみると簡単です。回収に協力してくださった人たちに「〇kgも集まったよ、ありがとう！」と伝えられるとステキですね。

● みんなが一番伝えたいことや言いたいことを、壁新聞のタイトルにして大きく書いてみるのも良いと思います。たとえば「わたしたちのまちをきれいにしましょう」など。ついでに、この壁新聞をいつ作ったのかや、エコフレンドは何人いるのかなどみなさん自身のことについても少し書いてあると、見る人にわかりやすくなりますね。ごみを少なく、町をきれいにするみなさんの活動が、周りの人たちに広がっていきますように。これからも、大きい子も小さい子も仲良く、楽しく活動を続けてください。

☆☆サポーターの方へ☆☆

「エコキャップ運動」については、もともと賛否両論ある活動なのですが、2015年に報道があったことをきっかけに、ここ1年特に話題になりました。インターネットでちょっと検索するだけでも、いろいろな立場から様々な意見・情報が出てくるので、もしかしたら戸惑われることもあったかもしれません。否定的な意見を見たり聞いたりすると、子どもたちが一生懸命取り組んでくれた活動までも否定されたような気がして、悲しい気持ちになってしまうこともあります。否定的な意見はあっても、エコキャップ運動の全てが良くないというわけではありません。それに、エコキャップ活動以外のエコ活動や支援活動などについても、100%完璧な活動というものは、なかなかないと思います（例えば、リサイクル工作を「ごみでゴミを作ってしまうの？」という方もいます。リサイクル活動についても「ペットボトルのリサイクルを頑張るよりも、そもそもごみを出さないように水筒などを使うようにすべきでは？」「キャップを集めるために必要以上にペットボトルを買っていない？」という意見もあります。震災などの被災地へ物資を送るときにも、現地で必要とされていないものが大量に届いてしまうと迷惑になることもあります）。

そういう状況だからこそ、ぜひ大切にしていきたいのが、「活動の目標を明確にすること」と「活動を通じて、子どもたちや周囲の協力者に何を伝えていきたいのかを明確にすること」です。

応募用紙を拝見すると、清掃活動やごみ分別などの興味関心を深めることをテーマに、きちんと目標を明確にしていられっような様子なので、これから書くことは釈迦に説法かもしれませんが、念のため、もしかしたら参考になることもあるかもしれないので、一応さっと目を通していただければ幸いです。

ペットボトルキャップ(PP または PE)とペットボトル本体(PET 樹脂)は、別の素材のため、別々にリサイクルした方が良いでしょう。キャップは水に浮き、本体は(空気が入らないようにしたら)水に沈むので、キャップと本体と一緒に回収しても、その後の処理で分別することは可能である(機械で砕いたあと、水に浮いたものと沈んだものを分別する。ただし、おおぼし保育園の地域のリサイクル処理工場に、そういう機械が入っていれば可能、ということになります)。

ペットボトルキャップを外して回収に出すということは、ペットボトルの中身(液体)が入ったまま回収に出される可能性が低くなる。そのため、回収作業をする方に液体がかかって汚れたり、リサイクル処理の機械が汚れたりすることを防ぐことができる。

回収や処理の途中で、容積を減らす為にプレス機を使用することがあるが、キャップが閉まったままだと潰しにくく、場合によってはペットボトルが破裂することがある。

ペットボトルの本体とキャップを分別して、それぞれリサイクルすることは、不純物が少ないリサイクルにつながったり、キャップの分別を通じて支援活動ができるということもありますが、他にもゴミ収集やリサイクルに関わる人たち・機械の負担を減らすということにもつながります。

小学校高学年の子どもたちは、もしかしたら学校の勉強で地域のごみ処理施設見学などを行っているかもしれませんね。小さな子どもたちには難しいですが、高学年の子どもたちと、ペットボトルのキャップと本体を水に入れて素材の違いを感じたり、ごみや資源の分別回収をする時の注意点などを話し合ったりできると良いかもしれませんね。

この壁新聞をつくるときにも、物を大切にすること・ゴミ分別・あまった野菜でスープを作るなど、話し合いをされたとのこと。日頃から身近な活動を継続的に取り組んでいられっやっていて、それが子どもたちの身につけているのだらうなと思います。これからも、楽しく無理なく続けていただければと思っています。がんばってください！

HEP21エコクラブのみなさんへ
師範から一言――

HEP21 エコクラブのみんなが作った壁新聞「ぼくたちとだんぶり池の仲間たち」は、トップに酸性雨コーナーを、そしてその隣に水質調査を、そしてみんなが活動した1年間の出来事を一人一人が絵日記に書いて、新聞のまわりをエコかるたで囲ってあります。こんなすばらしい壁新聞をサポートの支援は少しはあったでしょうが、4歳から14歳(中学2年生)、高校2年生も入って、メンバーが力を合わせて作ったとは、本当にびっくりしました。感動しました。すごい！すごい！

酸性雨の調査は、小学2年生から中学2年生まで、エコクラブの一年間の絵日記は、幼稚園児(4歳)から中学・高校生まで、そしてエコかるたは、4歳から12歳までと、それぞれが力を発揮できることを分担してやっていることもすばらしいです。

pH、伝導度の測り方のすばらしさは、昨年も言いましたが、ともあらいをして、測定しているとは、とても立派なやり方です。専門的なやり方をちゃんとやっているのはすばらしいです。pH測定器や伝導度測定器の値のチェックもちゃんとやっていると思います。1回だけ校正して、そのままにしていらないと思います。数値の正確さがこの調査では、命ですから、ともあらいとサンプルびんを2回あらう、そして測定器もそのつどあらう、校正をするなどをちゃんとやっていると思います。こんな大変な調査をみんなは良くやっていることに敬服します。

雨や雪のpHや伝導度だけでなく弘前公園のお堀の水の調査もやっています。HEP21エコクラブのみんなは、水の調査の専門家、ベテランになっているようですね。ここで学んだ技術を活かして中学、高校など上の学校などでも力を発揮してすばらしい研究者になることを期待しています。

エコかるたは、みんなが日ごろ、身近でやっていることを書いてくれたようですね。きょうそうして、1人で何枚も書いてくれたようで、楽しいかるた作りだったようですね。1まい1まい読んでみるととても感心することが書いてありました。たとえば、ゲームより外で遊ぼう あせかいて、ちゃんとたべてね たべものなくよ たべのこし、使えるよ 点数悪いが テストの紙、トイレではべんざのふたも しめましよう、脱いで着て 暑さ寒さは 自分でするよ、古くても 修理をしたら 元どおり などなど。お家の人といっしょにやっていることも書いてくれました。自分がやっていることを絵にして、書いてみるといっそう自分でかくにん出来て、けいぞくしてやるようになると思います。とても良い活動だと思えます。

壁新聞のちょっとしたすきまにもカナヘビやカエル、トンボなどの絵を書いて、どこもむだにしないで新聞作りをしました、エコ新聞ですね。みなさんの意気込みも感じられました。

来年もみなさん一人一人の活動を書いて、楽しい壁新聞を送ってください。待っています。

青森県弘前市 HEP21 エコクラブ 壁新聞のタイトル:ぼくたちとだんぶり池の仲間たち

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

トップ記事の酸性雨コーナーは、全国フェスティバルで約束した過去のデータと一緒にして考えてみよう、ということでせんぱい達が調べた2002年から2007年までのデータをのせてくれました。鶴見先生の指導で、測定した値を横軸を伝導度、縦軸をpHでプロットして、夏と冬の季節のちがいをを見つけました。夏はpHは5.6以上が多くて普通の雨だった。しかし、秋から冬になるとpHが5.6以下の酸性の雨や雪が多いと言う貴重なデータが得られましたね。これはどういう理由だろうか？秋から冬は北西や北風が吹いて、大陸の空気の影響のように思えますね。大陸の空気の中に酸性雨のもとになる窒素酸化物や硫黄酸化物が多く含まれているのかな？黄砂や北京スモッグの情報もみんなは調べましたね。大陸の影響がはっきり出ていると考えた方が良いでしょうね。

もう一つ、せんぱい達の調べたデータとも比較しました。棒グラフで酸性雨が観察された割合を赤色で書きました。みんなも発見したようですが、昔と比べると今の方が酸性雨の割合が多いですね。この理由もみんなは気が付いたと思います。大陸の国で産業が活発になり、暮らしも良くなり、工場や自動車からの排ガスが増えたのではないだろうか？

このようか仮説を持って、国ごとの産業や工場の数、自動車の普及台数などの年ごとの変化と調べた日の風向や風の強さを調べて比較すると何か分かると思います。本当に大陸の国からの空気、排ガスが原因であると断定するには、もっと正確なやり方がありますが、みんなができることは限られているので、できる範囲で原因を考えてみることも、ぜひ、やってみると良いと思います。ここまで調べて酸性雨コーナーのデータ解析をして、調査報告書にしたら、それだけでもすごく立派な報告書(論文)になりますよ。小学生がやったと言ったら専門家も拍手！拍手！でほめてくれると思います。



壁新聞のタイトル: ぼくたちとたんぶり池の仲間たち

あれ？においのことを観察したのがないですね。この次はにおいのことも良く観察して報告してください。

これからもこのような本来のやり方で、こども中心の活動を進めてください。

02-03(推薦)、02-04~02-09、全7枚

The image shows two pages of a Japanese newspaper, likely the Asahi Shimbun, with various news articles and a large headline about a shipwreck.

Page 1 (Left):

- Top Section:** A large headline reads "地球のために、平和をいかにする" (How to achieve peace for the sake of the Earth). Below it, a sub-headline says "地球の平和をいかにする" (How to achieve peace on Earth).
- Main Article:** A large article titled "地球の平和をいかにする" (How to achieve peace on Earth) is written by 佐々木 康 (Sasaki Yasuaki). It discusses the importance of international cooperation and peace.
- Bottom Section:** A smaller article titled "地球の平和をいかにする" (How to achieve peace on Earth) is written by 佐々木 康 (Sasaki Yasuaki). It continues the discussion on international cooperation and peace.

Page 2 (Right):

- Top Section:** A large headline reads "二六問題" (The 26th Problem). Below it, a sub-headline says "二六問題の解決" (The Solution to the 26th Problem).
- Main Article:** A large article titled "二六問題の解決" (The Solution to the 26th Problem) is written by 佐々木 康 (Sasaki Yasuaki). It discusses the challenges of international cooperation and peace.
- Bottom Section:** A smaller article titled "二六問題の解決" (The Solution to the 26th Problem) is written by 佐々木 康 (Sasaki Yasuaki). It continues the discussion on international cooperation and peace.

緑と太陽の保育園 グリーン・キッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

グリーン・キッズさんは、毎年続けて活動して、昨年で9年目の活動となったそうですね。保育園ですから、メンバーは入れ替わっていきますが、続けることでエコ活動が当たり前のことになってきたのかなと思います。散歩での会話から、「ごみがどうなるんだろう」と自然に疑問を持ったことも、それを表しているようですね。その疑問を、先生たちやみなさんで考えてみたことは、とてもすばらしいと思います。疑問が解決したよこびやおどろきが壁新聞からよく伝わります。きっと、保育園を卒園した子たちも、学校や家でエコ活動ができていないんじゃないかと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
ごみと思っていた空き缶やプラスチックも、きちんと分別すれば役に立つことができます。みなさんがいつも行っている分別は、そのためにとても大切です。これからも大きいクラスの子は年少さんに教えてあげたりして、みんなで分別をしていきましょう。お家や近所の人にも、ぜひ呼びかけて下さいね。



緑と太陽の保育園 グリーン・キッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

グリーン・キッズミニの壁新聞では、育てた植物についてまとめてくれました。トマト、アサガオ、ゴーヤといろいろな植物を観察したり、食べたりすることができましたね。観察日記のように日付が書いてあって、とてもわかりやすいです。みんなでワクワクしながら植物の成長を観察できた様子が伝わります。廃材を使った制作も、いろいろなものができましたね。壁新聞の縁やタイトルも空き箱を使って、普段から物を大切にしていることがよくわかります。すてきな工夫ですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
来年度はどんな植物を育てようか、みんなで相談するのでしょうか。いくつか候補をあげた紙を作って、シールをはって投票してみるのもいいですね。
昨年度と同じ植物でも今回のように日付など記録を取っていくと、年による成長のちがいも発見できるかもしれませんよ。



イオン石巻チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

新聞で伝えたいテーマはタイトルにある「STOP!! 地球温暖化」だと思いますが、テーマを意識して記事をかいてくれましたね。新聞全体で地球温暖化防止にむけたストーリー性のある構成になっているので、それぞれの記事がまわりの内容をひきたてているように感じます。地球温暖化がそのまま進むとコーヒーが飲めなくなるという記事にはびっくりします。コーヒーは熱帯のものというイメージがあるからです。現在たくさんコーヒー豆として使われている種類のコーヒーの木が温度上昇に弱いということなのでしょう。コーヒーの木が育つ自然環境とそれに関わる生き物たちの変化もあるかもしれません。

宮城県の大豆についてはこの新聞を読んでよく分かりました。コーヒー豆の生産量がおちているように、温暖化が大豆の生産量にえいきょうする可能性もありますね。難しそうな環境問題を、人の生活な身近なものへのえいきょうに置きかえて考えているので、とても説得力が感じられます。

ゴーヤの苗をプレゼントはいいアイデアです。種をまくよりもすぐに植えてくれる人が多いような気がします。苗も早めにプランターなどに植えかえは必要でしょうが、種を引き出しにいれてしまう人がいても、苗をしまう人はいないでしょう。グリーンカーテンは日差しをさえぎって室温を下げてくれるだけでなく、身近な緑がふえ、光合成により二酸化炭素を吸収してくれるので、ぜひグリーンカーテン活動を続けてください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
「Let's モニタリング」のように何か調べてから実行するという取り組みがすばらしいと思います。この調査はたくさんの取り組みのひとつなので、これだけでも十分ですが、調査結果を分析したりする場合は、もっとたくさんの人や様々な年代の人に聞いてみるというですよ。
地球温暖化の防止のために、自分たちでできることをいくつも考えてくれました。環境の問題は、自分たちにできることから始めるのが大切なのでぜひ実行してください。

秋田県秋田市 マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル: GREEN UP!! 自然と文化 驚異の旅in秋田 2015

マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

紙面いっぱい、活動内容をしっかり書き込んでくれていますね。素晴らしい！県内各地でそれぞれに楽しい活動ができていて、写真を見ると、どの活動もとっても楽しんで取り組んでいることがよくわかります。いいですね。まげわっぱ作りにみんな熱心に取り組んでいますね。熱心に取り組む様子が写真に写された表情からうかがえます。いいですね！作るのに底とふちをあわせるのに力が必要だって書いてくれてありますね、うまくまげて形を作るのにコツがあるのかな？むずかしそうだね。

「自分で作ったまげわっぱの上に乗せたパンはいつもよりおいしい」ってありました。そうなんだよね、自分で作ったものに乗せると、つもと同じものが十倍も二十倍もおいしくなります。作った作品に愛情が込められているからだね。いい体験をしました。ツリークライミングにも挑戦しましたね。実は私も体験したことがあります。ロープを使って足でこぐ形で少しずつ上部に上がっていったよね。見える景色もちょっとずつ変わってきて、その変化がとても楽しかったことをおぼえています。みなさんもそうだったかな？10人もの人を支えるケヤキ、すごいね。その木も、育つ環境によってそれぞれ違って、同じものはないということも学びました。木も人も同じってことかな。楽しいだけでなく、大切なこともたくさん学ぶことができましたね。よかった。みなさんの新聞でとてもいいなと思ったのは、実際に活動している様子、そこで学んだこととあわせて、ちゃんと自分たちで調べ学習もしているというところ。やりました、楽しかった、だけでなく、その裏付けとなるところをちゃんと調べてそのことも書き込んでくれてありますね。調べてみる、やってみる、感じてみる。まとめてみる。どれもきちんと取り組まれているととてもいいと思いました。あわせて、どこのHPを見て調べたかについても、ちゃんと書かれています。とっても大事なことです。それができていて、とてもいいと思いました。これからも元気に活動してってください。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

それぞれの活動そのものについてはよくわかりました。これらの活動はいつ行われたのでしょうか。日付と、できればもう少し具体的な場所について書かれているといいなと思います。

来年度の活動予定も書かれていていいですね。次はどんな活動になるのでしょうか。報告が楽しみです。

福島県郡山市 湖南エコクラブ
壁新聞のタイトル: 湖南エコクラブ新聞

07-01

湖南エコクラブのみなさんへ
師範から一言――

私は、猪苗代湖はテレビや本などでしか見た事がありません。湖の場所によって地区の名前が違うだけでなく、水質や環境もけっこう違っているようですね。特にみなさんの地域に近い「鬼沼」の水質があまり良くない事は心配ですね。「水質調査」「生物調査」「浄化センターの見学」と、たくさんの活動をしているだけでなく、今回の活動で気づいた事や過去の調査をあわせて考えていますね。自分たちの考える力に結び付く経験が出来ていて、みなさんの活動が今後どのように発展をするのか、とても楽しみです。この壁新聞を読んでいると「私たち湖南町に住んでいる人にはなじみがある」「これからも調べていく必要がある」「ぼくたちにできることは、ごみを減らしたり拾うこと」と、前向きな気持ちが見られるので頼もしい限りです！

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

私は毎月一回、地域の小学生と一緒にビオトープの調査や管理をする活動をしています。そのビオトープには、猪苗代湖とは比べものになりませんが、いろいろな生きものがすんでいる小さな池があります。そこでもやはり毎年調査をしていると、水が汚れたり変化が見られる事があるのです。そんな時は水が汚れた原因を特定して、その原因を減らしたり無くす事が、水質を回復させる方法だと思います。

地域の自然を守る事は、日頃から変化を見たり感じている、そこに住んでいる人たちが一番頼りです。もっと言えば、これからは変化を見続けて活動できる世代、つまりみなさんのような環境に関心を持っている子どもたちが最も大切と言っても良いでしょう。

これからも猪苗代湖や鬼沼のための活動を続けていって、大人になったら会社の人や子どもたちに「湖をきれいにするために、こんな事をやってみようよ！」と言えるような、自然を守るリーダー的存在になって欲しいと思います。始めにも書いたように、みなさんの今後を楽しみにしています！



いわき市立藤間中学校 JRC 部のみなさんへ
 師範から一言――――

この壁新聞を読むと、みなさんがどのような活動を行っていて、それがどのようにエコなのか、それがよく分かります。上手に要点をまとめる事、そしてそれをわかりやすく伝える事、それらは自分たち自身が活動の意味をよく理解していないと出来ない事です。さすが中学生だと感じる内容ですね。

ベルマークやボトルキャップを集めている所も多いですが、みなさんは集めた後の事にまで触れている所も注目すべき点です。エコな取り組みや環境問題の言葉だけは知っていても、その背景にある物事まで充分理解している人というのは、意外とそう多くありません。これからもこの壁新聞では、取り扱った事柄の大切なポイント、本質の部分まで広めていってほしいと思います！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

花壇活動として、緑化や植樹にも取り組んでいるそうですね。マクロな視点で環境問題を捉えると、ほとんどの事は何らかの形でつながっていると言っても過言ではありません。ごみや 3R 関係だけ、または自然や生きもの関係だけでなく、幅広いテーマを持って活動するのはとても良い事ですし、これまで実際にそのような気付きもあった事でしょう。

私の仕事もごみや3R、自然や生きもの、食やエネルギーなど、正に環境問題全般を扱っています。その中でも大きなウェイトを占めている業務に「ビオトープ管理」があります。ビオトープの基本的な理念である、外来種や園芸種ではない「地域の野生生物が暮らす生息空間」を創出し保全する事を目的として、日々管理しています。

園芸種は見た目がとても華やかで、見た人に「自分も花や緑を育ててみたい」と思わせる効果は大きいと思います。さらにみなさんが植えていたチューリップやパンジーなどにも、昆虫は実際に寄って来ます。しかし、一区画だけでも地域の自然にこだわったエリアを作ってみるというのはどうでしょうか？ きっといろいろな学びや発見が期待出来ると思います。

地域の自然を保全してゆく事は、健全な環境を保全する事とも密接に繋がっています。物事を伝えるレベルが高いみなさんだからこそ、学校や近隣の多くの人に向けて「地域の自然を大切にする」という観点からのアプローチにチャレンジしてみたいと思います。

茨城県水戸市 しんそう世界だいすきクラブ
壁新聞のタイトル:いのちのつながりを学ぼう

08-14(県推薦1位決定)

しんそう世界だいすきクラブのみなさんへ
 師範から一言――

しんそう世界だいすきクラブの壁新聞「いのちのつながりを学ぼう」は、読みやすく、面白くて、役に立つことが書いてあるすばらしい新聞です。

新聞がすばらしいことの一つ目は、クラブのメンバーが一人一人、記事を書いてくれたことです。本当にクラブの壁新聞であることが実感できました。

二つ目は、一粒のタネ～命のつながり・グリーンカーテン、エコッキング、エコプロダクツ2015、保和苑の生き物、たつわれ山・十王ダムなどのようにみんなの活動と活動の結果を四角く区切ってまとめて書いてくれたので、読みやすく、分かりやすかったです。

三つ目のすばらしさに私は感動しました。それはみんなが活動したことやその結果を記事にただけでなく、そこには大変注意深い観察結果が書いてありました。たとえば、やごは水中で下くちびるをすばやくのばして虫やさかなをとらえると書いてありました。ヒキガエルとニホンアカガエルの卵のちがいをちゃんと観察しました。オニヤンマは同じ所をいたりきいたりすることに気が付きましたね。ザリガニは後ろににげるので、にげる場所を予想してつかまえたよ、すばらしい観察です。

グリーンカーテンの記事も感動しました。一人の人がなぜすずしいのだろうか？と疑問を持ちました。そしたらほかの人が、葉っぱから水がじょうはつするから、すずしくなるのだよ、と書いて教えてくれました。グリーンカーテンは、葉っぱで太陽の光をさえぎって日かげを作ってくれて、すずしくなるんですね。エコクッキングでは、きじをこねると手がべたべたになりました。これは実際にこねてみなければ経験できないことですね。そして水の分量をちゃんとするとべたべたせずにきれいにできました、と解決策を教えてくれました。やはり温暖化？では2013年と2015年の氷と霜柱を比較して、問題提起をしてくれました。

1泊2日の宿泊学習は、とても楽しいことが山ほどあったようですね。たつわれ山に登った写真は、スタートから順番にみんなの一言の説明がいいねー。ガタンゴトン、よいしょよいしょ、ざわざわ、イエーイ…みんなのようすがよく分かりました。たつわれ山の名前の由来かな？太刀割れ岩の説明も忘れずに書いてくれましたね。



茨城県水戸市 しんそう世界だいすきクラブ
壁新聞のタイトル:いのちのつながりを学ぼう

ホタルのこともたくさん勉強しましたね。キラキラ光ってきれいだけでなく、ゲンジボタルとヘイケボタルの大きさのちがいが分かりました。とびかたのちがいが分かったのですね。ホタルがとんでいる所では、かいちゅう電灯はつけないようにしましょうということも教えてもらいましたか？石に色をぬって、自分のお土産ができたようですね。石に色をつけると芸術作品みたいになりますね。宿泊学習でのいちばんの思い出は、たぶん、みんなとのつながりが強くなったことではないでしょうか？

宿泊学習の日記を書いたのは、1、2年生のお友だちかな？夜空の星を書いたのか？ホタルを見たときのようすを書いたのか？一日、すごく楽しかった、と書いてくれました。良かったね。大洗水族館では魚とふれあい、イルカショーで最高にうれしかったと思います。でも、海のイルカをつかまえて、いろいろな芸を見せるのは、これからはできなくなるみたいですね。イルカの命を守りましようと言って、世界ではイルカの保護運動が大きくなっているようです。

しんそう世界だいすきクラブのみんなは、自然をだいじにして、自然をこわさない人たちです。生き物もだいじにしてむやみに取らない、取っても自然に帰してあげるなどとても評判の良いクラブですね。ですから、保和苑に入っても、一般の人が入れないところも、入って良いよ！と言うことになっているようです。

これからもいのちのつながりを学んで、自然を、生きものをだいじにしてクラブ活動を続けてください。

来年の壁新聞は、どんな楽しい思い出がいっぱい書いてあるか、楽しみです。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

エコプロダクツ 2015 を見学に行って、ここでもたくさんのが分かりましたね。

マホービンのしくみも展示の係の人が教えてくれて、温度が冷め ない理由が分かりましたね。聞いたことをちゃんと忘れずに書いたことがすばらしいです。清水建設では木打ちをする理由を教えてもらいましたが、これも忘れ ずに書きました。佐川急便のようなにもつを運ぶ会社でも環境を良くする活動をやっていることは、ビックリする事だったと思います。エコプロダクツ 2015 を見学して、今、日本では品物やエネルギーを作っている会社だけでなく、品物やエネルギーを運ぶ会社でも、品物やエネルギーを売る会社でも、また、品物や エネルギーだけでなく、お金をあずかってくれる銀行や電話やインターネットのような情報を動かす会社などでも環境のことをやっていることが分かりましたか？

佐川急便では、ペットボトルをリサイクルしてせいふくにしてている。エコだねー！では牛乳パックはリサイクルして、何になるのだろうか？さかなややさいが 入っている白いプラスチックとれいは、何にリサイクルされるのかな？回収した新聞紙は何にリサイクルされるのかな？段ボールはリサイクルされると何に变身 するのかな？などなど、みんなのまわりの物もいろいろとリサイクルされているものがたくさんあります。調べてみるとおもしろいよ。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①涸沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④涸沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITO のホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・セツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

08-01 08-02 08-03 08-04 08-05 08-06 08-07 08-08 08-09(推薦) 08-10 08-11 08-12 08-13(合計13枚)

逆川こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

涸沼(ひぬま)は、平成 27 年 5 月 28 日にラムサール条約湿地に登録されました。水鳥が生息する重要な湿地で、ヒメマイトトンボなど絶滅危惧種が生息する涸沼の自然環境が、国際的に認められたことになります。その涸沼の様子を、壁新聞で詳しく説明してくれましたね。どんな生きものが生息しているのか、なかまごとに分けて示してくれたので、とても見やすくなりました。トピック的に“絶滅危惧種”や“外来種”について書かれていたのも、よいと思いました。

それから、それぞれ生きものについての解説も書いてくれました。調べることで、より学習が深まったと思います。ラムサール条約では、地域の人々の生業や生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用(Wise Use:ワイズユース)」を提唱しています。涸沼の生きものと私たち人間が、どのように暮らしていったらよいか、これからも考えていってください。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

タイトルにした“食物連鎖”は中学校3年生で勉強する内容ですね。中学校の教科書には、「ある種類の生き物を食べた生物は、次は自分がほかの生物に食べられることがある。これらの関係を線でつないでいくと、鎖のように見えてくる。これを食物連鎖という。」と書いてあります。涸沼の生きものについて、食物連鎖を詳しく見てみると、同じ昆虫でも花粉や花蜜を食べるなかまがいたり、小さな昆虫を食べるなかまがいたりしますね。線でつなぐと非常に複雑になります。食物連鎖の図を正確に記すのは、とても難しいですね。

生産者である植物、消費者である草食動物、その草食動物を食べる肉食動物というように生きものを分けて、生物の数量をもとにピラミッドを作ることができます。“生態ピラミッド”といいますね。“食う食われる”の関係を正確に調べることによって、生きものの世界の複雑さが分かってくると思います。次に壁新聞をまとめるときは、気にかけてください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

ひと目で、ホタルの再生活動の壁新聞だと分かりました。タイトルのつけ方が、素晴らしいですね。ホタルが見られなくなった3つの理由や、ホタルが生息するためにはどのような環境が必要かも書きました。どうすれば、ホタルが再生するか、簡潔にまとめることができましたと思います。まとめのところで、環境を守らないと「ホタルをはじめ様々な生物が生きていけなくなる」ということに気づいたと書かれています。ホタルだけを復活させるのではなく、ほかの生きものへも目が向けられたのは、自然を守るときにとっても大切なことです。色々な活動を通して、このことにも気づいたこと、とてもよかったと思います。逆川のホタルの活動は、いろいろなグループが行っていますね。皆で協力して、よりよい環境をつかっていってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
新聞の記事で、ちょっと分からないことがありました。「逆川ホタルenjヤーの成果」として、ゲンジボタルとヘイケボタルの発生数のグラフがありますね。逆川緑地の発生数が増えていることは分かったのですが、いっしょに書かれている常願寺のホタルの数はへっていますね。「常願寺とはどこにあるのか？ 寺なのか川なのか？ なぜホタルはへっているのか？」など、聞いてみたいことが出てきてしまいました。これらが分かるように新聞をつくることも大切ですね。新聞をつくるときに大切なことがあります。「いつ、どこで、だれが・・・」といったことを、きちんと書くことです。このことをもとにして新聞を見直すと、逆川で見ることができるホタルは、“ヘイケボタルなのかゲンジボタルなのか”とか、“いつ頃見ることができるのか”といった内容を、追加して書くこともできますね。「ホタルを復活させるためにはどうしたらよいか」を中心にすると、ちがった書き方もあるでしょう。どのようなことを、相手に伝えたいかを考えることが大切ですね。逆川こどもエコクラブのみなさんは、いろいろなことに取り組んでいますから、壁新聞などを通して、どんどん情報を発信していってください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

青いもぞう紙に千波湖の魚についてまとめました。新聞の内容と紙の色がマッチしていて、分かりやすいですね。すんでいる魚も写真でしようかいしてくれたので、すぐ分かりました。千波湖には、ウナギもすんでいるんですね。ウナギは、数が少なくなり心配されている魚のひとつです。そのような魚がすんでいるのですから、千波湖は自然がゆたかな湖ということになりますね。しかし、もともとすんではいなかった魚も、たくさん記録されています。ブルーギルやタイリクバラタナゴなどですね。それから、千波湖で魚を調べているようすを、写真で見ることができました。湖の中に入って調べたんですね。がんばったようすが、写真を通して感じ取れました。“まとめ”では、これからの目標を、しっかり書くことができました。自分で何ができるかを考えて、実行していってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
人の手によって、ほかの地域から入ってきた動物や植物のことを、外来生物といいますね。壁新聞では、千波湖にもともとすんでいた魚と、ほかの地域から入ってきた外来の魚について調べることができました。そして、“まとめ”のところでは、外来生物のことについて「外来種がいて、とても残念な結果」だと感想を書きました。そこで、ひとつお願いします。どうして外来種がいると残念なのか、その理由が知りたいのです。たくさんの魚がいるといいことだと思われがちですが、外来生物のことを知らない人にもわかるような、解説が欲しいと思いました。それから、千波湖で調べたようすが写真で分かりました。調査後の笑顔がよくとれていますね。じっさいに、千波湖の中で調べていることも分かりました。写真を見て、調査のようすを知りたいと思いました。いつ、だれが調べて、どのような魚がとれたのかについて記録することは大切なことです。私がつとめている博物館で標本をあつめるときには、必ず「いつ、どこで、だれが」採集したかについて記録することになっています。次に、壁新聞をつくるときには、そのようなことも書いてほしいと思いました。自分で調べたことについてまとめることは、とても大切です。これからも、壁新聞などにまとめて、みんなにも知らせてください。

壁新聞のタイトル:①湊沼の食物連鎖 ②ホテル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④湊沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITO
のホテル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・セツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホテル再生プロジェクト
⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホテルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

涸沼で注目する生きものの解説も、要点が分かりやすく書かれました。ヒメマイトトンボの発見者の廣瀬さんと小菅さんの若かりし頃の写真は、よく手に入りましたね。今の写真と比べながら、お二人の長年の努力もうかがえました。涸沼に訪れるスズガモの個体数は、世界の1%にもなるのですね。すごい数が生息できる涸沼は、自然豊かな水域であることが分かりました。涸沼には、豊かな自然が残されていることが分かりました。ラムサール条約湿地に登録されたことで、さらに注目されるようになりますね。涸沼の自然を守っていくにはどうしたらよいか、みんなで考えて実行していきましょう。



涸沼がラムサール条約湿地に登録されたこと、涸沼の自然についてよく分かる新聞ができあがりました。これをまとめるきっかけになったのが涸沼学習会ですね。いつ、どんな勉強を、だれが行っているのでしょうか？壁新聞を見て、そんなことを知りたくなりました。次回、壁新聞にまとめるときは、学習会の感想なども記してみましょう。

写真をたくさん入れ込んだので、どのような生きものがいるのかが、一目で分かりました。ただ、これらの生きものがどんな生物なのか、説明がなかったのは残念です。小さな写真をちりばめてきれいに見せるのも工夫なのですが、新聞ですから意図的に、例えば絶滅の恐れのある種をまとめるようなことをすると、もっと内容のある新聞になりますね。

全体的に、とてもきれいにまとまっている壁新聞だと思いました。これに、自分たちが自ら学んだことを、自分の言葉で記せるようになるといいですね。期待しています。

自分で調べたことについてまとめることは、とても大切です。これからも、壁新聞などにまとめて、みんなにも知らせてください。

壁新聞のタイトル:①湊沼の食物連鎖 ②ホテル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④湊沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITO
のホテル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホテル再生プロジェクト
⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホテルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

いろいろな機会に発表の場を得たことは、メンバーの資質の向上にもつながりましたね。活動をまとめて発表することで、自分の考えをしっかりと持てたことと推測します。その結果として、各種の賞を受賞されました。御祝い申し上げます。これからも、ホテルを通して逆川の自然を守る活動を進めていってほしいと感じました。



さて、逆川こどもエコクラブのホタル保全活動は、一区切りの10年を迎えました。メンバーも成長し、これからどのようにしていくか考える時期になってきましたね。これまでの保全活動を継続するとともに、新たに加わるメンバーとどんな活動をしていくのかを考えていって下さい。さらなる発展を期待しています。

壁新聞のタイトル:①湊沼の食物連鎖 ②ホテル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④湊沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITO
のホテル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・セツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホテル再生プロジェクト
⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホテルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

[illegible]

壁新聞のタイトル:①湊沼の食物連鎖 ②ホテル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④湊沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITO
のホテル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホテル再生プロジェクト
⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホテルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

[illegible]

逆川エコクラブの皆さんの活動は、いろいろなところから注目を集めています。これからも、がんばってください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①溜沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④溜沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・セツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

千波湖の生き物を調べてくれました。項目ごとに色分けしてあり、分かりやすいまとめ方をしてくれましたので、とても見やすい新聞が完成しました。新聞を見るのは他県の人もあるので、千波湖がどんな湖なのか、きちんと解説してあるのもひとつの工夫ですね。

千波湖で見つけた魚を、写真入りで分かるように記してくれました。絶滅の恐れのあるウナギやメダカが、千波湖で記録されていることは知っていましたが、この学習会でも記録されました。豊かな千波湖の自然をうらづける証拠ですね。ワカサギも記録されましたね。唐揚げにして食べてみたくなりました。

一方、アメリカナマズやブルーギルといった本来は千波湖にいない魚の記録も見られますね。これらの魚とどう付き合っていくかは、難しい問題です。学習会を利用していろいろなことを学び、みんなで考えていって下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

見やすい壁新聞ですね。読者をより引きつけるにはどうしたらよいか、ちょっと考えてみましょう。

“まとめ”の欄をみると、外来種の存在を心配していることが分かります。最も伝えたい内容ですから、タイトルに外来種という言葉を入れて、「外来種が増えてきた千波湖」のようにすれば、よりインパクトのある新聞になると思います。あわせて、「〇月〇日、千波湖学習会が開催された。千波湖の生き物の調査が行われ 18 種が記録されたが、そのうち 4 種が外来種であった。」というような、リード文を最初に記すのもよいでしょう。そうすれば、より新聞らしくなりますね。次回、壁新聞をつくるときの参考にして下さい。

逆川エコクラブの皆さんは、いろいろな活動を行っていますね。そして、活動を行っただけでなく、そのことを壁新聞にまとめる作業を行っていますね。とてもよいことだと思います。これからも、いろいろな活動を行い自然について学んでいって下さい。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①溜沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④溜沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・セツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

栄宏中学校の裏の荒れ地を復活させる様子が、手に取るように分かりました。たくさんの写真が順序よく並べてあり、工夫の跡がうかがえました。

不要な木を間伐したり雑草を取り除いたりして、森をきれいにしていくと、不法投棄が目立ってくるという記事に注目しました。5t ものゴミを搬出することができたとのこと、感動しました。

さらに、PTA や公園協会、逆川エコクラブなど、多くのなかまの力によって、湿地を再生させることができたことも、素晴らしいと思いました。栄宏の泉が、多くの人々に見守られることで、保全活動が持続しますね。

それから、地元のホタルの再生を目指していること、生物多様性の保全の点からも評価できます。これからの活動が楽しみです。また、報告して下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞を見て、荒れた湧水が“栄宏の泉”として復活し、ホタルが再生していく道のりがよく分かりました。そこで、“栄宏の泉”をこれからどうしていくかが、これからの課題だと思います。

ホタルの再生を目指して活動が始まりました。ゴミと取り除いたりホタルの幼虫を放流したりして、環境は整ってきました。つぎに取り組むことは、“栄宏の泉”にホタルの幼虫を放流しなくても、永続的にホタルが発生するようにすることですね。里山の環境は人の手が入らないと荒れ果ててしまいますが、そこに生きるホタルは手を加えなくても発生し続けます。どのような環境がふさわしいか、試行錯誤を繰り返していって下さい。

それから、ホタルだけではなく他の生きものの様子も観察していって下さい。豊かな自然は、たくさんの生きものが、お互いに関わりを持ちながら生きています。特定の生きものを見るだけではなく、大きな視点からも自然を見ることができるようになってほしいと思います。

“栄宏の泉”には、たくさんのサポーターがいますね。その方々と協力しながら、どのような泉にしていくか考えていって下さい。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

タイトルに「逆川の昔と今」とあるので、逆川にはどんな変化があるのか、期待しながら新聞を見させていただきました。渋井町の名前の由来や笠原水源のを知ることができました。笠原水源は水戸黄門がつくったのですね。すごい歴史を感じることができました。

逆川緑地のホタルを再生する過程も知ることができました。40年前は、まだホタルが飛び交っていたのを知っておどろきました。また、水戸市のホタルマップも興味深く見ました。町からちょっと離れた場所でも、ホタルの生息地があるのですね。いい環境が整っていると思いました。

逆川の魚も紹介してくれました。ウナギも見られたようですね。絶滅のおそれのある種になっていますね。逆川の豊かな環境を思いうかべることができました。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞を見ると、昔と今の水戸の様子が書かれており、興味深く見るすることができました。内容が豊富だったので、ちょっと工夫すると見やすい壁新聞に変身します。考えてみましょう。

水戸の「昔と今」がこの新聞のテーマですから、紙面を大きく2つに分けることができますね。左側に昔の様子、右側に今の様子を分けて書くだけで、比べることが簡単になります。また、並べることによって、調査が足りない項目が見えてきます。そうしたら、再調査すればよいのですね。項目を絞ることも大切です。何を読者に伝えたいのか考えながら、紙面を構成するとよいでしょう。つぎに新聞にまとめるときには、工夫してみましょう。

逆川こどもエコクラブでは、いろいろな活動を行っていますよね。それが、どんな意味を持っているのか、たくさん勉強して下さい。ひとつひとつの経験は、皆さんの血となり肉となり、将来きっと役に立つと思います。さらにレベルアップした壁新聞にまとめることを期待しています。夢に向けて突き進んでください。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

読みたくなるようなキャッチーな見出しで、字が大きく目立つので効果的です。

それから、ホタルの生息条件と、栄宏の泉を比較したことがよかったと思いました。自分たちで一生懸命行っていることが、正しいかどうかを判断するとき、先例と比べるのは常套手段ですよ。それから、一般の読者にとっては、生きものの姿を思い浮かべることがむずかしいので、住んでいる生物の写真を掲載してくれたのは助かります。これから環境が落ち着いてくると、さらに多くの生きものが記録されると思います。継続的に調査することをおすすめします。協力者の方がいらっしゃることも心強いですね。みなさんの協力を得ながら、栄宏の泉が発展していくことを期待します。ただし、ホタルの再生に目をとられて、他の生きものをお座なりするようなことないようにして下さい。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞をまとめたのは栄宏中学の生徒のみなさんなので、より新聞らしくするにはどうしたらよいかという視点に立って、コメントしましょう。

新聞では、見出しを見て「お、この記事はおもしろそうだぞ!」と感じさせます。そして次のリード文を読んで「ふむふむ、だいたいこういう内容が書かれているのか」と把握させます。見出しとリード文で興味を喚起し、そして詳しい内容の本文を読ませるような構成をとります。つまり、新聞では3段階で、だんだん深く理解させるように工夫しているのです。そのことを考えると、この新聞には、リード文がありませんでした。詳しい内容(記事の部分)は、分かりやすく図表を使いまとめられていますので、問題はないでしょう。「栄宏の泉とは」というような項目は、この記事をはじめ読む人にとっては大切です。

ちょっとした工夫で、より見やすい新聞ができます。栄宏の泉のその後がどうなったか、また報告してください。期待しています。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

栄宏の泉が生まれ変わる様子がよく分かりました。遊水地というときれいなイメージがありますが、ゴミが散乱したり雑草が繁茂したりしては、せっかくの泉が台無しですね。よみがえった泉を見たくありません。
紙面の構成を見ると、作業の様子が時間を追って書かれていたのが効果的でした。間伐して雑草を取り除き森がきれいになるにつれ、不法投棄が目立ってきました。植物がゴミを覆い隠していたことに、自然の懐の大きさを感じることができました。また併せて、このような里山の環境を維持するためには、人の手入れが必要なことも改めて認識させられました。
所在が分からないホタルではなく、地元のホタルを放流したことも、生物多様性の保全を考えると重要なことですね。ひとつひとつの仕事が大切な意味を持っていますから、その意味を考えながらこれからも活動を推進して下さい。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞をまとめたのは中学生の生徒のみなさんなので、どんなことを書いたら読み手に感動される新聞なのかという考えに立って、紙面を見直してみましょう。
まず、新聞で何を訴えたいのかについて考える必要があります。栄宏の泉をよみがえられた経緯はよく分かりましたが、なぜホタルを再生したいと考えたのか、これからどうしたいのかという視点を明らかにして、もっと訴えることも必要だと感じました。一連の活動を行って苦勞した点や、これから行いたい活動など、自分の言葉で記してはどうでしょうか。自分たちの気持ちを込めて書いた文章は、読者にも感動を与えるものですよ。
体裁を工夫することもおすすしめします。タイトルを工夫することもできるし、字体を変えることもできます。写真を大きくして活動の報告を視覚から訴える方法もあるし、自分たちの感想を書くこともできます。
いろいろな工夫ができますね。皆で相談しながらよりレベルアップした次の新聞を期待します。

茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①濁沼の食物連鎖 ②ホタル復活!! ③千波湖にすむ魚たち ④濁沼ラムサール新聞 ⑤よみがえれ MITOのホタル ⑥千波湖の魚 SOS ⑦逆川・千波湖・七ツ洞 魚の調査 ⑧千波湖の生き物 ⑨英宏の泉 ホタル再生プロジェクト ⑩逆川の昔と今と夢 ⑪ホタルを再生!英宏の泉 ⑫生まれ変わった英宏の泉 ⑬蝶と蛾を知りたい 2015

逆川こどもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

アサギマダラの越冬個体の報告がありました。アサギマダラが越冬するのは茨城県が北限で、県内で6カ所が報告されているのみです。貴重な越冬地ですから、環境の保全なども考えてほしいと思いました。ジャコウアゲハの成長の様子もよく分かりました。採集したサナギを木にボンドでつけるなど苦勞しましたね。木の上側につけたサナギは死んでしまうと予想しましたが、どんな理由からでしょうか？ちょっと知りたくなりました。オオムラサキなど、他のチョウと比べて観察しているので、よりジャコウアゲハの育ち方が分かりやすく記録できたと思います。
スズメガの成長の様子も、良い観察記録です。羽化した記録だけではなく、羽化できなかった記録を、きちんと書いているのもいいですね。所々に感想が記されていたり、思い出の写真がはってあったりしたので、1年間の活動の様子がわかりました。茨城県で最近見られるようになったラミーカミキリの紹介もありました。
楽しく新聞を見ることができました！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
詳しい観察記録が、写真や図で説明されていたので、とても分かりやすく楽しく読むことができました。内容ごとに色分けがした工夫も見られました。ちょっとした工夫で、さらに読み手を引きつける新聞に変身できると思います。
今回の新聞では、大きな話題が3つありました。アサギマダラの越冬とジャコウアゲハの羽化、スズメガの羽化です。色分けされていましたが、そこに中タイトルを目立つようにつけてみてはどうでしょう。ひと目で、この新聞の伝えたいことが分かります。それぞれに、リード文をつけたりするのもよいかもしれませんね。丁寧な観察記録としてまとめられているので、次ぎにまとめる際は、読み手にいかに伝えるかという視点でまとめて下さい。さらに、バージョンアップした新聞に進化すると思います。
今年はどんな観察をしているのでしょうか？読み手を意識した新聞づくりを行って下さい。次の新聞も期待しています。

かみおおのアースレンジャー①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言一

“自然いっぱい新聞”，すてきな新聞名ですね。緑豊かな上大野小学校を感じさせる題字です。思わず読みたくなりました。

“上大野小学校はいいところがいっぱい！！”という見出しにも引きつけられました。そしてリード文には、この記事の内容が読みやすく書かれていたので、つられて本文も一生懸命に見てしまいました。児童も先生も、上大野小学校には自然がいっぱいあり、それを誇りにしていることが分かりました。自分たちの学校の良い点を見直すことができましたね。児童の皆さんは、バザーがあることを、先生方は理科の自由研究をがんばっていることを良い点と考えているところにちがいはありました。そのちがひも、おもしろいと感じました。

“カイコの成長日記”は、日を追ってカイコが大きくなる様子がわかりました。「みん」という専門用語もありましたが、きちんと説明しているところがよかったです。

“上大野小学校へやってきたハクセキレイ”では、巣立ちの様子がよくわかりました。ヒナがいなくなってさびしく感じるの、それだけ愛情持って観察したからです。

“4の1にカブトムシが来た”では、サナギになったカブトムシやクワガタを優しく見守っている様子を感じることができました。

“新川からやってきたカニ”では、カニの共食いをなくした成果が素晴らしいと思いました。まだまだ謎はあると思います。観察を続けて下さい。

“田んぼでつかまえたカエル”では、元気なカエルの様子が、生き生きと表現されていました。逃げたカエルはどうしたのか、ちょっと心配になりました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

見出しが、きちんと書かれており、とても良い紙面構成です。さらにバージョンアップした新聞にするには、ちょっとだけ加えてほしい内容があります。新聞の記事を書くときには、「いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように」といった内容を漏らさないことが大切です。そう考えると、今回の新聞では、欠けているのが見えてきますね。それぞれの記事で、どこを直したら良いか考えてみて下さい。次の新聞も期待しています。



茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー

壁新聞のタイトル:①自然いっぱい新聞②上大野の自然大発見新聞

かみおおのアースレンジャー②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言一

“上大野の自然大発見新聞”，カッコいい新聞名ですね。上大野の自然を知ってほしいという，みなさんの意気込みが感じられる題字です。

“鳥鳥鳥 大発見”という見出しに、まず引きつけられました。そして、ハクセキレイの大きな写真と連続写真が、本文の解説をうまい具合に補助してくれました。ハクセキレイが巣立っていく様子が、よく分かるようにまとめられたと思います。

“めずらしき「ヒカリモ」ここにあり”という見出しも工夫しましたね。ヒカリモが見られる年と見られない年を比較してヒカリモの生態を考察したり、生育する環境を調べたりして、自分たちで研究した成果をきちんと記すことができました。

“新川のカニです！”では、3年生の頃から飼育している様子がよくわかりました。いろいろな苦勞があったと思いますが、これからも大事にしてあげましょう。

“校長先生にとつぜんインタビュー”は、おもしろい企画ですね。校長先生にインタビューをするときは緊張しませんでしたか。校長先生の優しい人柄が表れている記事にまどまりました。

“ぼくたちの理科自由研究”では、上大野小学校の活動をアピールすることができました。私も、みなさんの自由研究の成果を見たくまりました。“おもしろ道具のサイエンスコーナー”では、学校の様子を知ることができました。このような楽しいコーナーがあるから、理科自由研究にも熱心に取り組むことができるのですね。

“みんなでかんさつ新川を”では、3年生の頃に行っている観察会を知ることができました。これからも続けて観察して、また新聞に書いてほしいと思いました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

見出しが分かりやすく、新聞の発行日や取材した人の名前が書かれており、とても良い紙面構成です。さらにバージョンアップした新聞にするために、ちょっとだけ工夫してみましょう。新聞の記事を書くときには、最初に「必ず読んでほしいこと」を書きます。そのため、長い記事の場合は、見出しに続いて内容を簡潔に記したリード文という文章を書くことがあります。リード文を入れる工夫などをすると、一層、魅力的な紙面に变身するでしょう。

次の新聞も期待しています。



龍ヶ崎市環境楽習講座のみなさんへ

師範から一言――

夏休みに講座で勉強した3つの活動について新聞にまとめてくれました。学習したことを、このような新聞にまとめることによって、より深く理解することができます。良いまとめができたと思いました。3つの活動は、昔を知ること、自然を知ること、食を知ることと幅広い分野の勉強をするようになっていました。環境のことを、大きな視点でみることができましたね。

龍ヶ崎市歴史民俗博物館では、エネルギーについていろいろな学習ができたようですね。自転車で発電したり実験したりしている写真を見ると、みんなが楽しく活動していることが分かりました。うんちとおしっこを使って走っているバスがあることは、知りませんでした。おもしろいですね。

霞ヶ浦環境科学センターでは、水の生きものの観察ができましたね。今まで知らなかった魚を覚えたり、生きもののつながりを知ったり新たな発見がありました。また、身近で気づけなかった水の大切さも再認識できたようですね。施設を見学できたのも勉強になりました。馴染み CC では、エコ・クッキングを行いました。ドライカレーやオレンジかんとんを、楽しく調理している様子がうかがえ、とてもおいしそうでした。私もごちそうになりたいと思いました。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

講座ごとに色分けがしてあり、説明がなくても活動の内容の見分けができました。新聞づくりが、それぞれの活動を振り返るのに、良い機会になったと思います。

新聞をよく読んでみると、この環境楽習講座が、“どのような集まりなのか”とか“どのような目的で施設を訪れたのか”という情報を知りたくなりました。“楽習”という単語も、おもしろいですね。この新聞を見た人は、「みんなの活動がとても楽しそうなので、自分も参加したい！」と思うに違いありません。そんなとき、講座のことを記した記事があると役に立つと思います。今度、講座について新聞にまとめるときには、ぜひ講座内容を書いてください。

来年の新聞も楽しみにしています。

茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル:里山あそびのできる大子町に

08-18

八溝自然たんけんたいのみなさんへ

師範から一言――

みんなが作ってくれた壁新聞は、田んぼや用水の生きものしらべ、秋の里山、全国一斉水質しらべと久慈川の生きもの調べと水質調べの4つの活動を写真にまとめて、みんなの活動や大子町のすばらしい里山を報告してくれました。

自然たんけんたいの名前にふさわしく、田んぼの草をかき分けて、あるいは久慈川、八溝川、滝川、押川や田んぼのまわりの用水にも入って、たんけんをして、たくさんの生きものをつかまえたり、見たりして、調べました。

みんなの壁新聞のすばらしさは、みんなが活動して見つけた生きものをわすれないように、そのつど“里山だより”として発行し、その里山だよりを壁新聞にはりつけてくれたことです。里山だよりを読むと4枚の写真のなかがよく分かりますよ！そしてびっくりしたことは、鳥や魚や虫、あるいは植物の名前がしっかりと書かれていることと大子町にはこんなにたくさんの生きものがいることです。サケもいるのですね。ビックリです。季節によって少しずつ生きものも違うようですが、非常にていねいに細かく観察して、記録してくれました。

サポーターやまわりの人たちが名前を覚えてくれたのでしょうか。今では、たぶんみんなは鳥や魚や虫や花、木の名前をみんなおぼえてしまったのではありませんか？ぼくはさなか博士です。私は鳥博士です。ぼくは虫はすぐわかります、というように八溝自然たんけんたいのみんなは、生きものについては、だれにも負けなくらい知っているのではないかなと思います。

私も鳥は好きです。毎日、庭に飛んてくる鳥を観察しています。シジュウカラ、カワラヒワ、ヤマガラ、メジロ、スズメ、キジバト、カラスが飛んてきます。コゲラも来たことがあります。でも、みんなの大子町にはもっともっとたくさんの鳥が飛んでいるみたいですね。トビやサンバやオオタカもいるのですね。うらやましーな。



茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル: 里山あそびのできる大子町に

昔は大子町の川に魚も生きものもとってもたくさんいたようですが、このごろは少なくなっているらしいですね。どうして少なくなったのだろうか？川の水がよごれたためだろうか？まわりの自然が少なくなってエサが少なくなり、魚や生きものが少なくなったのかな？トンボも赤とんぼが少なくなり、ウスバキトンボが増えているようですね。なぜだろうか？私の家の庭に来るシジュウカラは今年も卵を産んで今、温めています。去年と比べると早くなっています。これもどうしてでしょうか？みんなも地球温暖化という言葉聞いたことがあるでしょう。気温が少しずつ高くなっています。このような気候の変化が生きものにもえいきょうしていることは、みんなも知っているでしょう。花の咲く時期が早くなっています。すると花のみつを食べる鳥や虫の活動も変化します。気候がおかしくならないように、みんなも里山だよりに暮らしの中で気を付けてほしいことを書いてくれました。自然を守ることと気候が悪くならないように気を付けることは同じことですね。もちろん、自然を守るとは、私たち人間がむやみに森や木を切らないようにすることも、その一つです。それと同じように地球温暖化をすすめないように、里山だよりにも書いてありますが、暮らしの中で私たちができることを少しずつで良いですから、実行することが大事だと思います。みんなもそんな考え、気持ちで里山だよりに書いてくれたと思います。生きものと共存できる大子町を作る、サシバが安心して子育てできる田んぼや森の環境をつくる、みんなですみよい町にするために、今、みんながやっていること、そして暮らしの中で気を付けることが大事です。そしてこれらのことが地球温暖化を少しでもおくらせることにつながります。あらためてみんなの活動の写真をを見ると、楽しそうに、真剣にやっていることが分かります。さらにすばらしいのは、いろいろな人といっしょに活動して、教えてもらったり、しつもんしたり、発表もしているようですね。また、来年もみんなの元気な活動を報告してください。期待しています。

茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル: 里山あそびのできる大子町に

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★
夏になると私の庭の土の中からセミが出てきます。セミのカラをひろって、今年はどうなセミがなんびき出てきたかを私も調べています。ニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシはすぐわかりますが、ミンミンゼミとアブラゼミは区別ができません。大子町にはエゾゼミもいるのですね。今、地球が温かくなっていることで南のクマゼミが北上しているようですね。私(川崎市)の周りにはまだ見つかりません。大子町にもいませんか？田んぼや用水の生きもの調べでは、おじさんたちからいろいろと教えてもらっている情景が良いですね。「ぼくが取った生きものをみてよ！」、という顔もすばらしい。秋の里山の赤いマンジュシャゲと田んぼの景色がとってもすばらしいです。こんなすばらしい所にみんなが暮らしているのはうらやましいです。全国 一斉水質調べは、大人の人の協力がなくてなかなかできないですね。おかあさんたちがとっても頼もしく見えます。久慈川の生きもの調べは、みんなもさかなや 生きものを取ったようですね。網を使って上手く取れましたか？やなばに上がってきた魚は手でつかんで取ったのでしょうか。ぴちぴちはねて、元気の良い魚を取るのも大変ではなかったですか？
★☆☆サポーターのみなさんへ☆☆★
壁新聞の中にこども達の生の声が聞こえないのがちょっとさびしいです。こども達が魚やカニ、鳥やサシバが飛んでいる里山(?)を書いてくれましたが、もっともっと喜びや大変さや叫び声も書いてくれるとうれしいです。里山だよりも大人の方が書いたのでしょうか。一般の方に知ってもらうので、大人の人が書かざるを得ないのかも知れませんが、こどもの声のコラムもあって良いのではないのでしょうか？ご検討のほど、よろしくお願いします。なお、サポーターからのメッセージを読むとこども達の書いた絵日記のことが書いてありますが、絵日記とは里山だよりのことでしょうか？そうであれば、上に書いたことが間違っていたことになり、大変申し訳ございません。里山だよりの文章は大人が書いたように取れましたので、失礼しました。最後にちょっと気になったことは、「わたしたちの活動のねらい」のわたしたちとは誰のことでしょうか？八溝自然探検隊のクラブのこども達のことでしょうか？“子ども達の大切な豊かな人間性を育てる”というねらいは、大人の人の目線であると思いましたので、ちょっと気になりました。

チームミネのみなさんへ

師範から一言――

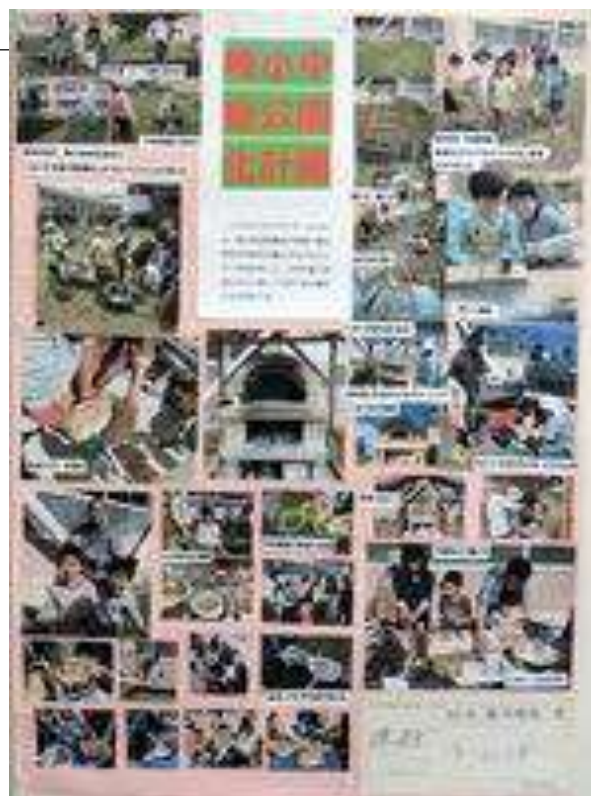
峰小学校 チームミネのみなさん、こんにちは！

みんなの活動の順序に写真が並べられ、石窯造りの活動内容がわかる新聞になっています。

今回の活動テーマは「石窯づくり」とのことですが、中庭を防災公園にするということは、地震などの災害時に、電気やガスが届かなくても調理などに使うことが目的でしょうか。そのため、地域のみなさんといっしょになって、石窯を作ったのですね。地ならしや、レンガを積んでゆくようですがよくわかりました。窯が半円形にうまくできるものだと感心しました。8月2日から夏休みに、暑い中ごろうさまでした。どのあたりが一番むづかしかったですか？

できあがった石窯で、さっそくピザを作りましたね。しかも、学校農園でできた野菜をトッピングしています。ピーマンやトマトが見えます。すばらしい！ところで、ピザを焼くときの燃料は何を使いましたか？まき？炭？拾い集めた小枝？紙？ここにあげたものは、化石燃料(石炭、石油、天然ガスなど地中から取り出して使う燃料)ではないので、地球温暖化を引き起こしません。地球温暖化は、重要な環境問題です。もう勉強したかな？まだなら、自分で調べてみましょう。

次の年には、防災ベンチとハーブ園造りを計画しているそうですが、活動をまたかべ新聞で発表してください。



栃木県宇都宮市 チームミネ
壁新聞のタイトル:峰小中庭公園化計画

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ピザを作るときに、お父さんやお母さんと一緒に料理していますが、うちでも料理づくりのお手伝いをしていますか？材料のゴミは出ましたか？ゴミはどのように処理しましたか？なるべくゴミを出さない料理方法や食べ方を考えることも良いと思います。家庭から出る生ゴミは、焼却したり、埋立てたりして処理しますが、食品のゴミだけなら堆肥(たいひ)にしたり、豚のえさにする例があります。ピザを作る活動にあわせて、こういうことも考えたり、友だちと話し合ってみるのも良いと思います。ゴミを少なくすることは環境を守るために欠かせません。

自分たちで作った石窯で、自分たちで調理して焼いたピザの味は格別だったのではないですか？これから、石窯をどのように使いますか？それを考えるだけでも楽しいですね。

☆☆サポーターの方へ☆☆

中庭公園化の活動に絞って、写真を並べて分かりやすく表現しています。写真につけた短い説明も理解を助けていると思います。

中庭公園化の企画は、地域と一緒に活動することにより、保護者つまり父兄の参加により親子の接触が増えて、とてもよい活動になったと思います。

学校農園で野菜作りも行っています。草取りの写真がありましたので、除草剤を使っていないと推測しました。環境にやさしいですね。石窯が完成して、野菜のよい使い道が見つかりました。子どもたちも、自分たちが作った野菜であれば残さずに食べるのではないのでしょうか。食材のムダや生ゴミの処理など関連する問題点について子どもたちに考えるきっかけを与えていただくと良いと思います。

石窯の燃料についても同じです。写真では、燃料に何が使われているか分かりませんが、地球温暖化とエネルギーの関係、特に二酸化炭素を発生するもの、化石燃料の持つ問題などを子どもたちに考えてもらい、二酸化炭素排出防止の行動につながると良いと思います。

子どもたちも活動を楽しんでいるようですので、これからもこの活動を続けて頂きたいと思います。

最後に、写真の撮影と壁新聞に載せる写真の選択は子どもたちが行いましたか。もしそうでなければ、任せてみるのも良いのではないのでしょうか。

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

09-06、09-07、09-08、09-09、09-10→幼児 全5枚

東峰エコキッズ①の新聞を書いたみなさんへ

岡本師範から一言――

壁新聞を見ると東峰エコキッズクラブのみんながとても楽しそうに活動しているのが分かります。生き物に触って、ほら、捕ったよという笑顔がすばらしい！さしばの里協議会の人のお話を聞くようすやタモを使って生きものを捕っているようすなど真剣な表情もいいねー！アメリカザリガニのパエリアを見て、わーおいしそう！とびっくりしている顔もいいですねー。

最初は誰でも尻込みするのでしょうか。でも名前を知ったり、生きものの動きを見たり、目の前で生き物を実際に見たり、さらにタモの使い方を教えてもらったりすると、今度は尻込みすることなく、自然の中や、生きものの中に入っていけるようになったようで、素晴らしいですね。最近では虫などの生きものに触れられないこどもだけでなく、大人の人も触れない人がいるようで、残念ですね。東峰エコキッズクラブのように、生きものに触れる経験を作ってあげるのは、とても大切なことだと思います。

川幅が1m20cmで深さが5～30cmとこども達にはちょうど良い川がありましたね。川にはいって遊ぶのは、こどもには大変楽しい、うれしい活動だと思います。遊ぶだけでなく生きものをつかまえる経験もしたのですね。そして生き物の名前も分かったと楽しさ、うれしさが何倍にもなるでしょう。捕まえた生きものの一覧表がありましたが、こんなにたくさんの種類の生きものを見つけたとは、驚きです。まだまだ自然がいっぱいある川なのですね。このような自然が近くにある幼稚園・保育園は、こどもの成長、発達にはとても恵まれているのではないのでしょうか？

タモでどうやって生きものをつかまえるか？水草の所を足でさがさとタモの方に向かってやると魚などが飛び出してきてタモの中に入ります。あるいはアメリカザリガニは後ろにさがる習性があるので、ザリガニの後ろにタモを置いて前から追いかけるようにすると、ちゃんとつかまえることができるなど、いろいろと教えてもらったと思います。むやみやたらと網、タモですくってもなかなか捕れないですね。こんな経験や知識をこども達は学べたのでしょうか。

水質調査もやったのですね。こども達にはとても難しかったと思います。先生たちの勉強になったのではありませんか？でも色の変化で水のきれいさ、きたなさが分かるということで、こども達も興味を持ったかな？

川の水調査というキットを購入して川のきれいさ、きたなさを調べました。リン酸態リン、アンモニウム態窒素、硝酸態窒素とか亜硝酸態窒素とかなかなか難しい分析をしました。もっともこのキットは水を吸い込むだけで色が変わってきれいさ、きたなさが分かる簡便な方法ですね。指を水につけてはいけない、温度によって色が付くまでの時間が違いますので、時間を守って色を判定するなどの注意はちゃんと守ったと思います。

来年の壁新聞にこどもの字があつたらとてもうれしいです。待ってます。

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

サポーターへのとっておきのゴシドウ・・・★

川のまわりに田んぼや畑があつて肥料が流れ込んでリンや窒素が増えたようであると考えました。その通りでしょう。従って、肥料が流れ込んで川の水がよごれたと考えるのが常識かと思います。肥料をまかない冬場はリンや窒素は少ないことを調べることも良いと思います。肥料の汚れだけだとまだ良いですが、日本のあちこちでは農薬をまいて、草や水が農薬で汚れて、生きものがとても少なくなったり、絶滅したりしているそうです。みんなが調べた川では農薬の影響はなかったですか？もっとも農薬で汚れていた場合は、こども達を連れていくことはできませんね。畑や田んぼのお百姓さん達とこどもたちがお話する機会も、そのうちにやるのはどうでしょうか？

壁新聞は、幼稚園・保育園の先生方が書いて作ったかと思えます。まだまだこどもたちには難しいでしょう。よく分かりますが、こどもたちの喜びの声や楽しい声、うれしい声、ビックリした声なども直接聞きたいですね。下手でも良いです。一言、こどもたちが書きましたということも欲しいですね。

とっても分かりやすい壁新聞であり、こどもたちが自然が大好きになった先生方の努力には敬意を表したいと思います。



栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

東峰エコキッズ②の新聞を書いたみなさんへ

岡本師範から一言――

東峰エコキッズクラブのみなさん、とても楽しそうですね。私はアメリカザリガニを捕まえたよ。カエルだってつかまえることができるよ。ビックリ！！ぼくもアメリカザリガニを捕まえたよ。ぼくは、魚を捕まえたよ。うれしいな。生き物に触れられなかったみなさんが平気で生き物に触っているのが、良いですね。

タモで捕まえた生きものは何だろうと好奇心いっぱいで見込んでみんなの表情もいいですね。大人の漁師の人も網を引き揚げて何が捕れたかを調べる時は、みんなと同じように期待と不安でいっぱいだと思います。こどもでも大人でもこの瞬間の気持ちは同じようですね。

みんなに教えてくれるサシバの里協議会の人たちが守っているサシバの里が、守っていかなければいけない大切な里地里山に選ばれたようで、良かったですね。みんなが勉強するところが非常に大切な里地里山だったので。そんなところで自然の勉強、体験ができるみんなはうらやましいですね。これからも毎年、自然探検や勉強をして自然大好き人間、生き物大好き人間になってください。

東峰エコキッズクラブの壁新聞①と②は全く同じようですが、2つの壁新聞を作ったということは、何か言いたいことや訴えたいことが違うのだと思います。何が違うのでしょうか？

そのところをはっきりと書いて頂き、新聞の構成も違えると良いと思いますが・・・



サポーターへのとおきゴシドウ・・・★

応募用紙にはサポーターの方が書いていますが、自然が大好きなら、自然を守ろう＝自分たちができることは何かな？ということで、ごみはあまり出さない、ごみ箱に分別して捨てる、食べ物は、粗末にしないで食べるなど、自然とこどもたちの口から出てきました、と書いてあります。このようなことを新聞にこどもたちの字で書いてくれると、もっと素晴らしい新聞になるのではないのでしょうか？水質調査は、壁新聞①でも書きましたが、こどもには難過ぎると思います。生き物さがしだけに活動をしぼっても良いのではないのでしょうか？幼稚園児・保育園児の活動として壁新聞にした方が、こどもらしさが溢れ出るとは思います、如何でしょうか？

幼稚園新聞、保育園新聞として保護者の方に活動を知ってもらうのであれば、このような新聞作りがふさわしいと思いますが、こどもエコクラブの活動を紹介するとなると、もっとこどもが前面に出る新聞作りにも考えて頂くと良いかなーと思います。

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

東峰エコキッズ③の新聞を書いたみなさんへ

西谷師範から一言――

ザリガニたべたんですね！！おいしかったかな？みんな「いただきます」「ごちそうさま」をしてたべたんだね。

パエリアはおいしかったでしょうね。

このかべしんぶんは、じょうずにつくりましたね。なにが書いてあるのかがすぐにわかっていいとおもいます。みんな、ザリガニをたべたはながきになって、しっかりみてくれるでしょう！しんぶんをよくよむとザリガニのことのほかにもいろんなことが書いてあってためになるとおもいます。とれたてのやさいはおじさんもだいすきです。これからも、こどもエコクラブのかつどうやおうちでも、たべものことやたべているいきもののもっとしっかりペンきょうしてまたかべしんぶんにしてください。



とっておきのゴシドウ★・・・・★

ザリガニはおじさんも食べたことがありますよ。とうきょうの「つきじいちば」という大きないちばにもうっていますよ。

よくかんがえたら、みんながたべているおこめもやさいもくだものもおさかなもカニやエビも、にわとりやうしも、ぜんぶ、いきものですね。ザリガニとおなじで生きていたんですよ。

スーパーやおみせやさんにうっているときは、もうたべられるようにきってあったり、パックされていますが、もともとは海や川や田んぼやぼくじょうでは生きていたんですよ。

せかいじゅうには、たべものがなくてこまっている人がたくさんいます。いきものもへっているそうですよ。

だから、たべものをたいせつにしてほしいので、みんなもじぶんたちがたべているものをまたいろいろしらべてみましょう。そしてたべものはだいじなので、のこさないようによくかんでおいしくたべましょうね！！

☆☆サポーターの方へ☆☆

分業が進んだ現代は、食料はきれいに洗われたり切り身にされて店に並んでいます。電話やインターネットでも購入できる時代です。ですから私たちは生きていた生きものを食べていることや命を食べていることを忘れてしまうことが多いと言われています。

今回の活動は、難しいところや苦労したことも多いと思いますが、命を食べているという大事なことを考えたり、気が付いてくれた子どもたちも多いと思いますしサポーターや家族の方、保育園の先生も大切なことを思い出された方も多いのではと思います。

お米も野菜も果物も魚も肉も、ザリガニとおなじようにぜんぶ、生きていたことを子どもたちが考えられれば日本の食糧問題や環境問題も少しずつ理解者が増えていくと思います。

これからもサポーターの皆さんも子どもたちとエコ活動やこどもエコクラブの活動を楽しんでください。

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

東峰エコキッズ④の新聞を書いたみなさんへ

岡本師範から一言———

東峰エコキッズクラブのみんなが作ってくれた壁新聞:しぜんがだいすきは、とってもすばらしい新聞になっていますよ。何がすばしいかというと、やまの中で、川の中で、水の中で、どろんこの中で、石がいっぱいある川原で、きのぼりをして、火にちかづいて、などなどみんながたいけんして、いっぱいきがったことがありました。おとなの人がおしえてくれたものではありません。みんながきがったことを、みんなの字で、ことばでかいてくれました。とってもいいよー！！

さいごにみんなは「しぜんがたいせつ」「ちきゅうがたいせつ」と、きがったので、かべしんぶんに書いてくれましたが、なぜ、たいせつなのか、をもう ちょっとくわしく書いてくれるとうれしいなー！やま、かわ、のはらだいすきで、ぼくたち、わたしたちのたからものと、きがって、書いてくれました。やま、かわ、のはらのたからものはなんですか？こんなすばらしいけいけん、たいけんをした東峰(ひがしみね)エコキッズのみんながしぜんがだいすきになるのはあたりまえですね。やまがすき、かわがすき、のはらがすき、いきものがすき、はながすき、木がすき、いろんなものがすきになってくれましたね。だからみんなはしぜんをこわさないように、だいじにして、まもって ください。



とっておきのゴシドウ★……

サポーターの人たちがかんがえてくれて、こどもたちにはじっさいにたいけんさせ、けいけんさせることが、とてもだいじです。おとながしんぱいすることをこどもたちはちゃんときがって、木にのぼっちゃダメ、川はあぶないよ、そこへいっちゃダメ、火はあぶないからいじってダメ、などなどがじっさいにけいけん、たいけんすることで、こどもがきがったようですね。とてもすばらしいやり方だとおもいます。おとなのひとがやっちゃダメだよ、というのをこどもたちはやりたがりますね。そこを細心のちゅういをはらいながら、こどもにたいけんさせることが、サポーターやほごしゃの方がやることですよというのを、この新聞はよく表現しています。

時にはすこしけがをするのも良いけいけんになるでしょう。いたさがわかったら、このつぎからはこどもはきをつけるようになりますね。ナイフはけがをするからダメ、火はやけどをすることや火事になるからダメ、川はながされるからダメ、生きものはあぶないからさわっちゃダメ、など大きなけがやいのちにかかわること はぜったいにさけるべきでしょうが、少しのことなら、こどもたちがけいけん、たいけんすることが、のちのち大きくなって役にたつのですね。

くわしく書いてくれると、あーそうか！とみんながわかると思います。

栃木県宇都宮市 東峰エコキッズ

壁新聞のタイトル:①水生生物調査 ②いきものさがし ③ザリガニたべたよ ④しぜんだいすき ⑤おいしいとちおとめができたよ

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆

このような経験、体験の場を与えてこどもたちに気が付かせる素晴らしいやり方をこれからも続けてください。

この次の壁新聞では、字は全部こどもたちが書いたよ！という新聞を期待したいですね。

それと大人がダメと言うことは、どうしてか？をこどものことばで表現できるようになると、もっと素晴らしいですね。こどもたちはどうして大人がダメと言うか、分かったようですが、具体的にその理由を書いてみるとどうでしょうか？間違っていないのではありませんか？こどもが考えたこと、そのことが大事であり、素晴らしいことですから。

東峰エコキッズ⑤の新聞を書いたみなさんへ

浅井師範から一言———

ひがしみねエコキッズのみなさん、すてきな かわいい かべしんぶんですね！

なまゴミを ミミズくんがたべて そのウンチが ひりょうになるって、すごいですね。

ミミズくんの つくったひりょうと、かがくひりょうでは、いちごのえの そだちかたも ちがってくるのですね。

かがくひりょうと ミミズくんのつちでは、とちおとめの あじまで ちがうということに、とてもびっくりしました！ おもしろい ステキな じっけんをしましたね！みなさんの いちごを たべた かんそうも、とても わかりやすいです。「うえのほうが すっぱい」なんて、こまかいところまで かんさつできていて、すごいですね。みなさんの にがえや、ミミズくんのえや、いちごのえなど、とてもステキで、きにいました。



とっておきのゴシドウ★……

ミミズくんは、ミミズくんのいえ(コンポスト)のほかにも、じめんのなかに たくさん いますね。いろいろな しゅるいの ミミズが いますね。ミミズくんの ほかに、つちのなかには たくさん の ちいさな いきものが いますね。もし みつけたら、かんさつしてみてね。かわいい すてきな かべしんぶんを、みんなで きょうりよくして つくって くれて ありがとう。これからも、たのしくかつどうしてください！

☆☆サポーターの方へ☆☆

ミミズ堆肥を使つての栽培だけでなく、化学肥料と比較して、味比べ実験をするというアイデアに驚きました！ 子どもたちも、とても楽しかったのだらうなと思います。壁新聞にもたくさんの工夫があり、素敵でした。子どもたちができるところを一生懸命頑張つて作ってくれたんだな、と伝わってきました。ぜひこれからも、楽しい活動を続けてください！

新聞を見ると、水辺あり、生きものいっぱいの森や里山もあります。十分ご承知の事と思いますが、屋外活動の持つ自然に潜む危険(毒虫、有毒植物、熱中症等々)に配慮されて、今後の活動を進めていただきたいと思います。

清原ねいちゃーきつず①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

鬼怒川のそうじをみんなですしているのですね。がんばってますね。おじさんも家のちかくの川で、そうじやいきものさがしをしていますよ。
ほうちょう や ちゅうしゃき もあったのですね。タバコやライターもおおいのですか。びっくりしました。ながれてきたのかな？ そこですてられたのでしょうか？おじさんのちかくの川では、レジぶくろやおかしのぶくろ、おべんとうのいれものやペットボトルがおおいです。ひろわないと海までながれていくのでひろっていますが、ひろってもひろってもきりがありません。みんながかいてくれているように、ごみはごみばこにすててほしいですね。ごみばこがなければ、もってかえてほしいです。
川ですてなくても、どうろやこうえんですてられたごみもかぜや雨で川にあつまり海までながれていくので、みんなでこれからもがんばってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべしんぶんにもかいてくれています、ごみをすてないようにすることがだいじです。ごみをふだんからへらすようにくらすことがたいせつだからみんなもそうしてください。
みんなでがんばってね。おうちのひとやおともだちにもおしえてあげてください。ポスターをかいてみんなによびかけることもとてもだいじですよ。
こんなごみがありましたよ。すてないで！ っていうんな人にしてもらえるようなポスターづくりやかべしんぶんづくりをこれからもがんばってほしいとおもいます。

コイのやしんがありました、ほかにいろいろないきものがいるかもしれません。
みつけたいきものをみんなにしょうかいすることも、ごみをへらしたり川をまもることにつながるとおもいます。
また川にいったらどんなごみがおおいかしらべたり、どんないきものがいるかしらべてみんなにおしえてくださいね。

☆☆サポーターの方へ☆☆

私も自宅近くの川や海岸、神戸市内のいくつかの川でしていますが、クリーン作戦を継続しても捨てる人、放置する人が減らないと川や海のごみはなくなりません。川や海に捨てなくても公園や道路に捨てられたごみも風や雨で川や海に流れ込んでいつまでも蓄積されます。是非ともこどもエコクラブや地域の活動でがんばってほしいです。
子ども大人も一人でも多くの方が実際に経験することが大事だと思いますのでポスターをかいたり作文にして発表したりしてみんなに呼びかけることが大切です。
私の家の近くの小学生はポスターをかいて、近くのスーパーにはってもらいました。
捨てないことだけでなく、そもそもごみが減る生活、ライフスタイルをみんなが工夫することが一番大切です。
プラスチックのごみはいつまでも腐ることなくごみのままです。世界中で問題になっています。こどもエコクラブで、みんなで楽しく学びながらがんばりましょう。



清原ねいちゃーきつず②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

鬼怒川のそうじをみんなですつづけてますね。がんばってますね。このかべしんぶんは、くろうしたでしょうね。かんしんしましたよ。
おじさんも海や川のごみをひろっていますが、ひろったあとにごみをわけるのはたいへんなのでみんなのたいへんさが、かべしんぶんをみるだけでわかります。よくしらべたとおもいます。ごみのおおさをふくろのかずでグラフにしているのにかんしんしました。
ほいくえんやようちえんでも、しょうがっこうにいても、こんなごみがありましたよ。すてないで！ っていうんな人にしてもらえるようなポスターやはっぴょうをがんばってほしいとおもいます。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

こんどは、できたらどんなものがあつたかをやしんでとって、はっておいたり、すこしかべしんぶんでしょうかいしたら、みんながどんなものがおおいかよくわかって、ごみをすてる人がへるかもしれません。
ごみがおおいときやすくないときがありますが、どうしてそうなるかもまたしらべてみてください。
おおいときのりゆうがわかったら、ごみをへらすほうほうがみつかるかもしれません。
ごみをすてないようにすることや、ごみをふだんからへらすようにくらすことがいちばんたいせつだからみんなもそうしてください。おうちのひとやみんなでがんばってね。ポスターをかいたりしてみんなによびかけることもだいじだよ。

☆☆サポーターの方へ☆☆

クリーン作戦を継続しても捨てる人、放置する人が減らないと川や海のごみはなくなりません。ほんとに取り組んでいる人のみんなの思いだと思います。みんなに注意してもらうためにも、どんなごみがいつおおいかをすることはとても大事なことです。
ごみの種類や量を調べることは本当にご苦労が多いと思いますが、子ども達と一緒に頑張ってください。
子どもが捨てたお菓子の容器もありますが、大人が捨てたごみも多いのでなんとか解決したいですね。
多いごみの写真を少しでも残すようにして紹介したり原因を考えることができたら有効な対策を見つけることができるかもしれません。
原因を考えながらポスターをかいたり作文にして発表したりしてみんなに呼びかけることが大事だと思います。
プラスチックのごみはいつまでも腐らないのでごみのままです。みんなががんばりましょう。
少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、ごみと生きものをテーマにして活動している団体が多いですが、これからは是非、こどもエコクラブの活動でも頑張ってください。



イオンとちぎチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

チアーズの畑での活動を教えてくれてありがとうございます。3mの円の大きさとはいえ、自分たちの畑があるというのは、野菜がどのくらい大きくなったかな、とわくわくしたのではないのでしょうか。

ささげ豆は5月から9月までに畑全体をおおうほど大きく成長したのですね。写真とともに日付をかいてくれたことが良かったです。日付を書くと記録としても貴重なものになるので、これからも記録には日付をぜひ書いてください。

「畑づくりは大変」という感想がありますが、どんなところが大変でしたか？水やりでしょうか？それとも雑草がたくさん生えてきたのかな？ふだん何気なく食べている野菜をつくっている人の大変さを気付いただけでもすばらしいことです。畑づくりで工夫したことがあったらぜひ教えてください。

また、野菜を育てるとき、料理をするときにもエコ活動として工夫したことがあれば新聞に書いてくれると、全国で活動している人に知ってもらうことができますよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

春に畑を作って、夏にはささげ豆を育てたり、冬には白菜を育てたりしてよい経験ができましたね。今回の体験活動の目的と、どんな作業をしたのかを新聞に書いてくれると、もっと活動内容が分かりやすくなると思います。

畑で育った野菜をおいしく食べたことが写真からも伝わってきます。自分たちで作った野菜を食べたわけですが、地元の野菜を食べることはエコにつながるといえますか？

エコにつながるとしたら、どういった点か考えてみましょう。

例えば、地元からはなれた場所で作った野菜が手元に届くまでには、車で長いキョリを運ぶ必要があるのでガソリンがたくさん必要です。地元でとれた野菜は遠くまで運ばなくていいので、エネルギーの節約になります。

真岡児童館やさしクラブのみなさんへ
師範から一言――

昨年度の壁新聞道場のメッセージで「人」をテーマにしてみても、と書いた提案を受けて壁新聞を作ってくれたなんて、大変うれしいです。そして、「人」について考えて、今回の壁新聞では「外国人とのエコ活動」と「台風18号」の2つのことについてくわしく報告されていて、大変興味を持って記事を読みました。

「外国人とのエコ活動」の記事ではみんなの身近にいるブラジル人の日本でも活動を知り、またブラジルの環境活動を知ることもでき、メンバーにとっても新しい発見があったようですね。私自身、真岡市にブラジル人の方など外国の方が多く住んでいることは知りませんでした。私の周りの外国人のことを調べてみよう、この記事を読んで思いました。

また、「台風18号」の記事では、台風の被害にあった地域のために義援金を送ることになった理由と、みなさんが児童館ショップの売り上げを義援金として真岡市長に渡したことがよく分かる記事になっていますね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

真岡児童やさしクラブさんの今回の2つの記事から、みなさんの1年間の活動をしたのか、そしてどんな気持ちで活動できたのかもよく分かり、とても良い壁新聞になっています。テーマを2つに絞ったところもいいですね。

ただ、最初に壁新聞全体を見たとき、「わっ、字が小さい」、「読みにくともある」と感じました。「じっくり読みたい」と思う人は一生懸命読んでくれるでしょうが、「ちょっと読んでみようかあ」、くらいの人には、「ちょっとこれは読むの大変だ」と感じて、結局全部見てもらえない気がします。

次回作るときは、自分たちが読む側に立って、新聞作りのレイアウトや文字の大きさや太さなどもう一度確認して、作ってみてください。

私としては、今度は児童館ショップでどんなアイディアエコ商品を出しているのか、ショップをするまでの準備はどうしているのか、当日はどんな様子だったのか、どんな人が商品を買ってくれているのか、など詳しく知りたいなあと思いました。いずれにせよ、これからも活動がんばって下さいね。

森の小人のみなさんへ

師範から一言――

大きな木のデザインに、たくさんの活動が紹介されています。かわいく見やすく、ステキなデザインの壁新聞ですね。森の小人のみなさんは、小学1～3年生のガールズスカウトで活動されているとのこと。植樹にリサイクルバザーにキャンプにコンサート、一年間でびっくりするぐらい盛りだくさんの活動ですが、それぞれとても分かりやすいですね。森のこと、水のこと、リサイクルのこと、エネルギーのこと。それぞれの活動で、子どもでも身近なことでできることが色々とあって、ステキだなと思いました。おまつりなどで、自分たちの活動を紹介したり、エコクラフトを教えたりなど、たくさんの人とお話することも多いですね。

足尾の山へ木を植える活動は、11年目とのこと。今まで森の小人のせんぱいが植えた分も考えると、とてもたくさんの木を植えてこられたんですね。木を植えたあと、どんな気持ちになりましたか？ 緑がたくさんの山になるといいですね。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

●「これはむずかしかった」「こうするとかんたんだよ」「〇〇がたのしかったよ」など、みなさんの感想をぜひ知りたいなと思いました。たくさんの活動をされているので、書き込むスペースがせまくてむずかしいかもしれません。全部でなくても良いので、一度チャレンジしてみてください。

●たくさんの活動のなかで、メンバーのみなさんが特に気に入っている活動はありますか？気に入っている理由は、どんなことですか？ぜひ教えてください。活動するなかで気づいたことを、お家の人やお友達にも教えてあげてくださいね。これからも、大自然の中でのびのびと、楽しく活動を続けてください。



ガールズのみなさんへ

師範から一言――

足尾にはげ山があることをこの新聞で知りました。新聞のサブタイトルに「～育てよう心と環境～」とありますが、足尾の歴史を、「学んで」、実際の山を「見て」、植樹を「体験」することで、まさにサブタイトルを目指した活動内容だと思います。

植樹活動を通した感想をたくさん書いてくれました。木が少ないことにびっくりしたようで、「山らしい」という表現がいくつかありましたね。普通の山には木があることがあたりまえのようですが、そのあるべき姿が大切だと改めて感じます。また、「木も命がある」という気付きがありました。植物が生きていることだけでなく寿命があるということをおきましよう。日本全体で見たときに、現在山には家を建てたりするのに適した年齢の木であふれています。使わないで(木を切らないで)そのまま山に残しておくといずれ寿命がきてしまいます。必要な分だけ木を使って、若い木を植樹するというくりかえしができるようになるといいと思います。

植樹の方法をイラストで描いてくれたので、どんな風に植樹をしたのかがとても分かりやすいですね。ここでの植樹活動は石だらけで大変のようですが、足尾の山を緑でいっぱいにするというみんなの思いが毎年つながっていけば、森になる日がきっとくるはずです。

水についての話を聞いてみて、飲み水の少なさにびっくりしたことでしょう。日本には四季があり降水が多く、川や湖もたくさんあるので、水にめぐまれています。普段の生活で自分にできる節水を始めてみましょう。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

キャンプでの調理ではエコにつながるいろいろな工夫をしてくれました。なぜ、エコなのか考えてみましたか？答えは1つではありませんし、人それぞれいろいろな考えがでてくることもあります。

例えば、ビニール袋で料理をしたときに、そのビニールは使ったあとはゴミになりますか？お皿を紙でふくと水という資源を節約することができますが、紙はゴミになりませんか？自分で考えることも大事ですし、まわりの人の考えに耳を傾けることも参考になると思います。





たとえばふきだしの紙に色紙を使って、感想、気づき、発見などで色分けしたり、植物・動物で色分けしたりすると、どんな分野に発見があったのか、子どもたちの興味(きょうみ)はどこに向かっているのか、そんな傾向が見えてくると思います。また、写真はよくとれてれているのですが、その場で活動している子供たちの姿がありませんね。今度は元気な子供たちの笑顔も見せて下さいね。

わくわくクラブのみなさんへ

師範から一言――

新聞中央にたてに流れるようにタイトルとサブタイトルがはり付けてあって、とてもよく目を引きます。葉っぱの形の切りぬき文字と後ろの色紙の組み合わせが調和していてすてきですね。特にここでは「カブクワスタジアム」(この名前はだれが考えたのでしょうか、子どもは天才です)、森に鳥をよぼう、ゴミのない森をめざして、大切なじゅもくをみんなで守ろう、生きものが住みやすい土とは、とテーマ別に記事を囲んで判り易くし、それぞれに目的、方法、感想などでまとめています。つまり、ここでは科学の手法が使われています。やがてみんなの中から科学者が出るかもしれませんね。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
5つのテーマがばらばらにならないように、中央にタイトルと「北っ子の森」を生きものが住みやすくするために」と副題があります。この壁新聞が主張したいことを良く現れていると思いました。すばらしい発想だと思います。サポーターのみなさまには、今後も身近な環境に意識を向けつつ、子どもたちを育てて下さい。壁新聞をよく見るとちゃんとした(大人でもおどろくような)研究のきかく書がはり付けてあるんですね。どなたのアイデアなのでしょう？培養土やゴミの勉強をしていますね。気づいたことはすぐにでも調べてみようという熱心なたんきゅう心は大切なことです。これから楽しい研究、世の中に役立つ勉強を続けて下さい。



きらりクラブのみなさんへ

師範から一言――

秋を感じさせるデザインや工夫がすばらしいと感じました。感想を書いてはつてある葉っぱは、色は紅葉や黄葉をイメージしていることが分かります。また、何枚かの葉っぱは虫くいで、欠けているところが気に入りました。いつも自然とふれあってよく観察していますね。
秋祭りにきてくれたおじいちゃんを、おばあちゃんたちの感想をつけてくれたことも新聞のアイデアとしていいと思います。自分たちがおこなったイベントがどうだったのかな、ということを感じをきいて振り返ることは大切です。よろこんでもらえて良かったですね。世代間のコミュニケーションを通して、おじいちゃん、おばあちゃんたちから昔からのエコの知恵を聞くこともできそうです。
木の実、種子のイラストをたくさん描いてくれましたが、アクセサリーもいろいろな種類の素材を使って作ることができたことでし



よう。
イラストをみるとクリやマテバシイのどんぐりが多かったのかな。わんぱく北っ子の森にはこんなにたくさんのどんぐりがあるということは、どんぐりの芽がどこかに出ているはずですよ。芽生えたらばかりのときは、どんぐりの殻がくっついてるのでぜひ今度探してみてください。春になってしまうと、成長して殻がおちてしまい、どれがどんぐりの芽生えが見つけるのがむずかしくなってしまうので、秋がおすすめです。この森がいつまでもどんぐりいっぱい森であり続けるように、どんなところにあるどんぐりが芽生えているか、調べてみるとみんなの大好きな森のことがもっと分かるようになりますよ。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

たくさんの感想を新聞にはってくれましたね。さらに分かりやすい新聞になるためのアドバイスとして、いくつか感想をグルーピングして枠で囲んだり、サブタイトルをつけたらどうでしょうか。

例えば、(1)きらりクラブのみんなの感想、と(2)おじいちゃん、おばあちゃんの感想、を分けて、さらに、きらりクラブの感想は①しんぶんバック、②アクセサリー作り、③秋祭本番、に分けるといった感じです。ぜひ、同じ内容を“あつめて、まとめる”という工夫をしてみてください。

キラキラクラブのみなさんへ

師範から一言――

キラキラクラブのみんなが作ってくれた「きたっ子の森のひみつ」壁新聞は、とってもすばらしいですよ。なにがすばしいかというと、春、夏、秋の3つの季節にわけて、その季節のすばらしさを発見してくれたことです。もう一つ、新聞のタイトルの文字、森を木のえだでかいてくれたことです。

あつい、さむい、風がゆっくりとふく、台風のように強くふく、雨がしとしとふる、雨がざーざーふるなどで季節を感じることもあるでしょう。でもキラキラクラブのみんなは、きたっ子の森の中で季節をさがしました。森の中に入るとあつさ、さむさもやわらぎます。風もゆっくりとなります。雨もふってるのか、と感じるように少しになります。町の中で感じる季節が森の中では、ちがうところにあるようです。

そんな季節を森の中でさがしてくれました。

春は冬のさむいときにねむっていた虫が動き出すのかな？ヘビもカエルもねむりからさめて、うごきだしたようですね。木や草の葉っぱもかかれていたのが、わかばがめを出しましたね。シイタケも大きくなってきたようですね。キラキラクラブのみんなが春をいっしょうけんめいさがしてくれたようすがよくわかります。

カエルやヘビはこわかったかな。でもかえるを手で持っている子もいましたね。そつとさわればかえるも安心しているみたいですね。ハチは手でおいはらうなどするとこうげきしてくるから気をつけましょう。しずかにみまもっているとこうげきはしてきません。カエルやヘビやハチだって、にんげんはこわいと思っているのでしょうから、何もしないよ！としていれればいいでしょう。なかよしになりましょう。夏はやっぱり虫や生きものがたくさんいますね。それとくさのせがたかくなって、くさむらはかくれんぼをするには、ちょうどよいかな？みんなのだいすきなクワガタやセミも見つけましたか？森の中にいると風がすずしいとみつけてくれた子もいました。よく気がつきましたね。森があるだけで風がすずしく、きおんもひくいですよ。しょうらいは栃木県も日本も世界もきおんが高くなるようです。森がいっぱいあるときおんもそんなに高くないでしょう。木をだいじにしたいですね。

おやかんきょうきょうしつで、森であつめたざいりょうでしゃしんたてをつくりました。

木のえだをくふうしたり、葉っぱもつかってみました。木のみもかざりました。みんなのさくひんをおうちのひとにあげるととてもよろこんでくれたと思います。おうちの人といっしょにつくりました。のこぎりもつかえましたね。しゃしんたての中に入れるしゃしんは何を入れるのかな？しゃしんたてをおうちのげんかんにおくのもいいね。みんなのべんきょうするつくえにおいてもいいな。だいじにしようね。



栃木県壬生町 キラキラクラブ 壁新聞のタイトル:きたっ子の森のひみつ

秋はやっぱり森の中にはたからものがいっぱいあったようですね。そうです！どんぐりがいっぱいおちていました。ドングリマカス、ドングリケーキのペンダント、ブレスレッドやネックレスもつくれたようですね。ドングリだけでこんなにいろいろなものがつくれるのですね。みんなのくふうする力がすごいです。秋のもう一つのたからは、葉っぱがみどりからきいろやちやいろ、あかいろになるのもあるよね。いろがへんかした葉っぱもくふうするとおもしろいものにへんしんすることを、みんながおしえてくれました。おめんができました。きんぎょすくいつかうのはびっくりです。たからものをかくすことにもつかえるのだね。わたしは、かれはをいっぱいあつめて、山のようにして、そこにうえからとびこむことをみんなでやりました。かれはプールといいます。とってもきもちがいいですよ。こんどやってみたらどうでしょうか？きょうしつは森の中！ってかいてありましたが、そのとおりですね。いろいろくふうできるものが、森の中にあります。みんながざいりょうをさがす目とくふうするあたまをつかって、おもしろいものができますね。

私はおりがみでモミジをつくります。夏のモミジはみどりいろのおりがみをつかいます。そうすると葉っぱがみどりいろのモミジになります。秋のモミジをおるときは、赤色やきいろのおりがみをつかいます。とってもきれいなモミジになります。こんどみんなにあうときがあったら、おりがみでつくったモミジをあげたいです。

このつぎのかべしんぶんでは、なにをみつけてくれるかな？たのしみにまっていますよ。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

おじいちゃん、おばあちゃんのかんそうにもかいてありましたが、みんながくふうしてプレゼントをつくったことがたいへんすばらしいことです。これからも、みんなはじぶんのまわりをよくみて、たからものやきせつをさがしてください。

さがしかたのヒントは、目、みみ、口、はな、そして手やあしやほほをつかって、かんじることでたからもの、きせつをさがすことです。目で見ると、みみできく、はなでにおいをかぐ、口であじをかんじる、手やあしやほほでさわるの5つのちからをつかうといういろいろなものがみつかるはずですよ。



なお、二酸化炭素のCO₂の2はCOの上側ではなく、下側に書くようにして下さい。

私は、木のみきにくっついて、はんしょくしている黄色のこけを使って黄色のろうそくを作りました。こけの名前はろうそくごけと言って、ヨーロッパでは昔、黄色のろうそくを作るのに使っていたそうです。みんなも試してみたらどうですか？

すまいるクラブのみなさんへ

師範から一言――

すまいるクラブの壁新聞「SAVE THE FUTURE II」を見て、これが小学6年生が作った壁新聞かと、そのすばらしさにとてもびっくりしました。そして大変感激しました。

2012年にエネルギー問題・省エネをやり、13年には3Rを、14年には地球温暖化防止を、そして15年にはエコで国際協力をメインテーマとして実施してきました。こんなにたくさんの活動をして、エコの良さ、楽しさ、必要性を十分に身に染み込ませたのだが、地球環境を良くし、明るい未来を創るのは、何かもう一つレベルアップした活動が必要だと感じたようですね。

そうです！環境問題を一緒に取り組んでいく仲間をもっと増やさないといけない。すばらしいことに気付きましたね。そこで増やす仲間の人数目標を作りました。自分達36人の10倍にしよう、目標は360人とししました。目標はできるだけ具体的な方がいい。その点からもみんなのすばらしさが分かります。

次は目標達成のためにどうやるかです。そうだ！エコもりフェアに出展して、自分たちの活動を紹介すると共に仲間になってくれる人を勧誘しよう。一つだけではダメだ！エコバザーにも参加しよう。参加するからには、ほかの人たちみんなが喜ぶ、欲しい、結構いいじゃないと感心してくれる物売ろう。たぶん、そうみんなが考えたのだと思います。

そして実行しました。当日の様子にみんながどうやったか、どうだったか、がくわしく書いてありました。ここを読んでもみんなの工夫がいっぱいありました。

エコもりフェアでは、協力してくれた人に手作りのグッズをあげました。参加者に体験してもらうことをしました。ドラマの上映もしました。小学生がやっているよ、ということで参加者はビックリし、感心しました。それで予想外にたくさんの人が来てくれたようですね。すまいるクラブのみんながおどろき、うれしく、うろうろしてとまどっている様子が目にうかびます。良かった！良かった！

仲間が増えて591人になりました。目標を大きく上回りました。おめでとう！

来場者アンケートの結果も数字ではっきりとエコもりフェアでのみんなの活動が、すばらしかったと出ています。

エコバザーで売上金が9,526円出ました。そして緑の羽根に募金しました。みんなの気持ちで地球を救うことに役に立ちます。

こんなにすばらしい結果が出たすまいるクラブの活動は、もっといろいろな所で発表し、栃木県だけでなく、日本全国のこども達に知らせたいですね。

サポーターの方たちのアドバイスやバックアップなどがしっかりできているからだと思いますが、サポーターの顔が見えないのは、どういことですかね？ちょっと残念な気がします。

すまいるクラブのみなさんのようなこどもが日本全国で増えると、未来の日本は明るいな一と感じました。

栃木県壬生町 すまいるクラブ

壁新聞のタイトル:SAVE THE FUTURE II ～地球の未来を救い隊の仲間を増やそう～

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

エコバザーでは、やっぱり地元の北っ子の森の木を使った手作り品を販売エコグッズとしましたね。栃木県だからとちまるくんきんちゃくを旗の再利用で作りました。目の付け所がすばらしいです。ここでも販売するだけでなく、体験コーナーを置きました。みなさんは、エコバザーに参加するに当たり、お客さんの目線に立って、物の置き方や説明の仕方を考えました。そしてもう一つ大事なこと、お客さんが楽しんでもらうには、どうすれば良いかもしっかりと考えたようですね。お客さんの目線と楽しんでもらう、こんなことを考える6年生のみなさんの立派さに、私は本当にびっくりしました。ふだんからこういうことを考える習慣が出来ていなければ、できないことです。みなさんは来年は中学生ですね。少し大人の仲間に入るのです。相手の目線に立つ、楽しくなければいけない、このことは大人になっても忘れないで、いろいろな場面で思い出してください。

私からのみなさんへの提案は、地球を救おう！から未来の地球を創ろう！に考え方を進化させたらどうかということです。未来はみなさんが創るのです。みなさんは、そんな気概があふれたこども達だと思います。

どうですか？

来年はみなさんの次のこども達が、どんな壁新聞を作って、送ってくれるか楽しみです。



スター☆クラブのみなさんへ
師範から一言――
一年間楽しく活動することができましたね。また、それぞれしっかりと活動内容が書かれていて、充実していた様子が伝わります。
開講式では、地元のごみ分別について学んだのですね。お菓子の箱のビニールは取りはずす、といったこまかいところまで書いてあります。紙ごみにも、ビニールがついていたりテープがついていたりして、捨て方にまようことがあります。みなさんが学んだことを、ぜひまわりの人にもしっかり伝えてほしいと思います。
エコリンピックの種目はみなさんが考えたのですか？エコを考えながら、競争になるような種目でとても楽しそうです。色々オセロというのは、名前が面白そうですがどんな内容なのかな？ぜひ次の機会があれば紹介してほしいと思いました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
それぞれの活動内容に、日づけか月を書くと読む人にわかりやすくなると思います。月に1回活動しているとのことなので、日付があると継続して活動していることがよく伝わりますよ。
みなさんで分担して壁新聞を書いたのはとても良いことだと思います。その中でも、活動タイトルだけは同じわくでくるとか、同じ色の紙を使うとかすると、さらにまとまりが出て、チームワークも表現できると思いますよ。



群馬県沼田市 しらさわエコキッズクラブ
壁新聞のタイトル:尾瀬へ行こう・しらエコ活動報告・みどりをふやそうぜ

10-02、10-03、10-04 全3枚

しらさわエコキッズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――
地元の貴重な自然である尾瀬についていねいに書かれていますね。全部で3つの壁新聞がありますが、「写真を使わないで書く」と決めているとのこと、自分たちで全て書くこだわりを感じます。書くだけでなく、トンボやミズバショウは紙で作っているのもいい工夫ですね。尾瀬でみられる植物、動物について読んでいて勉強になります。尾瀬に行く時の服装なども書かれていて、ぜひたくさんの人に読んでもらって、尾瀬に行ってほしいですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞など、たくさんの人に読んでもらうものには、ぜひ活動の日づけを書いてほしいと思います。尾瀬に行った日や何人で行ったか、天気など基本的な情報ですが、読む人がイメージをもちやすくなります。
植物についての紹介も、観察した日を書いてあれば、その時期に行けば見られることがわかります。みなさんが実際観察できた植物と、観察はできなかったけど尾瀬に特有の植物とあると思うのですが、それは分けて書くといいと思います。



壁新聞のタイトル: 尾瀬へ行こう・しらエコ活動報告・みどりをふやそうぜ

師範から一言—

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

看板は 60 枚も作ったそうなので、多分一日では完成しませんね。日づけを書けば、何日もかけてがんばって作ったことがよく伝わります。また、全体的な紙面の使い方を考えると、もう少し字を大きく書いてもいいかなと思います。ちょっとむずかしいことですが、「読む人に親切」という点もこれからぜひ考えてみてほしいと思います。みなさんは活動歴の長いクラブですので、そういったことも挑戦していくと、もっと活動を多くの人に伝えられると思います。

師範から一言一

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

また、ポイ捨てをしないために、みなさんは普段どんなことをしていますか？ごみ袋を持ち歩くとか、ペットボトルをなるべく使わないとか、実際にみなさんが取り組んでいることを書いてみましょう。壁新聞や看板を見た人が「これなら自分もできるな」と思えることを書いてみるといいと思います。



壁新聞のタイトル: 竹の子エコ新聞 2015

11-01

師範から一言-

壁新聞全体を見ると文字と写真のバランス、記事のつながりと切れ目などがはっきりしていて、とても読みやすい新聞になっていると思います。

花が咲いたり実ができたりすると皆さんはその木を観察にいくのではありませんか？自然はわずか1週間でも大きく様変わります。せめて週に1度、同じ木を観察して枝先の変化を追いかけると、植物だってダイナミックに変化し続けていることに気がつきます。身近な木の変化をしんぼう強く観察してみてください。きっと新しい発見があると思いますよ。



MIYASHIRO エコ★スターズのみなさんへ
師範から一言――

最近はやりの黒地の壁新聞に白文字を選び、タイトルは「エコ★スタ Let's 地産地 show cook」と長いタイトルがついています。メンバーは16人いるけれど、この壁新聞制作にあたったのは小学6年の3人とありました。よくできました。よく読んでみると、地産地消のイベントなのだといいですね。イベントの目的やその成果がすこしわかりにくくなっていますね。こんな時は、「このイベントのねらい・目的」とか「えられた成果」などを見出しを作って、短くていいので文章で書くといいですね。
後半には反省会のことが取り上げられています。このような反省会報告が書かれることは少ないので、スタッフの担当やガスコンロの使い方などとても重要なことが話題にされています。次回のイベントを良くしていくためには重要なヒントになると思いますので、これからも続けて下さい。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
集合写真をみて、とても楽しそうだなと思いました。サポーターも準備などが大変だったと思いますが、準備からあとかたづけまでがイベントの全体です。手分けして子どもたちにできることは任せて、自主的に行動できるように指導をお願いします。細かいところでは壁新聞のタイトルが応募用紙のタイトルと少しだけちがっています。ご注意ください。
反省会報告はすばらしい取り組みです。これは続けて下さい。サポーターの方々にお願いですが、包丁を使わないということができないのであれば、前もって会場に救急箱を用意するなど、対策(たいさく)を講じて下さい。何よりもけがをしないように包丁を使う技術もこれを機会に子供たちに教えて下さい。できないことができるようになることは、子ども達にとって大変重要な進歩です。



千葉県佐倉市 さくらほいくえん つきぐみ スマイルクラブ2
壁新聞のタイトル:さくらしいほいくえんつきぐみスマイル新聞

12-01 幼児 エコまる賞

さくらほいくえん つきぐみ スマイルクラブのみなさんへ
師範から一言――

さくらほいくえん つきぐみ スマイルクラブのみなさん、こんにちは。
このかべしんぶんを よんで、まずさいしょに「たのしそう！」と おもいました。ゴーヤもおいもも たくさんできたのですね。やさいを そだてることは むずかしいけど、ちゃんと おおきくそだっていて、すばらしいですね。みんなで いっしょうけんめい あいじょうたっぷり そだったゴーヤとおいもは、ぜったいにいいね！
それから、エコのこともべんきょうしたんだね。これからは、みんなで のこさずたべること、がんばってね！ ペットボトルのキャップも、たくさん あつまるように おうえんしています。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞の作製お疲れ様でした。とても可愛らしくて見やすい壁新聞でした。子どもたちの字がメインで書かれているため、頑張りが伝わってきました。
ゴーヤとおいも、それぞれどこがエコなのか、どんなことをテーマにしていたか、が書いてあると良いと感じました。
また、エコなことを保育園の頃から学んでいる事は素晴らしいと思います。なぜリサイクルが大切なのか、なぜ無駄を無くさないといけないのか、などを書けると良いかもしれません。子どもたちにとっても壁新聞の作製が、復習となると思うので、ぜひお試しください！ぜひ次回も素晴らしい壁新聞期待しております！



港南台自然観察クラブ・クロロのみなさんへ

師範から一言――

港南台自然観察探見隊のみなさん、こんにちは！

少人数ですが、毎月、みぢかな団地周辺をおもな活動の場所として、“生きものさがし”を続けているのですね。そんな一年間の活動のようすが、写真と説明によってよくわかりました。カレンダーのような形にならべて季節の移り変わりが、分かるようになっていきます。“かつどう日のようす”として自然観察のやりかたをまん中に示しているのも、分かりやすかったです。身近な自然の中にも、季節の移り変わりとともに新しいことが見つかりましたね。

毎月、活動のねらいを決めて、一年間で木、花、葉、虫、鳥、などをテーマに自然観察していることもいいと思います。

見つけたものを、「自然観察カード」にきちんと絵をかいていますね。しかも色つきで。絵をかくには、よく観察しないと、かけませんね。

セミのうかの観察で、ミンミンゼミかアブラゼミか気になったけど、じぶんで観察して、考えて、答えを出しています。メジロがつばきに巣を作ったことについても、理由を考えてじぶんなりの答えをだしました。こういう自分で考え、しらべるといのは、すばらしいと思います。続けたいですね。

11月、12月の葉っぱキャッチやつるを使ったつなひきも、こんな遊び方があるんだなと気づかされました。みんなが考え、くふうしていることがわかりました。5月の色つけマッチの活動は、保護色の実験ですか？自然の中で、てきに食べられないように、虫は、じぶんの色がまわりの色ににているところにかくれたりします。自然観察カードを、地図の上の見つけた場所にはり、ふりかえりでみんなで見えを出しあうことも、とてもよいと思います。見方や、考え方の違いにも気が付く機会になります。

みんなの住んでいるところの近くで、このような自然観察ができるのは、すてきです。これからも、この活動を続けてください。

サポーターへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

身近な自然を材料にして、良い活動を続けていってやることに感心しました。特に、子どもたち自身がよく見ること、考えること、を習慣づけていることは、素晴らしいと思います。自然観察カードは、見つけた場所や手ざわり、におい、おと、感じたことを記録して、名前を教えるのではなく、図鑑で調べるように工夫されています。子どもたちの自主性を育む良いやり方と思いました。自然を守る活動についても、載せていただくと良いと思います。



野島自然観察探見隊のみなさんへ

師範から一言――

野島自然観察探見隊のみなさん、こんにちは！

12月の海岸は寒くないのかな？「冬の陣」の活動を紹介してくれてありがとう。

6色のふうせんが26こ。みんなの冬の陣の活動の感想が書かれたふうせんは、元気よく空高くとんで行ってしまいそうですね。おねえさんがしっかり糸をつかんでいますけど、とびはじめているふうせんもあり、楽しさが伝わってくる新聞になっています。

みんなが書いた楽しかったことを、まとめてみました。キャンドルファイアーが1番でした。2番がおもちゃのはこコンサート。3番ががっき作り。どれも自分で何か作っていますね。うどん作りやもちつきも楽しかったようですね。ものを作ることがたのしかったのかな？3つのマンガイラストになりました。とてもじょうずに絵がかかれています。

手作りのがっきでえんそうしましたね。あきかんやドングリのような海岸や森で拾い集めた材料でがっきを作ると、どんな音がするのか聞いてみたいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

いちばん楽しかったというキャンドル・ファイアの絵はなかったけど、思い思いの材料でじぶんだけのキャンドルを作ったと思います。そのキャンドルに火をつけたときのうれしい気持ちは、想像できます。できれば、キャンドルファイアのイラストを入れてくれるとよかったかな。うどん打ちやもちつきも楽しかったですね。みんなの感想も感じたことを素直に書いていますね。次の「冬の陣」は、何をやるのかな？壁新聞を待っています。

★☆☆サポーターの方へ☆☆

今回、冬の陣(12月)なので、自然の砂浜の活動のようすがよく分かりませんでした。貝がらを拾ったりしたようですが、砂浜の活動があったら書いてほしかったです。

新聞の体裁は、なかなかきれいで、良いと思います。一人一人の感想が素直に書かれていました。こういう新聞もありだと思いました。ただ、年齢が低い子供さんもいるようで、風船に書いた文字が読みにくいものがいくつかありました。活動の感想が書かれているだけなので、活動のようすがわかりにくいです。そのへん工夫があるととてもよかったと思います。

大鋸児童館こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言――

大鋸児童館こどもエコクラブのみなさん、こんにちは！

こんどの新聞は、「バケツで稲を育て、米について学ぼう」がメインテーマで、「水環境の全国一斉調査」と「藤沢メダカ」の記事があり、とても読みごたえがありました。

2ヶ月たって育ちぐあいを観察して、感想を絵もまぜて書いてくれました。実った9月にも稲刈りの感想を書きました。ひとりひとりちがった感想で、おもしろかったです。稲の高さの変化をはかって数字でしめした人がいました。1か月だけでけっこう大きくなったと書いた人もいました。米が700になるというのは、こめつぶのことかな？1つぶから、品種にもよるけれど500～1000つぶのお米が取れるそうですよ。‘きもいなぞの生きもの’ってなんだろうな？刈り入れの音に気づいた人、だっこく、もみすり(野球ボールを使う方法は知らなかった！)、の事を書いた人、みんな気になるところがちがうこともわかりましたね。

12月に玄米のおにぎりを作って食べた感想があります。いつものごはん(白米)と味がちがうことはみんな同じでしたね。ねちょねちょという感想が多かったけど、たくときに水をふやし過ぎたかな。(げんまいでは、水を少しふやします)すききらいは意見が分かれました。味のほかに、においやはごたえまでちがいを感じていて、すごいなと思いました。

お米は、長い時間をかけて作られていることがよくわかったと思います。プロジェクトD活動は、たいへんよい活動ですね。どんぐりの里親ですか。どんぐりのめが出て育ってくれてよかったね。福島でも、きっと大事にうえてくれたことでしょう。福島の公園で育った木を見たいですね。



神奈川県藤沢市 大鋸児童館こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:大鋸環境新聞

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

みんなは稲を育てたのは初めてですか？5月16日に苗を植えるとありますが、苗はどこから手に入れたのかな？お米は、いろんな名前の品種があるけれど、きみたちのお米は何かな？バケツに入れる土はどこの土ですか？そんなことも知りたくなりました。

水環境全国一斉調査、ごろうさま。ありがとう。昨年と比べて水質が悪くなったそうですが、CODがふえましたか。その原因を考えてみましょう。御幣公園の水と滝ノ川の水は同じでしたか？そのことも書いてくれるとよかったと思います。

藤沢メダカの勉強をしました。藤沢メダカのとくちょうはなんですか？大きさ、いろ、かたち、オス・メスのちがいなど観察できましたか？みんなはメダカをどうしますか？新聞を読んで藤沢メダカを知った人は、みんながどんな活動をするのか知りたいと思いますよ。

みんなの活動がよく分かる新聞です。感想を書くときに、もうすこしていねいに字を書いてくれるとよかったと思います。

★☆☆サポーターの方へ★☆☆

新任のサポーターさん、ありがとうございます。

あえてまとめをしないで、子どもたちの感想を新聞に載せています。読む方は、ちょっと手間ですが、子どもたちの素直な気持ちがよくわかります。感じ方の違いも、わかりました。写真や、イラストのバランスもとれていると思います。一部、注意した方がよい表現がありました。(メダカ)直すのがよいのか、迷いますね。

稲の栽培に取組み、日本人の主食であるお米がどのようにしてできるか知ることは、大切な事だと思います。イネの栽培は、長期間にわたる活動ですので、たいへんですね。観察のポイントなどは、事前に子どもたちに伝えるのでしょうか？2年生にとっては、少しむづかしいテーマなので、上級生の助けが必要かもしれません。

子どもたちに、環境のいろいろな面を知ってもらう良い活動になっていると思います。

また、壁新聞に応募してください。

栄光チャレンジ隊のみなさんへ

師範から一言――

みなさん、こんにちは。

ちゃぼ、ざりがに、むし、いろいろないきものをみたり、そだてましたね。「かわいい」という、すなおなきもちがかいてあって、うれしくなりました！

いきものを「かわいい」とおもえることは、いきものにやさしくする、だいいいっぽです。そのきもちを、ずっとたいせつにしてくださいね。

ほかにも、そだてたおはなのほっぱで、ハンカチにいろをつけたこと。

たくさんのやさいを、そだてたり、たべたこと。

それは、しぜんをたいせつにするだいいいっぽです。

おおきくなっても、わすれないでくださいね。

どのしゃしんも、みんなステキなえがおで、かわいいしんぶんをありがとう！



サポーターへのおきゴシドウ★……★……★……★……

みなさん、とても良い笑顔ですね！読んでいて、思わず笑顔になってしまいました。

私の仕事は「環境教育」と言葉にすると固く見られがちなのですが、施設に来館した親子連れの園児や、時には幼稚園に出張してプログラムを行うなど、幼稚園児のみなさんとも接する機会は多くあります。

自然や生きもの、リサイクルなどいろいろな事柄をテーマに取り上げていますが、関心を持った物事に対しては積極的に疑問を投げかけてきたり、進んで本を読んだり、非常に吸収が早いですよね。

一度、生きたザリガニを部屋に用意して、ザリガニのクイズをした事がありましたが、やはり動くザリガニに夢中で、あまり話を聞いてもらえなかった事もあります…。笑

サポーターのみなさまは、おそらく環境教育よりも幼児教育が専門かと思いますが、今回の壁新聞で見られる内容は、環境教育的にも非常に意義のあるテーマだと感じました。

これからも、たくさんの園児のみなさんに環境に興味を持ってもらえるような活動を継続して行って下さい。

ミツ星エコクラブさんへ

師範から一言――

ミツ星エコクラブのみなさん、こんにちは。

初めて作った壁新聞を見させてもらった事を、なんだかうれしく思いながら読ませてもらいました。

とてもいいねいに作られていて、初めてとは思えないくらい上手にまとめられていますね！特に「読みやすさ」「わかりやすさ」「はなやかさ」は、お手本と言っても良いくらいです。いろいろな壁新聞などを調べたり、レイアウトを考えたり、がんばった努力の量が伝わってきます。

自然観察やリサイクルの工作、そして個人の活動と、様々なエコを実践していますね！

今頃は加入してから1年がたったと思いますが、こどもエコクラブの活動は楽しいですか？もっと調べてみたいと思うことはありましたか？

環境というものは無限に感じるほど多くのことと関係していて、知れば知るほど楽しくなってくると思います。これからも2年目、3年目とステップアップして、どんどん環境のおもしろい活動に挑戦してみてください。



サポーターへのおきゴシドウ★……★……★……★……

改めて、とても読みやすくてわかりやすい壁新聞でした。

そして活動内容やテーマも、どれも良い体験だなと感じます。

私が勤めている施設でも配りよしていますが、このような幅広いテーマを扱う事は非常に良いことだと思っています。

活動内容やテーマ決め等はサポーターのみなさんが行っているのでしょうか？

それとも子どもたちの発言や関心から決められているのでしょうか？

テーマを1つに絞る方が効果的な時もありますが、活動初期は特に幅広いテーマで活動してみて、子どもたちの興味や可能性を見つけて、グループの色を付けていってあげると良いのかなと思います。

そして今後の目標にもありますが、少しずつ仲間を増やして、少しずつ活動の輪を広げていけると良いですね。

これからも、ぜひ長くがんばって下さい！

上田エコクラブのみなさんへ
師範から一言――

読み終えて、まず最初の感想は「すごい！」です。
川に関係する多くのことについて、これだけはば広く調べた壁新聞は、今までにもなかなかないんじゃないかと思います。それでいて、どれもきちんと調べてある点もすばらしいことです。
魚や水生昆虫、そして公園や砂防ダム。いろいろな要素があって、今の登川があるのだと思います。最近台風や大雨の影響で川が氾濫(はんらん)する事も多いですが、もし砂防ダムが無ければ、私たち人間も川で安全に活動出来なくなるかもしれませんよね。生きものや自然環境を調べるには、そこにある自然以外の物を知る事は重要だと、気づけたことでしょう。この壁新聞を読むと、登川は地域のみなさんにとって身近な存在で、とても愛されているのだらうなと感じます。
環境を守るために絶対に必要な事は、自分の周りの地域を愛する心から始まると言っても過言ではありません。これからも、たくさんの地域全体に目を向けながら、地域の自然に親しんで活動してほしいと思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

この壁新聞の内容はとても良いので、これは問題点ではなく純粋に気になった疑問点として聞いてほしいのですが、登川に関する職業の人たちは、どんな気持ちで仕事をしているのでしょうか？
きっとそのみなさんも、地域や自然の事を大切に感じていると思うのですが、そこを知りたいと思いました。
2016 年はちょうどオリンピック・パラリンピックがありますが、その選手がどんな事を考えて行動・努力をしているのかを知ると、観ている人はさらに応援したい気持ちになるものです。
それと同じように、登川に関する職業の人たちが、登川に対してどんな事を考えたり思っているかを知れると、読む人はさらに印象深くなり、地域の人たちもさらに愛着がわくのではないかと思います。
みなさんの活動がすばらしくて大人にも見てもらいたいので、大人もグッと来るアクセントをもう1つ加えてみて下さい！

高岡保育園エコクラブのみなさんへ
師範から一言――

スローガンに「たのしく・すずしく・おいしく」とありますが、「なかよく」も入りそうなかんじのかべしんぶんですね。
ねんちょうさんは まいあさ かかさず みず やりをして、さすがですね。みなさんの すがた をみて、もっとちいさいこたちもこれからがんばってくれるとおもいます。
グリーンカーテンのあるところとないところのおんどをみると、そのこうかがよくわかりますね。おうちのかたにもわかりやすくつたえることができたとおもいますよ。できたゴーヤもおかしにしておいしくたべることができてよかったです。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

保育園のグリーンカーテンを参考にして、家でもグリーンカーテンに取り組んでみるのもいいですね。
アサガオなどで作れば、翌年には種を採ることもできるし、たくさんの人に広められますね。また、すでに取り組んでいる家もあるかもなので、その感想を聞いてみるのもいいと思います。

ちくばECOキッズのみなさんへ

師範から一言――

「ぐんぐん！すくすく！屋根までとどけ！みどりのカーテン！」というスローガンのとおり、大きく育っていくゴーヤのようすを知ることができました。月ごとに園児のみなさんのかわいい姿とゴーヤが育つようすが、写真と吹き出しでわかりやすくまとめることができました。大きくなった実をみて、いろいろなつぶやきも書かれていました。その一言一言が、園児のみなさんの成長の記録のようです。

グリーンカーテンの外と中での気温のグラフを記録しました。保育士の先生と園児のみなさんが、気温を測定しながら「中のほうが涼しいね」と会話するようすを、想像することができました。グリーンカーテンの効果も明らかになりましたね。園児のみなさんが、このグラフの意味を理解するのはむずかしいと思いますが、保育士の先生とのやりとりは、きつとなにかの役に立つことでしょう！

来年もグリーンカーテンを育ててほしいと思いました。



サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★

高岡市では、市をあげてグリーンカーテンで環境啓発のための事業を推進していますね。毎年、各保育園での取り組みの「壁新聞」をみるのは楽しみのひとつです。市で「壁新聞」の形式が統一されていますが、その中でも各保育園のカラーが出てきておもしろい活動だと思います。全体的なお話になってしまうかもしれませんが、工夫すると良い点をいくつか記しておきましょう。壁新聞の視点からでは、「見出し」を工夫してはどうでしょうか。保育園名が目立つより、スローガンに書かれている内容の「見出し」のほうが読み手には効果的です。壁新聞では「見出し」につづいて「リード文」が書かれます。保育園の紹介や活動の内容などの「リード文」があると、読みやすいと感じました。検討してみてください。

それから、理科の研究の視点になってしまいますが、その点からひとつコメントします。グリーンカーテンの内外の気温の記録が、素晴らしいと思います。7、8月はゴーヤのおかげで、内側のほうが涼しいことが、確実なデータとして示されました。このデータを5、6月も記録してはどうでしょうか？「ゴーヤが小さいときは、内外での温度差がなかったけど、ゴーヤが大きくなるにつれて効果が大きくなってきた」というような記録がとれるかもしれません。

ちょっと工夫してはどうでしょうか？

富山県高岡市 伏木スマイル エコクラブ

壁新聞のタイトル:伏木保育園

16-08 幼児

伏木スマイル♥エコクラブのみなさんへ

師範から一言――

伏木スマイルエコクラブのみなさん、こんにちは！まだ、字を教わっていないと思うので、サポーターの方に読んでもらってください。

壁新聞の右上のゴーヤカーテンの絵は、とてもいいですね。14人全員が自分のことを描いたのでしょうか。楽しそうな顔にかけられていますね。みんなが毎日水をやり育てたゴーヤの葉と濃い緑の実がよくわかります。熟してはじけた実の中の赤い種が、目だっています。夏の暑い時に、よくがんばりましたね。ごろうさま！

緑のカーテンのあるところ、ないところでは暑さがちがいますね。だれが、どうやって温度を測りましたか？根気よく3カ月間表に赤丸と青丸をつけてくれました。ゴーヤカーテンがあると、暑さが少しだけ下がることがわかりましたね。黄色い花が咲いて、小さな実がなって、だんだん大きくなりました。大きくなるとどのくらいかな？きゅうり、さつまいも、とうもろこし、形が似ている野菜で言うどれかな？

大きくなるのを待ち過ぎると、黄色くなって食べられなくなりますね。いつ採るかむずかしいですね。お家へ持ち帰って、ゴーヤチャーハンを作ってもらったお友達がいました。他の人はどうやって食べたかな？やっぱ、チャンプルーかな。苦くて食べなかった人はいないかな。

実は、師範も毎年ゴーヤを居間の前に植えています。だからみんなのやっていることはよく分かりますよ。伏木保育園のカーテンの方が葉っぱがいっぱいあるようです。リースにポンドで何を付けましたか？リースは保育園にかざったのかな？

お店で売られている野菜も、作人のお世話でできています。食べる時に、そういった人たち（農家）の、苦労も考えて、感謝の気持ちで食べるといいですね。



サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★

ゴーヤを緑のカーテンにした保育園児との活動を写真と適確な気温測定で克明に追った状況がよく分かる新聞になっています。新聞は、とてもきれいにまとめられています。つまり、園児たちと一緒にに行った活動を、サポーターのみなさんがまとめたと思います。

5月末から9月までの長い間、ごろうさまです。日曜、祭日を除き気温を測定しています。毎日、何時頃測りましたか？カーテンは、太陽光を遮るものですから、晴れた日はカーテンのあり、なしの気温差が大きくなるはずですが、なかなか予想通りにはなってくれませんね。でも、全体を眺めてみると青点が低くなっているのがわかります。一番葉が茂っているのは、写真から判断すると7月でしょうか？

実の収穫が終わってから、リースを作ったそうですが、できれば出来あがったリースの写真が欲しかったですね。葉っぱは順番に枯れていきますし、つるはネットに絡みついているので、取るのに手間もかかりむずかしいのではないかと思います。

熟すと黄色くになってしまうことも経験しましたね。じぶんが育てた収穫物を食べてみるのは、とてもよい経験ですね。植物を大切にする気持ちを育むと思います。生産者への感謝の気持ちも生まれるでしょう。小さい時から植物を観察し、育てる体験はとても良いプログラムだと思います。

エコじょうず！かクラブのみなさんへ

師範から一言――

定塚保育園のエコクラブですが、面白いクラブ名を付けていますね。定塚と上手をかけているのかな。
まいとしグリーンカーテンをつくっているの、ことしはなえがとどくのをたのしみ
にしていたのですね。
みなさんのうれしそうですがかべしんぶんからもつたわります。
しゃしんをみると、おおきくてりっぱなグリーンカーテンができましたね。また、ゴ
ーヤのおおきさなど、こまかいところもよくかんさつしているなとおもいます。か
れたゴーヤのつるでリースをつくったのは、すてきなくふうですね。
ゴーヤをさいだいげんにつかうことができたとおもいます。

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
応募用紙には、グリーンカーテンだけでなく、牛乳パックの回収活動もしている
とありました。そちらについても、壁新聞に書いてみたりすると、活動が発展して
いってとても良いと思います。



国吉光徳エコレンジャーのみなさんへ

師範から一言――

今年もりっぱなみどりのカーテンを育ててくれてありがとう！おっきいゴーヤ
に細いゴーヤ、なんと、お友達の腕くらい長くて、もしかしたらお友達の腕より
太いくらいのゴーヤも育ちましたね。すごいぞ！！
これは、みんなが種まきから初めて、毎日の水やりをいっしょうけんめいや
ってくれたからだね。ありがとう。
今年は、アブラムシがついてたいへんだったんだって？みんなのそだてたゴ
ーヤがりっぱでおいしそうで、アブラムシにとってもごちそうだったんだね。
それでも、アブラムシにたべられてはたいへんだから、地域のやさい作り名
人のおばあちゃんにおしえてもらって、やっつけることができてよかった！
作り方をおしえてもらうのもすてきだけど、地域のおじいちゃんおばあちゃん
に元気パワーのゴーヤのおすそわけもいいですね。そうやって、みんながと
りくんでいることを、地域のひとにも知ってもらって、おいしいものはみんなで
分け合っていたく、すごくいいな、とおもいました。
ひとりひとりのメッセージもあって、おっきいゴーヤができたことや、アブラム
シのこともわかりました。みんながゴーヤのことがだいすきなんだってことが
伝わってきましたよ。
来年もりっぱなゴーヤが育つといいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
みんなでげんきにゴーヤづくりにとりくんでいることがよくつたわってきまし
た。スローガンの「ひろげよう」がちいきへのひろがりやつながりにもなってい
てとってもいいなとおもいました。これからもげんきにとりくんでください。



はんにゃのスマイル エコキッズのみなさんへ

師範から一言――

写真がおおく、どんなことをしていたかがよくわかる新聞ができましたね。グリーンカーテンはことしで3年目ということで、みなさんにもおなじみのものになってきたのではないですか。こういう活動はながくつづけることでいろいろなことがわかってくるものです。なので、来年もぜひつづけてくださいね。

ゴーヤをそだてるには、種をまくだけではなく、まいにちのかんりなど、ときにはたいへんだな、とおもうこともあるかもしれませんが、おおきくなっていくゴーヤをみたり、しゅうかくしたゴーヤをたべたりとたのしみもおおいものですよ。らいねんもうまくできるでしょうか？ らいねんのしんぶんもたのしみにしています。

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
3年目を迎えサポーターの方もだいぶ慣れてきたのではないのでしょうか。ゴーヤの世話を通した子どもたちの成長を見る楽しみも多いことだと思います。来年度4年目を迎えるにあたっては、今までの活動に、その年独自の活動(スペシャル)みたいなものを加えられるとより発展性があるのではないのでしょうか。今後も末永い活動を期待しています。このような活動が地域全体に波及していくことを期待しています。



しょうとくエコレンジャーズのみなさんへ

師範から一言――

しょうとくエコレンジャーズのみなさんは、ゴーヤをそだてて グリーンカーテンをつくったことを かべしんぶんで ほうこくしてくれました。おんどのきろくも 3かげつも はかってあって、すごい！ まいにち みずやりなど みんなできょうりよくして がんばったから、ゴーヤもおおきく せいちょうしましたね。おはなのかずも、さいしよは9こ だったのに、32こにふえたんですね。ほかに、ゴーヤってバナナみたいに まがっていると、オレンジゴーヤのなかの あかいたねを みて さわってみたりなど、いろんなことを かんさつして はっけんできましたね。ゴーヤをたべた かんそうも かいてくれています。みんなでたべると おいしいですね。ゴーヤは ちょっとにがいますが、あついなつを げんきにすごすための えいようがはいっているんですよ。みなさんの にがおえや、ゴーヤのえも、とってもステキです！ これからも いろんなことに ちょうせんして たのしくあそんでくださいね。



サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

水やりも温度測定もですが、継続して取り組むこと、そして、見て・触って・味わってと、五感をしっかり使った活動をさせてい

らっしゃるところが、とても素敵ですね。

自然や人など様々な物事にありがとうという感謝の気持ちを持てる子どもたちは、自分も相手も大切にすることができるんで

しょうね。ゴーヤを育てるということ以外の毎日の生活の中でも、工夫して気を使っていっぱやるのだろうな、と思いました。

3ヶ月もの間、継続して温度測定されたこと、本当にすごいと思います。ただ、グリーンカーテンのある・なしで、温度があまり変わらなかった日も多かったようです。温度計の場所の問題かもしれませんが、暑い夏はできれば少しでも涼しくすごせるように

できればと思います。窓の外に、すだれやシェードなど日差しを遮るものを設置して、その外側にゴーヤ用のネットを張る(つまり、シェードとゴーヤの二重にする)と、ゴーヤの葉っぱが生長する前からしっかり日差しを遮ることができます。窓の配置やゴーヤの成長スピードなどを考えながら、一度ご検討ください。

五感をしっかり使って楽しみながらの活動は、子どもたちにとって、本当に良い体験だと思います。これからも、ぜひ楽しい活動を

続けてくださいね！

いでエコレンジャーのみなさんへ

師範から一言――

いでエコレンジャーのみなさん、こんにちは。

あついなつといえは、やっぱりゴーヤカーテンですね!とても りっぱに そだちましたね。

ただ そだてるだけでなく、おんどの きろくも したのですね。ほとんどのひで、ゴーヤカーテンがあるほうが すずしいことが わかったのは だいはいけんだね!じっさいに やってみないと わからないこともあるので、ナイスちょうせんでした!

みんなで みずやりもがんばったから、きっとゴーヤチップスはおいしかったでしょうね。わたしもたべてみたいな〜と おもいました!

サポーターへのおきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
とても上手にまとまった、読みやすい壁新聞でした。子どもたちのゴーヤに対する印象がそれぞれ違って面白いな、と思いました。

今回、なぜゴーヤカーテンに取り組もうと思ったのか、を意識できるとより良い壁新聞になると感じました。なぜ今ゴーヤカーテンが必要なのかを、子どもたちが理解することが出来れば、より活動に気合いが入ったり、地球のために頑張ろうという気持ちになるのでは無いかと思います。その時に感じたことが、壁新聞から読み取れると、読み手の私たちの心にもグツと届くかもしれません。

ぜひまた壁新聞を作ってみてくださいね!



おおたはまっこクラブのみなさんへ

師範から一言――

おおたはまっこクラブの 14 名めいのメンバーが5月 がつから8月 がつまで、グリーンカーテンを一生いっしょうけんめいお世話 せわしたことがよく伝わった できます。みんなに1本ほんずつゴーヤができたときの写真しゃしんは、みんなうれしそうですね。また、育てそだ たゴーヤをしっかりとみて、上手じょうずに絵えにかけましたね。オレンジのゴーヤの絵えもあるけど、食べた てみた人ひとはいかな。ゴーヤが少しすこ オレンジになったときに、サラダにしてみたら、苦みにが が少なくすく なっている場合ばあいがあるよ。さらにはじめて、赤いあか 種たねがとれたら、赤いあか ゼリー状じょうの所ところを食べると、とっても甘くあま なっているよ。ゴーヤの食べた 方かたで、ゴーヤチップの作り方つくかたがくわしく書かか れているので、わたしも今年ことしの夏なつためしてみよう、と思いおも ました。チップにしてもお味あじはやっぱりにがいのかな。

それから、お天気 てんきとグリーンカーテンがあるところ、ないところでの気温きおんをしらべたグラフがありますが、毎日まいにちきちんとしらべられましたね。おてんきのよい日ひ、そして7月しちがつのゴーヤのはっぱが青々あおあおとしげっているときは、だいたい気温きおんが2度どくらい涼しくすず なっているのがよくわかります。ゴーヤカーテンがしっかりお日ひさまのあつさをブロックしてくれているのですね。

?

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

グリーンカーテンのあるところ、ないところの気温と毎日のお天気しらべは、毎日きろくするのは大変だったと思います。保育園の先生がてつだってくれたのかな。 グラフを作ってみたあと、どんなことを感じたのでしょうか。

8月のおてんきのよい日のきろくは、ゴーヤカーテンのあるところとないところの差がほとんどありません。それは、どうしてなのかな。保育園にかよっているみんなには、まだむずしいかもしれないけど、きおんを毎日がんばってしらべたのだから、先生といっしょに「どうしてかな」と考えて、その考えたことをしんぶんにかいてほしかったな。

それから、ゴーヤカーテンのほかにも、なにかエコのかつどうはしていないのかな。そのあたりがもっと知りたいなあ、ともかんじました。



グリーンエコキッズ by 戸出西部のみなさんへ

師範から一言――

みんなでゴーヤをうえて、そだてたんですね。まいにち、つるがのびていたり、はなをさかせたり、ゴーヤがおおきくなっていくのがたのしみだったでしょう。人のこどもがおとなになるように、ゴーヤもそだっておおきくなっていくことがわかったかな？ はながさいたらムシもきますよ。タネもできるんですよ。

おじさんもゴーヤをそだてています。たくさんおいしくたべてますよ。

なつはたくさんのみずをやらないとかれてしまいます。でも、やりすぎてもだめなんですよ。

みんなのかべしんぶんをみて、かんしんしたのは、まいにち、おんどをはかったんですね。

5がつから9がつまでがんばりましたね。

ゴーヤのおおきさやおもさもしらべたみたいですが、おなじようにみえても、いろんなかたちやおおきさのゴーヤがあつてふしぎですね。おじさんは、ゴーヤをたべるのもだいすきですよ。

タマゴといいためてたべるとおいしいですよ。たいようのひかりをいっぱいあびたゴーヤはえいようたっぷりでおいしいです。これからも、こどもエコクラブのかつどうやおうちでも、グリーンカーテンをつくったり、そだてたやさいをたいせつにあじわってください。

あついなつも、ゴーヤをそだてたり、うちみずをするとすずしくなるし、おいしいやさいがたべられたらいいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ゴーヤのトンネルのなかのおんどが、すこしひくくてすずしいことがわかりましたね。

すごいなあ。ゴーヤのトンネルがあるとどうしてすずしいのかな？またみんなでかんがえてみてね。

しょくぶつをそだてたりかんさつをしたり、たべたりして、しっかりしらべてまたかべしんぶんにしてぜんこくのこどもエコクラブのおともだちに、みんなのかつどうをおしえてください。

むずかしかったところやくろうしたところやみんながはっけんしたことも、またかべしんぶんでおしえてください。たのしみにってます。

☆☆サポーターの方へ☆☆

植物を苗から育てること、毎日、観察すること、記録をまとめることは苦勞することも多いと思います。しかし、土に触れ、植物や生きものを観察しながら世話をすることはとても大切な経験だと思います。

一人では中々継続できないことも、みんなですると更に気づきや喜びも大きくなると思います。

みんなで楽しみながら、これからも是非とも継続してください。子ども達にとって難しいところや上手く行かなかったところも、子どもたちと一緒に考え記録したら更に素晴らしい活動になるなあと楽しみです。

これからも、子ども達とエコ活動やこどもエコクラブの活動を楽しんでください。



富山県高岡市 たてほクラブ ECOーズ

壁新聞のタイトル:立野保育所

16-09 幼兒

たてほクラブ ECOーズ！！のみなさんへ

師範から一言

みんなでゴーヤを楽しく育てたことが伝わってくる新聞です。

毎日の水やりとかんさつをとおして、ゴーヤがあつという間に背より高く成長して、花がさいて、実がつくまでの変化を観察することができて、よい経験ができたと思います。

ゴーヤを収めくしたら、ゴーヤマークをはるのはいいいアイデアです。目に見える形

と、パッとみてみんなに分かりやすいだけでなく、次にゴーヤマークをはるのが楽しみになるものです。

収かくしたゴーヤはみんなの家庭でおいしく食べたようです。味覚も楽しめたようで、五感を使ってゴーヤのさいばいを楽しんでくれたことが分かりました。感想をみると、にがくてびっくりした子もいるようですが、それもきちょうな経験です。

五感の中には“ふれる”感覚としてしゃく角もありますが、葉っぱ、つる、花や実をさわってみましたか？どんな感じがするか、こんどぜひ教えてくださいね。

7月、8月、9月と長い間、温度をきろくしてくれてありがとうございます。日々のデータはきちょうです。天気が晴れてないときに、グリーンカーテンがない場所の方がある場所より温度が低い日があります。グリーンカーテンがある場合とない場合で同じ場所の温度ははかれませんか、どんな場所の温度をはかったのか、記録表にイラストがあつたりするといいかもしれません。

3年目もゴーヤとのふれあいを楽しんでそだててください。

サポーターへのおとしきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

ゴーヤのにおいは豆みたいなおいでしたのですね。においは人それぞれ感じかたがちがうものですが、きゅう覚を使って植物とふれ合うのはとてもいいことです。

植物でにおいという、花の香りをそうぞうするかもしれませんが、葉をもむとにおいがするしゅるいがたくさんあります。

身近なものではドクダミ、ヨモギ、クスノキなどです。きっといつもさんぽする近所にもあると思いますので、見つけたらぜひにおいをおいください。



いしつumiエコクラブのみなさんへ

師範から一言一

いしつみエコクラブのみなさん、こんにちは。みんなは、いろんなことを、やりましたね！

みずをちゃんとあげて、ゴーヤをそだてたこと。

みんなのしんちょうより、たかくなったこと。

ゴーヤがたくさんできて、びっくりしたこと。

たべてみたら、にがかったこと。

ぜんぶが、おもいでになったとおもいます。

そのことは、じつは、たのしいだけでなく、とってもエコなんです！

おおきくなっても、たのしいエコをみつけて、やってみてくださいね！

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

とても大きく立派に育ちましたね！そして、最大で4℃差とグリーンカーテンとしての機能も果たしていますね。エアコンを4℃下げた事と同じだと考えると、非常に効果が高いと思います。

私の働いている施設でも、5~6月にゴーヤの種の植え付けをして、持ち帰って育てるイベントを行いました。参加してくれた1人の幼稚園の女の子がほぼ毎日、成長を写真に撮って見せに来てくれるようになりました。ゴーヤを育て始めてからいろいろなお話をする中で、だんだんと植物や自然に興味を持って様々な事を吸収し、ゴーヤに負けないうくらいぐんぐん急成長している様子を見せもっている最中です。何かを育てるという事は、やはり環境にも教育にも良いと、私も改めて感じる事が出来たので、これからもいろいろな物を育てながら、園児のみなさんの興味・関心を伸ばしていってあげて下さい。



富山県高岡市 のむらエコクラブ

壁新聞のタイトル:大きくなーれ！のむらのゴーヤ～グリーンカーテン～

16-10 幼兒

のむらエコクラブのみなさんへ

師範から一言一

ゴーヤの壁新聞(かべしんぶん)をつくってくれて、ありがとう!!! 5月(がつ)から8月(がつ)までの成長記録(せいちょうきろく)がすべてよくわかるすばらしい壁新聞(かべしんぶん)です!!! みんなよりも、ちいさかったゴーヤの苗(なえ)があつというまにみんなよりおおきくなったね。

ゴーヤのはっぱでおへやがすずしくなってよかったね。9月(がつ)のおんどきろくひょうをみればよくわかります。

また、みんなでたべたゴーヤチップスもおいしいそうだね。みんなが毎日(まいにち)の水(みず)やりをいっしょうけんめいにかんばったからだね。おつかれさま!!!ゴーヤのにおいやにがさは、ゴーヤのはっぱをたべる虫(むし)などからじぶんをまもるためのものだよ。

つぎの壁新聞(かべしんぶん)では、みんなが冬(ふゆ)につくったゴーヤのつるのリースをみてみたいな。みんなもゴーヤのようにげんきにおおきくなってね!!!

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

つぎの壁新聞(かべしんぶん)では、ゴーヤがまいつきなんこしゅうかくできたかのきろくがあるといいな。

こんどはみんなでたくさんのゴーヤをしょうかくできるようにくふうするとたのしくなるかもね。

おおきくなったゴーヤをつかってやさいジュースをつくったり、またゴーヤのあかいたねはあまく、ジュースにすればけんこうにいいそうですよ。ちょうりしさんに
そうだんして、チャレンジしてくださいね。



万葉なかよしグリーンキッズのみなさんへ
師範から一言――

この壁新聞では、ゴーヤで作ったグリーンカーテンの成長記録を報告してくれました。18 人のクラブ員と 23 名のサポーターの大きなクラブの4ヶ月の成長記録です。科学的な観察もして、ゴーヤのグリーンカーテンのある所とないところの気温を毎日測定して、折れ線グラフでまとめてくれました。7月中旬からはこのカーテンのあるなしで気温差が大きくなっていることに気が付くと思います。子供たちの似顔絵と感想文は 18 人のクラブ員が絵と文字をかくてくれたのでしょうか、元気な活動を楽しんでいる表情がとてもいいですね。特に中央のゴーヤマンが面白い表情をしています。

サポーターへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
このプログラムは市内のたくさんの保育園でも毎年取り上げられているテーマで、すっかり広まっていると思いますが、壁新聞では実際にゴーヤの苦みについてどんな印象だったのか、ふみ込んで書かれたことがないと思います。
ゴーヤの佃煮を作ってもらい、味見をしていますね。苦みはあるけれど食べたらおいしいことに気が付いて、うれしそうに食べたというのを読んでもっとうれしく思いました。味覚の中でも苦みはおうちでもなかなか体験できる味ではありません。これを佃煮で体験できたのはすばらしいことと思いました。大人でないとこのような体験はできませんが、子どものうちにゴーヤで体験できたことは貴重です。さらに、ゴーヤの切り口や種、色などにも興味をもって観察し、発見を友だちと伝え合うなど、交流もすばらしいものです。



第二エコキッズのみなさんへ
師範から一言――

だいにエコキッズのみなさんは、はじめてエコクラブに さんかしてくれました。すてきな かべしんぶんを ありがとう！すてきな ゴーヤのみどりのカーテンが できましたね。
。みんなが みずまきなどがんばって ゴーヤをそだてたから です。ね。
ゴーヤのつるが とても ながくなることや、はっぱがおおきくなること、ゴーヤのみのいろが みどりからきいろに かわることなど、たくさんのことを はっけんしてくれました。28センチもの ゴーヤが できたんですね。おおきいなあ！
みなさんは ゴーヤをたべましたか？ どんなあじでしたか？ またぜひ おしえてください。ね。
これからも いきものを たいせつにしたり、おともだちとなかよく、たのしく げんきいっぱい あそんでください。ね。



サポーターへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
子どもたちが頑張ってゴーヤを育てている様子が、写真から伝わってきました。ゴーヤくん・ゴーヤちゃんも親しみやすいですね。ゴーヤコンテストで長さに注目するなど、子どもたちが興味をもって取り組めるよう工夫されていらっしゃるところが、とてもステキだと思います。
ところで、温度記録を見ると、グリーンカーテンのある・なしで、あまり気温が変わらなかったようです。温度計の場所の問題かもしれませんが、窓の高さや葉っぱの成長度合いによっては、思ったように涼しくする効果が出ないこともあります。グリーンカーテン以外にも部屋を涼しくする工夫を追加でされても良いかもしれません。窓の外に、すだれやシェードなど日差しを遮るものを設置して、その外側にゴーヤ用のネットを張る(つまり、シェードとゴーヤの二重にする)と、ゴーヤの葉っぱが生長する前からしっかり日差しを遮ることができます。そんな方法もあるということで、一度ご検討ください。
ゴーヤカーテンなどで部屋を涼しくする工夫をすることで、楽しみながら(冷房等の)省エネにつながる。そして地球を守るということは、結局は自分たち人間にとっても良い環境になるということ。これからも、楽しい工夫をしながら、子どもたちに伝えていただければと思います。

第三ゴーヤマンズのみなさんへ
師範から一言――

スローガンのとおり、まいにち水やりがんばったね。ありがとう！まいにち水やりをがんばっていたのに、葉っぱがくろくなってきて、かれてしまいそうになって心配だったね。でも、花をつけたときにはうれしかったね。植物の生きるための強さ(生命力)もかんじ取ることができたとおもいます。いい体験ができました。

みんながまいにち、いっしょうけんめい水やりをしながら、ゴーヤのようすをみていてくれたから病気になったことにも気づいたし、元気になってきたこともわかったね。そういった変化に気づく「目」をもっていることはとっても大切なことだとおもいます。みんなはそんな気づく目をもっていますね。すごい！

気づく目といえば、収穫しなかったらゴーヤがあかくなったことを発見していますね。ゴーヤはどうしてあかくなったんだろう。こんど先生に聞いてみるといいね。おうちの人にも聞いてみようかな？そうやって、わからないことはしらべてみるのもたのしいよ。

ひとり1本ずつゴーヤを持ち帰ることができるくらいたくさんさんのゴーヤが育てよかった。来年もたのしくみどりのカーテンを育てられるといいね。がんばって！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
どんどんつるがのびて、みどりのカーテンもおおきくなったんだよね。
どう？カーテンのかげになったところはすずしくなったでしょうか？グラフを
みてもちがいがわかりづらいけど、それはまだおおきくなるまえだからかな。
「みどりのカーテン」としてのゴーヤはどうだったのか、きづきがかかれていますとよかったかな、ました。

細呂木小学校のみなさんへ
師範から一言――

細呂木小学校5年生のみなさん、こんにちは！
みんなの観音川の水質調査の結果を分かりやすくまとめてくれました。
クラブ結成から日も浅いのでたいへんだったのではないですか？初めて行った調査でむずかしいことはありませんでしたか？水のきれいさの調査項目をどのように選んだのでしょうか。

じぶんの住んでいる街を流れる川は、いつもきれいだといいですね。
水質調査のあとで、むかしはどうだったのか「聞き取り調査」をやりましたね。数値ではわからないけれど、なんとなく今より水がきれいだったことがわかりましたね。このように時間の経過とともにどのように変化したか調べることは、大切な方法です。時系列変化といいます。50年前は経済の高度成長期、30年前は高度成長が終わるころです。

現在の川は、その当時よりよごれているのでしょうか？それとも……。50～30年前とどこがちがうでしょうか？ごみはありますか？ワカサギ釣りはできますか？魚はたくさんいますか？ホタルは飛んでいますか？川底は見えますか？水質データも必要ですが、現在に川のようすを目で見た感じも書いてほしかったです。



師範の見方が間違っていたら、ごめんなさい。

現状観察から問題点を導き出して、その原因を探り、対策を立てて実行していくという一連の過程を子どもたちに、考えてもらうことが良いと思います。

19-01

動について詳しく紹介する記事を作ってみてはどうでしょう。



一般社団法人 飛騨シュール①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

えんぴつのことを調べてくれたんですね。ありがとう。新聞のあちこちにたくさん書かれた「えんぴつくん」たち。どれもかわいく書かれていていいですね。これらのイラスト、私は大好きになりましたよ。みなさんはえんぴつや文房具がとっても好きなんだろうなって思いました。

えんぴつの持ち方や、えんぴつのれきしも大事ですが、エコクラブのメンバーとしてはやはり「環境にやさしいこと」について考えて欲しい、ということで、「みじかくなったえんぴつのかしかな」というのは、身近なところからのエコ、とても大切な活動だなとおもいました。ほじょくをつけたり、キャップを使うことで、持ちやすくなって使えることをおしえてくれました。ありがとう。大切に最後まで使い切ることがだいじだなーって思うので、とてもいいことを書いてくれてあるなあ、と思いました。

この頃は、シャープペンシルを使う人が増えて、えんぴつを使う人が少なくなったのかな、とも思いますが、みなさんの周りではえんぴつの人が多いでしょう。

実はわたしもえんぴつが大好きです。小さくなったえんぴつは、2本のえんぴつのけずってないところどうしをくっつけて、どちらからも使えるえんぴつにして使っていました。最後の2cmくらいになったものは外の木の部分(じくの木でできた部分)を取りのぞき、しんだけにして、コンパスのえんぴつとして使ったりもしましたよ。えんぴつを最後までちゃんと使い切ってあげるということからはじまる、ものを大切にすることをこれからも持ち続けていってください。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞に書かれた文字が小さくて、読むのにとても苦労してしまいました。えんぴつ新聞ですから、えんぴつで書きたかったかもしれませんがね。でも、壁新聞としてたくさんの方々に見てもらうには、やはりしっかりとわかりやすく書くということも大事ですね。色えんぴつのしんのことや、えんぴつのもちかたのことを書いてくれているくらいの文字で書かれているといいな、と思いました。次回は挑戦してみてくださいね。絵が上手なみなさんですから、すてきな新聞になると思います。がんばって！



岐阜県飛騨市 一般社団法人飛騨シュール
壁新聞のタイトル:①鉛筆かべしんぶん、②一日のエコ新聞

一般社団法人 飛騨シュール②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

一日エコ新聞とは、なかなかいいところに目をつけましたね。例えば電気の使用量の変化や、水の使用量の変化などのように、1か月、1年と取り組むことで成果がみえてくることがあります。でもこの壁新聞で紹介してくれたように、気軽にさっそくやってみる、今日一日やってみたらいい、ということもありますよね。この気づきがいいですね。何もしないより、少しでもやってみたほうがずっといいですね。ここでまとめてくれている内容はまさにそれ！難しいことばかりではなく、気軽にできるっていうのがいいな、と思いました。

それで、一日でどんなことができるのかというと、まずは朝、顔を洗うのにせんめんきにいった水を使うという方法。私もそうですが、つつい流しっぱなしで洗ってしまいます。すると、顔をごしごししている間は水がただただ流れていることになります。これは確かに水がもったいないですね。水をためて洗う、いい提案です。もうひとつは、ご飯を残さずに食べる。ご飯を残すということは、作るためにかかった手間や、料理するときのエネルギーがむだになってしまったことになります。そして、みなさんがいうとおり、ちゃんと食べれば食べ物をそまつにせずすみませぬ。

同じように、昼、夜と取り組めば、二倍も三倍も出しまつたろうむだがなくなるということになります。環境にやさしい活動だと思いました。これからも、できることから取り組み、続けていってください。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

例えば、せんめんきに水を入れて顔を洗うのと、流しっぱなしで洗うのではどのくらい水の使用量がちがうでしょうか。石けんで手を洗うとき、出しっぱなしにした時と、止めて洗った時では、使った量はどのくらいちがうでしょうか。そんな実験をしてみるのもいいかな、と思いました。それを1日にかんさんするとどのくらいのちがいがでるか、そのままの計算で1か月ではどうなるのか。実際にやってみるけれど、やったらどんなにいいか、数字でわかってきたりします。継続して取り組めない分、そんな実験もおもしろいかも！と思います。そして、その実験をもとに、次は本当に一週間、一か月と続けてみましょう。そうやって続けていながら、実際にはどのくらい成果があったのか、とか、どんな変化があったのかなど、確認しながら継続していく活動につなげていってほしいなと思います。



静岡県静岡市 清水イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:静岡の資源と太陽のつながり

22-01、22-02(推薦) 全2枚

イオン清水チアーズクラブ A の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

テーマである太陽と森のつながりについて、体験したこと、新しく学んだことがていねいにしっかり書かれています。書く前に、しっかり文章を考えていますね。伝えたいことがよく伝わる文章だと思いますよ。太陽は当たり前のように存在しているので、普段はありがたみを感じる事が少ないですね。でも壁新聞にあるように、太陽のおかげで昼夜があり、季節があります。植物は光合成をすることができます。それによって、森も育つし動物も生きていけます。みなさんの壁新聞を読むと、それがよくわかりますね。「つながり」を実感する力は、環境問題について考えるときにとても重要な力だと私は思っています。今回の活動と壁新聞のテーマは、その力を高めることができたのではないのでしょうか。とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

元気な森を育てるために、今回みなさんは間伐などに挑戦しました。他に、家や学校で取り組めることも考えてみるといいですね。間伐した木で CD ケースを作っていますが、これはとてもいいヒントです。間伐した木でできた物を買ったり使ったりすることで、間接的に元気な森を育てることにつながります。読んだ人にもすぐ取り組めることも書くと、エコがもっと広がりますね。



イオン清水チアーズクラブ B の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

この壁新聞では、地元、静岡の資源と太陽のつながりについて書かれています。こちらも体験したことや感想がていねいに書かれていて、とてもわかりやすいです。また、どの写真もみなさんが積極的に活動している様子が伝わりますね。三保の松原には、松がたくさんありますね。枯れ松葉が 13 袋分も集まったのですね。みなさんががんばって集めましたね。自然のものだから、そのままでもいいのかなと思っていましたが、拾った方が松にも良いことは、私も新しく知りました。サマーキャンプでは、地元の魅力を再発見できたのではないのでしょうか。かつお節は、一見すると森とは関係ないのかな、と思いますが、いぶすときに木を使っているのですね。海と森の両方のめぐみでできるごちそうですね。とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

クラブのメンバーは 100 人ほどだそうです、みなでなかよく協力して活動している様子が伝わります。地域の方やサポーターのみなさんとも協力して、これからもがんばって活動してほしいと思います。



静岡県三島市 三島本町チアーズクラブ
壁新聞のタイトル:①三島自然ガイド②太陽のちから・ひみつ

22-07、22-08

イオン三島本町チアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

この壁新聞は、マックスバリュ三島本町チアーズクラブのみなさんが、三島の自然についてまとめてくれています。カラフルで見ごたえのある、ステキな壁新聞に仕上がっていますね。イラストをたくさん描いてあり、とても分かりやすいです。みなさん、絵が上手ですね。三島には自然がたくさんですね。三島梅花藻という水草、楽寿園、源兵衛川など、魅力的なポイントが分かりやすいです。また、この地域では富士山からの伏流水が自然の豊かさに関係していることも良くわかりました。みなさんはとてもステキな地域で活動されているんですね。私も三島に行きたくなりました！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

すでに完成度の高い壁新聞ですが、さらなるレベルアップを目指すならば、次のようなことにも注意してみてください。活動をした日にちを書く

三島梅花藻の保護整備のお手伝いをしたり、色々な生き物や植物を観察した活動をもとに、壁新聞の記事を書いていると思います。その活動をした日にちが書いてあると、その生き物を発見できる季節はいつ頃なのかなどもわかりますし、みなさんの活動記録にもなり、とても良いと思います。

感想を付け足す

写真や文章、イラストなどで、活動内容がとても良くわかります。ここに、みなさんが「これはすごい！」と思った事や、「他の人にもこうしてほしいなあ」と感じたことが書いてあると、もっといいですね。壁新聞を読む人の心に、みなさんの気持ちが伝わっていいと思います。

これからも三島の自然の中で、楽しく元気に活動してくださいね！

静岡県三島市 三島本町チアーズクラブ
壁新聞のタイトル:①三島自然ガイド②太陽のちから・ひみつ

イオン三島本町チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

この壁新聞は、マックスバリュ三島本町チアーズクラブのみなさんが、箱根ビジターセンターや箱根の里で学習したことをまとめてくれています。特に、私たち生き物にはなくてはならない「太陽」について、わかりやすく書いてくれています。太陽の温度や大きさなど、太陽そのものについてだけでなく、私たちとの関係についても書いてくれているところが良いですね（冬至が2月となっていますが、きっと12月の「1」が抜けてしまっているのかな？確認してくださいね）。他にも、箱根の山の形成についてなど、面白い内容がわかりやすくまとめてあり、大人でも見ごたえがあります。こちらイラストがとても上手ですね。わかりやすくなるよう工夫されていて、とっても素敵な壁新聞です。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
こんなことも書いてあるといいな、と思ったことがあるので、これからの参考にしてください。

- ・見学に行った日にち
- ・学習して、みなさんが特にびっくりしたことや、面白かったことは何か
- ・みなさんの感想

太陽から地球には、光という形でエネルギーが届いています。その光が当たると植物が光合成をして生長し、植物を動物が食べ・・・という風に、太陽がなければ地球上の多くの生き物は存在することができなくなってしまいますね。
また、昼間に太陽の光が地球に当たって熱になり地球上が温まります。夜にその熱の一部が宇宙へ逃げていくことで、地球上は生き物が暮らすのにちょうどよい温度になっています。でも最近、二酸化炭素などの温室効果ガスが増えて、熱が宇宙へ逃げにくくなってしまい、少しずつ温暖化が進んできています。
ちょっとむずかしいかもしれませんが、そういうことも知った上で、二酸化炭素などが少なくなる省エネなどについても考えてもらえるとうれしく思います。太陽は遠いところにありますが、みなさんが壁新聞に書いてくださっているように「絶対必要な存在」ですね。身の回りの事だけでなく、宇宙空間の太陽のことも学習しているみなさんの活動、とてもステキだと思います。これからもぜひ楽しみながら活動してくださいね。



静岡県三島市 三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告 1班～4班

22-03、22-04、22-05、22-06 全4枚

三島市環境探偵団①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

大きな文字で新聞の名前を書いているところなどは元気なこどもたちの声が聞こえてくるようです。写真を切りぬいてはりつりける作業はこどもたちが楽しそうに作業をしたと想像(そうぞう)ができます。新聞タイトル下には新聞づくりに参加したこどもたち全員の名前がかかれていて、記事の中には感想文がまとめてあります。この感想文はみんなで話し合っただけでしょうか？それとも代表者の感想ですか？こんな大勢(おおぜい)で実験をしたときなどは感想文をみんなで相談して決めるといいですね。
また、登山体験では、標高が高くなると空気が薄くなることに気が付いていますから、もう一歩ふみこんで、登山道に生きている植物やコケなどが標高が高くなるとどのように変わっていくか、あるいは足元の石や土の色や形がどのように変わっていくか、これも観察するとおもしろいですよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
この壁新聞(かべしんぶん)では、新聞タイトルも記事の本文の文字もおなじ太さで書かれていますね。ふつうの新聞はどのようになっているか、よく見て下さい。大きな文字ほど太い線で書かれ、新聞記事の本文は細い線で小さく書かれていることに気が付きましたか？これを、まねすればいいのです。いままで優秀(ゆうしゅう)な成績(せいせき)をおさめた壁新聞もこのルールで書いていることが多いです。
例えば新聞の名前は8文字ですので、箱書きで一行、太いマーカーで書きます。本文は四角い場所にきちんとおさめるために字数を数え、えんぴつと定規(じょうぎ)で字数分のマス目をかいて、一字一字ていねいに書きこみます。このとき注意したいのは、文字の大きさをそろえて書くことです。きれいに書けるといいのですが、むしろていねいに書くように努力すれば、きれいに仕上がり、きっと上位入賞できます。もうひとつ、「温暖化推員」が来て発電の実験をしてくれたと思いますが、正しくは「地球温暖化(おんだんか)防止(ぼうし)活動(かつどう)推進員(すいしんいん)」です。全国で通用(つうよう)する名前ですので正しく書きましょう。静岡県には140名ほどいますので、出前授業(じゅぎょう)などをおねがいして下さい。

静岡県三島市 三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告 1班～4班

三島市環境探偵団②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

これも10人の仲間で壁新聞を作っています。活動内容(ないよう)は富士(ふじ)登山、風力発電見学の2つだけですが、どちらも感想文がのっています。富士登山では5合目でとてもすずしかった、植物が少なかった、とても空気がうすくてつかれやすかったなどなど地上とはちがう身体が反応(はんのう)をしていることに気がついてます。風力発電では羽根の重さや長さ、回転する音にもおどろいている様子が伝わってきます。このような感動を大切に記録して下さい。そうすれば体験になりますよ。
新聞タイトルの下には参加した子ども達の名前が書かれていて、壁新聞づくりを楽しんでいる様子が目にうかびます。富士登山の記事では写真が山道のようにゆるやかなカーブをえがいて配置されています。これとは別に風力発電では、写真をまん中において活動内容と感想が区別して書かれています。これはデザイン的にもすぐれたものと思いました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
この班(はん)も1班と同じで、タイトルの文字が細いように感じました。新聞名称(めいしょう)、中見出し、小見出しとメリハリのある大きさの文字をかくとすっきりすると思います。手書きの文字が右にながれてかたむいているのは読みにくいと思いますので、この時はえんぴつと定規(じょうぎ)でマス目をかいてマーカーで字を書きこんだらていねいにえんぴつ線を消して下さい。そうするときれいに仕上がります。また、子ども達の名前が空を舞(ま)っているようにうかんでいるのは美しいと思いました。やはり1カ所に同じ位の大きさの文字でまとめて書いておかないとわかりにくいと思います。

静岡県三島市 三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告 1班～4班

三島市環境探偵団③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

三島市環境探偵団の第3作目です。一言コメントは②とおなじになりそうですが、コメントしてみましょう。この班(はん)は電池作りと風車見学、少しだけミックス古紙と緑のカーテンにも勉強のあとがありますね。風車では実際(じっさい)に動いているものを見学して、騒音(そうおん)やバードストライクなどむずかしい言葉も覚えましたね。いろいろな実験などをしたあとで、感想文を書くのはとても良い習慣(しゅうかん)ですので続けて下さい。もう一つ太田川河口(かこう)周辺ではわたり鳥の中継点(ちゅうけいてん)にもなっていることも覚えて下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
この新聞も同じグループですので、ゴシドウがよくにたものになりました。この班(はん)も②と同じで、タイトルの文字が細いように感じました。新聞名称(めいしょう)、中見出し、小見出しとメリハリのある大きさの文字をかくとすっきりすると思います。きれいに大きな文字、小さな文字をどのようにして書くのかは上の②のゴシドウを見て下さい。まだ経験(けいけん)があさいスタッフは、部分編集などを応援(おうえん)したり、壁新聞のタイトルの文字を作ったりします。写真のとなりの説明文、小見出しと感想本文などは、すでに①・および②で説明してきたとおりです。切りぬいた写真がどのような場面を写したもののなのか、すこしわかりにくくなっているとおもいます。初めて見た人にわかるように、写真の説明をていねいに書きましょう。それと子ども達の名前が書かれていなかったようですね。

三島市環境探偵団④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

これで4つの出身の同じ壁新聞を講評(こうひょう)したことになります。この壁新聞は壁新聞らしくないところがあって、ポスターのようにみえますね。身近な自然とエネルギー学習の成果をまとめています。メンバーの名前も壁新聞のタイトルも出来栄は他の3つとよくにしていますね。感想文は2か所でまとめてあり、よくに書き方をしているので、わかりやすい工夫になっています。身近な自然は写真でみじかい解説(かいせつ)があるともっと理解(りかい)が深まったかもしれません。地元にいるとこのような自然の大切さがわかりにくいのですが、もっとじまんしてもいいのではないのでしょうか。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

写真が少しだけ左上がりにはりつけているのがわかりますか？気が付いたのは記事の文章がぎやくに右上がりには書かれているからです。これは読む人がつかれますね。これをふせぐためには定規(じょうぎ)とえんぴつで前もって真っ直ぐな線を引いておくことです。また、いままでの3つとはちがって、せせらぎルート(せせらぎルート)の地図(ちず)が掲載(けいさい)されていますが、さっぱり地図が読めません。こんな時は地図を下敷(したじ)きにしてもう少しかんたんな地図に作りかえ、地図を中心にしてそれぞれ身近な自然が地図のどこにあったのか、引き出し線(ひきだしせん)で写真とつなぐとわかりやすくなりますね。みんなと同じ勉強(めいけん)をしても壁新聞にするときには、みんなとちがっていてもかまわないですよ。いろいろな工夫をして他にはないとかちょうのある壁新聞をかんがえてくれるとうれしいですね。説明も自然だけでなく、歴史(れきし)や文化(ぶんか)にも手をひろげてかくと、いよいよ本格派(ほんかくは)ですね。がんばってみましょう。

愛鷹アースレンジャーのみなさんへ
師範から一言――

ハコネサンショウウオは2010年代以降、細かく分類されてきています。まだまだわからないことも多い貴重なサンショウウオです。毎年調査をしているようですが、このような継続した取り組みが後になってとても貴重なデータになるかもしれません。新聞にも書かれていたが「きれいな水流(すいりゅう)じゃないと生活(せいかつ)できない」ハコネサンショウウオがこれからもすみ続けられるように、赤淵川(せきふちがわ)が今の状態であるように見守り続けていってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

新聞の最後に「地域の人達にも協力をしてほしい」とありましたが、では地域の人にどのような協力をしてもらえればこれからもハコネサンショウウオを守り続けることができるのでしょうか？
僕たちはこういうことをしていくので、みなさんはこのように協力してほしいと呼びかけるのもいいのではないかと思います。次はそのような新聞を期待して待っています。



原田湧水クラブのみなさんへ
師範から一言――
私の住んでいる東京でも河川敷などでセイタカアワダチソウが増えてしまい、在来の植物を追いやっている場所が増えていきます。すっかり嫌われものとなってしまうています。世間では嫌われものとされている「セイタカアワダチソウ」「クズ」「ヨモギ」のいいところをさがそうという考え方がすばらしく思います。なぜその植物がここにあるのか、どのような目的で持ってこられたのか、いろいろ調べるうちに見えてくるものがあるでしょう。
どんな生物にもいいところがあるという点に目をつけたのは秀逸だと言えますね。今後もこのような視点での観察を続けていってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
私が所属している NPO では、冬にクズ等の植物を用いてかごづくりの講座を行っています。昔の人はそうやって利用していたのですね。嫌われものとする植物にも利用法があることがわかりました。ただ、世間の人は知らないことが多いのではないのでしょうか。そこで、次の新聞では、ぜひくわしい利用法を写真入りで説明してもらえればと思います。とてもよいことなので、ぜひ全国に広めてほしいものです。



元吉原自然学校のみなさんへ
師範から一言――
元吉原自然学校のみなさん、こんにちは。
イラストや写真をたくさん使っていて、とても読みやすい壁新聞でした！
タイトル通り、元吉原には自然遊びの素材がたくさんあるんだね。ムクロジの実でシャボン玉遊びや、押し花など、とっても楽しそうだね。マテバシイのドングリはクラフトに向いているそうだけど、どんなのが出来そうかな？（私は、ドングリのコマ、ドングリカレンダー、絵を描くことを思い付いたよ♪）
もし、面白いアイディアを思い付いたら、ぜひ壁新聞に書いてみてね！これからも、面白い遊びを提供してくれる自然を大切にしていね！みんなと、どうやったら大切に出来るかも考えてみよう。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞の作成、お疲れ様でした。イラストや写真を使って、上手に見やすくまとまっている壁新聞です。
元吉原は、たくさんの自然にかこまれ、たくさんの自然とふれ合える、とてもすてきな場所ですね。そんな場所を、これからもなくさずに大切にしていくために、自分たちにはどんなことが出来るでしょうか。
たとえば、近所の人や学校にいる人にプログラムを実施してみたり、ごみ拾いをしたり…。みんなで話し合えば、もっとたくさんの良いアイディアが出てくると思います。ぜひ、そのアイディアを実践し、その結果どうなったかをまとめると、今回とはまた別に、新たな気付きや発見があつて面白いかもしれません。ぜひまた、壁新聞に挑戦してみてくださいね♪



青葉台児童クラブのみなさんへ

師範から一言――

青葉台児童クラブのみなさん、こんにちは。

「二酸化炭素をへらす活動」をテーマに、地球温暖化についてとてもよく調べられていますね。

まとめにもあるように、二酸化炭素をへらすことは、とても大切です。みんなで話し合えば、きっと今出ているアイデア以外にも、もっと多くの良い意見が出ると思います。その中から1つでも多くの活動に取り組むこと、それから、1人でも多くの人にそのことを伝え、地球温暖化をストップ出来たら良いですね。

私も、なるべく省エネな生活を心がけています。生ごみはミズコンポストに入れたり、きちんと分別したり、出かける時はコンセントを抜いてから出かけたりします。これからも、地球温暖化を防止できるようなアイデアをたくさん考えてみてほしいな、と思います。良いアイデアはぜひ壁新聞で教えてね♪



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成、お疲れ様でした。

1人1人が、地球温暖化についてきちんと考えられているんだな、と伝わる壁新聞でした。きっと指導されている方や保護者の方が素晴らしい教育をしているのでしょう。

素晴らしい活動の中で、今回は世界中で起きている様々な異変を知ることが出来たと思います。次は、より身近な環境に目を向けてみてはいかがでしょうか。例えば、家の中で二酸化炭素を出すものは何があるか、一番多く出すものと少ないものは何か、どんな生活をしたら二酸化炭素はへるのかななどです。また、温暖化の影響により、タイではスーパー台風が襲来したり、オーストラリアやブラジルでは干ばつの被害があるが、日本や静岡県富士市ではどんな影響があるかを調べてみて面白いかもしれません。

地球温暖化をストップできるよう、これからも応援しています！

吉小わんぱくエコクラブのみなさんへ

師範から一言――

たくさんの写真で、クラブのみんなの笑顔がいっぱい！にぎやかな壁新聞ができました。みんなの楽しい気持ちが伝わってきましたよ。いいですね。クラブのみなさんは好奇心いっぱいなのですね。知りたいこと、やりたいことがあるんだよ！ということが大きな文字で書かれていて、ぐっと伝わってくる壁新聞ができました。

リサイクルでは、アルミ缶や、牛乳パックが大変身しました。捨ててしまったらただのゴミになってしまうけど、リサイクル工作でこうして何かに生まれ変わらせることができたなら楽しいですよ。作業しているとき、出来上がったとき、とっても楽しかったと思います。

「ダックス食ん太君」というのは、ダンボールで生ごみをたい肥にするもののことでしょうか？市の方に来ていただいて作り方を教えてもらったんですね。みんなでわいわい楽しみながら、力をあわせて活動している様子、いいなあと思いました。新しいことを知ることは、どんなこともわくわくするよね。エコクラブの活動では、このワクワクがとっても大事です。楽しい活動になりましたね。

ゴーヤのカーテンは大きく育ったようでよかった。お友達の笑顔がいいですね。この笑顔を見たら楽しかったということがすぐにわかりました。

これからも、みんなの好奇心で「知りたいこと」「やりたいこと」におおいに挑戦してってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

今回の新聞では、楽しく取り組んできたことがぎゅっと写真で紹介されていました。この活動をするきっかけになった新聞が小さくはられています。この部分、とてもだいじだなあと思いました。みんなの笑顔もすてきで見たいですが、そんな中にも雨水をためて有効利用することや、古着のリサイクルのことなどももう少し大きくして、紹介してもらえるとよかったな、と思います。それから、ほかのクラブのみんなにも伝えていることなのですが、それぞれの活動をどうしてやろうと思ったのかというきっかけ、そして、やってみてどうだったのかという感想、そういうことがとっても重要だと思うので、新聞の中にわかるように書いてもらえるといいな、と思いました。次は、そんなメッセージも楽しみにしています。

広見こどもパークレンジャーのみなさんへ

師範から一言――

広見こどもパークレンジャーのみなさん、こんにちは。
地元に、こんなにたくさんの自然を楽しめるところがあるなんて、うらやましいです。みんなは、花かんむりやバラの手入れ、クイズラリー、虫の観察、出張パークレンジャーなど、いろいろな自然や生きものにふれて、とても楽しそうだね♪
タイトル通り、みんなは地元を愛することを忘れないで、たくさんの自然を感じて、守っていったほしいな、と思います。
また、違う自然の楽しみ方を発見したときは、ぜひ壁新聞に書いて教えてね！楽しみにしています。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成、お疲れ様でした。

自然の多い場所がへっている中で、これだけたくさんの体験が出来ることは、とてもすばらしいと思います。ぜひ、守っていききたいですね。
たくさん体験をしているので、その体験のエコなポイントや、環境とのつながり、テーマ(たとえば、なぜ花かんむりを作ったのか、それをする事で環境とはどうつながるのか)等が分かると、より面白い壁新聞になるのでは、と感じました。また、子どもたちがそれを考えるのが少しむずかしければ、子どもたちの体験した感想が記載してあるだけでもグッと心にひびくものになるのではないのでしょうか。その時に感じた事を文字に起こすことで、「地元を愛する心を忘れない」という大きいテーマにつながると思います。



静岡県富士市 伝法エコ丸隊
壁新聞のタイトル: 伝法小大いちょうと仲間たち

伝法エコ丸隊のみなさんへ

師範から一言――

伝法エコ丸隊のみなさん、こんにちは。
伝法小には木が 54 種いるもあるんだね！私の住んでいる東京の小学校には、あまり多くの木はありません。サクラの木(ソメイヨシノ)が 1 種いるという学校もあるんですよ。
伝法小にある木の実や葉っぱを使って遊んだことは、とっても良いアイデアですね。壁新聞に書いてある遊び方以外にも、自然遊びはたくさんあります。たとえば、紙の下に葉っぱを置いて色えんぴつでこすり出しをしたり、葉っぱの大きさ比べをしたり、紅葉した葉っぱを使って葉っぱしりとりをしたり、木の幹に紙をおいてスタンプをしたり(樹拓)・・・少し考えただけでもたくさんの遊び方が思いつくね！
これからも、たくさん自然遊びをしてみてくださいね。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成、お疲れ様でした。身近なところに、これだけ多くの木があると、たくさんの方で自然とふれ合えて、子どもたちにとって良い経験となるのではないのでしょうか。

木についてたくさん調べていることが分かるすばらしい壁新聞でした。次は、木の周りの環境(日向や日陰、方角で成長に差があるのか、どんな土に生えているのか、虫や鳥や土壌生物などの生きものがいるか、等)にも注目して観察をしたら、いつも通っている学校でも、今まで知らなかった面白い発見があるかもしれません。

自然がへっていると言われている中で、これだけたくさんの種類の木がある場所を、ぜひこれからも大切に守ってってください。子どもたちと、どうしたら今ある環境を守れるのかも考えてみると良いかもしれません。





マックスバリュ裾野チアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

タイトルがいいですね。最初にそれが目に入ってきます。新聞タイトルと見出しのバランスが取れています。
切りぬき写真の色合いがとても元気のいい色で好ましい印象を受けました。「太陽がないと?……気持ちが下がる」には、思わず笑ってしまいました。
ちょっとこまったのは、写真の近くに解説(かいせつ)文をのせてくれたのですが、小さくて読めません。いつもの身近な自然で観察している植物と箱根で観察した植物はちがうと思いますので、少し整理・分類しておくとうわかりやすいのではないのでしょうか。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
22-18と22-19は同じ17名のメンバーが応募(おうぼ)してきたものです。年間7回の自然観察会から「箱根の森に住む生き物や植物の観察」などをまとめ、裾野(すその)と箱根の気温のちがいを流れこんでくる霧(きり)で表現(ひょうげん)しているのは上手いと思いました。難点(なんてん)は壁新聞らしい宣言(せんげん)がないことです。
壁新聞中央の木の中にはり付けた種名は、現在(げんざい)生育(せいよく)している木の名ですが、これから育っていく常緑樹(じょうりよくじゅ)、落葉樹(らくようじゅ)、広葉樹(こうようじゅ)などで分類して記載(きさい)してはいかがですか。



マックスバリュ裾野チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

これも22-18同様、すばらしい作戦の名前ですね。これを読んだだけでごみ問題と気付くと思います。ごみをあちこち勝手にすてるのは、法律違反(ほうりついはん)です。自治体ごとにすてる方法が決まっていますので、自分の住んでいる自治体ではどのようなすて方が正しいすて方なのか、壁新聞の真ん中の表のとなりに書き足してみると、正しい方法をみんなで学ぶことができます。
下半分の食育活動のブリ解体(かいたい)は面白そうですね。海のめぐみが山の植物の栄養が海に運ばれて成り立っているという視点(してん)に気が付いたのはとても価値(かち)のあることです。文字のまちがいが2か所あります。ドコサヘキサエンサン→ドコサヘキサエン酸(さん)、エイコサペンタエンサン→エイコサペンタエン酸(さん)です。次回はちゃんと書きましょう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
世界文化遺産(いさん)に指定された富士山(ふじさん)が大型ごみのすて場になっているのは悲しいことです。みなさんにもどうすればこのような「不法投棄(ふほうとうき)」がなくなるのか、考えてほしいと思いました。五合目の駐車場(ちゅうしゃじょう)に看板(かんばん)を出す、すてられたごみを回収(かいしゅう)するキャンペーンを実施(じっし)する、企業(きぎょう)の社会貢献(こうけん)活動の一つとして駐車場(ちゅうしゃじょう)のゴミ拾い大会を開催(かいさい)する、などなどいろんなアイデアが出て来ませんか? まずはできる所からアイデアを実現(じつげん)したいものです。
食育活動では、海も山も川もどれもが一体となって自然環境(かんきょう)を成り立たせていることに気が付いて下さい。つまり、海のめぐみは森のめぐみであるということです。さすがに静岡ですね、本物のブリで魚の部位を勉強できるなんて、それほど自然にめぐまれているからでしょうね。

半田子どもエコクラブのみなさんへ
師範から一言――

半田子どもエコクラブさんは平成 15 年から活動しているクラブです。私も、全国フェスでみなさんの先輩と名刺交換をした覚えがあります。先輩たちも、クラブのサポーターとして活動しているとのことで、大変うれしく思いました。

一つひとつの活動についても、やったこと・わかったこと・思ったことなどが自分の言葉で書かれていますね。活動をしたあとで、きちんとふりかえりをしているから、このようにしっかり書けるのではないかなと思います。これからもこの取り組みは続けてほしいなと思います。

活動の継続で、トビハゼの数に変化が見られました。生き物が住み続けていくには、住みやすい環境が必要です。自然環境は一度悪くなってしまうと、回復させるのには時間がかかります。みなさんのように続けて活動することが大切だと思いますので、これからもがんばってほしいと思います。継続は力なり、ですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

みなさんは歴史もあるクラブですので、自己紹介も書くといいですね。みなさんの先輩たちの代からがんばっているというのは、地域の人にも嬉しいことだと思うので、ぜひアピールすると思います。また、一年間の活動のまとめや、次年度にやってみたいことを書いてみると、ふりかえりにもなっていいと思いますよ。

ゴーウィングスのみなさんへ
師範から一言――

一年間、充実した活動ができたことが、とてもよく伝わる壁新聞です。最初、ゴーウィングさんは人数の多いクラブかと思ったのですが、家族のクラブということで少し驚きました。地域の講座に参加することでも、このようにまとめれば、中身の濃い壁新聞になりますね。ぜひ他の家族クラブのみなさんも参考にしてほしいと思いました。

色々な活動をしていて、いつも活動レポートもがんばって送ってくれていますね。でもその中から、4 つにしぼって書いたのも良い工夫だと思います。選ぶのは難しかったかと思いますが、わかりやすい壁新聞になりました。下に他の活動のタイトルだけ書いてあるのもいいと思います。

マンカラというゲームは初めて聞きました。遊び方が 100 種類以上あるというのはおもしろいです。みなさんの説明を読むと、ボード自体はとても単純なようですが、奥が深いゲームですね。

私は佐久島には行ったことがありませんが、近くの日間賀島には行ったことがあります。名古屋からも近くて、のんびりしていて、とても気に入った島でした。近くの佐久島には、ごみが流れ着いているというので残念です。野外ではごみを捨てない、ごみが飛ばされないようにみんなで取り組んでいきたいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

花木園にはたくさんの生き物がいますが、近くの自然が少ない場所では、やはり生き物の種類は少ないのかな？ちょっとむずかしいですが、調べてみると花木園の良さ、貴重さがもっとよくわかりますね。花木園にはいて、自然の少ない場所にはいない生き物、というふうにしぼって調べてもいいと思いますよ。

2016 年度は国際交流で世界にはばたく、という大きな目標が書いてありますので、また活動レポートや壁新聞での報告を楽しみにしています。

安城市立梨の里小学校 4 年のみなさんへ

師範から一言――

ステキな名前の学校だなあと思って調べてみましたが、安城市では梨をたくさん作っているそうですね。みなさんの学校の近くにも梨畑がたくさんあるのでしょうか。

毎年 4 年生が吹戸川の調査などの活動を行っているのですね。吹戸川の現状を調べて、これからもっと川をよくするためにどうしたらいいか考えて壁新聞にまとめられています。

川の生き物調査では、外来種も見つかっています。清掃活動では、たくさんのごみが集まりましたね。ペットボトルやお菓子の袋など、生活の中から出るごみが多かったようです。ごみがない川なら、みんなごみを捨てにくくなります。みなさんの活動によって、今あるごみがなくなっただけでなく、これから捨てられるごみも減ったと思いますよ。

ごみは目に見える汚れとも言えますが、川の水そのものの汚れを減らすには、植物を育てて栄養を使ってもらう方法があり、ヒメガマやアシを植えたのかなと思います。これらの植物は、小さな生き物のすむ場所も作ってくれますね。



とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

みなさんは吹戸川のどんなところが好きですか?「川の大切さ」や「いいところ」を、具体的に書いてみましょう。読む人にみなさんの吹戸川を大切にしたい気持ちが伝わると嬉しいです。メンバーが 4 年生全員で 80 人ですから、「吹戸川を好きな理由」をランキングにして書いても面白いと思います。

また、「今計画していること」はクラブとしての計画で、具体的でとても良いと思います。さらに、みなさん一人ひとりが水を使う時に、川を汚さないためにできることも考えて書いて、実行してほしいと思います。

豊明エコキッズのみなさんへ

師範から一言――

豊明エコキッズのみんなが作ってくれた壁新聞は、1 月から 12 月まで、そしてゴールするごろくのように月ごとに活動したことをまとめてくれたので、大変面白く、分かりやすい新聞でしたよ。写真でみんなの活動がよく分かり、みんなが感じたことや発見したことが書いてあり、とてもすばらしい新聞ですね。

1 月は防災七草がゆということ、災害の時に備える活動になっています。昔は災害という考えはなかったかもしれませんが、最近の日本各地で起こる災害を見ていると、いつかは自分たちも災害に会うかも知れないので、大切な活動になっていますね。おひたしを作ったとのことですが、おかゆも作ったのでしょうか。へー! タンポポは意外とおいしいですね。2 月は広報活動で大根を売ったのですね。大根は冬のしゅんのやさいですから、おいしいです。自分たちの畑で作った大根だったのでしょうかね。いろんな人としゃべれたので楽しかったですか? 物を売ったり、大人の人や自分より小さい人ともしゃべるとい、とってもだいたいな経験をしたと思います。

4 月は廃油せっけん作りです。表紙に書いてある“まって すてないで!”、その通りですね。ごみとして捨てないで、使えるものに変身します。作ったせっけんで実際に洗ってみる経験もしました。ちゃんとよごれが落ちますね。でも、せっけんづくりは大変だったでしょう。危険もあるので、とても気を付けなければいけません。

4 月は、皆瀬川の清掃と看板設置もやったのですね。川に誰かがごみを捨てるのでしょうか。あるいは道などにあるごみが風に吹かれて川に落ちたのでしょうか。ごみのない川って見たことないですね。せめてごみを捨てないでくださいということで看板を作ったのですね。みんなが看板を川のそばに立てているところを、多くの人が見ている中でやるようにすると、たぶん、さらに効果があるかと思うます。こどもたちががんばっているようすを見せることで効果があがるでしょう。

7 月は大狭間湿地の観察会です。9 月にも大狭間湿地観察会をやりました。8 月には二村山自然観察会をやりました。豊明市は自然がいっぱいあって、いいですねー。



**愛知県豊明市 豊明エコキッズ
壁新聞のタイトル:豊明エコキッズ2015**

7月にはトンボを見つけました。メダカも見つけました。9月には野原の花を見つけました。りすもいるなんて良いところですね。

8月の二村山では、虫さがしをしました。みんなの大好きなカブト虫もいましたね。とって家に持ち帰ったのですか？ムカデもいたようですね。あんまり気持ちのいい虫ではありませんね。虫と鳥は仲良くしてほしいという気持ちはよく分かります。しかし、鳥は生きるために虫をエサとして食べることもゆるしてあげてください。自然観察でだいじなことは、5感:目で見える、耳で聞く、べろで味わう、はなでにおいをかぐ、手でやわらかい、かたいなどを感じる、の5感をはたらかせることがだいじです。こんど、自然観察をした時は、目で見える感想だけでなく、耳やはななどで感じたことの感想も書くといいと思います。

8月は、水質パトロール・清掃もやったのですね。川にはいってみたら、思ったより水がきれいで気持ちよかったです。魚とりもやったようですね。いろいろな魚がとれましたということで、絵にかいてはってくれました。みんながかいてくれたのかな？じゃうずですね。

9月はリサイクル施設を見学しました。鉄の量が多かったと書いてありましたが、アルミも多かったらうと思います。自動はんばい機ではアルミ缶が多く使われているようですね。もっと物を大切にしたいと書いてくれました。そのように思ったことは、どうしてだろう？そう思った理由を一つでも二つでも書いてくれるともっと良い見学会になると思います。自動はんばい機もごみとして出ていたのは、ビックリですね。でも今回の見学で、みんなが物を大切にしたいと思ったことが一番すばらしいことであり、私もうれしいです。

10月いもほり、11月はエコクッキングでピザを作りました。10月に取ったいもでやきいもも作ったのですね。自分たちで最初から料理をしたものは、とてもおいしかったと思います。表紙にはりつけてくれたピザのもけいが本物のようすばらしいです。意外にダンボールにアルミはくを貼っただけで炭を入れて焼くことができるのですね。みんなが一生けんめい料理をしているところやおいしそうに食べている写真もいいですね。やはり多くの人といっしょに食事をするとおいしいですよ。一つ、聞きたいことがあります。エコクッキングと書いてありますが、どういうところがエコなのでしょう？

12月にも清掃活動を行いました。きれいにしているところはごみが少なくて、草が多い所はごみが多いとは、どういうことですか？その理由もみんなで考えてみてください。それが分かるとごみが少ないまちにするには、どうすれば良いかが分かると思います。

ゴールに書いてあるエコキッズの活動を多くの人に知ってもらい、豊明の自然やまちをきれいにし、さらにたくさんの人に伝えて、ほかの人たちとも交流して、いっしょに活動したい、とってもすばらしい考えだと思います。

がんばってください。来年もすばらしい壁新聞が来ることを期待しています。

**愛知県豊明市 豊明エコキッズ
壁新聞のタイトル:豊明エコキッズ2015**

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

5, 6月は、野菜づくりです。きゅうりやナスを作ったのですか？虫や病気の対策や雨が降らない時は水やりを欠かせません。そして台風や大風の時は、支柱が倒れたり傾いたりするので、その面倒も見なくてはいけません。

実際にみんなのように畑作業をやってみると農家の人の大変さが分かります。野菜などを食べる時に農家の人の大変さが頭に浮かぶと、大事に食べ、残しては申し訳ないなと思うでしょう。大切なことですね。

それと虫などで穴が開くと売り物の商品にならないということで、農薬などを使って虫が付かないようにもしています。でも、ちょっと考えてください。虫が食べる物は、人間が食べても害があるわけではありません。だったら、虫食いのある野菜でも食べられるはず。無農薬の野菜は、虫食いがある可能性があります。これは私たちの食に対する考え方です。曲がったキュウリは売り物にならない。虫食いの野菜は商品にならない、と農家の人が考えるのは、私たち消費者、野菜を買う人のせいではないでしょうか？農薬は虫にも人間にも害があります。農薬を使わない野菜を食べるには、私たちが考えを変える必要があります。

こんなこともみんなで話し合いをしてみたらどうでしょうか？

☆☆サポーターの方へ☆☆

廃油せっけん作りでは、苛性ソーダを使っています。ご存じだと思いますが、硫酸や塩酸などの酸性の試薬と苛性ソーダのようなアルカリ性の試薬は、どちらが危険かと言うと、アルカリ性の試薬、特に苛性ソーダは極めて危険な試薬です。ですから劇薬と書いてあります。皮膚に付いた場合、硫酸などはすぐに洗えば大丈夫ですが、苛性ソーダは、皮膚に付くとすぐ皮膚が溶けてしまい、水で洗っても跡が残ります。特に眼には、いい場合は悲劇です。従って、苛性ソーダなどの薬を使う場合は、メガネをかけることが絶対の条件です。写真を見るとこどもはメガネを掛けずに牛乳パックを振り混ぜていますが、もってのほかです！！できればこの危険な作業は、大人の方がやるといいと思います。牛乳パックでやることもお勧めではありません。牛乳パックの内側はプラスチックの薄膜でコーティングされていますが、紙、パルプは苛性ソーダで溶けてしまうので、ちょっとした穴が空いてたら、苛性ソーダが漏れてきます。大変危険です。

四日市尾平チアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

みんなでいねがどんなふうにとだっていくのか、かんさつをしたのですね。

田うえからいねかりまで、いねがたいせつにとだてられていることがわかったとおもいます。

なかなか、さいしょからさいごまでせわをしてかんさつできないから、みんながしらないことをたくさんみつけたとおもいます。

田うえのときは、どろどろになったでしょう。これからは、田んぼのことをおもいだして、お米はさいごのひとつぶまでたいせつにたべてくださいね。しんぶんをみてかんしんしたことは、かかしをつくったり、なっとうをつくったり、もみがらくん炭をつくったりしていたのでおどろきました。たのしかったですね。

ひとつひとつ、おもしろいかべしんぶんがかけそうです。

これからも、こどもエコクラブやおうちでもお米ややさしいなっとうをたべるときは、田んぼのおてつだいをしたりかんさつをしたことをおもいだしてくださいね。日本は、たべものをじぶんたちの国でじゅうぶんつくれない国ですから、たべものをつくったり、たいせつにたべるときをたくさんけいけんしてほしいとおもいます。

また、むずかしかったところやくろうしたところやみんながなにかはつけんしたことも、またかべしんぶんではぜんこくのエコクラブのみんなやおとなの人にもおしえてください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

みんなは、田んぼでほかに生きものをみつけれませんでしたか？

田んぼはいねのほかに。おたまじゃくしやカエル、カブトエビ、ホウネンエビ、タニシ、ヤゴなどたくさんの生きものを育てています。やくにたっている生きものがいることに気がついたかな？

のうかのみなさんがどんなにくろうをしているのかもきいてみてほしいです。

ざっそうがおおきくなった、あめやかぜのえいきょうでいねがたおれたりしませんでしたか？

お米のたいせつさがよくわかったとおもいます。

☆☆サポーターさんへ☆☆

植物を苗から育てること、毎日、観察すること、記録をまとめることは苦勞することも多いと思います。しかし、土に触れ、植物や生きものを観察しながら世話をすることはとても大切な経験だと思います。

関連して加工品を作ってみたり、農業を更に深めたりと素晴らしい活動にチャレンジされていると思います。

みんなですと更に気づきや喜びも大きくなると思います。

食料自給率の低い日本では子どもたちが体験する機会はますます減ってくると思います。

みんなで楽しみながら、これからも是非とも継続してください。子ども達にとって難しいところや上手く行かなかったところも、子どもたちと一緒に考え記録したら更に素晴らしい活動になるなあと楽しみです。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:お米ができるまで

四日市尾平チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

みんないろんなことをがんばってますね。

草木染めをして自然の不思議をまなんだり、海岸の清掃をしたり、自然教室や自然再生活動にチャレンジしたりとたくさん活動しているのでおどろきました。ほかの団体と交流をするもの楽しそうですね。

壁新聞も内容が一杯で、みんなも、書ききれないくらいたくさんのことを発見したり学んだと思います。

今後ともコツコツと継続してくださいね。

学んだり発見したことを街や学校でも発表できたらいいね。

三重の海岸や東海3県の海岸の漂着ごみの問題にも取り組んでいるのを壁新聞で知って、大切な活動をしているなと感心しました。

おじさんも瀬戸内海の漂着ごみの問題や海外の漂着ごみの問題に少し関わっているけれど、世界中でプラスチックのごみが増えています。クリーン作戦も大事だけれど、なにより捨てないこと、できるだけ使わないことが大事だと言われています。みんなもこれから取り組んでほしいと思います。

夏休みの課題などでも、こどもエコクラブの活動で見つけたり学んだことを一人一人がまとめて発表するのもいいなあと、みんなの壁新聞をみていて感じました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

たくさんの人に、環境に興味を持ってもらうこと、みんなの取り組みを知ってもらうことも、地球を守っていくためにとても大切なことですからがんばってください。

また、むずかしかったところや苦勞したところやみんなが何か発見したことも、どんどん壁新聞に紹介してくれたら日本中のこどもエコクラブの友だちが読んでくれると思います。

☆☆サポーターさんへ☆☆

多岐にわたったことを精力的に活動されていて素晴らしいと思います。

EM 浄化作戦も頑張っているらしいですね。微生物は自然界にもともといるものですから、効果の判定は難しく慎重に行う必要がある場合があるようでわからないことも多いと言われています。

サポーターの皆様も事務局の皆さんもデータを持ち寄って、将来の活動計画に生かしてください。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

三重県四日市市 四日市尾平イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:お米ができるまで

四日市尾平チアーズクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

みんないろんなことをがんばってますね。
田んぼの楽校、お茶摘み体験、大豆学習、植物自然観察会、伊勢湾海のクリーン作戦、鳥羽市答志島清掃活動、三滝川植物・生きもの観察、浄化槽施設見学、赤とんぼ生態調査、田んぼの生き物調査、麦わら活用学習、交流会とたくさん活動しているのでおどろきました。
環境の問題は、おどろくほどいろいろ幅広いのです。少しずつ広げながら、そして続けて行くことが大切です。
特に面白かったり不思議だったり、もう一回やってみたい活動を、みんながみんな意見聞きながら深める活動をしてほしいと思います。そして、みんなが経験したことを、街や学校でも発表できたらいいなあとと思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
活動について、もっともっとみんなの感想や学んだこと、むずかしかったことなどを紹介してもらえたら、読み手のみなさんが興味を持ってくれると思います。夏休みの課題などでも、こどもエコクラブの活動で見つけたり学んだことを一人一人がテーマを選んでまとめて発表するのでもいいなあと、みんなの壁新聞をみていて感じました。
もっと、世の中のみんなに、活動したことを知らせてほしいと思います。
たくさんの人に、環境に興味を持ってもらうこと、みんなの取り組みを知ってもらうことも、地球の環境をより良くするためにはとても大切なことです。苦労したところやみんなが何か発見したことも、一番大事だと思ったことなどもまた壁新聞で教えてください。

☆☆サポーターさんへ☆☆
多岐にわたったことを精力的に活動されていて素晴らしいと思います。サポーターの皆さんも準備や運営にご苦労されていることでしょう。植物にテーマを絞ったとのことですが、できれば、年ごとにもう少し絞って、壁新聞にまとめるのも全てでなくても、子ども達の一番興味や学びがおおきかった事業をいくつか選んで深めてまとめるようにしたほうが、もっとみんなの活動を発展させられると思います。全国のこどもエコクラブのモデルになるような事業を展開してください。これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

三重県四日市市 海蔵しぜんクラブ
壁新聞のタイトル:①少年自然の家でのキャンプ②海蔵川生物調査!今回取った生物は…!

24-01 24-02

海蔵しぜんクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

少年自然の家での一泊二日のキャンプでいろいろな体験をしたことが「すごろく」に順番にまとめられて、めずらしく、楽しい壁新聞ですね。ありがとう!!!
みんなといっしょにカヤックに乗ったり、カレーを作ったり、自然観察会でキノコを発見したり、木を切ったりしたことは、一人一人がなかよく、助けあってできたすばらしいチームワークのおかげだね。よくがんばったと思います。みんなで力を合わせてやることは、これからたくさんあるので、すばらしい経験をしましたね。カレーのご飯をたく時にどのようにして火をおこしたか、キノコ以外はどうのような植物があったか、木を切る時ののこぎりの使い方など、もっとくわしく知りたくなりましたので、つぎの壁新聞をわくわくして楽しみにして待っているよ!!!
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
次回の壁新聞ではそれぞれの活動でもう少しみんなの意見や感想があると、読者に少年自然の家での活動をもっとくわしくわかってもらえると思います。たとえば、カヤックこぎかたやカレー作りでどのようなところが難しかったとか、大変だったとか、自然観察でどのような生きものたちいて、どのようにして生きているかななどを、みんなといっしょに考えてみたらどうでしょうか。



海蔵しぜんクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

海蔵川にはいろいろな生き物たちがいることにおどろきました。アユカケやウナギの絶滅危惧種もいるのだね。まるで川の水族館のようです!!!今回の生物調査を、写真、絵そして感想でとてもうまくまとめられているすばらしい壁新聞です!!!また、海蔵川の自然や環境を守るために、生物調査といっしょにゴミ拾いをやっていることもとても大切なことですね。みんなのこのような努力によって海蔵川がきれいになり、たくさんの生き物たちが元気に住むことできるのだね。ありがとう!!!
このように身近な海蔵川のことや生き物たちのことをみんなが知れば知るほどもっと親しみが出来て来ると思うよ。最後に、うみくらの協力に対して感謝の気持ちを忘れないでね!
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
海蔵川にはいろいろな種類の貴重な生き物がたくさんいるので、これから年2回の生物調査をする時に、このような自然のなかまのことについて、どのような生き物をどこで発見して、どのくらいいたかななどの報告してくれたら、海蔵川の自然や環境を守るためのみんなの活動の結果がよくわかり、その活動を続けてくれるお友だちにも大切なデータになると思います。
次回の壁新聞を楽しみに待っているよ!!!



イオン鈴鹿チアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

デザインがとてもインパクトのある新聞で、大豆のあれこれを「大豆の旅」というタイトルにしたのはおもしろいと思います。小見出しを「大豆を植える」「みそぐら見学」…と大きな字で書いてあるのでどんなことをしたのか読む人にもすぐに分かります。記事が絵の中にうめこんであるので、記事のさかいがどこか分かるような工夫をすともっと見やすくなると思います。大豆ができるまでの様子をイラストとともに描いてくれてあり、さらにイラストに日にち(7/19、9/27…)を書いてくれたことで、体験にもとづいた分かりやすい内容になっています。大豆の収かきは、はさみを使って1本1本根本が刈り取ったのですね。かたい豆になってサヤが割れるじきになると、ポロポロと畑に豆が落ちてしまいそうです。乾燥する少し前に刈り取るのでしょうか、畑のすべての枝豆が同じ状態とは思えないのできつと絶妙のタイミングがあるのでしょうか。

そして、豆ふ作り、納豆作り、みそぐら見学を楽しく体験できたようすが伝わってきました。これらの食品は、英語でも TOFU、NATTO、MISO と同じです。日本の代表的な食品であり、昔から大豆が日本人の生活に関わっていたことが分かります。ふだんお店に並んでいる大豆、おみそがどんな環境でどのように作られているのかを知る貴重な体験ができたと思います。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

畑の草とりの写真をみて、雑草の量の多さにびっくりしました。草とりはどのくらいの日にちをあけて何回くらいするのでしょうか？どのくらいでこんなにもたくさんの雑草が成長するのか知りたくなりました。

葉っぱを一度にとりすぎないように、葉っぱを食べている虫のことも考えているのはすばらしいですね。

生態系のイラストありますが、枝豆畑の生態系はどのようになっているのでしょうか？生態系のいちばん上にくる生き物はその地域によって異なりますので、畑の生き物について調べたり考えたりしてみるのもいいと思います。



イオン鈴鹿チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

セイロン瓜について初めて知りましたが、この新聞を読んでどのようなものかが良く分かりました。長形のセイロン瓜の実が曲がったようすをみると、確かにへビのようでサルや鳥がおどろくのも納得です。花の写真を見るとカラスウリによく似ています。カラスウリの真っ白い花は夜咲きますが、形も色も花粉を運んでもらうための工夫です。真っ白でレース状に広がった花は、真っ暗な夜に目立つため、花の蜜は花筒の奥の方にあるので長いストロー状の虫でないと蜜を吸うことができません。スズメガという夜行性の昆虫をカラスウリはさそっているのです。いろいろな種類の昆虫にきてもらった方がいいように思うかもしれませんが、どうでしょうか？カラスウリの花粉を同じ仲間のカラスウリに運んでもらうためには、どちらが得か考えてみましょう。セイロン瓜は早朝に咲くようですがどんな昆虫が集まってくるか今度ぜひ教えてください。

セイロン瓜はグリーンカーテンや栄養豊富な食材としても利用できそうですね。まだ実物をみたことがありませんので、機会があれば植えてみたり、料理を食べたりしてみたいと思います。

県民の森ではスダジイ、マテバシイ、アラカシの他、きつとコナラなどのどんぐりが見つかったでしょう。焼きどんぐりを食べたというのはいい経験をしましたね。クリもどんぐりの仲間なので、大きさや甘み、渋みなど様々ですが、クリ以外にも食べるとおいしいどんぐりがあります。焼きどんぐりとして食べたのはどの種類でしたか？里山保全の活動で木を切ったことによって、森が明るくなってササユリが復活してきたことに気付いてくれたのですね。里山というのは薪や落ち葉などを利用するために人の手がはいった自然ですが、利用なくなると里山でない自然に変わっていきます。里山で暮らしている植物や昆虫がたくさんいるので、それらの生物を守るためにはその環境「里山」も守っていくことが必要です。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

どんぐりの中から出てきたようちゅう(ハイロチョッキリ)を今度観察するとき、どのどんぐりに多く入っていましたか？

・幼虫のあしは何本ありましたか？ハイロチョッキリではないシギゾウムシのようちゅうが入っているときもありますよ。

・ようちゅうは、いつからどうやって、どんぐりの中に入ったのですか？を考えながら観察してみましょう。植物と昆虫は深いつながりがあります。



タンポポ調査は全国的に多くの人々が取り組むことができる調査ですので、毎年調査をつづけるほど時間の変化というものを感じることができます。キク科の花は似ているものもあるので、ニガナやノゲシとタンポポが別であることに気付いたのは、きっとタンポポを注意深く観察したからだと思います。タンポポにもっと似ている植物にブタナがあります。タンポポモドキという別名があるくらいなので、ほんとにそっくりです。空き地や道ばたにも生えていることがあるので、今度探してみてください。古代米は健康食ブームもあり身近になってきた感じがおり、私もたまに黒米をいれたご飯を食べています。古代米の栽培は貴重な体験だと思います。実際に体験していると、うるち米の田んぼを見たときにいろいろな違いに気付くことでしょう。

新聞に書いてくれたように、どんぐりにはたくさんの種類がありますが、斎宮の自然観察では何種類のどんぐりが見つかりましたか？地域によっても異なりますので、斎宮ではどんな種類が多かったのか教えてください。

今回は木の下から、どんぐりが芽生えていたのを見つけたようですね。林の外側と内側で育ち方がちがうことにも気付いてくれましたが、どのような場所で芽生えたどんぐりが大きな木になれるのでしょうか。明るく日当たりがよい場所はどうですか？成長にはいいかもしれませんが、どんぐりが芽生えるまでに乾燥してしまうかもしれません。まわりの木との競争もあります。今年見つけた 10cm、20cm の小さな苗が来年どうなっているか楽しみです。



その他にもいろいろなエコにつながる活動をしてくれたことが分かりました。自然観察やクラフトを通して、自然のことをたくさん知ることができたと思います。大淀海岸はいつまでもウミガメが産卵にきてくれるような環境であって欲しいですね。それにはゴミをすてる人がいれば掃除も必要になってしまいますが、ゴミをすてないようにアピールすることも考えられまね。

答えは一つではありませんが、環境のことを考えるとトラックなどで運ぶキロリが短い地元の野菜を使うとエコになります。それ以外でも地元が活気づいたり、地元に愛着がでるということももちろんあるでしょう。



瀬田北中学校 科学部のみなさんへ
師範から一言――

写真も多く、見やすい新聞です。さすが中学生、うまくまとめられていると思います。瀬田北中生のあたりまえ、これもすばらしい。とても大切なものだけど、現在では失われつつあるものです。ぜひ、これからも守ってってもらえればと願います。学校だけでなく、地域もきれいにという心がけもすばらしいです。そんな中、長沢川にはゴミが落ちていることも多いとのこと。まだまだそこらへんにゴミをかんとんに捨ててしまう人がいるのは困ったものですね。ただ、このような活動は川の生き物にとっても重要なことです。地道な活動ですが、今後も継続してがんばってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
内容的には素晴らしい新聞です。活動内容も、文章も。ただ、やはり人々が見るときに、一番先に目につくのは「見出し」です。人に見てもらふ新聞では、やはりこの部分が地味になっています。人目につきやすく、読んでみようかなと思わせる見出し、次の新聞では期待していますね。また、活動内容も非常に濃いので、複数の新聞に話題を分けて作成してもいいかもしれません。1枚にまとめるとひとつひとつが少ししか書けずにもったいない部分もありますね。



しが Kids エコクラブのみなさんへ
師範から一言――

なかよし3人で、「わたしたちのかつどう かんきょう美化」のかべしんぶんのほうくくをしてくれて、ありがとう！！とてもよくできているとおもいます。たった3人で、たのしいけやおがわのそうじ、そして花だんの花うえをよくがんばったとおもいます。そのようすがたくさんしゃしんからよくわかりました。これからびわこにながれる「わに川」と「わにこうえん」の美化のかつどうには、まだまだこれからやることがたくさんあり、さいしょは少しづつかもしれないけど、ちきゅうやびわこがきれいなるようにつづけていってね。また、みなさんのかべしんぶんには、ちきゅう、日本、しがけん、わにこうえんのちずがあり、みなさんがかつどうしているところがはっきりしていて、とてもすばらしいアイデアですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
みなさんがずんでいるみじかな「わに川」と「わにこうえん」には、とてもふしぎなことやわくわくするようなはっけんがたくさんあるおもいますので、ちきゅうやびわこのためにどんどんいろいろなことにチャレンジして、じかいのかべしんぶんにいっぱいかいて、ほうくくしてね。まっているよ！！



大津市子ども会ジュニアリーダークラブ KIDS のみなさんへ
師範から一言――

みなさんの「エコしんぶん」は、「エコフィッシング」の定義、感想と考察の三つの構成からなる分かりやすい、すばらしい壁新聞です。まるで専門誌を読んでいるような気分になり、おどろきました。

日本中のいろいろなところで外来種の問題が起きて、各地で頭を悩ませている深刻な問題がたくさん発生していますが、みなさんの「エコフィッシング」という外来種を駆除して外来種のいないきれいな琵琶湖にする3年目の環境活動を通して、多くの参加者の人達に琵琶湖の実態を知ってもらい、そして琵琶湖の環境が深刻化している現状は、人間がその原因を作ったので、琵琶湖の生態系を元の美しい状態に戻すために、出来ることは何でもするという心構えは、ものすごく立派なことだと思います。

琵琶湖を含めた日本の生態系は長い期間をかけて生き物が食う・食われるという関係を繰り返し、微妙なバランスのもとで成り立って、日本の原風景や生態系は維持されてきましたが、琵琶湖のその生態系や原風景が危ぶまれている現状を、地域住民、滋賀県や大津市そして KIDS エコクラブのみなさんと一緒に協力しながら乗り切って欲しいと思います。次回の「エコしんぶん」を楽しみにしています！！

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
琵琶湖の生態系や原風景を取り戻すために、KIDS エコクラブによる「エコフィッシング」の環境活動を今後も継続的に実施することがとても大切であり、大津市だけでなく琵琶湖周辺の全て住民が一緒になって外来種に対する環境活動をさらに加速させることも重要だと思います。



滋賀県大津市 ぼてじゃこワンパク塾
壁新聞のタイトル:ぼてじゃこ繁殖池、農園の生き物調査&生き物図鑑づくり

25-01(2位推薦)

ぼてじゃこワンパク塾のみなさんへ
師範から一言――

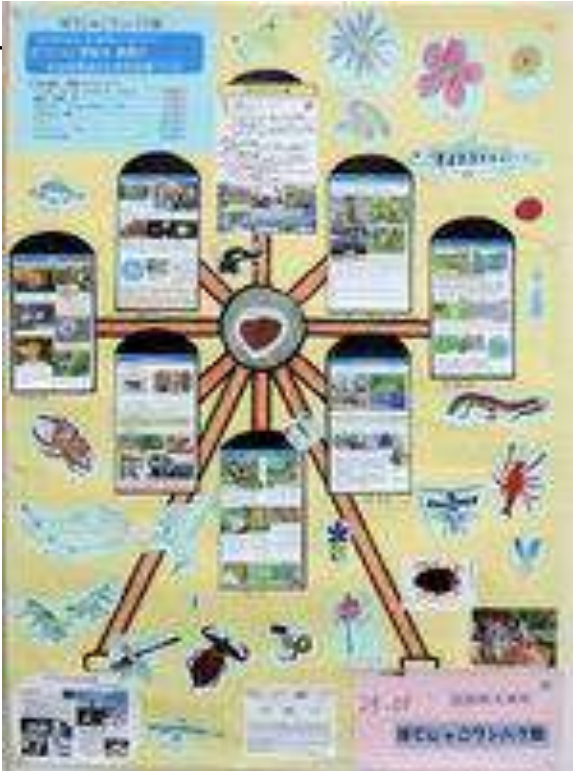
親子でこういう活動ができるのはいいことですね。もう 10 年も続いているようで、今までいろいろなことがあったでしょうが、それもいい経験だと思います。

私の住む関東でもタナゴはすっかり見られなくなっていました。タナゴも昔はふつうに見られた魚です。ふつうに見られる生き物がふつうに暮らしていける、そんな環境が大切なのですね。

新聞には活動内容がよくまとめられていて、わかりやすかったです。ただ、情報量が多いので、どうしても字が小さくなってしまうので、できれば 2 枚以上に分けて、それぞれでちがった話題の新聞を作ってみると、より見やすい、いい新聞ができると思います。次回も期待しています。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
子どものうちからの体験活動の重要性を考えると、このような活動はとても意義あるものです。ただ、サポーターの方はいろいろご苦労もあると思います。

水辺の活動はとても楽しいものですが、一方で危険もともないますので、ご苦労も多いかと。頭が下がるばかりです。「ぼてじゃこ池」は安全な池ということで、このような場所を使い、他の場所に行った際のためにも、ライフジャケット使用のための子ども向け講習会等、開いていただき、それを新聞で発表して、全国に安全な水辺活動を広めてもらえたりしたらいいですね。



伊香立中学校アクアリウム部のみなさんへ
師範から一言――

私も淡水魚関係の仕事(調査、講師等)をしている関係上、いろいろな淡水魚にかかわってきましたが、どの魚も繁殖が一番大きな課題になります。メダカを繁殖させたとのことで、慣れないうちは新聞にも書いてあるように、大変な苦労があったと思います。そしてその活動で得た収益を義援金として活用している。とてもすばらしい活動であるの一言です。今後もこのような活動が継続されることを願いますし、私にできることは協力していけたらと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
一般の方々に淡水魚を知ってもらおうと水族館を作る活動はとても意義深いものだと感じます。日本産淡水魚は、店で売っているいわゆる熱帯魚にくらべ、体色が地味なものが多く、目立たないために知られていないこともあります。それが保護活動の際に支障になることもあるので、このような地道な活動はとても大切です。ただ、新聞を読んでいる人もどんな魚がなんという名前か知らないことが多いのではないのでしょうか。そこで、次の新聞では、ぜひ写真入りで、こんな魚がいます、と紹介してもらえればと思います。とてもよいことなので、応援しています。



滋賀県長浜市 長浜市水生生物少年少女調査隊 湯田小学校
壁新聞のタイトル:湯田小 生きものがたり

25-09

長浜市水生生物少年少女調査隊 湯田小学校 5年生のみなさんへ
師範から一言――

長浜市水生生物少年少女調査隊のみなさん、こんにちは！
いきものがたり新聞ありがとうございます。自然がいっぱいという感じがよく感じられるきれいな新聞です。文字と写真・イラストの配分も良くできていて、新聞らしく仕上がりました。

みんなはできたばかりのエコクラブですね？初めての壁新聞、大成功です。
「いきものがたり」で取り上げられたいきものの数も多いです。水生生物を調査していますが、水路、たんぼ、草野川、プール、琵琶湖といろいろな水のある場所を調べましたね。場所によって、住んでいるいきものに何かちがいがありましたか？プールにも、ずいぶんいろんな昆虫やかえるがいました。どこから来たのかな？「近くの水路に、にがしました。」というのを読んで、みんなが生きものを大切にしていることが感じられ、うれしくなりました。

琵琶湖のめぐみは、おいしいですか？ふなずしは半年たたないと食べられないようですが、琵琶湖の伝統的な食品づくりを指導してもらいながら、地域の方々と交流できるのはいいですね。地元で取れた魚介類を美味しく食べられるのも、水がきれいだからでしょう。

びわ湖の魚料理についてアンケートも取りました。体験の前後でアンケートの結果もちがっていますね。自分でやってみると、理解が深まりますね。

湯田小フェスタ企画展では、いろんなことに取り組んでいますね。外来魚のこと、たんぼのいきもの、水のことを熱心に来た人に説明しているように思いました。

来年の壁新聞を期待しています。



滋賀県長浜市 長浜市水生生物少年少女調査隊 湯田小学校
壁新聞のタイトル:湯田小 生きものがたり

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

漁師さんのお話で、琵琶湖の漁業がちがってきていることを聞きました。魚がへっているのですね。原因のひとつが川の汚れかもしれません。「草野川クリーン活動」のみんなの役割についても、新聞に載せてくれるとよかったですよ。

他にもフローティングスクール参加もあり、新聞記事にはありませんが、米作り(田植え～もちつき)、通学路のクリーン活動など、幅広く日常活動していることは、すばらしいです。いきものを通じて、いきもののつながり、水環境との関係に気づくことで、身の回りの環境にも理解が進んだことが「わたしたちの思い」に良く表れていると思いました。

テーマ「地域を知ろう 地域と関わろう」は、目標達成ですね。

☆☆サポーターへのゴンドウ☆☆

サポーターさん、盛りだくさんの活動、がんばりましたね。ありがとうございました。

子どもたちに、生きものを通じて、食の問題、水環境のこと、伝統食品の知恵などいろいろな面を知ってもらう良い活動になっていると思います。

その活動と結果を「いきものがたり」という壁新聞にじょうずにまとめられました。配色のみどりや青が豊かな自然を感じさせ、記事の分量も適度で、写真を効果的に使っています。

地元の方との交流も効果的ですね。先人の知恵を後世に伝えていくためにもよい機会だったと思います。サポーターのメッセージにあるように、生きものが関わりあっていきっている(生物の多様性)ことを知り、生きものを大切にするところが育まれていると思いました。

今後も、この活動を続けてくださることを期待しています。もちろん、壁新聞にも。

滋賀県草津市 NPO 法人子どもネットワークセンター天気村こんぺいとうクラブ
壁新聞のタイトル:地球はでっかい遊び場！びわこ銀河鉄道チビ旅 25-10(1位推薦)

NPO 法人子どもネットワークセンター天気村こんぺいとうクラブのみなさんへ
師範から一言――

山・川・田んぼを地域から学ぼうという姿勢はすばらしいものです。自然素材をうまく利用して『生きる』『楽しむ』『遊ぶ』ことを教える工夫に感心しました。この壁新聞はふつうの壁新聞をまねして作っていませんね。その工夫が面白いと思いました。文字がおどっていますので、どれがタイトルでどれが解説か、わかりにくくなっています。それがちょっと残念なところですが、面白い試みと思いました。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

応募用紙の壁新聞タイトルの「地球はでっかい遊び場だ！」が書かれていますね。それでも壁新聞からタイトルのようにみえるので不思議ですね。壁新聞に登場する大きな魚は、ニジマスでしょうか？さばいてたべたという興奮気味の報告がのっていますが、七輪で焼いて食べたというのは初めての体験だったのでしょうか？面白かったですよね。人間も生き物を食べて生きています。この意味することをいつもよく考えておいてほしいと思います。自然の力の大きさとその自然への感謝をみなさんも忘れないで下さいね。



アイキッズ～エコアイディアキッズびわ湖～のみなさんへ
師範から一言――

「びわ湖の漁業にチャレンジして、びわ湖のめぐみをいただこう」というアイキッズ新聞の活動テーマは、貴重なびわ湖の食文化や伝統を残す目的で、とても大切なことだと思います。また、壁新聞ではとてもめずらしい活動テーマですね。「えり漁刺し網漁」、「地引き網漁」「沖曳網漁」と「七タシジミ漁」という漁業の伝統があり、びわ湖の自然とともに今もきちんと引き継がれてきており、「琵琶湖八珍」はびわ湖の特産の魚介類で、これらの魚をどのように保存して、加工して、調理してきたかという料理の伝統を地元の漁師さん、郷土料理やびわ湖の魚の研究者、大学の先生のみなさんたちからしっかりと学んで欲しいと思います。これらは今残しておかなければ永久に失われてしまうというびわ湖の郷土料理の貴重な食文化であることを忘れてはならないと思います。びわ湖のとてもおいしい「琵琶湖八珍」やその他の魚を今でも汚染等の問題がなく食べることが出来ることは、現在も地域住民のみなさんの協力と努力によってびわ湖の環境がきれいに維持されているということで、その環境にも感謝しなければなりませんね。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
びわ湖の「琵琶湖八珍」の漁業の伝統を長い間守っている漁師さんたち、その郷土料理やびわ湖の魚の研究家の人たち、びわ湖の生態系を保全管理している地域住民の人たち、そしてアイキッズのみなさんが一つのチームとなって、今後も引き続きびわ湖とこの貴重な食文化を守って欲しいと思います。



なかす野洲川たんけん隊のみなさんへ
師範から一言――

野洲川探検隊のみなさん、こんにちは！
みんなは近所や地域のお友達ですが、何年生くらいかな？写真を見ると小さいおともだちからすこし大きなお友達もいるね。出来たばかりのエコクラブのようですが、初めて作った壁新聞を見てびっくりしました。とても力強い印象を受けました。はいけいが黒だからでしょうか？字もきれいに書けています。絵や写真の配置もいいですね。
4つの紙芝居は、みんな水に関係がある物語ですか。野洲川やびわ湖の水は、むかしから人のくらしとつながっていたと思います。そのため物語にもたくさん水や川のはなしがでてくるのでしょう。
一本こうじは、野洲川の洪水を板でせきとめて人々を守ったは力持ちのはなしでした。写真で見るとずいぶん大きな岩ですね。3つの岩はどのあたりにありましたか？岩の色や形、表面のようす、どうでしたか？お話ですから力持ちが岩を運んだのではないと思うよね。では、どうしてそこにあるのか？
岩の観察から、洪水の時に流れてきたのか、それとも周りが長い間にけずられて岩のかたちができたとか、そのうちに勉強する時が来るかもしれません。
新聞を見ると、みんなが楽しそうに活動しているように思えます。来年は、どんな活動をして、どんな壁新聞を作ってくれるかな。楽しみにしています。



なかす野洲川たんけん隊 壁新聞のタイトル: やすたん

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

みんなの探検は、川の中ですか？写真を見ると、網をもって川へはいっていますね。川の水はきれいでしたか？どんな生き物やさかなを見つけましたか？そんなこともちょっと書いてくれるとうれしいです。

おつぶさん——タニシが洪水の時に守ったのがつぶえ神社。タニシは神様になった。タニシは今でも神社の周りにいるのですか？みんなはタニシを食べたことあるかな？お話のようにこうずいのと、みんながタニシを食べなくなったのは、神社を守ってくれたから？それとも……？

あと二つのお話は、かなしい、こわい伝説ですね。たらいのような船の写真がありますが、みんなも乗って見ましたか？うまく進みましたか。

お話しの舞台を歩いてみて、昔の人の暮らしがわかりましたか？びわ湖の向こう岸に渡ることを考えてみると、ずいぶん便利な世の中になりました。むかしは、人の力でいかなければなりませんでしたから。いまは、自動車、動力船ですね。

お話の舞台をめぐるみて、どんな昔を見つけることができましたか？

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆

守山は昔から人も多く、栄えたところだったと思います。そこに残されたむかしばなしの場所を訪れるのは、興味がありますね。どのくらい昔のようすが残っているか、現在の暮らしとどう違っているかを考えると、手に入れた便利な暮らしと失ってしまったものを比べることにより、子どもたちに考えてもらうことも良いのではないですか？

新聞は、上にも書きましたがとてもきれいですし、配置も上手ですね。なかなかユニークで、良い新聞と思います。

こどもたちは、自分たちが見たこと、聞いたこと、話したことをちゃんと記事にしていました。これらの体験の結果、どう感じたか、つぎにどんなことをしたいかについても書いてもらおうと良いと思います。

これから、どんな企画で子どもたちをひっぱって頂けますか、楽しみにしています。

滋賀県守山市 下之郷史跡公園

壁新聞のタイトル: GO Kids

25-08(3位推薦)

GO Kids～下之郷遺跡キッズクラブ～のみなさんへ

師範から一言――

下之郷遺跡キッズクラブのみなさん、こんにちは！

やあ、すごい新聞、いや、ポスター？盛りだくさんの活動、バランスのとれた配列などたいへんよくできています。11の弥生時代の生活体験と活動発表、当時の主食？米、魚、肉、ドングリ。みんなは弥生時代の食生活をイメージできましたか？今まで考えていたことと違いがありましたか？古い時代のこと、特に文字の記録がないころのことを調べる学問を「考古学」といいますが、新しい発見などがあって弥生時代の衣食住はかなり進んでいたこともわかってきました。

来年もまた新しい「古代の体験」ができるといいですね。そしてすばらしい新聞にのせてください。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

みんなが体験した料理はすごいですね。しかやイノシシの肉はおいしかったですか？冷蔵庫もない時代ですから、肉を長持ちさせるために燻製や塩漬けにしたと思います。ふなずしは高級料理ですね。お米もどこを運んで日本にやってきたかを考えると、日本人のルーツにも関係して興味がつきません。体験したことについて感想を書いてくれるととってもよかったです。いまの食べ物との違いや味など。いまでは、どんぐりを普通食べませんね。おやつと書いてあるから、おいしいのかな？

魚の取り方は書いてありませんが、弥生時代の取り方かな？

火おこしや弓矢もできないと、弥生時代では生活できませんね。自分でなんでもやらないと食べていけません。(そのことを自給自足といいます。)下之郷遺跡には、環濠があるそうですが、なんのために環濠が造られたか理由を聞きましたね。争いごとが始まっていたかもしれません。

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆

率直に申し上げて、小学生だけで作り上げた新聞とすれば、すべての点でレベルを超えていると思いました。活動一年目、壁新聞作りも初めてということで、相当力が入っていたことでしょう。新聞記事からは、弥生時代の人たちの生活が、よく伝わってきました。

サポーターの方がお手伝いをするに、師範として反対ではありません。できるだけ子どもたちの自主性を活かして活動し、体験したこと、その結果を自分で考えて、それを次の活動に活かす、というようなやり方が望ましいのではないかと考えています。特に自分で気づくということを大切にしたいと思います。

新聞は、背景を黒にすることによって、写真、イラスト、文字がとても引き立って見えます。全体のバランスもよく取れていると思いました。

継続する下之郷遺跡の活動を、壁新聞で発表して頂くよう希望します。



たまてばやしの会のみなさんへ
師範から一言――

わずか20人の活動が壁新聞にうまくまとめられています。かんたんそうに作っていますが、写真や文字のバランスはよくできています。写真がかたむいて貼ってありますが、リズム感があり、思わず引き付けてくれます。「たまてばやし」というのは竹林の名前なんですね。壁新聞にのっている竹林の写真を見ると、竹林の中の方はずいぶん込み合っていて、良い生育環境には見えません。来年は地域の人たちと力を合わせて竹林整備作業をもっと進める必要を感じました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
また、地域の人たちも加わってサツマイモの苗を植えていることから、来年からはみんなでサツマイモの苗を育ててはいかががでしょうか？また、かまどを作ったくらい地域の人々の技術力は高いことから、このかまどの隣に竹炭を作る炭焼きがまを作ってはいかががでしょうか。竹炭は水質浄化や土壌改良にも使える優秀な農業資材で、いろいろところで活躍しています。



滋賀県甲賀市 油日小こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:くすりの町甲賀町のビオトープに薬草園ができた！

25-12

油日小学校エコ委員会のみなさんへ
師範から一言――

薬草作りという地域で特有の文化を上手に取り入れ、啓発のために寸劇をやっているというにはおどろかされます。しかも薬草から発展して染め物にたどり着いています。紫根染、アイのたたき染など大人の染め物教室でも取り上げるのはむずかしい染め物を体験しているのには感心しました。さらにササユリの球根培養という素人では手を出せないような高度な技を使っていることに感動しました。さらに地域活動では、「親子で学ぶ環境フェスティバル」では、学年ごとに出し物を決めて活動をしています。このようにすれば小学校を卒業するまでには、一通りすべてのプログラムをマスターすることが出来ます。とても面白い仕掛けと思いました。良い工夫と思いますが、マンネリにならないように少しずつ工夫をしていくことが大切です。壁新聞は写真と文字のバランスがとてもよくできています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞のタイトルは応募用紙に書いた「くすりの町甲賀町のビオトープに薬草園ができた！」より壁新聞に書いた「.....でござる」の方が合っていますね。企業の協力と支援があったとはいえ、それを小学校の学年別のプログラムとして、授業化したことは大変な工夫だったのではと想像しています。また、エコ委員会のアメリカザリガニ駆除活動が認められて「地域環境保全功労者賞」をいただいていることから、保護者の方々を含め、スタッフや参加してくれた子どもたちの熱意が伝わってくるようです。子どもたちが大きくなってでもまだアメリカザリガニがいると思いますので、この駆除は続けて欲しいと思います。環境学習のネタはどこにでもひそんでいます。いくつかの環境保全プログラムを組み合わせると効果を上げるのは良い工夫だと思います。



西京極児童館自然探検隊2004のみなさんへ

師範から一言――

市内で見られる鳥を、「かも川」「御所」「町中」「泉川、高野川」にわけてあるので、地域のとくちょうが感じられるまとめ方になっていると思います。実際にこの場所について「見た」鳥を書いてくれたのだと感じました。きっとそうですね。夏と冬とあるので、何回か行った場所もあると思いますので、何年何月と書いてあると、観察にいったことがもっと伝わってきます。

イラストを描いてみるとその生き物のくちばしや足の形や色などがよく分かるので、いろいろな鳥たちのとくちょうに気付いたことでしょう。新聞にイラストを使うのも、よいアイデアです。

まとめに書いてくれた内容がすばらしいです。探検隊のみなさんは、自然の中にいる鳥を観察しているので、鳥たちの多くが自然のものを利用していることが多いことに気付いたのだと思います。「他の動物にもいえる」というのは、まさにその通りです。生き物を大切にするには、その生き物がくらす自然も大切にする必要があります。

京都市では、町中でセグロセキレイがいるようですが、ハクセキレイはどうですか？神奈川県では町中ではハクセキレイを見ることが多く、駅のホームを歩いていることもあります。同じ場所を何度か訪れてみると、どんな種類の鳥が多いのかも分かりそうですね。これからも自然探検を続けてください。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

鳥のせつめいをイラストの下に書いてくれて、どんな鳥なのか分かりやすくなっています。

鳥の大きさは、いくつかの鳥にたいして何cmと書いてくれましたが、書いていない種類もあります。図かんと同じようにくわしく書く必要はないので、例えば誰もが知っているような鳥(スズメ、ハト、カラス)と比べた大きさを書くだけというアイデアもありますよ。

京都府京丹後市 京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:①ふる里の山・川・畑からの恵みに感謝し、その自然環境を守るぞ～～！②自然いっぱい！山の中でのキャンプ！③ブナファミリーがたっぷりの落葉広葉樹の森を歩き、気持ち良さを体感する④ふる里・大谷の山の自然観察会！

26-02 26-03 26-04(推薦) 26-05、全4枚

京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

みんないろんなことをがんばってますね。ゴーヤ、シイタケ、サツマイモ、黒豆といろんなものを作りましたね。たくさんしゅうかくできて良かったね。なにか、むずかしかったことや失敗したことはなかったですか？

おじさんもシイタケやゴーヤを作っていますが、うまいかないこともあります。水やりがたらなかったり、病気になったり、何かをつくるってむずかしいです。みんなもむずかしかったことや失敗したことをまた、壁新聞でおしえてください。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

★

とれたものは食べましたか？自分たちで育てたものはおいしいでしょうね。できたら、こんどまとめるときは、何月何日と日づけを書いておいてほしいです。日づけをかいおけば、次の年に同じものを作るときや農作業をするときの参考になりますよ。むずかしいことや失敗したことに、もう一回ちょうせんしたり、とれた作物をみんなで料理したらもっと作った楽しみがふえると思います。

☆☆サポーターへのゴシンドウ☆☆

農作物を育て収穫する手のかかる活動を精力的に活動されていて素晴らしいと思います。サポーターの皆さんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。壁新聞にまとめるときは、季節や月日、何が難しかったか、何が上手に行ったかななどを子どもたちとお話しされて壁新聞に紹介いただければ、ほかのクラブの皆さんももっと、活動の参考にしてくれると思います。幼児期、学童期の農作業や食育は難しいことも多いですが、食糧問題は日本の大きな問題ですから、食べることまで繋げて活動されると全国のこどもエコクラブのモデルになるような事業になると思います。

れからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



京都府京丹後市 京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①ふる里の山・川・畑からの恵みに感謝し、その自然環境を守るぞ～～！②自然いっぱい！山の中でのキャンプ！③ブナファミリーがいっぱいの落葉広葉樹の森を歩き、気持ち良さを体感する④ふる里・大谷の山の自然観察会！

京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――
夏休みにキャンプに行ったんですね。自分たちでテントを立てたり、ごはんをみんなで作ったり、食べたりと楽しかったでしょう。全部うまくいきましたか？ むずかしかったことはなかったですか？ あと始末もしましたか？
雲海をみたり、葉っぱのぼうしで遊んだり、きょうな体験ができてよかったね。夜ふかしは、夏のキャンプでは翌日がいんどくて遊べなくなるからしちやだめですよ。ぐっすりねむって、朝に元気に早起きすることが一番大切です。
むずかしいことや失敗したことに、もう一回挑戦してください。
また壁新聞で全国のみんなに教えてください。



とっておきのゴシンドウ★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★
キャンプや自然体験には、「来たときよりも美しく」という合言葉があります。テントのまわりもごはんの準備や食べたあとも、みんなですっかりあと始末をしてはじめてキャンプです。
もう少し大きくなったら道具の手入れも子どもたちでできることをしたらもっと楽しくなると思います。
おじさんもキャンプに行ったり、ごはんも作りますが、作るよりあと始末や、道具の手入れがむずかしいとおもいます。
またみんな、キャンプに行ったら、あと始末のことやむずかしかったことを壁新聞で教えてください。

☆☆サポーターへのゴシンドウ☆☆
キャンプや野外活動は、「来たときよりも美しく」「安全に自然に優しく」「火の始末・火の扱い」など大原則があります。小さな時からしっかり注意して、自然の中で遊ぶルールをしっかりと教えてあげてほしいと思います。道具の準備や手入れも子ども達にも分担してそのことを壁新聞に紹介してもらえたら全国の仲間が参考にしてくれると思います。活動はいろんなチャレンジをされていて素晴らしいと思います。サポーターの皆さんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

京都府京丹後市 京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①ふる里の山・川・畑からの恵みに感謝し、その自然環境を守るぞ～～！②自然いっぱい！山の中でのキャンプ！③ブナファミリーがいっぱいの落葉広葉樹の森を歩き、気持ち良さを体感する④ふる里・大谷の山の自然観察会！

京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――
山のぼりや自然観察会は全部うまくいきましたか？
むずかしかったことはなかったですか？
おじさんもキャンプにいたり、山歩きを良くしますが、鳥の鳴き声を聞いたり、落ち葉や木の実を探したり、名前を調べたり、虫や生きものを探したりと楽しいことがいっぱいです。みんなも地図で行ったところを調べたり、見つけたものを写真にとったり、絵をかいたりといろんなことをしてみてください。
もっともっと楽しい山の自然観察会になると思います。
また、わかったことや見つけたこと、むずかしかったことを壁新聞で教えてください。



とっておきのゴシンドウ★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★
大谷の山の自然観察会は、いつごろに行ったんでしょうか？ できれば、壁新聞は全国のこどもエコクラブのみんなやサポーターさんが見るので、全国の人がみて、いつごろにどんなところに行ったのかわかるように壁新聞をつくったら良いと思います。
いろんな木があったとか、いろんな物を見つけたよって書いてくれたけれど、木のことも、絵でかいたり少しでいいので種類を葉っぱや木の形から図かんで名前を調べたり、自分たちで調べてそれを壁新聞に紹介してほしいな。名前が分からなかったら、写真で紹介してもいいと思います。
☆☆サポーターへのゴシンドウ☆☆
キャンプや野外活動は、「来たときよりも美しく」「安全に自然に優しく」など大原則があります。小さな時からしっかり注意して、自然の中で遊ぶルールをしっかりと教えてあげてほしいと思います。
自然観察会も楽しく安全にが一番大事だとは思いますが、子どもたちが調べたり記録することを体験で来たらもっと素晴らしい活動になると思います。サポーターの皆さんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

京都府京丹後市 京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:①ふる里の山・川・畑からの恵みに感謝し、その自然環境を守るぞ～～！②自然いっぱい！山の中でのキャンプ！③ブナファミリーがいっぱいの落葉広葉樹の森を歩き、気持ち良さを体感する④ふる里・大谷の山の自然観察会！

京丹後長岡緑の少年団こどもエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――
秋のブナ林にみんなで行ったのですね。おじさんも兵庫県の氷ノ山という山に登って秋のブナ林を歩くのが大好きです。気持ち良いですね。
木の絵も上手にかけたと思います。ブナ林には、たおれた木やかれかけた木にキノコが生えてなかったですか？おじさんは、ブナ林で、ブナハリタケ、ナラタケ、ムキタケなどのキノコを見つけます。キノコもあるし、シダの仲間や生きものもたくさん見つけられますよ。今度行ったら、探してみてください。
名前が分からなかったら、写真をとって、図かんで調べてみることも大切ですよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
山の中にはゴミは落ちていませんか？最近では世界中でプラスチックのゴミがふえて困っています。
また、ゴミがあるのか、あるならどんなゴミがあるのかも調べて壁新聞で教えてくれたらうれしいです。もっともっと楽しい山の自然観察会になると思います。
また、わかったことや見つけたこと、むずかしかったことを壁新聞で教えてください。

☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆
素晴らしいブナ林があって良いですね。
自然観察会も楽しく安全にが一番大事だとは思いますが、子どもたちが調べたり記録することを体験で来たらもっと素晴らしい活動になると思います。
ブナ林で見つけた木の実やキノコ、ゴミの種類などを記録するだけでも貴重な見守り活動になると思います。
サポーターの皆さんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

大阪府大阪市 せいわエコクラブ
壁新聞のタイトル:①たのしもうエコクラブ②続けようエコ活動 27-04 27-05

せいわエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――
一年間のいろいろなかつどうほうこくしてくれてありがとう！！一つ一つのかつどうでみなさんの楽しかったたいけんのようすがわかるすばらしい壁新聞です！！
ふれあいの森での自然かんさつでは植物や虫のいろいろな発見とふしぎできょうなたいけんしたね。また、ヒノキのかんぱつたいけんでも、「分かったこと」、「したこと」、「びっくりしたこと」と「これから」にわけてとてもうまくまとめられているね。
「チリモン探し」、これはむちゅうになってとても楽しんだようだね。ヘイケガニのなかまもいたとはおどろきだね。この絵がとてもかわいいね。
じぶんたちでほったタケノコのあじはどうだったのかな。
「しめなわ」がとてもじょうずに作れたね。「しめなわ」は「くも」で、「しで」は「かみなり」、そして「しめのこ」は「あめ」のことをあらわしていて、むかしから、のうぎょうをしてきた日本人にはとてもたいせつな自然げんしょうだよ。「秋さがし」も木の上できもちよい風をかんじながら、さいこうのけしきを見ることができてよかったね。
つぎの壁新聞を楽しみにまっているよ！！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
みなさんがすすんでいるみじかな自然には、とてもふしぎな発見やわくわくするようなこと、そしてかんどがまだまだたくさんあるので、どんどんいろいろなことにチャレンジしてね。森や自然をまもるかつどうや、かんきょうのためのゴミひろいやゴミぶんべつなどをこれからも続けていこうにがんばってね！！

大阪府大阪市 せいわエコクラブ
壁新聞のタイトル:①たのしもうエコクラブ②続けようエコ活動

せいわエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

アースエコレンジャー賞受賞おめでとう！！エコクラブのお友達と一緒に力を合わせて一生懸命に長い間続けてきたエコ活動を認めてもらったすばらしい賞ですね。このエコ活動は、地域や国内のお友達にもものすごく良い影響を与えたと思います。

「ふれあいの森づくり」、「イタセンパラとふれあおう」、「天王寺区民まつりでのゴミの分別」と「リラダス」のエコ活動に関して、どれもとてもりっぱな記事です。特に、ふれあいの森での森の保全活動について、水と森のかかわり、山の手入れと水のかかわり、緑のダム、ヒノキの伐採方法、そしてこれからもこの森の保全活動を続けて小学生メンバーに森の大切さと楽しさを伝えていくというメッセージにとっても、とても感動しました！！

地球上のすべての生き物にとって非常に大切な森の働きには、主に光合成、食物連鎖、水源涵養(すいげんかんよう)(水資源貯留機能・水質浄化機能・洪水緩和機能)、地球温暖化、生物多様性、土砂崩れ防止、生活環境などがありますので、これからも引き続き森の保全活動にがんばってください。次回の壁新聞を楽しみにしています



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
森のおかげ、地球上のすべての生き物の命がつながっており、この命のつながりを永遠に残すために、森を保全することは私たち人間の義務なのです。せいわエコクラブのお友達が他の子どもたちにも森の大切さをアピールできるような機会をぜひたくさん作って欲しいと思います。

大阪府大阪市 なにわこどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:エコすごっ ニュース 27-01

なにわこどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言――

壁新聞の中に青、黄、赤が入ってとても明るくなりました。他の出品作品をみてもこの三原色を使って壁新聞を作っているのは、思いの外、少ないんです。この三原色が一枚の壁新聞に入っていると、色合いもメリハリのあるものになります。気が付いていましたか？すばらしいです。

壁新聞にはキャンプと子ども計画隊、クリ拾いや海の生物調査などを紹介してくれました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
さて、キャンプでカレーライスを作ったが、ご飯はおかゆのようでカレーは少しかかったということですが、きっと初めてのキャンプだったんではありませんか？
こんなときは、前もって自宅で台所を借りてキャンプの道具を使ってリハーサルをやっておくといいですよ。多分キャンプとちがうのはガスの火加減だと思いますので、「はじめちょろちょろ中ぱっぱ、赤子泣いてもふたとるな」と呪文を唱えている間にちゃんとできていると思います。試してみてください。

壁新聞では海の生き物を取り上げてくれるのが少ないので、このような記事を待っていました。海の中で苦しんでいる生き物に、それぞれせりふを与えて劇のように仕立てているのは、とても面白い工夫ですね。一番最後に私たち人間は、これらの海の生き物ののために何をするといいのか、6項目も考えてくれたことは最も大切なことです。海の水を汚さないようにするのは、環境保全の大切な第一歩です。みんなでがんばりましょう。



大阪ハッケンジャーのみなさんへ
師範から一言――

大阪ハッケンジャークラブの大阪ハッケン新聞は、サポーターの執念が感じられるすごい新聞です。大阪はもちろん、大阪以外にも足をのばして、トンボを中心にそしてトンボ以外の生きものを調査しています。よくもマーコンなにくさんのトンボの種類を見分けられ、トンボ以外の生きものもたくさん見分けられるのは、トンボや生きものに興味と関心が高く、長年関わってきたのだらうと思います。それにしてもすばらしい、素人ではなく専門家ではありませんか？

トンボ捕り名人になろう！！メンバーのこどもの息吹が感じられてホッとしました。

網でとる時のコツ、後ろから網をふるのは、とれるだけでなく羽が傷つかなくなる。これは昆虫標本を作る時の大事なポイントですね。それと生き物の習性を熟知して、とるのも生きものを良く知っている人でないとできないアドバイスかと思います。だんだんとこどもが気づいて、とり方を習得できればすばらしいと思います。アメリカザリガニをとる時もザリガニが後ろに下がる習性に気がついて、後ろから手をそえてとると、こどもが書いていた、壁新聞がありました。赤トンボはもどってくるとありましたが、オニヤンマなどもぐるぐると同じ所を飛んでいるようですね。

続アキアカネがいなくなった事件も有名ですね。農薬の影響でいなくなったり、少なくなった生き物がたくさんいますね。メダカもそうですね。農薬で虫がいなくなり、お米がとれるようになったが、美味しくなくなった。同時にアキアカネもいなくなった。アキアカネが虫を食べてくれるのに・・・と歯がゆい思いだと思います。福岡市の※赤とんぼ米のやり方が日本の農家にしみわたるとお米だけでなく本来の自然が戻ってくると思います。一時的な対応ではなく長期的な視点で日本のすばらしい自然と生き物環境を取り戻したいと思います。アキアカネの国を取り戻したいと思います。

※JA 福岡の赤とんぼ米は栽培期間中、除草剤はもちろん全く農薬を使用していません。有機質を主体とした肥料を使用、化学肥料のチッ素成分は県基準の半分以下で栽培しているトンボにも人にもやさしいお米です。



アキアカネが 1/1000 になった、を表現している大阪ハッケンジャー②の新聞はとっても分かりやすい表示手段だと思います。実際には 1000 匹はりつけたかったのですが、500 匹でいっぱいになりました。これだけでも、こんなにへったのか！とびっくりでき、分かりやすい方法です。且つ、同じ面積でということを知ってもらうためには、面積も同じにしたいのですが・・・私も学校へ行き、環境の授業をやっていますが、こども達にどうやったら分かってもらい、気づいてもらうかに頭をしばっています。そのために体験をする、実験をする授業にしています。言っただけでは、分かって心にもひびくことにはなりません。聞いたことは忘れる、見たことは思い出す、やったことは忘れないを授業の基本的考え方にしています。1/1000 に減ったことをどうやってわかってもらうか？この新聞の表現方法はとっても分かりやすい上手なやり方だと思います。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

それぞれの場所で発見したトンボと生きものをしっかりと記録してくれました。貴重な資料です。これだけの記録を次にはどうまとめるのか期待しています。地域特性や季節特性などをまとめて、マップ化してみると何か面白い傾向なり、特徴が発見できるのではないのでしょうか？

来年はこれまでのデータをどうまとめるか？あるいはさらに地域を広げて調べる、他との連携で新たな視点を取り入れた新聞づくりなどなど、期待しております。

WEB 非掲載部分

「虫の持ち帰り禁止」についてのご意見、私も同感です。こどもが捕るくらいで絶滅など心配いらないと思うし、生きものに対する感性をみがくことを禁止しているようなものだと思います。最近、虫もさわれないこどもだけでなく大人、お母さんもいて、ビックリしています。生きものをだいじにすることは、命を大事にすることだということを知ってもらいたいですね。

大阪市立新北島中学校科学部のみなさんへ
師範から一言――

日本の河川で水質が悪いランキングでいつもベスト5に入る大和川で自然観察をしているので興味を持って拝見しました。大和川は堺市と大阪市の間を流れて大阪湾にそそいでいます。2009年には関東の綾瀬川に次いでランキングの2位であったが、2010年にはワースト3位にまで改善し、2007年にはアユの産卵もかくにんされています。これは皆さんが測定を続けている水質データからも説明ができると思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....

★.....★

壁新聞に水質の変化グラフを載せるには、特徴がよくわかるように、工夫して下さい。大和川の水質調査結果をみると、河川の清掃活動などを通じて市民理解を深めるなどの地道な活動が必要と感じました。

もう一つはアルゼンチンアリの大発生ですが、アルゼンチンからやってきたアリなので、一日も早く退治したいものと思います。殺虫剤などを使うと在来種のアリも退治してしまいますので、手間はかかるかと思いますが、巣穴を特定して退治するなど工夫が必要だと思います。



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:え〜こ・レンジャー新聞 ほしぐみレンジャー

27-07 27-08 27-09(全て幼児)

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーほしぐみのみなさんへ
師範から一言――

はしらもとほいくえん ねんしょうの ほしぐみのみなさんは、とてもたくさんの やさいやくだものを そだてたのですね。ぶどうが とても おいしいそうです！あまかったですか？ すっぱかったですか？ どれぐらいたくさん とれましたか？

ぶどうのほかにも、いちご・だいこん・カリフラワー・ブロッコリー・ゆず・こまつな・ほうれんそうと、ほんとうにたくさん そだてたのですね。どれもおいしいそうですね！

みなさんがそだてた やさいやくだものは、やおやさんや スーパーで うっている ものとくらべたら、なにか ちがうことは ありましたか？ おおきさや、いろや、かたち、そして、あじなどは おなじでしたか？ ちがいましたか？ くらべると、おもしろいはっけんをしたり、くわしく することができたりして、おもしろいですよ！

みなさんの かつどうで、ピカピカに すてきなことを みつけました。

ひとつは、みなさんが つくった やさいに へんしんして、はっぴょうをしたことです。とつてもたのしそう！ どんな はっぴょうだったのかな？ きっと はっぴょうをみたひとは、やさいを そだてるのって すてきだなんて おもったでしょうね。わたしもみてみたかったなあ。

もうひとつは、あめのみず、つまり うすいを つかって みずやりをしたことです。しよくぶつを そだてるのには、たくさんの みずが ひつようですが、そらから ふってくる あめのみずを ためておいて、みずやりに つかうって、すてきですね。

つきぐみに なっても たのしく すてきなかつどうを してくださいね。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....

年長さん・年中さんの活動を見て、雨水タンクからの水やりの仕方を教わったとのことですが、毎年継続して活動が続けいらっしやるからこそですね。大人から教えるだけでなく、子どもたち同士の関わりから受ける影響って、思いのほか大きいのではないかと思います。とってもステキです！

菜園の活動を通じて、収穫に対する期待、発見の喜び、観察力が高まり、子どもたちの世界が広がって、楽しい毎日を送っていらっしやるのでしょう。ぜひ今後も継続して、ステキな活動をしていただければと思います。



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:え〜こ・レンジャー新聞 ほしぐみレンジャー

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーつきぐみのみなさんへ
師範から一言――

はしらもとほいくえん ねんちゅうの つきぐみのみなさんは、おちばを あつめて たいひ(つちのえいよう)をつくったのですね。えいよう たつぷりで ふかふかの つちで つくった やさいや くだものは、おいしかったですか？
「だいしゅうかく！！」と かいて くれていいますので、たくさん みが なったのでしょうか。それはきっと、みなさんが たいひを つくって つちに まぜたから でしょうね。
それから、みなさんが そだてている れもんの はっぱに あおむしが きてくれたというのは、なんて すてきなことでしょう！ さなぎになって、そのあと なにが できたのでしょうか。みなさんの よそうどおり、ちょうちょでしたか？あげはちょうの あおむしは れもんの はっぱが すきなようですが、どんな ちょうが できたのでしょうかね。
さいごに もうひとつ。みなさんの ほいくえんでは、たいようや かぜの ちからで、でんきをつくっているのですか？すごいですね。たいようこうはつでんパネルをつけているほいくえんや おうちは、ときどきみかけます。でも、かぜの ちからで でんきをつくる、ふうりよくはつでんがあるところは、とても めずらしいと おもいます。
しぜんの ちからで つくった すてきな でんき。ひつような ときには えんりょなく つかってください。でも、みなさんも きをつけてくれていると おもいますが、だれも いないへやの でんきは、つけっぱなしに ならないように してくださいね。
ゆきぐみに なっても、おともだちと いっしょに たのしく かつどう してくださいね！
サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★....
ほしぐみさんよりもステップアップした活動。育てる喜び、収穫する喜びだけでなく、土づくりの体験や、菜園にやってくる生き物へと世界が広がってきていて、ステキですね。あおむしがやってきてサナギになったというのも、子どもたちはドキドキワクワクしたでしょうね。
太陽光・風力発電の話は、電気そのものは目に見えないので、子どもたちに説明するのも大変だったのではないのでしょうか。仕組みや理屈を理解するのは、低年齢の子どもたちには難しいですが、園にあるということは、こういうものが存在するんだと知り、身近に感じることができるので、ステキな環境だなあとと思います。ぜひ、機会を見つけて、繰り返し子どもたちにお話をしておあげてください！



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:え〜こ・レンジャー新聞 ほしぐみレンジャー

柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャーゆきぐみのみなさんへ
師範から一言――

はしらもとほいくえん ねんちゅうの ゆきぐみのみなさんは、なんと、ビオトープをつくったのですね！ とんぼが たまごを うみにきた なんて、すてきですね！ ほかに、めだか、はち、ばったなど、いろいろないきものを はっけんしたのですね。
みずが たまっていると、くさも、むしも、さかなも、いろいろな いきものが すみかにしたり、やってきたりして、たのしいですね！
たくさん の いきものを みつけたと おもうのですが、はる・なつ・あき・ふゆなど、きせつによっても いきものが ちがったとおもいます。どんな ふうに ちがうのかなど、また かんさつ してみてくださいね。それから、おこめづくりにも ちょうせんしたのですね。おこめをつくるための、いろいろな しごとを やってみて、たいへんだった とのこと。どのしごとが、いちばん たいへんでしたか？まいにち たべている ごはんも、だれかが いっしょうけんめい つくってくれたものだ と おもうと、うれしいし、たいせつに たべたく なりますね。
まいとし ゆきぐみさんが している せみの めけがらしらべ ですが、こしは、せみの しゅるいを とても くわしく しらべてくれたのですね。とくに、「えぞぜみ」がいたというのは、めずらしいですね。みつけられたなんて、すごい！ たくさんたくさん せみの めけがらしを はっけんして わけることが できた みなさんは、すっかり「せみ はかせ」ですね！
これから どんどん おおきくなっても、みのまわりの いきもののことを しらべたりして、たのしく かつどうして くださいね。
サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★....
初めて園庭にビオトープを作られたとのことですが、菜園とは違った発見がたくさんあったのではないのでしょうか。ご苦労も色々あったと思いますが、子どもたちにとって、生き物を観察したり触れる、すてきな機会になったのではないかと思います。
それから、実は、私は一昨年の壁新聞のコメントも担当させていただきました。一昨年は、毎年セミの調査をしていると書いてあるのを見て、「去年より今年は多かったですか？」とコメントさせてもらったところ、その次の年(昨年)に、今までの調査結果を表にしてくださっているのを拝見し、とても嬉しかったですし、経年変化がわかり面白かったです！ 今年では分類の種類が増えていて、毎年工夫しながら活動されていることを感じました。ひと夏終わると、子どもたちはみんなセミ博士ですね。
ぜひこれからも、楽しく活動してくださいね！



ひじりがおかほいくえん レインボーズのみなさんへ
師範から一言――

ひじりがおかほいくえん レインボーズのみなさんの かべしんぶんは、よみやすく、すっきりまとまっている すてきなかべしんぶんですね！ みぎうえの にじも とても いいですね。もじも とても じょうずに かけています。たくさんの もじを、がんばって きれいに かきましたね！

さいえんかつどうでは、たくさんのやさいを つくったのですね。かぞえてみたら、15しゅるいもあり、びっくり しました。あめのみずを ためて、それで みずやりを したのですね。すいどうのみずを つかわなくて すむので、とても いいですね。

たくさん しゅうかくした ということですが、おもしろい かたちのものは ありましたか？ おおきいものや、ちいさいものは ありましたか？みなさんで たべたりも したのでしょうか。おいしかったですか？

せみちょうさも わかりやすく かいてくれていますね。まず、「けっか」を きちんとかいてくれていることが すてきです。じぶんたちで オスとメスが わけられるようになったというのも すごいです。しんぶん、せみの みわけかたも かいてあり、わかりやすいです。

ぬけがらを わけた けっかの かずや、ぬけがらを みつけたばしょが かいてあり、みなさんの ちょうさの ようすが とてもよくわかりました。また はっけんをしたことを かべしんぶんにして、ぜひ おしえてくださいね！

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

就学前であるのに、できるだけ子どもたちの力で壁新聞をまとめてくださっているところが、本当にステキで、すごいです。普段から、子どもたちと同じ視線を大切に活動されていらっしゃると感じました。水やりをするだけで子どもは楽しい気持ちになる。お野菜がだんだん大きくなるを見て、うれしくなる。セミの抜け殻を探して見つけて、面白いと思う。そういうふうに関性を大切にすることから、相手を思いやる気持ちが生まれたり、ひいては地球全体のことを考えられるようになっていくのではと、改めて思いました。昨年の西澤師範のコメントを見てくださったからでしょうか、セミの抜け殻の数だけでなく、見つけた場所が書いてあって、すごい！嬉しい！と思いました。見つけてすごいね、で終わるのではなく、どんな場所で見つけたのかな？と思い返すことで、子どもたちも、また新たな発見をしたのでしょうか。これからも、ぜひ楽しい活動を続けてください！



細田児童館エコキッズのみなさんへ
師範から一言――

じどうかんのまえに大きな公園があつていいね！

じぶんたちでしらべているのがいいなあと思います。

木の「かたち」や「葉っぱ」をじっくりみましたね。 わかりやすくまとめられていると思います。あと、「花」や「み」は見ましたか？「花」のことや「み」のことも、また、まとめてほしいなあ。

どんぐりがなる木もありますよ。ずかんでしらべるときには、「花」や「み」のこともしらべてみましょう。いつごろ、どんな色のどんな形の花やみがさいたり、なるかをしらべておくと、もっとしよくぶつや公園のことがわかるようになります。公園とちがう六甲山や学校にはえている木や草のことも、みんなでしらべてください。

木や草をかんさつしていると、虫や鳥のこともだんだんわかります。葉っぱや木、花やみの絵もかくと、もっと楽しい楽しいかべしんぶんになると思います。公園にはゴミはありませんか？最近では世界中でプラスチックのゴミが増えて困っています。また、ゴミがあるのか、あるならどんなゴミがあるのかも調べて壁新聞で教えてくれたらうれしいです。

サポーターさんへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

すばらしい公園が児童館の前にあって良いですね。花や実の観察もしたらもっと良いと思います。

花の咲く時期や色や形を良く調べたら、木に集まる生きもののがもっとわかると思います。

公園にサルスベリもあるようですが、サルが滑り落ちそうなツルツルの幹を観察してみてください。

サポーターのみなさんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。

上級生の子どもたちが公園のことや生きもののことを新しく入った下級生の子ども達に案内で来たら一層すばらしい活動になると思います。

私も実は明石に住んでいて長田の街もよく歩いたことがあってこの公園も知っています。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



ゆきのごしよエコクラブのみなさんへ
師範から一言――

お花のうえかえは大切な活動です。
うえるまえに、土をほりかえしたり、落ち葉をまぜたりすると花も元気になることがあります。
どんな土がお花を元気にするかまたかんがえてみましょう。
みどりのカーテンも良いですね。
あつい夏もみどりのカーテンのお蔭で少しは涼しくなったでしょう。みどりのカーテンがあつたら、虫や鳥もすずみにきたり、エサをさがしにきますよ。たまごをうむ虫もいるかもしれません。じどうかんにきたときは、グリーンカーテンをよくみてみましょう。
クリーン作戦はがんばってますね。おじさんも家の近くの川やかいがんのクリーン作戦をしていますよ。ペットボトルやレジぶくろ、おかしのふくろなどプラスチックのゴミがひろってもひろってもなくなりません。世界中でプラスチックのゴミがふえています。みんなでどうしたらまちのゴミや川やうみのゴミがへるかかんがえてみてください。
先生をよんで、みんなが勉強をしたこともじょうずにわかりやすく「かべしんぶん」にまとめられていると思います。



サポーターへのおきのごしんぶん★.....★.....★.....★.....★.....

公園や川が児童館の近くにあって良いですね。グリーンカーテンや花のうえかえを子どもたちと取り組んで良いと思います。都会では中々、生きものや緑、土、水にふれあえることが少ないのでこれからもがんばってください。
クリーン作戦も大変ですが、大事な活動だと思います。
ゴミ拾いをしながらどんなゴミが多いかやどこから来るのかをみんなで考えて、みんなでポスターを作って公園の近くや近くのお店屋さん貼ってもらった活動をお手伝いしたこともあります。
サポーターのみなさんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。上級生の子どもたちが公園のことや生きもののことを新しく入った下級生の子ども達に案内で来たら一層すばらしい活動になると思います。
私も今年の夏に雪の御所に行きました。紙芝居もしましたよ。川にはモクズガニがいました。これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

兵庫県神戸市 あきばだいじどうかんエコキッズ
壁新聞のタイトル:エコの森キノコ隊新聞 2

あきばだいじどうかんエコキッズのみなさんへ
師範から一言――

エコの森 キノコ隊新聞でいろんなすててしまうものをじょうずにつかって工作していることがわかりました。
つかわないもの、すててしまうものをつかってお気に入りのおもちゃやどうぐをつくることはとてもたいせつです。作ったものは大事にしていつまでもあそんでくださいね。
でんきのことも勉強もしたのですね。みんなでんきのこと、どう思いましたか？
でんきをこれまでいじょうに大切につかおうとおもいましたか？
日本では、がいきくにくらべて、でんきをたくさんつかってますよ。みんなのおうちではどうかな？
でんきをつかいすぎると、ちきゅうがあつくなったり、よごれたりするんですよ。
みんなもだれもないへやのでんきをけしたり、だれもみないときもテレビをつけていたりしませんか。
みんながかべしんぶん、かおのところにきてくれていたけど、ものをたいせつにしたり、ごみをひろったり、ぶんべつしたりすることはほんとうに大事ですね。
こどもエコクラブのみんなで壁新聞にまとめたことは、みんなのおうちや学校でもみんなに教えてあげてくださいね。



サポーターさんへのおきのごしんぶん★.....★.....★.....★.....★.....

捨ててしまう様なものを工夫してもう一回使うことは大事だと思います。
そうしながらごみのことやものを大切にすることをみんながまなんでいることが壁新聞から伝わって来ました。ごみをへらしたり、ものを大切にすることが生きものや自然、地球を守ることにつながることを子供たちに教えてあげてください。
こつこつ継続することが一番大切です。
これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:ぼく・わたしのエコ日記

あさひクラブ①の新聞を書してくれたみなさんへ
師範から一言――

みんな、夏休みにがんばりましたね。エコ日記、楽しくみせてもらいました。いつに何をしたかが、たいへんよくわかりました。

いろんなことをしましたね。何をするのかをかんがえたりじゅんぴをするのもたいへんだろうなと思いました。明石川までそうじに行ったり、生きものを調べに行ったり、マイバックやいろんなものをつくったり、たくさんの先生のお話をきいたりほんとにいっぱいかつどうしましたね。

かんきょう問題はたくさんのことがあって、みんなの活動は全国のこどもエコクラブのみんなの参考になると思いました。これからもチャレンジしてください。

工作したものをいつまでも大事にしたり、しらべたことはみんなでもう一回いっしょに考えることも大事ですよ。こどもエコクラブのみんなで壁新聞にまとめたことは、みんなのおうちや学校でもみんなに教えてあげてくださいね。



サポーターさんへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

すごいたくさんの活動ですね。おどろきました。準備も当日もまとめも大変でしょう。

エコ工作というか、ものを作ることは子ども達の教育に多くの効果があると思います。

すでに工夫されているとは思いますが、工作のときには、ものを有効利用すること、作ったあともそれを大切にすること、、ゴミを減らすことや資源を大事にすることなどもしっかり企画プログラムに盛り込み学びの効果を高めて頂けたら最高だと思います。

たくさんの専門家の支援も得て、すばらしい活動を継続されていると思います。

これからも、子供たちに更に学んだり作ったものをどう生かしていくかをかんがえたり、それを壁新聞に紹介して頂いたら、全国の子供たちにも参考になりと思います。

サポーターのみなさんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:あさひしんぶん 特集キャンプ

あさひクラブ②の新聞を書してくれたみなさんへ
師範から一言――

みんな、夏休みは楽しかったですね。エコ日記でたくさんのことにチャレンジしているなあと感心しました。そして「キャンプで自然とともだち！」をみせてもらって、みんなの児童館はエコの夏休みでおどろきました。三田の人と自然の博物館もおおやのあゆ公園もおじさんも行ったことがあります。たくさんのが勉強できたでしょう。

みんな何がいちばん楽しかったかな？ っておもったら、壁新聞に楽しかったことのじゅんばんまでグラフになっていてビックリしました。

キャンプファイヤーやかかわあそび、まがたまづくりが楽しかったんですね。でもぜんぶたのしかったでしょう。みんな、キャンプやかかわあそびのじゅんぴやあとしまつもいっしょにしましたか？ キャンプファイヤーのときは、よぞらもみましたか？ よぞらには星がいっぱいかがやいていますよ。おじさんもキャンプやりようりもかわあそびもすきですよ。

みんなもいろんなことにチャレンジして、みんなもじゅんぴからあとしまつまでできるようになってください。

もちろん、しぜんのなかで生きもののようなすをみたり、キャンプでどんなことに気をつけたらいいかも勉強してくださいね。

こどもエコクラブのみんなで壁新聞にまとめたことは、みんなのおうちや学校でもみんなに教えてあげてくださいね。



サポーターさんへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

すごいたくさんの活動ですね。おどろきました。準備も当日もまとめも大変でしょう。

泊りがけの活動もされていてサポーターのご苦労が伝わって来ます。

すでに工夫されているとは思いますが、「来たときよりも美しく」というキャンプや野外活動のルールを徹底的に子供たちに教えてあげてください。

今、屋外でルールが守れない人が増えていて、自然が傷んでいっていることも事実なので、こどもエコクラブでそのことを教えて、全国のこどもエコクラブの皆さんや家族の方にも発信してください。

サポーターのみなさんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。

しのっちょバレーヌのみなさんへ

師範から一言――

むずかしいことをしらべましたね。おじさんが神戸のことを調べたら、この 100 年間で、約 1.5℃あたたかくなってました。5℃あたたかくなるって、人にとっては気がつかないくらいかもしれませんが、動物や植物にとってはたいへんなことです。動物や植物はあつくなってもクーラーもせんぶうきもないし、さむかってもストーブもないからです。

だからあつくなっていなくなったり、死んでしまう生きものや枯れてしまう植物もあります。田んぼや畑でそだてるお米ややさいのしゅるいをかえないといけないこともあります。

だからみんなで自分たちでしらべてどうしたらいいかをかんがえて実際にやってほしいのです。かせきねんりょうをもやすとCO2がでます。ゴミをもやしてもCO2がでるし、水をきれいにするためにエネルギーがつかわれますからCO2がでます。みんなが家や学校でつかっているいろんなものも作るためや運ぶためにエネルギーを使っているの、CO2がでます。みんな、なんでも大切につかってください。

こどもエコクラブのみなんでしらべたことや壁新聞にまとめたことは、みんなのおうちや学校でもみんなに教えてあげてくださいね。

サポーターさんへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★...

気候変動の問題は難しいですがさけて通れませんがこれからも学習を続けてください。

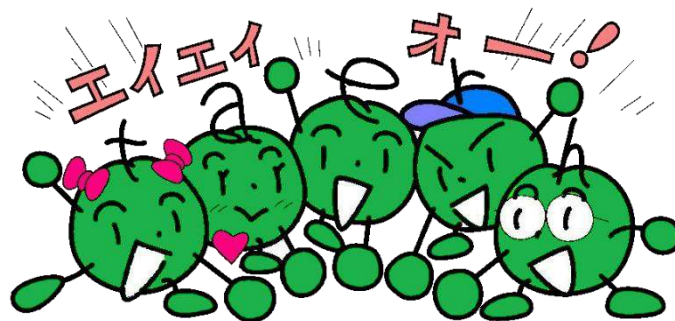
節電、節水のほか、ゴミを減らすことも、ものを大切にすることも、温暖化対策として有効です。

身近なことに目を向けて、自分が何をするか宣言をするって良いなあと思います。

今度は、自分で宣言をしてどう過ごしたかを、みんなで話し合ったり、まとめたら更にステップアップすると思います。

サポーターのみなさんも準備や運営、普段のお世話にご苦労されていることでしょう。

これからも、子ども達とエコ活動、こどもエコクラブを楽しんでください。



おおつかのみなさんへ
師範から一言――

「野菜のエコ料理新聞」は、ふだんお料理するときに、捨ててしまうところを利用して、おいしく食べる工夫をテーマに作った新聞です。読んだ人も「じっさい試してみよう」と思わせるものばかりで、楽しい新聞になっています。
私も、大根の葉っぱやブロッコリーのくきの利用はしていますが、エノキの根元部分は捨てていました。ステーキ度作ってみよう。また、タマネギの皮は布を染めることなどには利用したことがあるけど、お茶として飲んだことがありません。これも試してみようかなあ。でも飲むのちょっと勇気がいるなあ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....

今回どうしてエコ料理を新聞のテーマに選んだのかな？ その理由なども新聞に書いてあると良かったと思います。また、それぞれの料理を作ったときの困ったこと、食べた後の感想などがあると、もっとおもしろい記事になったと思います。
また、分かりやすく大きな字で書いたことでスペースがとれなかったかもしれないけれど、「おおつか」クラブって、どこで、だれが、いつ活動しているのか、そのところも分かればもっといいなあ、と感じます。
次号もぜひテーマを絞って、楽しい新聞に仕上げてくださいね。



神楽こども園 りんごキッズさんへ
師範から一言――

りんごキッズの新聞は、一目見た瞬間、えがおいっぱいになり、楽しさが伝わってきます。もし、ろうかとかにはってあったら、足を止めて読んでみよう、と思わせる新聞です。1年を通じて、お米作りや畑で野菜や果物づくりをしているのですね。また、お米のとぎ汁を利用して、水も大切にしていることが分かります。
お世話する先生は大変でしょうが、小さいころから土をいじり、自然の恵みをいただく体験は、子どもたちが大きくなっても忘れられない経験として残っていくでしょう。

サポーターさんへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

これは、子どもメンバーへよりは、サポーターさんへのメッセージです。ペットボトルのエコキャップ活動の報告もありますが、私自身はエコキャップを集めることで環境や社会にとってよいことがある(たとえばリサイクルについて学ぶ、ワクチンに変わる)面もありますが、本当に環境によい面だけなのか考えてもらいたいなあ、と思います。
というのは、ペットボトルで売られている飲み物をたくさん買う、というのは環境にとってどういうえいきょうがあるのか、を考えてほしいからです。
私たち日本人は、水道をひねるとおいしい水が飲める国にいます(世界で水道から安心しておいしい水が飲める国は限られています)。なので、お水やお茶をわざわざペットボトルで買ってこなくてもいいはずですが、今日本でペットボトルのお水やお茶を買ってくる人が増え続けています。集めたエコキャップは、たくさん集めることを目的とするより、ぜひどんな飲み物の入っていたペットボトルのふたなのか調べてみるなど、私たちの暮らし方を考える材料にしてほしいと思いますし、ぜひ、そんな活動について次の新聞で紹介してほしいです。



[illegible]

新聞にはってある写真からエコ活動として、ゴミ拾いをしたのかな？と想像していますが、どんな活動をしたのか書いてくれた方がよいと思います。新聞は色々と調べたことをまとめることもできますが、実際に活動したことは貴重な経験です。経験しないと気付かないことも、きっとたくさんあるはずです。写真にも例えば「川でのゴミ拾い」といった説明をつけてみてください。

兵庫県姫路市 ひめじアースエンジェル
壁新聞のタイトル:川を美しくしよう！

ひめじアースエンジェル②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

新聞の上に大きく「川を美しくしよう！」というタイトルがあるので、この記事の内容やエコ活動の目的が分かりやすくてなっています。ホタルを守るために“ホタルがすめる川を守る”という取り組みがすばらしいです。川なのでホタルはゲンジボタルかな？ホタルをふやしても、自然の川をホタルが一生をくらせる環境にいじることが大切です。ホタルだけでなく、めだか、どじょう、タナゴにとっても、くらしやすい川になるといいですね！
ホタルの一生がたまご→よう虫→さなぎ→成虫であることは新聞にも書いてくれましたが、それぞれどんな環境が必要ですか？私からのホタルクイズです。

① たまごはどこにうみますか？ ② よう虫はどこでくらしめますか？
③ どこで、さなぎになりますか？ ④ 成虫が光るのは何のためですか？
いろいろしらべてくれたみんなにとっては、かんたんなクイズかな。この答えを考えることによって、ホタルがくらす川をどのように守った方がいいかが分かります。ぜひ、みんなで考えたり、調べたりしてみてください。ホタルのメスとオスは、言葉を使えない代わりに光をつかってコミュニケーションをとっています。そのため、夜でもライトで明るい場所ではコミュニケーションがとれず、オスとメスが出会うことができなくなってしまいます。ホタルを見に行く人たちのマナーとして、不用意にライトをつけないことも大切です。

新聞のクイズで、「ホタルのエサは？」とありますが、「ホタルのよう虫のエサは？」の方がいいと思います。エサとなる貝がいないと、ホタルのよう虫はくらせないので、貝にとってもくらしやすい川でなくてははいけません。これが自然の中の生きもののどうしのつながりです。これからもホタルとホタルがくらす川を守る活動を続けてください。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
トンボの一生とホタルの一生で、「よう虫と成虫のエサがかわらないので、さなぎにならない」という見方に、なるほどと感じました。なぜよう虫と成虫のエサが同じ昆虫と、変わらない昆虫がいるのでしょうか。さなぎは動けない昆虫がほとんどなので、敵に食べられてしまう危険な時期でもあります。それにもかかわらず、さなぎになる昆虫もたくさんいるのは、大きなメリットがあるはずで、よう虫と成虫でエサがかわることを考えると、よう虫のときは、短い期間でたくさんエサを食べ続けるという戦略(せんりやく)です。



兵庫県姫路市 NYAXA(ニャクサ)
壁新聞のタイトル:車と電車・ボクの提あん

28-10

NYAXA(ニャクサ)さんへ
師範から一言――

タイトルに「ボクの提あん」とあるのを見て、どんな提あんなのだろう？どんなことをしたのかな？と興味が出てきます。新聞のタイトルとしてユニークです。
車を1時間調査(ちょうさ)する予定が、10分になってしまったようですが、185台もの車を数えながらメモをとるのは大変だったことでしょう。このような調査は回数が多ければ多いほど良いデータになりますので、4か所で調べてくれたことはとてもいいことです。ところで、この調査はいつおこないましたか？調査では「いつ」「どこで」ということが大切になりますので、いつおこなったかのということが分かるように日にち、曜日、時間も書いてくれるととってもいいデータになります。場所は、国道、県道、駅前ロータリー、スーパーマーケットと書いてくれているので「どこで」がよく分かります。10人で調査をすれば、データの数も10倍になりますので、まずは一人でできることから始めてくれて良かったと思います。
きっぷの計算(大人2人、子供2人)や車のルート(ひめじ城に向かう)について、理由がはっきり書いてあることに感心しました。なぜそう考えたかということが、とても大切なことです。むずかしかったかもしれませんが、同じようにCO2についても書いた方が分かりやすくなります。

いろいろな気付きにもとづいて、さいごに提案(ていあん)をしてくれてありがとうございます。たしかにCO2の出ない車で移動すると、いいことばかりのような気がしますね。

いろいろと考えてくれたので、さらに考えてほしいことを一つ。電気自動車の電気はどこで作るのでしょうか？電気をつくるプラントの多くでは、電気をつくるときにたくさんのCO2が出てしまいます。どうしますか？また色々な提案を楽しみにしています。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

まとめてくれたデータをみると、どの円グラフも、車の色は白と黒が同じくらい多いということがよく分かります。一方で普通車と軽自動車と比べると、国道と駅前ロータリーでは普通車が明らかに多いのですが、スーパーマーケットと県道では同じくらいになっています。このように場所によってことなる傾向(けいこう)のデータになった場合は、4か所の数字を合計しないで、場所によって別々のまとめをするということも考えられます



はりまキッズサイエンスクラブのみなさんへ

師範から一言――

いろいろな先生が来てくれたり、どれもひとつひとつレベルの高い活動をしていますね。専門の人に教えてもらって学ぶ事がたくさんあるので、そのような機会があるのはとてもうらやましいです！

また、グループの目標が明確に決まっているので、活動内容が一貫していて、回を重ねるごとに学びもより深まる事と思います。

一番上に記事になっている昆虫採集。多くの種類が捕獲出来ましたね。

みなさんも整備に携わっていて、里山の環境が豊かだからこそだと思います。

私は初めてエサキモンキツノカメムシを見た時に、可愛らしいハート型のワンポイント模様を見て、ひと目でお気に入りの昆虫になって、大切にしようと思いました。

今回の活動でも、エサキモンキツノカメムシにひとめぼれした子はいましたか？

豊かな環境が続くように、これからも活動を継続してがんばって下さいね。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★.....

やはりフィールドや、つてを持った方々と協力すると、とても高度で内容のある壁新聞に仕上がりますね。

そのような活動をしている子どもたちも、おのずと環境について関心や知識がついていると思います。

里山の活動を通じて、日常でもエコな行動にチャレンジするきっかけになっているのではないのでしょうか。

この壁新聞で感じたことのひとつに、美しさがあります。

題字や記事、イラストなど PC を使って体裁を整えてあるところが、美しさを感じる点です。

新聞らしい格式高さを感じる一方で、壁新聞らしさという視点で見ると、内容もアカデミックな部分もあるため、じゃっかん固い印象を感じました。全国から送られてくる壁新聞には、ミミズがはったような字や、何だかよくわからないイラストなどもあります

が、案外そういった所に愛嬌を感じ、努力したんだなとほほえましい気持ちになる時もあります。

絵、文字、何でも構いません。手描きのアナログさ＝子どもの存在をどこかに感じられると、より楽しい雰囲気を目を引く壁新聞になるのかなと感じました。

これからも、高度な活動をがんばって下さい！



グリーンキッズさんへ

師範から一言――

みなさん、こんにちは！私は兵庫県に行った事が無いので、興味津々で読ませてもらいました。まずはイチオシにも挙げられている「甲山ウォーク」。

この甲山という所には、たくさんの植物や生きものがいるんですね！

感想の所にもみなさんが書いているのを見ると、とても印象に残った体験だったという事がわかります。

その場所に詳しい人に教えてもらえると、自然が何倍も楽しめるので、私も大好きな体験です。

他にもダンゴムシ広場の整備や緑化、公園の掃除やリサイクルなど、いろいろな事が体験出来る甲山を、読んでいるだけの私にも大切に思えてきました。

自然の楽しさや大切さが感じられる壁新聞を読ませてくれて、ありがとう！

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★.....

甲山ウォーク以外にも、たくさん体験した項目を書いていますね。

私も子どもたちと山で自然体験をするのが好きなので、今回はイチオシにはならなかったけど、きっとどれも楽しんで取り組めたんだろうと想像出来ます。

ところで「ひつつき虫やつつけ大会」など、書いてある活動から何となく「こんなような事をやったのかなあ？」とイメージは出来るのですが、この壁新聞を読んで、もっと詳しく知りたいと思った人は多いかもしれません。

それぞれの活動が、どうエコなのか？そんな所がエコなのか？それも書いてあると、読む人は「なるほどねえ～」と、もっと納得してくれると思いますよ。

また今年度もたくさんの活動に取り組んでいると思うので、次の壁新聞では一押し、二押し、三押しくらいまで、みなさんの活動を紹介してくれたら嬉しいです。



エコスマイルさんへ
師範から一言――

とっても面白い壁新聞ですね！！かるたにして活動内容を伝えるというアイデアに、ひと工夫が感じられます。
読んでいる側は、かるたを体験している気持ちになって「次は何だろう？もっと読みたい！」と夢中になってきて、気がついたら自然に全部読み終わっていました！
見出しや写真、イラストやみなさんのコメントが上手に配置されていて、見た目もきれいな仕上がりです。活動内容も、いろいろなエコにチャレンジしていて、生活の様々な場面で生かされそうですね。
ちなみに私が特に気に入った短歌は「トマト狩り たくさんとれた 旬の味 自分でとったの めっちゃうまい」「そうなんだいつも食べてる お菓子たち エコにやさしい びっくりぽん」です。
これからも、たくさんの面白い体験をして、次回作を見せて下さいね！



サポーターさんへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

この壁新聞を読んでいて楽しくなった大きな要因として、作り手側の楽しさが伝わってくる事が挙げられます。
サポーターの大人のみなさんは、子どもと一緒に体験を共有して、楽しんで活動しているのでしょう。
私も親子でイベントをする時には、なるべく大人の方が楽しんでもらえるように心がけています。
というのも、仕事を始めた当初は「親子向けのイベントでは、まずは参加した子どもが楽しんで、親も同時に楽しむもの」と考えていましたが、本質はその逆ではないかと感じる事が多かったからです。
大人が楽しむ姿を子どもは本当にしっかりと観察していて、夢中になっている大人を見て安心したり、関心を持ったり、大人につられて徐々に子どもが夢中になる様子を今までに何度も見てきました。
大人から子どもへ楽しさが伝播する事で、子どもたちの能動的な姿勢につながると思いますが、エコスマイルのみなさんはそれが実践されていると感じます。
これからも、大人が関心を持てる題材をピックアップして、サポーターと子どもたち全員が二人三脚のように一体となって、活動に取り組んでいって下さい！

和歌山県有田川町 あでやか安諦小 花と自然大好き子 クラブ
壁新聞のタイトル:花とほたる大好き子新聞 30-01

あでやか安諦小 花と自然大好き子 クラブのみなさんへ
師範から一言――

あでやか安諦小 花と自然大好き子のみなさん、こんにちは。
このかべ新聞をよんだときの第一印象は、「すごい！」の一言でした。細かくしらべ、上手にまとめられていて、中身も見たい目もすばらしいですね。
まず、花の学校プロジェクトでは、たくさんのお花をそだてていて、とてもきれいですね。自分たちでそだてた花は、きれいにさいたとき、うれしいですね。また、それを地域の方にもプレゼントすることで、すてきな地域の輪が広がっていますね。
もう一つの活動こどもホタルンジャー活動は、本当によく調べられていますね。研究者もびっくりの研究力です。私の住んでいる近所にはホタルはいませんが、このかべ新聞をよんで、ホタルにきょうみがわきました。他にも、どんな性格だろう？なぜ光るのだろう？寿命はどれくらいだろう？環境問題との関係はあるのだろうか？など、たくさんしらべてみたいことが思いつきました。これからも、もっといろいろしらべてみてね。たのしみにしています。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

壁新聞の作成おつかれさまでした。花の学校プロジェクトでの緑化活動と地域交流、ホタルンジャーでの研究など、様々な分野にチャレンジされていて、とても楽しそうですね。また、きちんと目的を持って取り組むことで、活動の意義が子どもたちにも伝わっているような気がしました。
私は、生き物や自然が好きなので、この内容にとっても興味を持ちました。そんな私はわくわくする内容ですが、生き物や自然にあまり興味が無い方はどうでしょうか。何も知らない方にも「おっ。おもしろそうだな」と思ってもらうために、かんたんに育てている花の種類や、どんな花が咲くのか、や、ホタルはどんな生きものなのか、面白かったり少し変わっている等の愛着を持てるような生態があるか、などが書いてあるとより多くの人に興味を持ってもらえると思いました！
次回の壁新聞もたのしみにしています。

メダカみ～つけ探検クラブのみなさんへ

師範から一言――

高学年がリーダーになって 13 名のメンバーで力を合わせて作ったことがよく分かる新聞です。メダカの観察、水鳥の観察、中海での生き物観察と活動を通じて地域の自然や生態系について学んだ様子がよく分かります。

「自然の神様」のタイトルがとても目立ち、またタイトルに込められた想いがまとめの中からも読み取れ、1 年間の活動からエコクラブのメンバーが何を感じたかよく伝わってきます。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

1 年間の活動を紹介することで、メダカみ～つけ探検クラブが、全体にどんな活動をしているのかはよく分かります。

ただ、みんな短い活動報告なので、この新聞を読んだ人は「たくさん活動をしているクラブだな」と思っただけで終わってしまいます。もっと興味を持ってもらうために、活動の中のひとつをクローズアップして、その時見つけたもの、学んだこと、感じたことなど細かく教えるコーナーを作ってみてはどうでしょうか。そうすることで、米子に行ったことのない人も米子の自然のすばらしさを実感できる新聞になると思います。



YONAGOジャングルエコ探検のみなさんへ

師範から一言――

1 年間に中海クルージングから登山まで、ちがった環境の地域を見て回り、いろいろな体験したことがこの新聞から伝わってきます。とりわけ、私のいんしょうに残ったのは、新幡郷発電所やソーラーパークのレポートです。

発電所のしくみや私たちの家庭にどのようにして電気がとどくのか、イラストや写真などで一生懸命伝えようとしている記者の姿が目にかびます。また、自然を体験するだけでなく、水鳥観察会の記事にあるように、白鳥の数がへったことを知り、白鳥を守るために自分たちができることがあればやってみたいと言う気持ちを書いています。いろいろな自然のおもしろさ、美しさを感じることでこんな気持ちになれると思うので、これからたくさんの自然に出会って下さい。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

タイトルの「road to eco」に込められた意味を「クラブからのメッセージ」などのコラムを作って壁新聞に書いてみてはいかがでしょう。もしくは、それぞれの活動の感想だけでなく、1 年間の活動のまとめのコラムを作ってみてもいいかもしれません。壁新聞を読んでいる人は米子の自然について知りたいと思うと同時に、みんながエコクラブの活動を通じて何を感じたか知りたいと思うのです。

それから、これは書き方のことですが、紙面のあちこちに、かわいいイラストがたくさんあり、楽しいです。でも目立たない。これらのイラストは色鉛筆でなくマジックなどもう少しはっきり分かるペンを使って書くと、その存在観がぐっと上がるにちがいありません。



それ行け中海探検のみなさんへ

師範から一言――

それ行け中海探検のみなさん、こんにちは。

みなさんは、中海のためにいろいろな活動をしたのですね。私は、中海を知らなかったけど、たくさんの生きものがいる中海に行ってみたいな、と思いました。

それ行け中海探検のみなさんは、中海に今いる生きものを守りたいと思っているのですね。では、どうやったら守れるでしょうか？どんな事をすれば、水をきれいにできるでしょうか？そんな事をグループみんなで考えてみると、いろいろなアイデアが出ておもしろいかもしれません。

ちなみに、私は家から出る生活排水(せいかつはいすい)をきれいにするために、料理をした後のフライパンや、ごはんを食べた後の汚れたお皿を、新聞紙やいらなくなった布などで拭いてから食器あらいをしています。さらに、洗剤をつかわず、アクリルたわしであらうことで、なるべく汚れや洗剤を流さないようにどりよくしています！

みなさんは、お家でどんなことをしているかな。いいアイデアがあったらぜひかべ新聞にまとめてみてね。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

壁新聞の作成お疲れ様でした。

水質調査、水生生物調査、親子ほたる観察会、ゴズ(ハゼ)つり、水鳥観察会、ゴビウス見学、中海料理作り…と、本当にたくさんの体験をしましたね！これだけたくさんの体験をすると、きっと子どもたちの中海や生きものに対する愛着も湧きそうだな、と思いました。

一言にも書きましたが、たくさんの経験をして「中海を守りたい」と思ったら、次は、どうすれば守れるのか、を考え、実践する番です。グループで話し合うと、大人が思い付かないようなすばらしいアイデアが多々出てきます。一つ一つの意見と向き合い、実践できそうなことをうながせると、普段の生活を見直すきっかけとなるのではないのでしょうか。



イオン日吉津チアーズクラブのみなさんへ

師範から一言――

イオン日吉津チアーズクラブのみなさん、こんにちは。

今回の活動では、小松菜と水菜をそだてたのですね。私も、イネ(お米)をそだてたことがあります。植物をそだてることはとても大変ですが、立派に育っていますね。とてもよいかべ新聞が かんせいしましたね。

私は、中でも「食べきれなかったから、となりの人にもわけた」という行動がすばらしいと思いました。いま日本では、食べられるのに捨てられている食べもの(食品ロス)が1年で500万トン以上あるそうです。1日に計算すると、なんと1人が毎日おにぎりを1~2コ捨てているのと同じくらいの数だそうです。みなさんのように、分け合ったりしてムダを少なくできたらいいですね。

他にも、中海クルージングをしたり、海やお魚の事も学んだのですね。私は、お魚を守るための行動として「MSC 認証(にんしょう)マーク」というのを知っています。これは、お魚をとりすぎないようにするためのマークです。気になったら、ぜひ調べてみてね。

サポーターへのとっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

壁新聞の作成お疲れ様でした。

イラストや写真が多く使われていたり、子どもたちの感想が書かれていたり、とても楽しい体験だったことがうかがえます。とても楽しそうな雰囲気が伝わるのですが、もう少し、環境とのつながりについてふみ込めると、より内容の濃い壁新聞になると感じました。例えば、なぜ農業体験や中海クルージングをしたのか、や、その活動をすることで環境にどのような変化があるか、を記載したり、活動に参加した子どもたちはどんな学びがえられるか、活動を通してどのような感情や意見を持ってほしいか等を決めておく活動がしやすいと思います。(私は、普段、環境問題等に関するプログラムを作っていますが、必ずゲーム等の遊びにも目的を設定しています。そうすることで、自分はどんな話をしたら良いのか、どのように伝えたら分かりやすいのかが明確になるのでおすすめです！)

活動の一つ一つに意味を持たせることで、教える側も子どもたちも、より学びが深まるのではないのでしょうか。



福米東小学校エコクラブ(福米東小エコ隊)のみなさんへ
師範から一言――
福米東小エコ隊のみなさん、こんにちは。地元の中海をきれいにするにはどうしたら良いか、と具体的なアイデアがたくさん出ていてすばらしいですね。
中海にかぎらず、昔に比べるといろいろな場所の川や海が汚れてしまっていて、とても悲しいですね。でも、そこにすむ生きものは、きっと、もっと悲しいだろうと思います。そんな、動けなくて言葉も話せない生きものの代わりに、福米東小エコ隊のみなさんが声を大にして、この問題を地域の人や日本中の人々に投げかけてほしいな、と思いました。
私も、このかべ新聞を読んで、今の自分の生活をもう一回見直して、自分に出来るエコアクションをしようと思いました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞の作成お疲れ様でした。中海の現状を知り、子どもたち一人一人が水をきれいにする対策を具体的に考えられていて、とても良い活動だったと伺えます。
私は、普段小学生やその親を対象とした環境に関するプログラムを企画することが多くあります。その時に感じることは、意外と大人の方も環境問題を知らないという事です。
そこで、たくさんのエコに関する知識をえたみなさんには、ぜひ大人向けや、地域の方向けに発表会をやってほしいと思いました！福米東小学校のみなさんの切実な思いにきっと大人も心動かされ、中海をきれいにしようと思う人がふえるのではないのでしょうか。
ぜひ、これからもこの活動を続けてほしいと思います。いつか、中海がきれいな姿を取り戻せますように。応援しています！



上津探検隊のみなさんへ
師範から一言――
新聞中央下にカエルランドの活動が載っていますが、なんと合計49回に達しています。それと新聞の下の方に、きちんと文化祭で発表する姿がレポートされているのはすばらしいことです。成果を発表していろんな人に知ってもらうのは大切なことです。特にヤマアカガエルとモリアオガエルの初産卵日と卵のかたまりの数を9年間も数えているのはすばらしいことです。また、卵のかたまりの数が減ってきていることを見つけ、天敵のせいではないかと推測しています。さらに卵を増やすためには、天敵を捕まえて川に逃がすことやイモリが嫌いなぬるい水にすることだと方策についても考えています。
記事のひとつひとつをまとめているのはとても良い工夫です。その上で保全対策を考えているのは自然の構造をよく理解しているからです。35名のクラブ員と15人のサポーターが支えていることが、活動の充実につながっているのではないのでしょうか。どうかこれからも続けて活動して下さい。



サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★
これは新聞のどの記事にも言えることですが、記事の小見出しの文字をもう少しいねいに書くと目を引くのではないのでしょうか。
記事の内容はいいので、山でクワガタムシを見つけた感動が伝わってきますね。集合写真もよくできています。小見出しが少し乱暴に書かれているので、減点することになります。
ちょっと残念なのは文化祭の写真と文字が離れていました。これは、オーソドックスな作りにして、記事と写真が一体の方が理解と感動を伝えることができると思います。一体化することによって自然活動の感動をまとめて伝えることができると思いますよ。

岡山ハッケンジャーのみなさんへ
師範から一言――
まるでどんぐり図鑑のようなすばらしい壁新聞です！！どんぐりに関する歴史、料理、種類、成長、どんぐりに関係する動物や昆虫をこれだけ詳しく調査した結果を記事にしたことはおみごとです！！
みんなことを「子どもどんぐり博士」と呼ばせて下さい。スダジイのどんぐりクッキーの可愛いレシピはとてうまく作ったね。クッキーはちょっとたんぱくな味だったかな。ご飯とパンはどのように料理して、どのような味だったのかな。これらもたんぱくな味だったのかな。縄文人のどんぐり食についてとてうまくまとめたね。縄文人はスダジイと同じようにマテバシイも主食にしていたそうだよ。「子どもどんぐり博士」なので、もう知っていると思うけど、どんぐりを利用する虫はゾウムシだけでなくハイイロチョッキムシもいるよね。この虫のちがいを調べるとおもしろいと思うよ。その他の活動の「生きものハッケンずかん」、「田んぼの1年」、「カナちゃんの Baby」と「岡山県のタンポポ」の記事もきょうみ深い、とておもしろい内容だね。
次回の壁新聞では確認した7種類のタンポポの名前を教えてください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
どんぐりのお遊びについての記事があると壁新聞の読者にもっとよろこんでもらえたかも知れないね。また、近年、どんぐりの不なり年にはクマによる人間の被害が多いので、「熊出没注意」の記事は大きく書いた方がよかったかも知れません。

わくわくエコクラブのみなさんへ
師範から一言――
わくわくエコすごろく新聞、とても楽しい新聞です！！すごろくのそれぞれのますめにエコな環境活動がたくさん書かれており、とてくわしくしらべたなどかんしんしました。また、ゴールしたお友達に「ゴールした人は今年自分でできるエコなことをいってね」とお願いは非常によいアイデアだと思います。
加茂川での生きものしらべやゴミひろい、自然教室で昆虫の標本作り、山菜さがしやカブトムシ幼虫さがし、ホタルの観察調査、米作り体験などのいろいろな環境活動はとて時間がかかり、大変だったと思います。おつかれさま！！でも、それぞれの活動では新発見や不思議があり、楽しかったことがみなさんの壁新聞からじゅうぶんにつたわってきましたよ。すばらしい思い出になったね。次回の壁新聞をわくわくして待っていますよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
わくわくエコすごろくに参加したお友達の感想があればよかったと思います。みなさんの環境活動へのチャレンジはまだまだたくさんあり、たとえば、みなさんが大好きな加茂川で見つけた生き物の種類、場所、数などの報告も大切だよ。加茂川を環境を守るために、これらはとても重要なデータになり、さらにこれらの環境活動をひきついでくれるお友達にも大切なデータになるからね。

加美っ子エコクラブのみなさんへ
師範から一言—————

6月5日の土づくりから10月9日のあとかたづけまでのゴーヤのきろくが、ゴーヤという一つのテーマにしたことで、とてもわかりやすく書かれている壁新聞です。あいじょうたっぷりのりっぱな緑のカーテンのかんせい、おめでとう!!!

また、ながいあいだゴーヤをがんばってお世話してくれてありがとう!!! すばらしい“ゴーヤ壁新聞”だね!!!

ゴーヤがそだつためには、太陽のひかり、にさんかたんそと水の三つがさいていひつようなので、とくに夏休みに先生がゴーヤに水をやったことによって、葉っぱやつるが大きくせいちょうして、そして黄色い花がさいたことで、ゴーヤにとって水がたいせつであることがとてもべんきょうになったとおもいます。

みなさんよりもずいぶん大きくなった緑のカーテンのおかげで、図書室のおんどもさがり、ちきゅうのためにとてもやくにたったとおもいます!!! えいようまんてんのゴーヤジュースづくり、たのしそうですね。10月9日にみんなでいっしょにゴーヤのあとかたづけもしたことはとてもりっぱなことですね。このあとかたづけで、みなさんはちきゅうのためにやくにたったゴーヤにこころからかんしゃしたことでしょう!!! また、らいねんもみなさんがだいすきなちきゅうのためのゴーヤづくりにがんばってください。

とっておきのゴシドウ★……★

つぎの壁新聞では、図書室のおんどがどのようなったかのきろくをとってほしいとおもいます。

また、たねからゴーヤをそだてたり、ゴーヤりょうりのこともほうこくしてくれるとうれしいな。楽しみにまっているよ!!!



めだかの学校のみなさんへ

師範から一言—————

めだかの学校の活動も17年目とのこと。こういう活動は継続していくことで精度もあがり、また貴重なデータとなるのですが、実際に継続して、となるとむずかしいのか、短い年度で終わってしまうことも少なくありません。そんな中でこれだけ長い間活動し続けていることは、とても貴重なデータを収集できたことであり、今後の保護活動にも大きく生かされることと思います。

見つかった生き物の中には、かなり希少なものも含まれています。いつまでも希少な生物もすめる芦田川であり続けてほしいものですね。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

新聞は色使いも見やすく、内容も濃いものだと感じます。ただ、新聞を読む人は、何か目玉となるものを期待したりします。そこで、「今年のお話」のようなコーナーを作り、何かひとつの話題を大きく取り上げてみてはいかがでしょうか。

みなさんが全国の読者に向けて訴えたいことでもいいし、芦田川の様子でもいいし、思わず読んでみたくなる内容を期待しています。



ホタルと共に暮らし隊のみなさんへ
師範から一言――――

ホタルと共に暮らし隊のみなさん、こんにちは。とてもたくさんの活動をしましたね。私も普段からなるべく4Rを意識して生活をしています。中でも私は「リデュース」を大切にしています。そもそもごみを減らすことが出来れば、リサイクルや処理に掛かるエネルギーや金の節約になります。みなさんも、日常生活の中でぜひ意識してもらえたらうれしいな、と思います。

上記の理由から、食品ロスに注目をしていることにとっても嬉しく思いました。壁新聞にある食品ロスを無くすための取り組みはとても面白いし、ぜひ他の学校など日本全国へ広めて欲しい活動だと思いました！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。
今までの活動を踏まえていることで、4Rの重要性がとても上手にまとめられていると
感じました。また、給食の食品ロスについて調べたことも、身近な4R活動としてとても
参考になる壁新聞であったと思います。
とても読みやすくまとめられています、子ども達の手書き部分があると良いと思いま
す。新聞のような堅苦しさもある印象です。より多くの人の目にとまるよう、手書きのイラス
ン。
とてもレベルの高い壁新聞のため、次回も楽しみにしています！



香川県高松市 シオンエコサイエンスクラブ
壁新聞のタイトル:水調べ新聞

フェス参加辞退 37-01

シオン・エコサイエンスクラブのみなさんへ
師範から一言

シオン・エコサイエンスクラブのみんなが書いてくれた水調べ新聞を読みました。うれしかったこととして、メダカを見つけたこと、たくさんいたことですね。みんなが住んでいる所は、まだメダカがいるのですね。日本の各地でメダカがいなくなったと悲しんでいる子供たちがたくさんいます。メダカがほろびないように自然を守ることがだいじですね。メダカの卵を食べるカダヤシもいるようで問題ですね。カダヤシは北アメリカ原産で日本でも外来種として分布を広げているようですね。カダヤシを捕まえてみんなはどうしているのですか？私が住んでいる川崎の多摩川では外来種だけを生かしておく池を作って、そこに多摩川でとれたブラックバスやピラニア、外来種のカメなどを飼っています。多摩川は外来種の宝庫になってしまったので、アマゾン川にちなんでタマゾン川とも言われています。ということでみんなは外来種のカダヤシはどうしているのですか？とれた川にはもどせませんよね。

うれしかったことの二つ目は、早明浦ダムのそうじをしてきれいになったことですね。ダムに限らず、部屋などをそうじしても、きれいになると、ヤッターっとなってすっきりしますよね。やりがいがあったと感じました。とても温かい気持ちになったとのこと良いことをしました。その後、よごさないようにしてほしいですね。みんながそうじをしているところを大人などほかの人に見てほしいですね。見た人はたぶん、ごみを捨てるなどよごさないと思います。

色んな生き物と出会いました。さわがに、キノコ、大きなみみず、大きなかたつむりにも出会った。例えば、先日テレビで見たのは、ニュージーランドにいる 10cm 位のカタツムリでした。ミミズがた。日本には、そんなカタツムリはいませんが、世界にはビックリする生き物がいろいろいます。川や水路には、ペットボトルや空き缶、釣り針やリール、それにごともあったのですね。どうし念ですね。みんなが住んでいる所に限らず、日本のいろいろな川や水路などにポイッと捨てて捨てられたごみが海に流れ着いて、海の生き物に悪いえいきょうを与えています。



香川県高松市 シオンエコサイエンスクラブ 壁新聞のタイトル:水調べ新聞

たとえば、レジぶくろが海にいくとウミガメがエサのクラゲと間違えて食べようとします。レジぶくろがのどにつまって、カメが死んでしまうこともあるようです。釣り糸は鳥の足などにからみついて、鳥が困っているようすも良くあります。ごみで川や水路や街がきたなくなるだけでなく、生き物にも悪いえいきょうがあるので、ぜひ、ポイ捨ては止めてほしいですね。

一番悲しかったのは、除草剤をまかれたことですね。除草剤が川や水路に流れて、水質がとても悪くなるだけでなく、生き物にも大きな悪いえいきょうが出ていました。ザリガニがたくさん死んでいたようですね。除草剤は雑草を枯らしたり、死めつさせる力があるということは、ほかの生き物にもとても悪い作用を与えます。もちろん、たくさん吸ったり、口に入ると人間にもとても悪いえいきょうがあります。このような除草剤は、すぐには分解しないで土の中に残って、雑草が生えないようにするのでしょうが、それによって土の中にいるみみずやダンゴ虫、かびやだになどの小さな生き物も死んでしまうのでしょう。土の中にこれらの小さな虫がいるので、良い土になり、草や木が大きくなります。除草剤によって土も死んでしまうのですね。除草剤を使わないで雑草を除くことはできないのでしょうか？みんなはどう考えますか？そうです！薬品を使わないで人間の力で、あるいは機械の力で雑草を除くことができます。川や水路や生き物、自然を守るために人間ができることはたくさんあると思います。シオン・エコサイエンスクラブのみんなは、1年間に水調べだけでなく、リサイクル工作や光触媒スプーン作り(光を当てることでよごれが取れるのかな？)、色素増感太陽電池作りなどたくさんの活動をしたようですが、壁新聞としては水調べにしぼって記事を書いてくれました。そのおかげで分かりやすい新聞になっています。

来年はどんな新聞が来るのか、楽しみにしています。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

メダカを見つけたよ！掃除をしたらすごいきれいになったよ！色んな生き物と出会えたよ！などの明るい、うれしいニュースがありました。しかし、残念な、ショックなニュースもありました。除草剤がまかれて水質がとても悪くなったよ！ザリガニがたくさん死んでいたよ！空き缶やペットボトルなどのごみがたくさんありましたよ！などなどみんなが1年間、水調べをやって見つけたことがありました。そんな、目に見えることとは別にみんなが調べたのは、サイエンスクラブの名前に負けないように水のpH、透視度とCODという難しい分析をやりました。小学6年生にはちょっと難しいpHやCODの測定にチャレンジしました。2年ごとに調べているようですが、毎年調べるともっとよく変化が見えると思います。2年ごとに調べるのはどういう理由ですかね？CODの測定はちょっと気を付けないと測定の数値がおかしくなってしまいますね。たとえば、水の中に指が入ってしまうと数値が高くなってしまいますので、指が入らないよう気を付ける必要があります。みんなはそういうことはよく知って調べていると思います。

香川県高松市 シオンエコサイエンスクラブ 壁新聞のタイトル:水調べ新聞

pH、透視度、CODの測定を、2001年から2015年まで継続して調べていることは、とてもすばらしいです。続けることによって、見えないことも見えてきます。水質調査の結果を見てみると、詰田川、宮川、ため池、出水の水質が2008年ごろから悪くなっているように見えます。2015年の調査結果でも昔と比べると悪くなっているようですね。これはどうしてでしょうか？

水質が変化した原因は、何か思い当たることがありますか？原因をつきとめるためには、川などの周辺あるいは上流に行って、工場が増えたとか田んぼがどうなったとか、上流の川にごみが増えたとか、変化を調べることも必要になってきます。このような調査もやるとみんなの水調べも一歩上のクラスに進歩したことになるでしょう。

そのような調査をする時の大事なことは、あらかじめみんなで予想される原因を考えてから調べに行くことがだいじです。そのような原因を考えずに調べに行くと、見えるものも見えなくなります。

見る、観察することのポイントは、何を見るかをあらかじめ、しっかりとしぼっておくことです。その時にだいじなもう一つの点は、いろいろと見て、観察する時に、見えることは何でも忘れないように記録しておくことです。自分たちが考えたこと以外の発見があるかもしれません。自分たちが考えたこと以外の発見の方がおもしろいこと、すばらしいことやびっくりすることがあります。ノーベル賞を取った人たちの発見もぐうぜん見つけたことと思ってもみななかったことをしっかりと見ていたことがノーベル賞級の発見につながっています。

★☆加藤代表サポーターさんへ☆★

壁新聞をこどもたちが書いてくれると、また一段と味のある新聞になりそうだと思いますが、どうでしょうか？(壁新聞師範の岡本正義から)

エコサイエンスクラブのみなさんへ
師範から一言――

エコサイエンスクラブのみなさん、こんにちは。
クラブ名の通り、科学的な実験をしていて、目の付け所がとても面白いな、と思いました。虹を作ったり、ソーラーカーを作ったりとても楽しそうですね！
私も、ソーラーカーを作って走らせたことがあります。なんで太陽の力で車が走るんだろう？ソーラーパネルの仕組みって、どうなってるんだろう？こんなにうすいのどこで発電をしているんだろう？と、調べたいことがたくさん出てきました。きっとみなさんも、活動を進めていく中で「なぜ？」「なに？」「どうして？」が生まれてくると思います。そんなときに、身の回りの人に聞いてみる、インターネットで調べる、専門の会社や施設に連絡して聞いてみる、など調べる方法はたくさんあります。疑問を解決できるのって、とても達成感があるので、疑問が生まれたときはぜひ調べてまとめてみてください！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
壁新聞の作成お疲れ様でした。

一言にも書いた通り、他には無い視点での切り口に、壁新聞への期待が高まりました！
内容もとても面白そうなものばかりで、たくさんの実験ができる子ども達の環境をとてもうらやましくも思います。
これだけ多くの実験をしていると、今起きている環境問題を解決する策をもしかしたら思いつくかもしれません。子どもたち同士で考える機会を設けることで、次へステップアップするチャンスが生まれます。
ぜひ、そこで出た意見や質問を壁新聞に書くことにより、より良い壁新聞になるのではないのでしょうか。

愛媛県新居浜市イオン新居浜チアーズクラブ
壁新聞のタイトル:めだまっち新聞

イオン新居浜チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

イオン新居浜チアーズクラブのみなさん、こんにちは。
一年をとおして、とてもたくさんの活動にとりくんだのですね！たくさんの自然や生きものとふれあうと、知らなかったことをいろいろ学べるのでとても良い時間がすごせますよね。
みなさんの活動が、どのように地球や身の回りの環境に良いのか考えながら取り組むと、もっともっと良いものになると思います。また、全員が共通の意識をもって活動に取り組めていることもすばらしいと思います。
みなさんは、今地球に優しい人になるための第一歩を踏み出しています。自分たちが活動を通して学んだことを家族や友達、地域の人、他校の人…と、どんどん広めていけると良いですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。
活動を通して、子ども達がたくさんの刺激を受け、学びにつながっていることがよく分かりました。
楽しそうな様子から、とても有意義な時間を過ごしているのだらうと思います。
とても良い活動ですが、この活動をするのはなぜ地球に優しいのか、どこが地球に優しいポイントであるのかを記載できると良いと思います。いくつかグループを作り、「なぜだろう？」と話し合ってみても、様々な視点を持つことができるでしょう。そうすることで、読み手の方にも活動の意義が伝わるのではないかと思います。
次回の壁新聞も楽しみにしています！

えひめグリーン eco クラブのみなさんへ

師範から一言――

えひめグリーン eco クラブのみなさん、こんにちは。

北条地区には、たくさんの自然があるのですね！私の住むところの近くには里山が無いので、ひみつきちをつくったり、とても楽しそうだと思いました。

いきなりですが、みなさんは、「大切な人」と聞いてだれが思いうかびますか？その頭にうかんだ人にいじわるしてやろう、とか困らせてやろう、とは思いませんよね。それと同じでみなさんが遊んだその自然も「大切な地球」の一部として愛着を持てたら、きっとこれからの活動も楽しくなると思います。

好きなものやひとに、愛着を持って守り続けることは、少しむずかしいですが、とても大切なことです♪

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。

北条地区の自然と子供のうちからふれ合う体験はとてもすばらしいことだと思います。

せっかくの体験なので、子どもたちでグループを作り、この体験(活動)をすることで、どのように地球に優しい効果をもたらすか、この活動をしてどんなことを学んだかを話し合ってみると良いかもしれません。

様々な視点から見る意見が出て面白いですよ！



レインボーキッズのみなさんへ
師範から一言――

レインボーキッズのみなさん、こんにちは。
この壁新聞を見たとき、楽しそうな内容で、とてもワクワクしました！また、めく
るようにしたり、カラフルな色使いで読みやすさも工夫されているところがすばらし
いと思います。
レインボーキッズのみなさんが、たくさんの活動を楽しみ、たくさんの環境や生き
ものについて学んでいることがよく分かりました。特に、今年の大発見は、これ！
を読むと、「そうなんだ！」と思うこともあり、もっと地球温暖化や環境破壊を深刻
にとらえ、地球を守っていきたいと感じました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。
とても多くの活動に取り組み、多くの学びを得ていると感じました。子どもたちそれぞれが活動の内容をしっかりと理解し、
自ら考え、新聞にまとめられており、とてもすばらしいものとなっています。
現段階では、「身近にこんな生きものがある、こんな自然がある。そして、このような問題が起きている。」というところまで進ん
でいます。更なるレベルアップをめざし、その問題の解決策を話し合ってみてはいかがでしょうか（例えば、ナゴヤダル
マガエルはどうしたら生息できるようになるか、などです）。
そうすることで、自分に出来る取り組みがより明確になり、自分が実行することはもちろん、他人へ伝える役割もできるようにな
ると思います。そんなエコアクションへの取り組みが期待できるので、ぜひ実践してみてください♪

フジこどもエコクラブこうちのみなさんへ
師範から一言――

フジこどもエコクラブこうちのみなさんは、田植えやいねかり、紙すき、おとまり合宿のウォー
クラリーにカヤック、鏡川まつりにエコクッキングと、たくさんの活動について、かべ新聞にま
とめてくれました。盛りだくさんでスゴイ！
内容ごとに色紙にまとめてあり、とても見やすいです。いつ、どんなことをしたのか、とても
良くわかります。それに、みなさんとても楽しそう！一緒に活動をしたくなりますね。
自分たちで田植えやいねかりをしたお米でつくったおにぎり、ほんとうにおいしいそう！みんな
で作って食べると、かくべつの味がしますよね。それに、お弁当をつくってくれているお母さん
のことを考えた、やさしい気持ちがステキです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

活動のようすがとてもよくわかる写真に、みなさんの感想がたくさん書いてあるのが、特にとても良いと思います。感じたり考え
たりすることを大事に活動されていることが伝わってきます。
紙すきの記事をめくったところに「説明&感想」を書いてくださっています。説明と感想が両方あると、なるほど～、と良くわかり
ます。他にも、いねかりの時に「もう少し下からかろうね」と教えてもらったことなど、活動をする中で「発見したこと」がたくさんあ
ると思います。
活動して発見したこと、考えたこと、感想などを、かべ新聞だけでなく他にもお家の人やお友達に伝えて、エコの輪を広げていっ
てくださいね。

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリンのみなさんへ

師範から一言――

森を守るためにいっぱい活動をしてきているハッピーコロリンのみなさんの「山が大切、森を守るぞ」という気持ちが、壁新聞からあふれ出してくるようです。文字が多いけど読みやすいのは、全体のデザインが良いことと、みなさんがいていいな字を書いているからでしょうね。

昔は緑いっぱいだったけど、今は土がむきだしになってしまっているみやびの丘で、ブナの森を守るために、6年間も活動が続けてきたとのこと。種から苗を育てたり、植樹をしたり、稚樹をネットで守ったり、ブナの根をヤシのマットで守ったり、間伐をしたり。大人顔負けの活動内容で、すばらしいと思います！

どの活動も、わかりやすく、くわしく書かれていますね。たとえば間伐では、木が「バキバキ！」と音を立てて倒れることや、森の中が明るくなるなどの様子が良くわかります。壁新聞を作るために、いっぱい話し合ったとのこと。みなさんの中に、伝えたいことがたくさんあるからでしょうね。書けなかったこととかもあったかもしれませんが、とってもステキな壁新聞に仕上がっていますよ！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

「物部川 VS 新改川」では、それぞれの川のことを比べていて、わかりやすいですね。「比べる」って良い方法だと思うので、みなさんが活動をしていて面白いことや発見したことがあったら、何かと「比べてみる」ということを、ぜひやってみてください。新改川の遊び方の紹介があるのが、とっても良い！ 壁新聞を見た人が、なるほどと思うだけでなく、実際に新改川に行って遊んでみようかな、という気持ちになりますね。川だけでなく森の中など、みなさんのおすすめの遊びがあったら、ぜひ教えてください。

これからの活動で、予定ややりたいことが書いてあって、ステキですね。たくさんの人に森のことを伝えて、活動の輪が広がっていくと良いなあ。それから、みなさんの活動をまとめた本、作れるといいですね。私も読みたいです。応援していますので、ぜひがんばってくださいね！

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ミドレンジャー

壁新聞のタイトル: みどレンジャー、自然を知る!! エコな知恵を学ぶ!! 自然をまもる!! みんなに伝える!!

エコマーク賞 39-04

香美市こどもエコクラブ みどれんじゃーのみなさんへ

師範から一言――

みどレンジャーかべ新聞は、4年生、2年生、幼児の3兄弟が1年間をとおして、かつどうしてきたエコかつどうをまとめました。そして兄弟でどのような新聞にするかも考えてかべ新聞を作りました。どんな活動をしたかを後でも書きますが、こんなにたくさんの活動をしたこともビックリしましたが、とてもわかりやすい新聞を作ったことにもビックリし、すばらしい活動をしたことと新聞を作った3兄弟に大きなはくしゅ、はくしゅを送りたいと思います。

四万十川と南国市の黒たきにしか生えていないせいらんでのりづくりをしました。いい香りがして、食べてもおいしかったのだらうと思います。自由研究としてまとめたらとてもすばらしい賞ももらえて良かったですね。みんなに自然のすばらしさを知ってもらうこともできたようです。きちょうな川のりのようですから、とりすぎないようにして、みんなでだいに育てたいですね。

山を守る活動でしかが木の皮を食べないようにラスマキのネットをはったり、修理しました。エコクラブでやってきたことなので、学校の総合授業では、みんなをしどうすることが出来たようです。山を守るためにみんなが考え、アイデアを出し合って力を合わせるのがだいじであることも勉強できて大変すばらしい活動になったと思います。

恒吉家新聞を作り、家でやっている節電の工夫と実際にどのくらい電気を使わなかったかをグラフにまとめました。節電の工夫: 電気をこまめに消す、つけっぱなしにしない、冷凍庫の開けしめ回数をへらす、くらくなったら早めにねる、すばらしいことに気づいて、実行したのです。グラフにして電気料金がちゃんとへったことが一目でわかりました。お金が節約できましたが、節約できたお金はみんなのおこづかいになったのかな? 恒吉家新聞をクラスのみんなだけでなく、参観日にもろうかにはって、お父さん、お母さんたちにも見てもらいました。とっても良かったですね。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ミドレンジャー

壁新聞のタイトル:みどレンジャー、自然を知る!!エコな知恵を学ぶ!!自然をまもる!!みんなに伝える!!

エコクラブのなかまともエコ活動もたくさんしました。

エコクッキングをしました。1 回目はぎょうざやあえものを作りました。料理道具は竹を使い、そしてごみを出さないように気をつけました。2 回目は野草の天ぷらを作りました。野草を料理にすることで、ひりょうや農薬を使わないことと地しんなどのさいがいの時にも食料をかくほできるというすばらしいことに気がつきましたね。料理を作るだけでなく、環境や、さいがいなどのことも考えているのはすばらしいです。みんなおいしそうに食べているようすが写真でよくわかりましたよ。

舟入祭りと呼びかけようの竹のプランターとえんぴつを作りました。太い竹をのこぎりで切っていますが、うまく切れましたか？のこぎりの使い方は日本とヨーロッパではちがいですね。日本ではのこぎりをひく時に力を入れて切りますが、ヨーロッパではのこぎりをおす時に力を入れて切るようです。小枝のえんぴつ作りもやったようですが、字を書くしんをどうやって小枝の中に入れたのかな？むずかしそうですね。竹の切りかすのごみはまきストーブでもやしました。最後までエコですね。えらいなー！

自転車のペダルをこいで、電気のペンキょうをしました。電球をたくさんつけようとするとうペダルがすごく重たかったです。LEDの電球は、軽くこいでもつけることができたのではないですか？LED電球は、とてもエコであることが分かりましたね。それと電気をつくることがとても大変であることをじっかんできましたか？恒吉家では、なるべく電気を使わない生活をしているので、これからも続けていこうと考えたのは、すばらしいですよ。

山もをしぼり、さとうとお酢とみかんのしぼり汁をいれて煮ると山ももジュースが完成です。私はのんだことはありませんが、この作り方と写真を見ただけでもとてもおいしそうなのはよくわかります。ジュースだけでなく、いろいろな自然の実を使ってゼリーやジャムも作ったようで、食べてみたいなー、のんでみたいなーと思います。私もさくらんぼ、みかん、ゆすらうめが庭でとれますので、ジャムを作って毎朝のパン食に使っています。自分で作ると特別においしいですね。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ミドレンジャー

壁新聞のタイトル:みどレンジャー、自然を知る!!エコな知恵を学ぶ!!自然をまもる!!みんなに伝える!!

家族でエコ活動もたくさんやっていますね。

火うち石をつかって火おこし体験をしました。マッチやライター、電気などを使わないエコな火おこしをしましたね。かんたんに火がつけましたか？けっこう、大変だったのではありませんか？写真で手に持っているのは何だろう？

畑で育てたじゃがいもをポテトにして食べました、いっしょに畑に生えていたよもぎも天ぷらにして食べたのですね。おいしいよ！グー！ということでVサインを出していますね。いっしょにお父さんも食べたのですね。おかずでおぜんの上はいっぱいですね。いいなー！

私も庭の畑でじゃがいもを育てました。ミニトマト、ナス、ししとうなども植えました。今、12 月ですが意外にもミニトマトはまだ元気に育っていて、赤い実がなりますので、畑でつまんで食べています。しんせんなトマトですよ。

山のぼりをして、とちゅうにあったへびいちごの実で虫さされの薬を作りました。いいことを教えてくれました。私もトライしてみようかなと思います。自然はいろいろなことを教えてくれる、いろいろなことに使える宝物ですね。

今回は車を使わないで、汽車に乗って海に行きました。これはエコです。車のはいきガスは、地球温暖化のもとや健康の害にもなるので、できれば乗る回数をへらしたいですね。でも海岸ではたくさん歩いたようです。歩いてみるとごみがいっぱいあるのが問題だと気づきました。川から流れついたごみがたくさんあります。レジふくろは、クラゲににているのでうみがめがまちがって食べてしまいます。にづくりのプラスチックテープはあざらしやオットセイの口にちょうどぴったりの大きさであり、口が開けられなくなって、エサを食べられなくなり、困っています。昔はプラスチックはなくて、木や布、紙などのごみでした。このようなごみは自然の中でこわれてしまうので、時間がたつとなくなりましたが、プラスチックは自然の中ではこわれないやっかいなごみです。

里山体験をしてお年寄りの人から昔の知恵をたくさん教えてもらいましたね。昔は今のよう物がほうふにはありません。したがって、身のまわりの物をくふうして使ったり、自分がひつような物は、自分たちで作っていたのだと思います。

自然にやさしい農業を見学しました。自然にやさしいとは、化学肥料を使わずに有機肥料を使うこと、害虫の天敵の虫が住めるように、天敵の虫が好きな植物を育てる、ハウス栽培のためのだんぼう用に石油ではなく木質ペレットを使うことです。木質ペレットを燃やす機械を市がプレゼントしてくれたそうで、市が自然にやさしい農業をおうえんしているのですね。化学肥料を長い間使っていると、土の中の小さな生き物では分解できない肥料がたまって土が悪くなります。植物(ナス)が使わなかったあまった有機肥料は土の中にいる小さな生き物が分解してくれるので、土が悪くなりません。小さな生き物にとっては、有機肥料がエサになるのでたくさんふえます。そうするとそれらの生き物を食べる虫などがふえますので、自然にやさしい農業では、虫もたくさんいます。ですから有機肥料はエコなのです。

みどれんじゃーの活動はとてもはばひろく、いろいろなことを1年間でやりました。とってもビックリしました。これらの活動を楽しんでやっているのもすばらしいです。楽しんでやることは、長続きするひけつでもあります。

また、来年はどんなすばらしい発見があるか楽しみです。

ちっちゃいこどもでも、こんなすばらしいエコ活動ができますという見本です。日本全国のこどもたちに見せたいと思っています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

エコなりサイクル工場のエフピコを見学しました。1960年代にスーパーがふえてトレーのごみもふえました。エフピコは「これはいけない」と思ってトレーを回収して、もう一度トレーとして使えるようにしようと考えたのですね。東京や神奈川県のスーパの出口に牛乳パックとペットボトルの回収箱とならんで食品トレーの回収箱があります。高知県のスーパーにもありますか？食品トレーがどんなものにリサイクルされるかわかると、食品トレーを回収箱に入れようと思う人がふえると思います。食品トレーはエフピコでは、また食品トレーにリサイクルしていますが、シャープペンやけいこうペンなどのぶんぼうぐにリサイクルしている所もあります。自分が持っているぶんぼうぐに、何からリサイクルされたかを書いてあるものもありますので、注意して見て、さがしてみると良いと思います。

香美市こどもエコクラブ なかよしエコクラブのみなさんへ

師範から一言――

なかよしエコクラブのみなさん、こんにちは。みなさんは、地球を守るたくさんの行動に取り組みましたね。そして、その体験を通して、色々な地球を守る方法を学んだのですね。なかよしエコクラブのみなさんのかべ新聞を読んでいると、様々な省エネ方法があるんだな～と私もとても勉強になりました。しかも、イラストや写真も使われていて、読んでいてわくわくするかべ新聞でした。

私は今、東京にすんでいるので、みんなのすむ香美市と比べると、自然はとても少ないと思います。少ないながらも、私の職場ではビオトープという野生の生きものがくらす場所を作ったり、都会ならではの省エネをしたりしています。自分のすんでいる環境によって、その場所にあったエコや省エネに取り組んでいけるといいですね。

これからも、みなさんの活動をおうえんしています！また新たな活動をしたら、かべ新聞で教えてね♪



サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。子どもたちの「地球を守りたい」という気持ちや、活動に楽しんで取り組んでいることが分かる、とてもレベルの高い壁新聞だと感じました。活動の意義を理解して取り組めているので、きっと多くの学びや気付きがあることでしょう。

より良い壁新聞にするために、読者目線に立って書くことを意識してみると良いかもしれません。今もとてもレベルの高いものですが、それぞれの活動がどう環境に配慮されたエコな活動なのかが記載されていると、「だからこの活動をする意味があるのね」とあまり環境に知識が無い方でも納得してもらえそうです。(例えば、植樹をしないとどうなるのか、逆に植樹をするとどんなメリットがあるのか、などです。)みなさんなら、よりレベルの高い壁新聞が作れると思いますので、ぜひ頑張ってください♪

香美市こどもエコクラブ Happiess のみなさんへ
師範から一言――

Happiness が作って、送ってくれた壁新聞「ぼくらが守るぞ！希望の山を」はとてもすばらしい新聞になっています。それと Happiness のメンバーの活動のすばらしさがあふれ出ています。

何がすばらしいかと言いますと、一つには、多くのこどもエコクラブの活動は、1年間を通していろいろな種類の活動を行っていますが、Happiness の活動は山を守り、森林を守ることに焦点を絞って、1年間、そして長い間活動を進めてきたことです。森づくりは1年で結果が出るものではありません。必然的に長い年月をかけて森づくりをして、その結果山が守れるのですね。そのことを十分に知っている Happiness のメンバーのあきらめない、しゅうねんを持った行動力に拍手！拍手です。

二つ目のすばらしさは、写真で活動のようすを知ってもらうだけでなく、絵を描いてくれたのが良いですねー。こども達がみんなで力を合わせて、依光先生の指示、アドバイスで森づくりをしているようすがよく分かります。ヤシのマット張りをしています。一番大変なペグ打ちをしています。急な斜面でマット張りは、すべて大変だったようですね。そんな中で依光先生が「ブナの根は浅くて広い範囲に広がっているから、根のあるところに全部マットをしきなさい」とブナの木の実験もしてくれましたね。

三つ目のすばらしさは、山に入って森づくりのじっせん活動だけでなく、山を守る啓発活動にも力を注いでいることです。いろいろな所に参加して山を守るためにグッズを売ったり、活動を発表したり、かかしまで利用して木を大事にしようとうたえました。すべての活動が山、木、森林に結びついた活動になっていることが、すばらしいです。みんなの活動の原点は、2001年頃までは山に木がしげっていて、物部川にきれいな水を供給する山でしたが、その後シカなどで山が荒れてきて、2004年には物部川の水も茶色ににごり、アユも激減したとのこと。大人たちが何とか回復したいといろいろと手を打っていました。そんなことを知って、みんなは2010年から一緒になって山を守ろうとしたのですね。



高知県香美市 Happiness(香美市こどもエコクラブ)
壁新聞のタイトル:ぼくらが守るぞ！希望の山を

この流れをしっかりと書いてくれたので、みんなの活動の位置づけと毎年の活動の中身の意味がよく分かりました。平成27年度活動記録も読みました。壁新聞に書いてあることをもっと細かくていねいに書いてありました。このように活動記録として残しておくことはとても大切なことです。香美市こどもエコクラブは一つ一つは少ない人数、家族だけの人でやっているものもあります。良く続いているなーと感心しました。お父さん、お母さん、家族の人の理解と意欲がないと続かないと思います。そんなことにもすばらしさを感じました。

ニラ料理は森づくり、山を守ろうとは少し違う活動のようですが、よくもマーコンにたくさんの料理を考え、作りましたね。感心しました。お兄ちゃんと妹の2人、そしてお母さんでやりとげたのですね。ニラは香美市の特産物なので、チャレンジしたのですね。私もニラは好きですが、こんなにいろいろな種類の食べ方があるとは、もちろん知りませんでした。料理をして共通なこととして出てきたことは、ニラはあまり長くしない方が良いということのようですね。

短く切って使うのが間違いないようですね。こんど、香美市に行く用事があつたら、地元の特産品のニラで作った、ほかでは食べられないニラ料理を食べたいなーと私の目標が出来ましたよ。ありがとう！

来年はどのくらい、木が伸びているかな？壁新聞が楽しみです。それとまたちがつた料理教室も報告してくれるのかな？

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

みんなも良く知っているように日本各地でシカが増えて、シカの食害で木が枯れ、山が荒れてきたとの話がたくさんあります。なぜ、シカが増えたか？そうですオオカミがいなくなって食物連鎖がこわれたからです。オオカミがいれば自然のバランスの中でシカを食べて、適当な数のシカが生息していました。しかし、オオカミがいなくなってシカの天敵がいなくなって増えたのですね。増えたからすぐに問題が出てくるのではないようです。日本オオカミがいなくなって、100年ほど経ち、ようやく自然ほうかいの状態が明らかになりました。ということで今、日本のみならず世界で外来種による食物連鎖がこわれて来ています。こういう影響が出るのに100年ほどの時間が掛かります。そんなに影響が出ていないよ！ということでそのまま、何も手を付けずに100年たって取り返しのつかないことになるのです。そしてさらにそのままに置いていたらどうなるでしょうか？シカが食べるものを食べつくすと、今度はシカのエサが無くなる。ついには、シカも滅びてしまうでしょう。



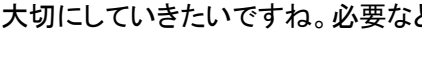
とおきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

シカのガイコツとは、すごいものを見つけてしまいましたね！ わたしとかべしんぶんを見て、ビックリしました。みなさんがかつどうする中で見つけたことは、ものすごいこともあれば、ちょっとしたこともあると思いますが、これからも発見したことを、かべしんぶんに書いたり、お友だちにおしてあげてください。

それから、かつどうをした日にちがわかれば、書いてあると良いですね。

「自分たちでできること」を書いてくれているのがとてもステキだと思います。水やでん気を大切にしていきたいですね。必要なときには使って、いらぬ時にむだ使いはしないように、いっしょに気をつけましょう！

これからも、楽しいかつどうをつづけてくださいね！



[illegible][illegible]

みなさんがつくったこの壁新聞で私が一番すばらしいと思ったのは、「エコタイプチャート！」でした。何がすばらしいかというと、“はい”、“いいえ”のどちらの道を進んでも最後のタイプ分けのキーワード：自然タイプ、エネルギータイプ、資源タイプ、知識タイプのことばの使い方がとても良いです。一般的に“はい”が良くて、“いいえ”は良くないことに使いがちですが、このチャートでは“いいえ”でもその特徴、良さを見出して、タイプを決めてくれています。自然とふれあい隊のメンバーのみなさんの暖かい心が伝わってきました。人の良さを引き出したい、かくれた才能、能力を気がつかせたいとの考えにつながります。エコに無関心に人もみなさんのアドバイスやサポートがあると、少しずつ関心を持つ人になるのではないかなと思いました。ぜひ、このエコタイプチャートを広めていただきたいと思います。たとえば、舟入まつりや市の環境フェアとか、学校の文化祭などで使ってエコに無関心な人を少なくしてほしいと思いました。

壁新聞のタイトル:①うみしんぶん ②自然とふれあい隊～わたしらあの宝物～

もう一つ感心したのは、四コマまんがです。何がすばらしいかと言うと、シカの柵を作って、ふつうはシカは入ってはいけません、と書くのですが、みなさん3人のやさしい心から出る言葉は、シカはこっちのほうで暮らしてくださいという表示になっていることです。ダメと言うのではなくて、こうしたらどうですか、という考え方はとてもすばらしい考えです。“ダメではなく、こうしたら”というような考え方をいろいろな面で活かしてほしいと思います。

エフピコの名前の由来を教えてください、ありがとう。そうか福山市とパール紙と会社からローマ字、英語から作ったのですね。見学して分かったのは、トレイなら何でもリサイクルできるわけではないのですね。きれいな、そして白いはっばうスチロールのトレイからリサイクルされて、また食品トレイになるのですね。食品トレイばかりでなく、たとえば、シャープペンや蛍光ペンなどの文房具にもなります。文房具に小さい字で書いてある環境文言を注意深く読むと食品トレイから再生したものと書いてあるものがありますよ。ぜひ、発見してください。

来年の壁新聞に楽しくやったことやさげんだことなどが書いてあるとうれしいです。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ここでちょっと私の考えを書きますので理解してください。節電とムダの意味です。節電と言うと、ちょっとがまんして電気をつかわないようにするという感じがします。でもその前に私たちがやらなければならないことは、ムダな電気の使い方をやめることではないでしょうか？節電と言って、がまんして電気を使わないことで、お年寄りが熱中症で倒れるケースがひんぱつしました。ですから、節電と言う前にムダな電気の使い方はやめましょう、と言うのが良いのではと思います。節水も同じです。がまんして節水するのではなくて、ムダな水をつかわないことです。まず、私たちの暮らしの中でムダを無くすことをやるのが、大切かと思います。

市役所にも訪問してエコ調査をやったそうですね。香美市役所では、いろいろな取り組みをやっていることが分かりましたか？ 今度は会社や事務所なども訪問してエコ調査をやたらどうでしょうか？ みなさんのような若い人たちが訪問すると会社や事務所などはエコをやっていないと恥ずかしいと思って、訪問する前にいっしょうけんめい準備するかもしれません。みなさんの熱意が会社を、事務所などを動かしますよ。ですから来週行きますとか、来月行きますとかではなくて、会社や事務所が準備できるように 6 ヶ月後に行きますと伝えると効果的かなと思います。

私たちのこれからに書いてあるように、私たちは自然、環境、生き物全てとつながっていることをみなさんだけでなく、まわりの人々にも分かってもらうように、活動を進めると良いと思います。大人が言うよりもみなさんのような若い人がさげんだ方が効果的ではないかと思います。

ぜひ、がんばって、そして楽しく活動を続けてください。

壁新聞のタイトル:①作るぜ!ECO 世界②自然はわたしらあの宝物

39-08 39-09(推荐)

香美市こどもエコクラブ宝物「自然」を守り隊のみなさんへ

板倉師範から一言

宝物「自然」を守り隊のみなさん、こんにちは。とてもおもしろくて、もりだくさんな かべ新聞でした！クイズを取り入れたり、カラフルな色使いでとても読みやすかったです。また、読んでいる人にもエコな行動に取り組んでもらえるように作ったすごろくは、ナイスアイデアだと思いました♪読んだ人の多くが、エコに取り組んでくれたらうれしいですね。

宝物「自然」を守り隊のみなさんは、とても多くの活動をしていますね。その中で様々な事に気が付いたり、発見したと思います。みんなで話し合ったりして、たくさんの人へ発信していったら良いな～と思いました。例えば、香美市にある施設などでイベント(発表会)を試みたり、自分たちで考えたエコ活動に実際に取り組んでみたり…じっくり考えれば、もっといろいろな方法が見つかりそうですね！これからもすてきな活動が続きますように！おうえんしています♪

サポーターへのおっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の作成お疲れ様でした。たくさんの体験の中から、子どもたちがそれぞれきちんと自分の考えを持っていることが読み取れる壁新聞でした。身の回りのエコ、環境、自然の事を知り、行動することはすばらしいと思います。

私が、この壁新聞で一番心を動かされたのは、まとめに書かれている「今までエコ活動をしてきたけど、あまり変化が無く、みんなの力が必要である」という所です。私も生活をしている中で、まだまだエコや省エネが世の中に浸透していないな、と思う事が多々あります。より多くの人に取り組んでもらえるように、もっと簡単に取り組めることを書いてみたらどうでしょうか。例えば、家で簡単に出来る節水・節電方法や、生活排水をきれいにする方法などです。それを皆さんと話し合ったら、課題となっている周りの人に協力してもらうための良い方法が見つかるかもしれませんね♪



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 宝物「自然」を守り隊
壁新聞のタイトル:①作ぜ!ECO 世界②自然はわたしらあの宝物

香美市こどもエコクラブ 宝物「自然」を守り隊②の新聞を書いたみなさんへ
岡本師範から一言—————

藤田さん、矢野さん、岡本さんが創ってくれた「自然はわたしらあの宝物」壁新聞は、1年間(33日間、1ヶ月以上)にやったたくさんの活動を紹介していますが、すばらしい壁新聞だと思う点がいくつかあります。

一つは、3人がどうしても伝えたい“宝物「自然」を守りたい”という考えを山の活動として重点的に書いてあり、焦点をしばった新聞になっていることです。

二つ目は、自分たち3人の活動を知ってほしいとの気持ちで、文章をたくさん書いてありますが、読む人にこの点は大事ですよと、赤や青、緑、黄色など強調して書いてあるので、読む人には大変分かりやすい新聞になっていることです。

三つ目は、ポイントになる情報を字だけでなく、写真で示していることです。写真の情報は字の情報量よりとても多いです。みんなも知っているように、写真を見て何を読み取るか、何を感じるかは人によってちがいます。写真に写っていることは人間や植物だけでなく、その背景にもいろいろな物が写っています。ということは写真1枚でいろいろなことが読み取れる、感じるので情報量が多くなり、みんなの活動を理解するのに大変役立っています。

四つ目は、大変な山の活動だけでなく、なす、ししとう、ピーマン、トマトのお話と料理のお話も書いてあり、読む人にホッとさせることも忘れていない。

五つ目は私が一番すばらしいと思ったことです。それは何かと言うと、この壁新聞を読めば読むほうになってしまう内容が書いてありました。6年生のみんながこんなことも知っているのか!こんなことも考えているのか!という所がたくさん書いてありました。

たとえば、水はじゅんかんしているエネルギーです。水は自然界をじゅんかんしているのは、知っている人は多いでしょう。しかし、それだけでなくエネルギーとしてとらえていることにビックリしました。料理はおいしいことが大事ですね。でもみんなが大事にしたことはもう一つありました。見た目です。色どりをそえるために、あざやかにみせる、美味しそうに見せることも大事ですよ!と言っていました。地産地消も忘れていません。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 宝物「自然」を守り隊
壁新聞のタイトル:①作ぜ!ECO 世界②自然はわたしらあの宝物

みやびの丘とさがわの森の山の活動は、「自然はわたしらあの宝物」そのものの活動ですね。ベグを打つ時は、力が必要で大変でした。植樹、また木をうえるのがー?めんどくさ!!、水を吸った苗が重たくなり、持ち上げるのが少し大変でした。地面いっぱいにならわをしくのって大変だ。寒い中でネット張り作業は、とても大変でした、などなど宝物を守るのは大変なことがいっぱいありました。しかし、みんなで協力してやりました。大きくなってほしいとの気持ちを持ってやりました。木を守るためと思うとがんばれました。そして、どの作業もやり終えた時に、あたたかい気持ちになりました。うれしい気持ちになりました。はあーたのしかった。3人はとっても良い経験をしました。苦あれば楽あり!で、つらいことも一生懸命やるとすがすがしい気持ちになりますよね。こういうことは、これからの長い人生ではいくらでもあるでしょう。でも、このエコクラブでの経験が生きる時が必ずあります。

小さな苗が大きな海を守る!木の根っこが土を支えてくれ、土が流れ出ないようにしてくれる、ということを知りました。それだからみやびの丘では、ネット張りですらにしっかりと土が流れ出ないようにしたのですね。根っこの役割で大事なことがもう一つあるのは、依光先生から聞いたと思います。水を貯える働きもあります。山に降った雨がいったん流れ出てこないのは、木の根っこなどに水が貯えられるからです。森林の山は緑のダムと言われています。でも、山に草木がなくなると雨の水がいったん流れ出てしまいます。土砂くずれも起こります。「木に感謝をしないといけない」その通りですね。

シカの食害でみやびの丘は草木がなくなってきているのですね。2003年の写真と現在の写真を見ると一目りょうぜんでちがいが分かります。なぜ、シカが増えたのかも依光先生から話があったと思います。シカを食べる天敵のオオカミがいなくなったからですね。日本オオカミが最後に確認されたのが、確か四国でした。オオカミがいなくなってほぼ100年たちます。日本では各地でシカが増えて問題になっています。東北地方で、奈良県で、広島県の宮島で、箱根の山でもシカが増えて、木の皮を食べてしまうので木が枯れる問題が随所に見られるようになりました。今、みんなも知っているように生き物の絶滅が問題になっています。外来種が増えて在来の生き物が少なくなっています。人間の活動、たとえば開発や自然汚染、乱獲(らんかく)などの活動によっても生き物がへっています。オオカミも人間活動によって絶滅しました。オオカミが絶滅したので、シカが増えて自然を破壊し始めました。自然の中にいろいろな生き物が適当な数、生存してバランスを取っていることがとても大事なことです。バランスが崩れるといずれ生き物の種類と数がへります。それと共に自然がこわれてしまいます。みんながやっている山の活動は、自然を昔のように緑の多い、生き物(人間を含めて)が快適に暮らす環境・自然を作るとしても大事な活動です。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 宝物「自然」を守り隊
壁新聞のタイトル:①作ぜ!ECO 世界②自然はわたしらあの宝物

1 年間に 33 日、ほぼ 1 ヶ月以上、エコ活動をやりました。3 人の活動に感謝したいと思います。息長く続けてください。そして 10 年後には今植えた苗が大きくなっているを見たいもんですね。

とっておきのゴシンドウ★……

中学生になると勉強や部活などでいそがしくなるが、エコクラブを続けてがんばって行こうと藤田さんは書いてくれました。岡本さんは、エコクラブの活動だけでなく、日常生活でもいろいろなエコをやっていますということで、岡本さんの暮らしはエコで固まっていることが読み取れました。矢野さんのこだわりと土佐弁も感動しました。“こだわり”はとっても大事な言葉であり、気持ちだと思います。別の言い方だと“信念”です。これからの長い人生を生き抜くためには、とっても大事なことです。“こだわり”＝“信念”を持って、つき進んでほしいと思います。私の“こだわり”＝“信念”は、一つは何かを相手に伝える時に、相手の目線で考え、伝えることです。もう一つは世の中の森羅万象(しんらばんしょう)の出来事を植物や動物の視点から考えることです。動物は頭に指令室があります。一か所にまとまっています。しかし植物は頭のような指令室はありません。葉っぱや茎や根っこはそれぞれ独立して生きている。しかし連携はしています。そんな根本的な事を頭に入れて、世の中の出来事を考えてみると、世の中の出来事が良く分かります。ちょっと難しかったかな?いや3人は分かってくれるでしょう。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーアドベンチャー
壁新聞のタイトル:アースレンジャー新聞 39-11

香美市こどもエコクラブ アースレンジャーのみなさんへ

師範から一言――

いましましたエコまるくん。ドカンと目を引く大きさです。私はエコまるくんが大好きです。エコまるくんはこどもエコクラブのヒーローだからね。エコまるくんがいるだけで拍手!!

エコまるくんの足元にあるのは一年間やってきた活動でしょうか。4 月の結成式からたくさんさんの活動に取り組んでいますね。すごい!特に 7 月 8 月は夏休みを利用した活動だったのでしょうか、回数も増えていますね。よく読んでみると本当にいろんな活動をしています。気になったのは「電気づくりの研究」とか「発電所で電気を発見!」。どうやって電気を作ってみたのかな?発電所の電気、見えた?どんな活動だったのかとっても気になりました。これはいいな、と思ったのは、「7 月 5 日のエコなプールひと泳ぎ」。暑い季節、エアコンのきいた部屋にいるより元気にプールで泳いでいたほうがとっても健康的でしかもエコ!もちろん、ちゃんと計画を立てて取り組む活動は大切ですが、こういったエコもだいじだな、って思うし、自分たちのやっていることがどんなふうにエコなのか、エコにつながるのか考えながら(エコを意識しながら)活動ができていてとってもいいと思いました。

もうひとつ、左上のすみっこに「わたしからのおススメエコ」というのがあります。本当にちょっとしたことなのですが、よく気がつきました、おみごと!です。「ゴミを拾ったら空気がきれいに感じた」ってすばらしい!!そんな豊かな感じる心を大事にしながら、これからも元気に活動を続けていってくださいね。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

ブナの森を作るために先生の指導を受けながらブナを育て、シカからブナをまもるための手立てを考えたり、大人のブナを守るための作業にも取り組みました。

やってみてどうでしたか?どんなことを感じたでしょう。そして、これからどうしていきたいかな?取り組みはとってもすばらしいので、そこから何を感じてこれからどうしていきたいのか、そんなことも書かれているととってもステキな新聞になると思うし、みなさんの活動が充実した広がりのあるものになると思います。がんばって!



香美市こどもエコクラブ リサイクルチームのみなさんへ

師範から一言一

壁新聞の左上にある3人からのメッセージ、いいですね。だれが、なぜ、どんな目的でこの新聞をまとめているのか紹介されていますよね。すばらしい！タイトルは考えるけど、タイトルへの思いや、その理由というのはなかなかまとめられていないものです。

その点で、ここにこうして書かれていることはとってもいいと思います。

地産地消の代表はなんといっても食べるもの。高知県は暖かく野菜が年中作られているんですね。いいところですね。いつもとれたての野菜が近くにあるのっていいですね。

となれば、エコクッキングの出番ですね。壁新聞の写真、いいですね。作っているみんなの熱心な様子がうかがえます。そしてなんといっても楽しそう。笑顔がいっぱいいいなあと思いました。お料理、色とりどりの野菜がいっぱいおいしそうです。

この部分の表現もいいですね。ニラの説明をしている部分は方言でしょうか。なんだかとても温かい気持ちになりました。こんなふうに、会話の場面などでは地元の言葉をそのままに表現すると、その時のことや、その地域のことにより鮮明に伝わってくる感じがしていいなあと思いました。

もうひとつ、左下の色紙にメッセージがありますね。これ、いいですね。新聞を読むみなさんにはぜひここを読んでほしいな～。こういう気付き、思い、行動を大事にしてこれからも活動が続けていってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

発電所に見学に行ったこと、木のスプーンや木の鉛筆を作ったことなど、今やっていること、やってきたことはとてもよく書かれています。そこでもう一歩進めて、その体験をもとに今後どうしていきたいのか、次はどうしていくのか、そんなことも書き込まれているといいなあと思います。ここに書こうとしていることについて熱い思いのメッセージを書いてくれたみなさんです。今後のことも書かれているとよりいっそういい新聞になると思います。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 自ぜんお助けクラブ

壁新聞のタイトル:ECO チャレンジ

39-13

香美市こどもエコクラブ 自然お助けクラブのみなさんへ

師範から一言一

みなさんの壁新聞ではアース仲間がいっぱい活躍していますね。いいですね。エコまるとその仲間たち、私は大好きです。もっともっとういった場面（紙面）で活躍させてあげてください。みなさんの壁新聞でいいな、と思ったところは、ひとつひとつの活動をそれぞれで担当してみんなで書いていること。いくつもの活動に取り組んでいますから、お気に入りの活動や強く印象に残った活動はメンバーひとりひとりそれぞれにちがっていると思います。そんな時はそれぞれに思ったことを書いてみる。あるいは、たくさんの活動について一人で担当するのは大変ですからこんなふうにみんなで分担して書く方法がいいな、と思います。それぞれの紙に書いて持ち寄れば、書く時にも、大きな紙にいきなりかいて間違ったらどうしようというような不安がなくなります。集めて大きな紙にはれば、こんなすばらしい壁新聞に大変身！ みんなが参加できる作り方の一つとしてとてもよい方法だと思います。すばらしい！

もうひとつ心打たれたのは、紙すきの活動について。木でできているという新しい知識や、布みたいだという発見、そして、使うにはもったいないという気持ち。一つの体験からいろんなことを学ぶことができました。昔の人はこうやって苦労して紙を作り上げていたんだということもわかっただろうと思います。そんな苦労して作った紙、使うのはもったいないと思った紙を「作った紙で年賀状をおばあちゃんに送りたい」というメッセージがありました。いいですね。苦労して作って、もったいないと思ったのに、それをおばあちゃんに送りたいって。環境活動って愛ある活動なんだなって思いました。あたたかい気持ちをありがとう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

他のクラブの皆さんにもお伝えしたのですが、今回の新聞では取り組んできたこと、そしてどう思ったか、については十分書き込まれていました。

次回はぜひこれからどうしていきたいのか、いこうとしているのか、これからの計画は？といったことについても紙面の中で触れられているといいなと思いました。やりっぱなしにならないように、次の一歩につながるような活動であり、新聞になるといいなと思います。次回の壁新聞を期待しています。

香美市こどもエコクラブ みどりサイクルのみなさんへ

師範から一言――

みどりサイクルの6人のメンバーがつくってくれた「ぼくらはやるよ!!!リサイクル」のかべしんぶんを見ると、1年間でこんなにたくさんの活動をしたのか、とびっくりするほどです。たのしく、そしてびっくりし、すごいなー、さすがとかんしんし、つかれることもありました。でも6人のみんなは、いっしょうけんめいエコな活動をやったようですね。

えらい！えらい！

しんぶんのまん中に「もたないからリサイクル!!!」として12ケのれいが書いてあります。ここの丸がチラシを切りぬいてつくってあるのがとってもよいですよ。これもみんなが知っているリサイクルですね。ここにかいてあることをじっこうすると、ごみがふえませんということだと思います。

紙すきは宮地さんに教えてもらって、じょうずに作れたようですね。よかった！よかった！宮地さんがもってきてくれたどろどろのざいりょうは、たぶん牛にゆうぱっくから作ったのだと思います。こうくの紙でもつくれることをたいけんしましたね。へー、すごいなーというかんじでしょう。みんながつかっているノートなどの紙も木から作っています。木をだいにじにするためには、紙のうらがわもつかうようにすると、木をむだにきらなくてよいので、エコになりますよ。作ったはがきでお友だちに出しましたか？わたしがはがきをつくりましたと書くとお友だちはびっくりすると思います。

木のスプーンづくりは、サンドペーパーで木のひょうめんをこすって、つるつるにしたのですね。木のおいがして、食べる時もよいきもちになりますね。木のしゅるいによってにおいはがっていましたか？いちばんいいにおいは、ヒノキかな？じぶんのスプーンになったのですね。なまえもちゃんと書いておきましょう。



高知県香美市 香美市こどもエコクラブ みどりサイクル

壁新聞のタイトル:ぼくらはやるよ!!!リサイクル

春のエコクッキングは、とても楽しかったでしょう。春のフルーツの係でしたが、どんなフルーツをつかったのですか？イチゴかな？土佐のぼんたんかな？

じてんしゃのペダルをこいで、でんきゅうをつけるのは、けっこうたいへんだったでしょう。電気をつくるのはたいへんなことだとじっかんしてから、本川はつ電所をけんがくしたのですね。ここのはつ電所は水の力で電気をつくるので、石油をもやすかりよくはつ電所よりは、とてもエコなはつ電所です。石油をもやすときたないガスがでます。にさんかたんそというガスも出ます。このにさんかたんそはちきゅうをあつくしてしまうガスなので、できるだけ出さないようにしたいですね。にさんかたんそというガスを出さないで電気をつくるほうほうは、水力(水のちから)いがいいになががあるでしょうか？風の力をりようするのもしょうですね。それがいいには何があるのかな？

さがわの森で木をうえる植じゅをしたのですね。31種いも植えたのですか？みどりリサイクルの6人のメンバーはどの木を植えたのか、おぼえていますか？植えたあと、根っこのまわりをわらでほごしたのですね。土がかわかないようにしたのですね。シカに食べられないように大人の人がさくをつくってくれたようですね。20年後に見に行くのが楽しみです。どのくらい大きくなっているのだろうか？

リサイクルかかしづくりもりっぱな「なぞの女」かかしができたようですね。毎年、やっているようですね。二本あしでくつもはいてるので、ちょっと見ると人間のように見えます。スズメはびっくりしてにげるでしょう。お米がたくさんとれるような気がします。このかかしは、新聞といらなくなったふくやスカート、くつをりようしているのでとてもエコなかかしですね。いねかりがおわったあとは、どうするのかな？

エフピコリサイクル工場を見学しました。食品トレーのリサイクル工場ですね。食品トレーでもなっとうやカップラーメンのいれものは、よごれがはりついているのでリサイクルできないようです。昔は食品トレーはすてていたようですが、スーパーなどのお店がたくさんできて、たいりょうに出てきたので、かいしゅうしてまた食品トレーにリサイクルするようにしたのですね。ごみをふやさないということで、地きゅうを守ってくれる工場を見学してよかったですね。家で食品トレーを出す時は水で洗うと、工場を使う水のりょうは少しはへるのかな？

らいねんは、どんなリサイクルを書いてくれるのか、たのしみにしています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ペットボトルのふたでこまをつくれるよ。小さくなった服はバザーに出したり、いもうとやおとうとなど小さい子にゆずろう、ペットボトルは水そうにへんしんしたり、イカダを作ることできますよ。レジふくろはごみふくろとしてつかえるよ。レジふくろはすぐすてないでもう一度つかいましょうということだね。牛にゆうパックやおかしのはこ、ダンボールは工作してべつのものにへんしできます。古いタオルはぞうきんとしてつかいましょう。生ごみはひりょうになります。ということでつかいおわった物をすぐにごみとしてすてないで、なんかいもつかいましょうと、6人のみどりリサイクルはていあんしてくれました。ここの12ヶのていあんは、ていあんしただけでなく、みんなはじっさいにやってみたのでしょうか。かべしんぶんの最初に、ぼくらはやるよ！！と書いてあるのでやったとおもいます。

じっさいにやってみて、作ってみて、どんなことにきがついたか？むずかしかったことはなんだったのか？きれいにできたのはどれか？などを書いてくれるともっとよかったと思います。

イオン若松チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

「かっぱ」なんて、僕が子どもの頃には騒がれたものですが、今でも話題になるのでしょうか。それはさておき、合言葉はできることからはじめようで、毎年テーマを決めて活動しているようで、この壁新聞では山田緑地で「森林づくり」に取り組んだここ2年間の活動を報告してくれました。中でも生き物ピラミッドで、森を地下まである大きなマンションに例えて学習しているのはとても素晴らしい工夫です。これならば低学年の子どもたちにも理解しやすいと思いました。どなたが考えついたのでしょうか。森林プロジェクトでは、みんなで「木」のポーズをしている写真が載りました。子どもたちは天才です。面白いことをして楽しんでいます。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

壁新聞で気づいたところを拾いました。「紅はるか」というのは、ここで栽培したサツマイモの品種の名前ですね。初めての人には少し判りにくかったのではないのでしょうか。それと森林プロジェクトのところで、大木マップ作りは面白かったでしょうね。すこし注意してほしいのは、木の名前には標準和名が決められていて、科学的な調査ではこの全国共通の標準和名を使う約束になっています。ですから、ここに登場する「チシャノキ」は「エゴノキ」に、「スギノキ」は「スギ」に、変更してカタカナで表記して下さい。それ以外の記事はよく報告がまとめられていて見やすい記事になっていると思います。見出しや本文などにも工夫が見られます

エコまめクラブのみなさんへ

師範から一言――

三兄弟のクラブ員と2人のサポーターでこれだけの記事をまとめるのは大変だったのではないのでしょうか。よくできています。

まほろばの森ビオトープのアメリカザリガニ捕獲大作戦の全体を書িয়েくれました。ここでは外来種であるアメリカザリガニをつかまえて食べてしまうという面白いプログラムにしています。もちろん、海外での食べる習慣も紹介しています。どんなあじがしたのかな？

全体はアメリカザリガニの捕獲と調理の二つに分かれています。ニホンザリガニとアメリカザリガニのちがい、生態のちがいなどももう少し詳しく説明があると、捕獲する理由もわかりやすいのではないのでしょうか。塩ゆでにして食べるのは外国ではよく見かけます。中華料理ではだいてスープのだしを取ります。外来生物ですが身近な生き物であることを理解していただきたいと思います。



サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

壁新聞の副題と応募用紙に誤字がありました。「補獲」ではなく「捕獲」です。これからは注意しましょう。

これはサポーターにお願いですが、自然体験や生物多様性など、難しいことをやさしく読み解いて低学年の時から積極的に解説してやってください。作家の井上ひさしさんが生前に繰り返していたことばに「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」があります。僕もそんな言葉の使い手に少しでも近づきたいと願っています。そして自然や生き物が人間や人間の活動と深く結びついていることも教えていただきたいと思います。遊びながら五感を鍛え、感受性豊かな子どもになってくれることを心から願っています。

長崎県平戸市 下里エコクラブ

壁新聞のタイトル:下里エコクラブ

42-01

下里エコクラブのみなさんへ

師範から一言――

下里エコクラブのみなさん、こんにちは。下里エコクラブのみなさんは、とってもたくさんのたいけんをしましたね。

私が、このかべしんぶんで いちばん気になったかつどうは、「田うえ」です。私も東京の台東区というところにある かんきょうしせつにあるビオトープの田んぼでイネをそだてました。でも、みんなみたいに 沢山しゅうかくは出来ませんでした。スズメに食べられてしまったり、雨がふらず水不足になってしまったり、なかなか上手にそだちません。だからこそ、私は、お米を食べられるありがたみに かんしゃをして、ごはんを食べているよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

たくさん自然とふれあってみて、どうだったかな？つぎの かべしんぶんでは、みんなのかんそうも ききたいな～！みなさんも、今食べているもの、すんでいるところ、もっているものについて考えてみると、何か変わるかもしれないね。そういった発見をこれからのかつどうでも さがしてみてね！



☆☆サポーターへのゴシドウ☆☆

壁新聞の作成お疲れ様でした。自然との出会い、人とのふれあいをテーマに様々な活動をされましたね。自然や生きもの、環境に関する取り組みの第一歩として、エコクラブらしくてすばらしいと思います。

より、充実したものにするために、それぞれの活動に取り組む際、下里エコクラブの全員で「この活動をする理由は何か(環境や地球にどう良いのか)」「この活動の目標は何か」などを話し合い、それを考えながら活動に取り組むと、より意義のある物になるのではないかと思います。子どもたちも、それを考えることで、自分の行動を見つめ直すようになり、自分は今からどんな行動をしたら良いか、などの疑問が出てくると思います。そこから、話し合ってまた新たな発見が生まれる、そんな意欲的なクラブになったら素敵だと思います。これからも素敵な壁新聞、お待ちしております！

日奈久小学校 体育・環境委員会のみなさんへ

師範から一言一

体育・環境委員会のみなさん、こんにちは！みなさんは委員会活動として、環境に関するいろいろな取り組みをしたんですね。壁新聞を見るだけで本当にアイデアが詰まっているなという印象です。私が特に面白い取り組みだと思ったのは「エコランド」です。わりばしの銃の射的やダンボールキャタピラーのレース、ペットボトルのボーリングなど、楽しく環境の事を学べるエコのテーマパークのような企画ですね。私も普段、環境やエコの事を楽しく伝える仕事をしているので、実際にやってみたいくらいのはずばらしいアイデアだなと思いました。

「準備が大変だったけど、参加してくれた人が楽しんでくれて良かった、やりがいがある」という感想を持ったようですね。生きものや自然が大好きで、エコな活動をする人はたくさんいると思いますが、実は人の事が大好きだという人も環境の活動に向いていると思っています。環境を楽しく伝えるのは、参加した人が楽しんでくれる事もそうですし、環境が悪くて困っている人を助ける力にもなれるんです。やりがいを感じてくれたみなさんには、今後もそれを続けていってほしいなと期待しています。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

いろいろな取り組みをしていますが、活動の中心は「ごみ」ですね。そしてごみに関して様々な角度からのアプローチがあって、本当に発想が豊かだなと感じます。そして何より、自分たちが出来る限りの事はやろうという姿勢もまた、とても頼もしくて大切な部分です。ごみの減量に挑戦する記事で、グラフとして目に見えるようにした点は、やる気や気付きをうまく引き出せるアイデアだと思いました。このように目標を設定して物事を進める事は、とても良いやり方ですね。

他にも小・中学生合同で活動したり、ちがう学年と一緒に取り組んでいる事もすばらしいです。かんたんな事でも、ついつい三日坊主で終わってしまう人は少なくありません。そんな時に、一緒に活動している仲間の姿を見て刺激を受けたり、行動しようというきっかけになったり、仲間の存在が後押ししてくれる時があります。6年生に頼ってしまっているのががんばろうという気持ちも、自立心が感じられてうれしいです。

エコな活動にやりがいを感じたみなさんは、環境やエコを伝える職業にいつでもなれる気がします。実際にみなさんが大人になった時には様々な仕事をしていると思いますが、環境に優しい活動にやりがいを感じられる大人が増える事を、今から楽しみにしています。

熊本県八代市 日奈久小学校 5年生
壁新聞のタイトル:日奈久5年 エコ新聞

43-02、43-03、43-04、43-05 全 4 枚

日奈久小学校 5年生①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言一

ファイブガールズのみなさん、こんにちは！同じ学習をして作った壁新聞でも、グループごとに特色が違いますね。

ファイブガールズのみなさんは、色でアクセントを付けていてカラフルな印象を受ける、可愛い壁新聞だと思います。イラストが多いのも紙面が明るくなるだけでなく、読んだ人の理解の手助けになるのでとても良いです！

東京も埋立処分場が約 50 年後にはいっぱいになってしまうと言われています。みなさんの地域もごみ処理場がいっぱいになってきているんですね。日本全体でごみが処理出来なくなったら大変です。これはごみを減らす事をいつも心がけなければなりませんね。

しかし何十年後でなくても、災害時など突然ごみが回収出来なくなる可能性もありますよね。そう考え、ごみ減量のアイデアが書いてあるこの壁新聞の価値も、より一層高まるように感じます。これからも、環境を守りましょう！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

たくさんエコな活動が書いてあって、しかもどれもすぐ取り組める具体的な事柄ですばらしいですね。ただし、ひとつだけ気になった点があります。それは、残った食べ物をペットに与える事です。

きっと気をつけているかもしれませんが、人間が食べる物の中には、動物にとって毒になるものがあります。例えば、ねぎやチョコレートなど普通に家庭にあるものなどは、動物が食べて中毒になってしまう事故がたまに起きています。また、調味料などの人間用の味付けも、体の小さい動物にとっては健康を害する原因になってしまいます。

みなさんが動物や他の生きものが好きだからこそ出てきたアイデアだと思うので、知らない人が見た時に危なくないように、安全な知識も書いてあると良いですね。

ちなみに、家でもペットを飼っていますが、キャベツの一番外側の葉や、野菜の皮や芯など、捨てられてしまう事の多い部分を、ペットと一緒に食べています。ペットと一緒にエコな活動が出来るとうれしさも2倍ですよ！

他にもコンポストなどで自然にかえす方法もあります。自然や生きものに关心がある人は、ぜひ試してみてください。

熊本県八代市 日奈久小学校 5年生
壁新聞のタイトル:日奈久5年 エコ新聞

日奈久小学校 5年生②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

世界の環境守り隊のみなさん、こんにちは！同じ学習をして作った壁新聞でも、グループごとに特色がちがいますね。

世界の環境守り隊のみなさんは、行動がどのようにエコに繋がるのかがそれぞれの記事にわかりやすく書いてあって、大人から見てもわかりやすい印象です。理由がしっかり書いてある事は、自分たちでしっかりと理解出来ている証拠だと思うので、説得力が感じられる壁新聞です。

また、発表会の環境クイズの記事にも注目しました。「工場」「家庭」「学校」の内どれが一番環境を悪くするかというクイズで、ほとんどの人が工場だと思い、家庭という答えにみんなが驚いた、という説明があります。確かにこれは勘違いをしやすいため、おどろきとともに深く印象づけられた事が想像出来ます。

1つの工場と1つの家庭を比べたら、当然工場の方が大きいですが、工場に対して家庭は数え切れないほど数が多い分、環境に与える影響も大きくなりますよね。良い方向にも悪い方向にも、小さな事が積み重なると大きな結果になる。これは環境を考える上で非常に重要な事なので、それを伝えられた意味はとても大きいと思います。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

環境センターでは「リサイクルの事」「トイレで雨水を使っている事」や「センターの先生が洋服をマイバッグにして使っている」などの学びがありましたね。たくさん環境の勉強をしても、そういった施設に行くとまだまだ多くの発見があるものです。

私の働いている環境の施設でも、リサイクル出来るものを回収していたり、トイレ用水には雨水が使われていたり、いらなくなった洋服のリメイクが体験出来る工作などがあります。その他にも私たちは、なるべく来てくれた人たちの生活に役立って、なるべく楽しく取り組めるエコを一生懸命考えています。

みなさんが環境センターに行く事は、みなさん自身が勉強になるだけでなく、きっとそこで働いている人にとってもやりがいを感じると思います。そしてそのやりがいは、さらに進化した、より良いエコなアイデアが生まれ、多くの人に広まるきっかけになる事でしょう。環境の施設で働いている立場の意見として、ぜひ授業以外でも通いつめて、エコを突きつめてくれるとうれしいと思います。

熊本県八代市 日奈久小学校 5年生
壁新聞のタイトル:日奈久5年 エコ新聞

日奈久小学校 5年生③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

エコボーイズのみなさん、こんにちは！同じ学習をして作った壁新聞でも、グループごとに特色がちがいますね。

エコボーイズのみなさんは、エコマークを数多く描いているのが目にとまります。エコマークは種類も多く、デザインも面白いものがありますよね。きっとみなさんの印象に残っていて、それを伝えたいと考え付いたのでしょう。マークというのは目で見てすぐにわかる印ですから、実際にたくさんのマークを描いたのは、良い方法だと思います。

他の記事も、エコな行動とその理由がイラストと一緒に上手にまとめられていて、読んだ内容が頭に入ってきてやすい工夫を感じました。環境に関する事は知らない情報やむずかしい内容も多くあるので、このように読む人にわかりやすくまとめる技術は大切だと思います。

始めに「環境にやさしいエコを勉強して、それをみなさんに発信したらもっといい環境になると思った」と書いてありますが、有言実行で上手に発信出来ている、すばらしい壁新聞だと思いました！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

他のグループと同じ学習をしているので、書いてある内容は自然と共通点が多くなっていると思いますが、みなさんの壁新聞は特に熱い気持ちを感じたような気がします。それはなぜかという説明はむずかしいのですが、言葉の選び方にちがいがあるのかもしれない。

例えば、無駄を減らすための行動に「使い切るまで新しい物を買わない」という、標語にも使えそうな表現がありました。私も野菜などを安い日にたくさん買って、何日か経った時にあまり減っておらず、慌てて使い切った経験があります。このような誰にでも共感出来る事が書いてあると、読んだ人にとってはメッセージ性が強く感じられます。

そしてもうひとつ「すばらしい日奈久といわれるようにしたい」という言葉。みなさんの素直で力強い決意が想像出来るので、心を打たれる人も多いのではないのでしょうか。

周りの環境を良くしたいと思うのは、自然を守る気持ちの第一歩です。スタートラインに立ったみなさんの、これからの活動に期待しています！

熊本県八代市 日奈久小学校 5年生
壁新聞のタイトル: 日奈久5年 エコ新聞

日奈久小学校 5年生④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

ZY-3R のみなさん、こんにちは！同じ学習をして作った壁新聞でも、グループごとに特色がちがいますね。

ZY-3R のみなさんは、どの記事を見ても文章をしっかりと書いていますね。きっかけの部分を読んでみると「今の環境問題をみなさんに知ってほしいので、このエコ新聞を作りました」と書いてあります。エコな活動の事柄だけではなく、読んだ人がその背景もきちんと理解出来るように意識して作った事が感じられました。

この「知ってもらいたい」という気持ちは、環境やエコを広める原点です。

当然、環境問題を意識して行動出来る人が増えると、環境に良い影響も増えます。この気持ちを持ち続ける事で、今後も自分自身の学びは深まり、周りの人にもエコが広がってゆくでしょう。

いろいろな場所の環境がだんだんと変わっていくように、環境問題というものも常に変化し続けています。「今の環境問題をみなさんに知ってほしい」と書いていたように、まさに環境問題の「今」は時と共に変わるので、そこを意識出来た事はすばらしい事です。これからも伝えたいという気持ちを持って、環境問題の「今」を広めてくれる存在になってほしいと思います！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

みなさんの書いた「自分たちで実践出来るエコ」の記事の項目は、どれも文字通り実践的なものばかりで、すぐに役立てられそうですね。その中で私が特に良いと思った所は、断る事が大切だという点です。

みなさんが挙げていた「包装紙」「包み紙」「レジ袋」。これらは私たちの生活でどれも当たり前のように目にする物です。しかしそれらは最終的に捨てなくてはならないので、これを断るのは良い着眼点です。

ごみを減らすための 3R「Reduce(リデュース)」「Reuse(リユース)」「Recycle(リサイクル)」というキーワードがあります。そこに、日本語で「断る」という意味の「Refuse(リフューズ)」という言葉 を 4 つ目の R にプラスしている所も実際にあります。

一般的に日本人は物事を断るのが苦手と言う人が多いです。私も NO と言うのが得意ではないので、買い物の時に毎回心の中で「せーの」と勢いをつけて「袋はいりません」と言っています。若いみなさんには社会を変える力があると思うので、ごみを減らすために断るのが当たり前の世の中になるように、一緒にがんばっていきましょう！

熊本県水俣市 水俣市立水俣第二中学校
壁新聞のタイトル: 二中から未来へ

三井住友銀行賞 43-06(1位推薦)

水俣第二中学校のみなさんへ
師範から一言――

水俣市立水俣第二中学校 環境 ISO 委員会のみなさん、こんにちは！

まずは、先の全国フェスティバル 2016 での特別賞の受賞、おめでとうございます！

情報量や内容の深さなど、まるで本物の新聞や環境系の雑誌を読んでいるようです。この壁新聞を作るためのデータ収集や活動実績のプロセス、努力に敬意を表します。

どれを取っても充実した内容ですが、普段の仕事でプログラムを実施している相手は幼児から小学生が多い私からすると、中学生ならではの活動は、やり応えがありそうで羨ましく見えます。特に環境検定は私もチャレンジしてみたいと思ったくらい面白そうですね。

分別や節水、節電といった広く一般的なテーマと、環境 ISO だよりや環境検定など独自の活動。この取り合わせにも秀逸さを感じます。いろいろな人に心にとめてもらうという事は、いろいろな仕掛けを駆使して発信してゆかなければなりません。発信する側の観点からも、非常にその点のバランス感覚にすぐれた壁新聞だと思いました。最後にもう一度、おめでとうございます！



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

私がこの壁新聞を読み終えた時に最も印象に残った事は、普段の日常生活から高い意識を持って行動しようという信念です。すばらしいと感じる取り組みが本当に多かったのですが、特にピックアップしたい 2 つを抜き出して下記にあげます。

・教室でスクールバッグの向きを揃え、見た人がきれいだと思う教室にしている

・分別参加のチェックリストに、態度と服装面のチェックを新しく追加した

これらは一見すると、環境の事と直結していないようにも受け取れます。仮にスクールバッグの向きがバラバラでも、教室の掃除が行き届いていればキレイでしょう。仮に服装はきちんとしていなくても、分別活動自体に参加は出来るでしょう。しかし、単なる行動だけでなく、美化意識や積極性などの気持ちの面から訴えかけ、環境に対する意識を根付かせていきたいというみなさんの意図が伝わってきます。

自分の行動に責任感を持つ事は、環境に対しても責任のある行動につながります。特別な時だけエコな行動を心がけるのではなく、毎日確実に取り組むべき事柄は習慣づけられなければ決して続きません。そんな理想や信念を持って活動している事に感銘を受けました。今後もみなさんが目指す高みをどんどん発信してほしいと、心から願います。

水俣第一小学校こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
西澤師範から一言――

壁新聞のテーマ「災害」についてこれまでに起こった水害、そして災害にあったときの対応情報として避難について紙面をたくさん取った新聞ですね。とりわけ、水俣市災害避難地図がはってあって、みなさんが住む地域の様子や水俣川がどのように流れているのかよく分かります。避難所の場所の確認はとても大切なことですね。クイズのコーナーもあり、読んでいる人が飽きない工夫もされていますね。

とっておきのゴシドウ★.....★..

大きくのせた避難地図ですが、この地図についてもう少し詳しく教えてほしいと思います。みんなの通っている水俣第一小学校はこの地図のどこにあるのかな？ 水俣川の近くののかな？ そんなことが分かったら、なぜ水俣川について調べるようになったのか読者にも分かってくると思います。

ところで、水俣第一小学校は今年度も子どもエコクラブの活動を続けていますか。今年の4月に起こった熊本大震災などの影響みなさんが受けていないことをまず願います。そして、引き続き、いろいろな視点で自分たちの暮らす地域の環境についてもっと詳しく知ってもらえたらなあと思います。



水俣第一小学校こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言――

せりぶね守り隊の3人のメンバーが、じち会長の前田さんに聞いて調べたことを、かべ新聞にまとめてくれています。「せりぶね」のことを、昔は「えいおやっさ」と言っていたなんて、おもしろいですね。それから、病気がはやってせりぶねをする人が少なくなったときもあったけど、時間が経ってまたふつつたというのもスゴイですね。それだけせりぶねに、みりよくがあるからですね。

「せりぶねのエコなところ」をまとめてくれています。こういう風に、どういったことがエコなのかとか、おもしろいとか、ステキなのかということがまとめてあるのは、とても良いですね。

とっておきのゴシドウ★.....

昔は「えいおやっさ」と言っていたことについて、わたしはとてもおもしろいと思いました。みなさんはどう思いましたか？ 力を合わせる時のかけ声みたいだなとも思いました。どうしてその名前になったのかを調べたりすることも楽しいですよ。調べてわからないときは、自由に考えて予想するのもおもしろいですね。

それから、せりぶねのことを調べる前から、みなさんはせりぶねのことを知っていましたか？

水俣川って、みなさんにとってどんな川ですか？ みなさんとせりぶねや水俣川のつながりについてを合わせて書いてみるのも良いと思います。これからも色々なことを調べてみてくださいね。



水俣第一小学校こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言――

水俣のせりぶねグループの5人のメンバーが、それぞれ調べたことをまとめてくれています。四コママンガやエコクイズ、それに上手なカヌーの絵など、いろいろな工夫がしてあるので楽しく見ることができますね。「せりぶねのひみつ！」は良い見出しですね。「ひみつ」って書いてあると、知りたい気持ちになりますね。

せりぶねにはたくさんの人が乗れるということや、力をあわせることが大切なこと、電気を使わずに動くなど、みなさんが発見したことが書かれています。それから、水俣川にゴミがあることや、川にゴミをすてずにきれいになったらいいなあということについても書いてくれています。カヌーをうかべる川のように・環境にも注目して考えることって、大事だし、ステキなことですね。

とっておきのゴシドウ★.....★..

水俣川にゴミをすてる人をへらして、川をきれいにするにはどうしたらよいと思いますか？ みなさんも色々考えてみてください。自分たちでもできる事があれば、ぜひやってほしいと思います。せりぶねのことを調べていて、水俣川のゴミがなくなってきれいになったらいいなと思ったのですから、せりぶねをしている人や見に来る人にも協力してもらえようと呼びかけができたなら、たくさんの人に知ってもらえることができるかもしれませんね。そういうステキなチャンスがあるといいですね。それから、みなさんは色々調べてみて、カヌーに乗りたいと思いましたか？ せっかくなので、ぜひ大きくなったら乗ってみてください。私は一人用のカヌーに乗ったことがあります。初めて乗った時は、水面をすうとなめらかに動くことがとてもおもしろかったですよ。もしかししたら、みなさんの中で、大人になったらせりぶねに乗る人が出てくるかもしれませんね。



水俣第一小学校こどもエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――

「水しつ新聞」という名前の壁新聞だけあって、水俣川の水しつやそこにすんでいる生き物についてよくしらべたすばらしい新聞です！！水しつの調査では薬で実験したり、じっさいに川に入って虫や魚をつかまえて、虫の名前やどのようなところにすんでいるかもしらべたのですね。「水質ゴーゴー」のおともだちといっしょにやったさぎょうは、大せいこうでしたね。おめでとう！！このちょうさで、水俣川がきれいな川だということがわかってうれしくなり、かんどうしました。このようにきれいな水俣川がどのようなところか一度行って、みなさんといっしょに川の中に入ってみたいくなりました。とくにつめた川だというほうこくがありましたので、夏の川あそびがおもしろそうですね。

とっておきのゴシドウ★.....★..

こんご、年に1回くらい水俣川の水しつちょうさをして、今回見つけた生き物にくわえて、どのような生き物をどこで発見して、どのくらいいたかなどのほうこくをしてくれたら、水俣川のしぜんやかんきょうを守るためのみなさんの活動がよくわかり、その活動をつづけてくれるお友だちにもたいせつなデータになると思います。つぎの「水しつ新聞」をわくわくして楽しみにしてまわっているよ！！



熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何？新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――

「動く環境教室」でのいろいろな体験で、水俣川の水しつがとてもきれいな水であったことと、水俣川を今よりもっときれいにするためのほうほうの二つの大切なことが書かれているすばらしい「水俣川の水しつ新聞」です！！「動く環境教室」で、とてもきょうな体験をしたと思います。インターネットでも水俣川の水しつを調べたのですね。ありがとう！！グループ4人のそれぞれの感想から、みなさんがきれいな水俣川をこれからも守っていき、とても愛していることがじゅうぶんにつたわってきましたよ。クイズでも何かホッとして、この新聞がとてもみちかにかんじることができました。つぎの「水俣川の水しつ新聞」では、みなさんのどりよくで水俣川がどのようにしてきれいに守られたかのほうこくをわくわくしながら楽しみにしています！！

とっておきのゴシドウ★・・

水俣川にどのような生き物がすんでいて、どのような場所にいて、その写真や絵があり、そのとくちょうなどのせつめいがあれば、「水俣川の水しつ新聞」を読んでくれたお友だちにとってとてもよいさんこうになり、そのお友だちもじぶんたちの近くにある川の水しつをちょうさする時にやくにたつと思います。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
西澤師範から一言――

新聞のタイトルのつけ方がとてもいい。橋のまわりにある「災害」に関する設備を調べて書いている視点もとてもおもしろいです。普段通っていても、橋の周りに私たちが災害から守るために設置されたいろいろな機器には気付かないものがたくさんあります。そしてそれぞれの機器はとても大切なデータを取り、私たちに危険を知らせてくれる役割を持っています。でも、私たちが、その役割について知らないと、防災につながりません。例えば、サイレンの音の違いによって危険度を知らせる記事は、自分の身を守るためにとても役立つ大切な情報です。また、この新聞のいいところは、さらに、自分たちが住んでいる地域がどんなところかも調べているところです。この新聞では、「水俣川の災害で何が心配なのか」という記事では、土地が低いことなど浸水が起こりやすい地域に自分たちが住んでいることも調べて書いています。自然災害はいつ起こるか分からないので、普段の生活の時から災害についてこのような形でまとめたことは、とても大切な取組だと感じました。

とっておきのゴシドウ★・・

今回の記事でちょっと「惜しい」と思ったのは、せっかく市役所へ水俣川の設備について聞き取りに行ったのなら、インタビュー記事のような書き方のコーナーを作ったら、紙面の構成がさらに良くなったと思います。市役所で聞いたことをまとめるのではなく、「この人に聞きました」とかにして、市役所の人に登場してもらうとか、自分たちで取材をした様子を一緒に新聞に書いてみると、新聞に変化が出て、良くなるように思います。



熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何？新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
西澤師範から一言――

水俣川の昔の氾濫について写真なども使って、水俣市に住む人にも分かりやすい記事になっています。また、現在もし水害が起こった場合のため、避難所がどこにあるのかを調べ壁新聞にのせているのもいい視点だと感じます。ただ、新聞の5分の1ほどを占める深川の降水量のグラフが、なぜそこに書いてあるのか、私にはよく分かりませんでした。観測された日にはたくさん雨が降ったことを伝えたかったのかな。そのグラフについての説明がどこにもないのが残念です。

とっておきのゴシドウ★・・・・・★

今回の新聞を作るに当たって、どこからこれらの情報を知ったのかを書くのはとても大切なことです。本からなのか、インターネットなのか、地元の人からなのか。メンバーの感想の欄を読んでいると、水俣川の災害について「むらさきさん」という方からお話を聞いたようですが、この「むらさきさん」が誰なのかを紹介して欲しかったです。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言――

せり舟わっしょいグループの5人が、かべ新聞のタイトルにあるように、せり舟の「とくちょう」に注目してまとめてくれています。四コママンガあり、イラストありのカラフルなかべ新聞ですね。

＜せり舟のこぎ方＞の記事では、内容が「かじょう書き」になっていて、すっきりとわかりやすいですね。＜せり舟のとくちょう＞の記事では、せんちょうがいることや、せんちょうのする事がぐたいきに書いてあってよくわかります。クイズがあり、記事をよく読むと答えがわかるようになっているのも、ステキな工夫ですね。

とっておきのゴシドウ★・・・・・★

せり舟のとくちょうをしっかりと書いてくれています、さらにステップアップする方法として、「せり舟と、他の舟」を比べてみるのもいいですね。大きさ、乗れる人数、動かし方、どんな場所で、いつするのかなどをそれぞれ比べてみると、さらにとくちょうが良くわかると思います。

みなさんはせり舟のことを調べて色々なことが分かったと思いますので、ぜひ機会があったら、実際のせり舟や大会を見てみてくださいね。色々知っているからこそ、きっと楽しく見ることができると思いますよ。



熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――

水俣川で起きた災害、水の深さや水の流れの方向の調査を「水俣川新聞」で詳しくリポートしてくれてありがとう!!!この新聞で水俣川の状況をじゅうぶんに知ることができました。一度、水害がおきると水俣は土地が低いので、毎日の生活にこまるたくさんの市民が出てくるので、堤防を作ったりして、このような自然災害でこまる市民が少なくなるようにしているのですね。水の深さも時間によって変わったり、場所によっても水の流れる方向が変わってくるので、大雨がたくさんふると市民への災害が出ないように注意しなければならないことがたくさんありますね。どのような災害たいさくがあるのかとても気になります!!!
とっておきのゴシドウ★.....★
今回の「水俣川新聞」では水俣川についての自然災害の危険性は知ることができましたが、反対にみなさんの環境活動の一つとして水俣川についての自然の恵みについて学び、「水俣川新聞」でほうこくしてくれることを期待しております。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――

みなさん、一人一人が協力して作った「水俣川の水質新聞」は、前田さんからの「せり舟」の話、クリーンアップ作戦、底生動物とそれらの写真や絵、そして感想で盛りだくさんのないようが、とてもうまくまとめられたすばらしい新聞です!!!読んでいて楽しくなりました!!!「せり舟」のことをもっと知りたくなり、これからもっともっときれいに水俣川を守る続けるための次の作戦はどのようになるのか、底生動物の種類、数などの次の生き物調査をどのようにするか、読者のみなさんにきょうみをもたせる新聞です!!!「動く環境教室」での水俣川の活動がますます広がっていきますね。がんばってください。
とっておきのゴシドウ★.....★
みなさんが大好きな水俣川を守るための環境活動へのチャレンジはまだまだたくさんあります。また、これらのすばらしい環境活動をこれからずっと続けていくための方法も考えることも重要ですね。次回の「水俣川の水質新聞」をわくわくして待っています。楽しみにしていますよ!!!



熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
西澤師範から一言――

水俣川のひみつを解き明かすこの新聞。身近な川にかかる橋の長さや防災のための設備などについてうまくまとめられています。とりわけ、災害を減らすために川の形をXからYに変えたことをトップ記事にしているのが、この新聞のいいところです。これは、お話を聞かなければ分からない情報ですものね。新聞を読んでいる方も、なぜ川の形を変えたのか知りたい、と思うタイトルづけもいいです。今の川の形では分からない「これこそ水俣川のひみつ」ですよ。
とっておきのゴシドウ★.....
市役所の人のお話は難しかったかもしれないけど、なぜ川の形を変えると水害が減るのか、もう少し詳しく書いて欲しかったな。防災の知識が少ない私には、その意味がはっきり分かりませんでした。そこがとても残念でした。また、左の欄についてのイラストについても何について描いてあるのかちょっと分かりづらいので、イラストに説明やタイトルを付けて欲しいなあと感じました。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
西澤師範から一言――

この「かんきょう新聞」はメンバーの感想にも書かれているとおり、どんな記事を取り上げ、どのようにまとめるか、みんなで考えて書いた成果が伝わってくる新聞で、とても読みやすく作られています。タイトルは色をぬって統一されており、どこからどこまでが1つの記事がよく分かります。また、記事の内容も、洪水について外水氾濫と内水氾濫の違いなど、私たち大人でもまとめるのがむずかしい内容を上手にまとめて書いていて、私も「へえー、そうなんだ」と改めて勉強になりました。
それから、水俣の歴史の記事では、災害だけでなく、魚やウナギが釣れる川であることを紹介しているところが良いなと思いました。自然は私たちに災害をもたらす面もありますが、私たちの暮らしに恵をもたらすします。自然の怖さとともに豊かさを忘れずにつきあっていけたらなあ改めて感じさせられました。
とっておきのゴシドウ★.....
新聞の下の方に写真がはってありますが、それぞれの写真を土石流災害の記事と洪水の記事の近くにはっておけば、さらに分かりやすい新聞になったと思います。また、水俣川を中心とした町の地図を書くなど工夫をすると、水俣市についてくわしく知らない人にも水俣川がどんな川なのかイメージしやすいと思います。



熊本市水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――

みなさん一人一人が協力して作った「水俣川のいいところ」新聞は、水の方向のひみつ、水の深さのひみつ、川の様子とクイズで水俣川のじょうきょうがよくわかるすばらしい新聞です!!!水俣川の水の方向が変わったり、水の深さが変わったりする理由が海のみちひきに関係しているのですね。ふしぎなひみつのなぞ解きをしてくれてありがとう!!!この新聞を読んできたお友だちも、水俣川の自然のふしぎにおどろいていることでしょう。この環境活動を通して、水俣川の災害と命の関係、そばで住んでいる人たちの生活などの大切なことも学ぶことができてよかったね。次の新聞でLESAMOKITOの意味を教えてください。

とっておきのゴシドウ★.....★..

日本ではいたるところで自然災害が毎年たくさん発生していて、水俣川についての自然災害を知ることができました。この新聞を通して、みなさんから見た水俣川の災害についてもっと発表して、他のちいきのお友だちに理解してもらい、子ども同士でいろいろな情報をこうかんして、災害で苦しんでいる子どもたちをはげまして支援してください。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑭の新聞を書いたみなさんへ
池田師範から一言――――

水俣川の生き物調べをとおして体験したことと調べたことを、分かりやすくまとめてあると思います。たくさんの生き物が見つかったようですが、その中で「ウズムシ」「ヘビトンボ」「カワゲラ」に着目してくれたので、これらの生き物についてよく分かりました。水の生き物のイラストも、よく特ちょうが出ています。新聞にはいろいろなことを書くたくなってしまうものですが、書くスペースが限られていますので、読む人に特に伝えたいことを選ぶことは大事です。ウズムシ、ヘビトンボやカワゲラなどの生き物を調べることで、川のかんきょうが分かるということはおもしろいと思いませんか?水がきれいかどうか薬を使った色の変化でも調べることができますが、生き物でも分かるということです。毎年同じ場所では生き物探しをしてみると、薬がなくても川の水の変化に気づくことができますね!ウズムシは不思議な生き物で、切っても再生してしまう力にはおどろかれます。石にへばりついた1cmほどの小さな生き物をよく見つけました。カワゲラはたくさんの種類がいますが、幼虫はきれいな川に住んでいます。カゲロウの幼虫と少し似ているかもしれませんが、見分けられるようになりましたか?図かんを眺めるより、川でたくさんの実物を見つけてルーペでかんさつしてみてください。

とっておきのゴシドウ★.....★..

ヘビトンボは実物の動きをみて、名前に“ヘビ”がついている理由が分かりましたか?ヘビのように頭をもちあげてかみつような動きをします。幼虫は川ムカデとよばれるように足がたくさんあるイメージですが、おなかについているあしのようなものは、あしではなくエラなどのとつきです。成虫は夏に出会えるので探して会いにいってみましょう。



熊本市水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑮の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――

水俣川の水質や生き物についてくわしく調べたすばらしい「水俣川のみみつ新聞」です!!!クイズや感想もとても上手く書けていますよ!!!かいてきな水かんきょうにいる生き物が一番多くいてよかったね。また水質もきれいでよかったね!!!これだけの多くの生き物の名前はどのようにしてわかったのかな。おどろきました!!!水の中に住んでいる生き物がとくいなお友だちがいるのかな。「動く環境教室」を通して、みちかなところにある水俣川にはいろいろな発見、ふしぎやかんで、ひじょうに良い体験をしたと思います。これから水俣川をきれいに守っていく活動をがんばってください。次の「水俣川のみみつ新聞」を楽しみにしていますよ。

とっておきのゴシドウ★.....★..

今後、年に1回くらい水俣川の水しつちょうさをして、今回見つけた生き物にくわえて、どのような生き物をどこで発見して、どのくらいいたかななどのほうこくをしてくれたら、水俣川のしぜんやかんきょうを守るためのみなさんの活動がさらによくわかり、今後その活動つづけてくれるお友だちにもたいせつなデータになると思います。



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑯の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――

水俣川にいる生き物についてくわしく調べた非常にすばらしい「川のなぞ新聞」です!!!水生の生き物だけでなく、魚や鳥までも調べてくれ、まるで水俣川のせんもん図鑑を見ているようです。ありがとう!!!師範もむちゅうになって、みなさんの新聞を読みましたよ。驚きです!!!それぞれのセクションが、読者に大変きょうみをもって読ませる内容になっており、川の中のたくさんの虫をくわしくかんさつして、アオサギが川でどのような動きをしているのかがよくかんさつして、また、アユ オイカワなどの魚もとてもよく調べましたね。これだけ多くの生き物がくらしていけることは、水俣川がいかにかきれいな川であることがはっきりとしょうめいされたことになりますね。師範も是非一度水俣川に行ってみたくなるような「川のなぞ新聞」です。

とっておきのゴシドウ★.....★..

「動く環境教室」を通して、引き続き水俣川の水質調査をていきてきにおこなうことはもちろん重要なことですが、水俣川のしぜんやかんきょうを守るためには川で見つけた生き物の場所、種類、数などのほうこくも大切だと思います。「川のなぞ新聞」の読者のお友だちに、みなさんの活動を理解してもらい、今後このような環境活動をひきついでくれるお友だちにも大切なデータになると思います。



熊本県水俣市 水俣第一小学校 壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ

田中師範から一言――

みなさんで一緒になかよく作った「水俣川新聞」のいろいろなきじの中で、「水俣川の水しつが5段階中一番きれいでした。」というきじが、この新聞を読んでもくれたお友だちやもちろん師範もとてもうれしかった大きなニュースでした。おめでとう!!!このことは、みんなで水俣川の水しつをいっしょうけんめいに守り続けてきたすばらしいどりよくのけっかですね。このようにきれいな水俣川だから、たくさんの生き物がすむことができるのです。今後もこのようなたいせつなかんきょう活動を続けていってほしいと思います。4コママンガやクイズも楽しかったよ。つぎの「水俣川新聞」をわくわくして楽しみにしていますよ!!!

とっておきのゴシドウ★.....★

みなさんが大好きな水俣川を守るためのかんきょう活動へのチャレンジはまだまだたくさんありますね。また、これらのすばらしいかんきょう活動をこれからずっと続けていくための方法も考えることも重要です。がんばってください!!!



水俣第一小学校こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ

浅井師範から一言――

水俣第一小学校 6年1組のみなさんが作ってくれたかべ新聞は、とてもユニークですね! みんなで、環境を守るためにこんなのがあったらいいなという発明を考えてくれました。面白くて夢いっぱい発明がたくさん書いてあり、見ていて楽しいですね。ゴミを何とかするための発明、空気をきれいにする発明、いらぬ物を役に立たせるための発明、木を増やしたり雨水を上手に使う発明、ソーラーカーや雨水カーなんでものまであります。自然を大切にしたり、ムダをなくしたり、エネルギーを大事に使ったりしながら、人間も快適に楽しく生活できるようにするための、すばらしいアイデアがたくさんですね。

とっておきのゴシドウ★.....★

発明を考えると、きつとみなさんは「これは問題だな」「不便だな」「もっと良くしたいな」ということを考えて、それを解決するためのアイデアを考えたと思います。すでにあるものや、誰かがしていることだけでなく、新しいアイデアをたくさん考えるということは、よりステキな方法を見つけるために大切なことです。

昨年(2015年)に「パリ協定」という約束が決まりました。これは、地球の全ての国の代表の人が話し合っで決めたもので、もちろん日本も参加しています。地球温暖化を止めるために、それぞれの国が温暖化の原因である二酸化炭素などを出さないようにして、最終的には0にしようという内容です。これは、ちょっとがまんして省エネをするだけでは達成できません。これからはみなさんが考えてくれたみたいに、エコだし生活も便利で楽しく暮らせるようなステキなアイデアがたくさん必要になると思います。これからたくさんのアイデアを考えてほしいなと思います。



熊本県水俣市 水俣第一小学校 壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

水俣川でたくさんの生き物が見つかったことが新聞から伝わってきます。

「見つけ方」に書いてくれたように、石をそっと持ち上げて石のうらを虫めがねを使ってみると、小さな虫が動いていてびっくりしたことでしょう。

ヘビトンボの幼虫をはしでつかんだイラストはとてもいいですね。かみついてくるような動きをするので、手でつかまなくて、はしでつかんでいるようすが思い浮かびます。足のようなものが20本以上ありますが、あしは実は6本でむねについています。おなかについているあしのようなものは、あしではなくエラなどのときです。水の中にいる生き物も呼吸をしているので、空気(さんそ)が必要です。水の中にも空気がとけているので、えらで呼吸をしているのです。

サカマキガイ、イトミミズ、セスジユスリカ、チョウバエを見つけたのは川のどのような場所でしたか?汚れた水でよく見かける生き物です。今回調べてくれた場所が、どのような川の流れの場所か分かりませんが、水がよどんだ場所があったのかな?きれいな水にすむ生き物と、汚れた水にすむ生き物がどちらも見つかったときは、「なぜかな?」と考えてみるといいですよ。

また川の生き物探しをしたら、どんな虫が見つかったか教えてください。



とっておきのゴシドウ★.....★

「めずらしい」という言葉にはどんな意味があるのでしょうか?川の生き物探しでは、数が少ないとかめつたに見つからないということだと思います。昔からヘビトンボはめずらしい虫なのかどうか調べてみるのもおもしろいですね。

どんな虫がいたのか書いてくれましたが、名前だけでは読んでいる人の中には「どんな虫なのだろう?」「どれくらいいたのかな?」と気になる人もいるはず。ヘビトンボはイラストと特ちょうの説明がありますので、他の虫もイラストなどがあると分かりやすいですね。

生き物調べをまとめるときは、「いつ」「どこで」「何を」「どれくらい」見つけたのかを書いてくれるととても参考になります。

熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑳の新聞を書いたみなさんへ
池田師範から一言――

読む人をひきつけるような小見出しがつけられていますね。「見つけたよ!」とあると、何を見つけたのだろう?と気になりますし、「…なぜ海で生きれないの?」というように読む人に問いかけるのもいい工夫です。クイズや感想もあって、全体の構成もいいと思います。
水俣川ではいろいろな生き物を 21 匹もみつけましたのですね。トビケラ、カワゲラ、カゲロウといったあまり聞きなれない昆虫の幼虫もイラストをかいてくれたので分かりやすいです。写真もいいですが、イラストをかくにはよくかんさつする必要があるのも、特ちょうをとらえていると思います。
ヒラタカゲロウの幼虫はうごきが素早かったようですね。たしかにくねくねと動くだけでなく、サッサーと石の上を動きます。そのようなことを知ることができたのも、実際に生き物探しを体験したからだだと思います。
川と海ですむことができる魚の種類がことなるのは、塩分が関係していることに気付いてくれました。魚によっては塩分のこさの変化に強い種類もあります。たとえば、サケやウナギなどです。なぜ、海と川をいったりきたりするのかな?生まれたばかりの魚たちは泳ぐ力がよわくて川だとどんどん流されてしまいますね。エサも関係しているかもしれません。「なぜだろう?」いろいろなことを考えてください。



とっておきのゴシンドウ★……★…

川でくらす生き物の種類から、水俣川の水かんきょうがかいてきかどうか知ることができましたね。かいてきな水俣川をいじするために、感想にあるようにゴミをすてないことは大切です。ゴミがなくても、生き物がずっとくらすためには他にどんなことが必要でしょうか?
川の底で見つけた生き物の多くは昆虫の幼虫ですので、幼虫がくらす場所だけでなく、成虫がくらす場所、そして卵を産む場所が必要です。どれか1つでもなくなると、その昆虫はいなくなってしまうます。
めずらしいと書いてくれた「ヘビトンボ」は成虫になると何を食べて、どこでくらすのかな?夏には、ぜひヘビトンボの成虫を見つけてください。

熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何?新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ㉑の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

エコ・サイエンス部のみなさんが作ってくれたかべ新聞をみて、水俣にはエコですごい工場がたくさんあることが良くわかりました。水俣って、すてきなところですね!
たくさんの方の工場のことがわかりやすくなるように、いろいろな工夫がされています。「すごー! 生ゴミが肥料に! 環境総合技術センター」のように、タイトルを見るだけでエコの内容がわかります。説明も Q & A になっていて、具体的に何がエコなのか分かりやすいです。
「使用済みオイルの再利用で、1日にリサイクルしている量65,000リットルを、おうちのお風呂だと約260に分」みたいに、身近なものを使った「たとえ」もあって、こちらも分かりやすくてとても良い書き方ですね。
それから、似顔絵からの吹き出しにみなさんの感想も書いてあって、ビックリしたことや感動が伝わってきて、読んでいて親近感がわきました。



とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

すてきなかべ新聞です。もし追加するとしたら、いつ取材に行ったのかという「日にち」が書いてあると、記録としてもとっても良いと思います。
さらにステップアップする方法としては、もしまた取材する機会があったら、「困っている事」「こうなってほしいなあと思うこと」なども聞いてみてください。もしかしたら、意外な発見があったり、みなさんが協力できるようなことがあるかもしれません。
またすてきなかべ新聞を送ってくださいね。楽しみにしています!

熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何？新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ 22 の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――
環境大臣賞受賞おめでとう！！！！水俣第一小学校のお友だちと一緒に力を合わせて一生懸命に 15 年という長い間続けてきた環境活動を認めてもらったすばらしい賞だと思います。
「自分たち力で、学校を、地域を、世界を変える！！」という活動のテーマで365日毎日がんばって勝ち取った結果の賞ですね。またこの環境活動は、地域、国内、そして海外のお友だちにもものすごく良い影響を与えたと思います。12 種類の環境委員会のISO宣言も、それぞれに持ちようがあり、やる気や責任をととても感じます。今年のISO宣言である「もったいない」の発表は、まず自分の身の回りことに気を配り、無駄なことをしないように心がけることがとても大切なことですね。師範も今日からこのISO宣言のサポーターになり、応援したいと思います。
とっておきのゴシドウ★……★・
今回の壁新聞では、12種類の環境委員会のISO宣言に対して、それぞれの委員会でどのような結果になったかの報告を楽しみにしております。今後も引き続きこの環境活動にみなさんと一緒にがんばってね。



水俣第一小学校こどもエコクラブ 23 の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――
環境検定、カンキョーズや先生方による環境活動が学校全体で行われていることがうまくとめられたすばらしい壁新聞で、とてもうらやましくなる活動ですね。師範はみなさんの小学校でこのような環境検定が行われていることを初めて知りました。全問正解した低学年、中学年と高学年のお友達は表彰状をもらい、さらに環境活動に力が入り、やる気が出て来ますね。環境検定の作り方、受験者数、受験者の感想などの情報をもっと知りたくまりました。またカンキョーズについての熊本のテレビ局が取材に来たことは、みなさん一人一人が環境活動にがんばっていることが認められたことですね。最後に、みなさんの環境活動を指導・支援してくれている先生方への感謝の気持ちをいつまでも忘れないでね！
今回の壁新聞を楽しみに待っているよ！！！！
とっておきのゴシドウ★……
「自分たち力で、学校を、地域を、世界を変える！！」という活動のテーマで、これらのすばらしい環境活動が他の国内の小学校や海外の子どもたちにも良い影響を与えられるように、地域や世界を変えるモデルケースになれるように応援したいと思います。



熊本県水俣市 水俣第一小学校
壁新聞のタイトル:災害って何？新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ 23 の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――――
環境検定、カンキョーズや先生方による環境活動が学校全体で行われていることがうまくとめられたすばらしい壁新聞で、とてもうらやましくなる活動ですね。師範はみなさんの小学校でこのような環境検定が行われていることを初めて知りました。全問正解した低学年、中学年と高学年のお友達は表彰状をもらい、さらに環境活動に力が入り、やる気が出て来ますね。環境検定の作り方、受験者数、受験者の感想などの情報をもっと知りたくまりました。またカンキョーズについての熊本のテレビ局が取材に来たことは、みなさん一人一人が環境活動にがんばっていることが認められたことですね。最後に、みなさんの環境活動を指導・支援してくれている先生方への感謝の気持ちをいつまでも忘れないでね！
今回の壁新聞を楽しみに待っているよ！！！！
とっておきのゴシドウ★……
「自分たち力で、学校を、地域を、世界を変える！！」という活動のテーマで、これらのすばらしい環境活動が他の国内の小学校や海外の子どもたちにも良い影響を与えられるように、地域や世界を変えるモデルケースになれるように応援したいと思います。

[illegible][illegible]

日々の環境活動について「マンネリ化」にならないように、「新しい風」になる活動のアイデアを考えたいとまとめて書いてありましたが、何かよいアイデアはありましたか？ もしかしたらもうすでに実践しているかも知れませんが、広西小学校と同じような取組をしている学校と交流を行うことで、意見交換ができれば新しいアイデアが生まれるかもしれません。

また、世界中で同じような活動をしている学校であるエコスクール(民間団体で世界中の学校にグリーンフラッグ認証しているところ)の仲間に入って、国際的な活動に参加するというのも方法です。エコスクール以外にも、ユネスコスクールや省エネ共和国、学校版KESの参加校に登録する、なんて方法もありますね。そして、広西小学校の取組を日本中、そして世界に知ってもらうような機会を作ってみてもいいかもしれません。

[illegible]

自分たちにできる
地球にやさしいこと

いももも

おのれおのれ

おのれおのれ

44-62

少しむずかしいかもしれませんが、他のグループの人に、まとめた内容について感想を聞いてみるのもよいと思います。同じクラブですので、普段から感想は聞いていると思いますが、3つのグループの間のつながりが出て、感じたことを共有できます。新しい発見もあると思いますよ。

イオン鹿児島チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

今回もデザインやイラストで目を引く壁新聞ができあがりましたね。地域の自然や農産物について、ていねいにまとめられていると思います。以前も壁新聞をみさせてもらっていますが、「くろぶ〜」についての説明がいつかほしいと思います。桜島の植物に桜島小みかんがのっています、私は最近、茨城県でも「福来みかん」という、直径 3cm ほどのみかんを栽培していることを知りました。機会があればぜひ調べてみて下さい。桜島の軽石は、水はけがいいだけでなく、逆に水を溜めることもできるのです。自然の力を感じました。
「灰のまざっている土でサツマイモができるのか」という疑問に対して、実際に育てて調べる事ができてよかったですね。お店に来たお客さんたちも、興味を持ってくれたことでしょう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

まとめに書いてありますが、大切な植物を守っていくために、みなさんはどんなことができると思いますか？みなさんが地域のすばらしい自然や農産物について調べたり、体験したりしたことをまとめたこの壁新聞をたくさんの人に読んでもらうことは、その一つですから、引き続きがんばってほしいと思います。その上で、みなさん自身が家や学校でどんなことに取り組めるか、ぜひ考えて行動してほしいと思います。

西伊敷小学校 美化環境委員会グリーンチームのみなさんへ
師範から一言――

この壁新聞は、西伊敷小学校美化環境委員会の中のグリーンチーム 4 人で作ったものですね。学校全体で取り組んだ活動についてもまとめています。
プールの生き物調査では、今年もたくさんの生き物を見つけることができましたね。捕まえた生き物は、その後どこか近くに放流したのですか？アカトンボが学校や家の近くで飛んでいたら、それはみなさんが救出したヤゴだったかもしれませんね。
鷹匠の方にお話を聞いたのは、とても貴重な機会でした。みなさんの地域では、今でも鷹匠の方がたくさん活動されているのでしょうか？今回、学校に来てくれることになった理由をぜひ知りたいなと思いました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

プールの生き物調査は毎年行っているそうなので、昨年との比較をしてみるといいと思います。生き物の数や種類が大きくなり、何か原因があるかもしれません。結果を積み重ねていくことは、後輩のみなさんが活動する時のヒントにもなりますよ。
生き物の写真は、キャプションがあるとわかりやすくなると思います。生き物の名前はわからなくても、「プールで発見」とか「ライトラップに集まった虫」など、どの活動で見つけた生き物かわかるといいと思いました。

壁新聞のタイトル:①緑発見新聞、②MIRAI 新聞、③西伊敷環境新聞



壁新聞のタイトル:西伊敷ニコニコ姉妹新聞



機会があれば、インタビューをする人が増やせるといいですね。中には日ごろエコな取り組みをしていない、という人もいるかもしれませんが。そんなときには、この壁新聞に書いてある「できること」を教えることもできますね。インタビューをすること自体が、相手の方の環境への意識を高めることになると思いますので、ぜひたくさんの人に聞いてみましょう。

あおきこクラブのみなさんへ

師範から一言――

あおきこエコクラブが作ってくれたかべ新聞「さつまがも新聞」は、とっても気に入りました。何が気に入ったかというと、まず第一に、この新聞を読んでかべ新聞しはんの私は、さつまがも農法とは、どういうものを教えてもらいました。とっても分かりやすかったです。かもを使ってじょ草ざいを使わないお米作りがあることは、知っていましたが、この新聞を読んでどうしてこの農法が良いかがよくわかりました。じょ草ざいを使わないだけでなく、土作りにも良いですよ。稲が丈夫に育つよ。さつまがもの首が長いので、稲の高いところの虫を食べる、そして稲をつんつんつづくので、稲にしげきがあたえられて、丈夫に育ちます。そーか！人間もそうですが、てきとうなしげきがあると丈夫に大きくなるのですね。フンが肥料にもなるよ！などいっぱい良いことがあることがわかりました。

第二番目に、合がもとさつまがもをひかくして、書いてある中でさつまがもはよく働き、行動がはやくて、サボらない(笑い)ようですね。そして朝、昼、夜と一日中働くとのこと、とっても働き者なのですね。しっかりとかんさつしているみんなだから、このようなことがわかるのですね。みんなのかんさつりょくが、とてもすばらしいと思いました。朝、昼、夜と一日中働いていると、いつねるのかなと心配になりました。人間社会では、こんなに働くとなってもつかれて、病気になりますが、さつまがもはじょうぶなのですね。

第三番目に気に入ったのは、新聞の中に書いてある絵です。かもの後ろから出ている丸いものは、フンであったり、たまごなのですね。さつまがもが歩いているところの丸いものは足あとかな。歩きまわると土がプリンのようにふかふか、プリンプリンのようになるよ、と言っているのでしょうか。にわとりとさつまがものたまごの大きさを絵の大きさにひょうげんしてくれました。さつまがものたまごって大きいんですね。

第四番目には、さつまがもが生まれるまでと生まれたのを全国へ送られるまでをていねいに書いてくれました。さつまがもはいろいろな所にたまごを産みます。それを集めてふ化器に入れて1週間後にとり出す。28日でたまごをわってひよこが出てくるとその日と翌日に全国にある日本有機に、ヒナを発送する。3日間は何もえさを与えなくても元気です。2日間ほどでとうちやくするでしょうから、ヒナは元気に嫁入りをするようですね。たまごを一羽で1000個を産むのですから、たくさんのヒナが鹿児島から全国へ送られるのですね。ピョピョととてもにぎやかな発送ふうけいが目にうかびますよ。

鹿児島県曾於市 あおきこエコクラブ
壁新聞のタイトル:さつまがも新聞

やっぱり一番すてきなのは、さつまがも農法でつくったお米のうまさでしょう。みんなもお米をたいて、食べましたね。とってもおいしかったようですね。私も食べてみたいなー！

日本の農家でもお米だけでなく、いろいろな物を作っていますが、無農薬でつくることを全部の農家に広めたいですね。農薬をできるだけ使わないで、お米はもちろん野菜や麦やそのほかの農産物を作ってほしいですね。みんなはとてもよいけいけんをしました。

来年は下級生にも教えたいとのもくひょうがありますね。いいですねー！鹿児島県からはっしんするエコ農業がもっと有名になってほしいですね。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

にわとりのたまごは、ほとんどが白色ですが、さつまがものたまごは、赤色とみどり色があるのですね。そうですか！それとびっくりしたのは、にわとりは一日に1こしかたまごをうみませんが、さつまがもは一日に1000こもうむのですか。これはびっくりです。どれくらい時間がかかるのでしょうか？



大崎小アースフレンドリー①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言一

アースフレンドリーのみなさん、こどもエコクラブに入って1年目ということで、こんにちは！ようこそ！これから楽しいゲームや工作や自然かんさつなどをやって、楽しく、みんなとなかよくやりましょう。そして少しでもかんきょうに目をむけて、自分ができることを見つけるとともに参加者にもかんきょうに関心をもってもらうようにできるといいですね。

グリーンオリエンテーリング??!!ごめんね、壁新聞しはんの私は、どうやるのかわかりません。オリエンテーリングは何回もやったことはあるので、同じようにやるのだらうとそうぞうしますが、せいかくにはわかりません。こんど、きかいがあったら教えてください。でも新聞を読んだら参加者は、みんな楽しく、やったようだからやっぱり楽しいゲームだったようで、計画したみんなはよかったですね。

木の名前をおぼえたかな、ということでグラフにまとめてみたんですね。予想とはちがっていて、「いいえ」と答えたひとがちょっと多かったようです。木の名前を全部おぼえるのは大変ですから、わかった木は、5本、10本、20本とかわけておぼえたかを聞くとよいと思います。1本でも2本でもおぼえた人がいることは、とてもよいのではないのでしょうか？ いままで木に関心がない人が、関心を持つようになったと考えれば、1本でも2本でもよいと思います。

グラフの書き方にもびっくりしました。0 人から 10 人までの間に波線でくぎりを入れています。4 年生でこのような書き方をもう知っているのですね。すばらしい。

100 人くらい参加したようですが、アンケートは 27 人でした。全員がアンケートに答えたわけではなかったのかな？あるいは 27 人というのは、27 のグループだったのかな？100 人だともっと“はい”がふえていたかな？

今までは、みんなは参加する立場でしたが、今回はゲーム、活動を計画して、じっしするせきにんしゃの立場になりました。参加者からはとても楽しかった、おもしろかったという感想がありました。りっぱにせきにんしゃをつとめることができました。みんなは成長しました。4年生でこんなりっぱな活動ができるとは、私もびっくりしました。これからのみんなのかつやくが楽しみになりました。



鹿児島県大崎町 アースフレンドリー

壁新聞のタイトル:①グリーンオリエンテーリング新聞、②すずめの命をすくえ

4 こまマンガにも大変かんどうしましたよ。学校で一番大切な木は何ですか？私も考えてみました。さいごにやる木(気)だよ！うーん私はできなかった。みんながよく考えて作ったマンガだとはいくしゅ！はいくしゅ！です。グリーンオリエテリーグだから、どうしてもにれの木、さくらの木とか、木のことを頭にうかべます。でもやる気でした。すばらしい！

つぎはどんなゲームをするのかな？でも参加者はまたやりたいという人が多かったから、またやってもよいかと思いますが。どんな壁新聞がくるか、きたいして待っています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

グリーンオリエンテーリングをやるために、みんなががんばったことが少ししか書いてないけれど、じつはとても大変なのです。ということは、私も計画したり、じゅんびすることをよくやりますので、みんなの大変さがわかります。

大変さについて書いてみたいと思います。

その1. 学校の木が39種類もあって、その木、一本ずつに名前をつけたのですね。39種類もよくわかりましたね。サポーターの人や学校の先生にも教えてもらったのかな？すばらしいです！！私も大崎小学校に行って、木の勉強をしたいな—と思いました。

その2. つぎはオリエンテーリングのやり方をみんなで話し合いながら決めたのですね。そして参加者に木のさがしかたのルールを決めて、紙に書いたのかな？一人一人ではなくて、グループで木をさがすようにしたのでしょうか。そのばあい、すべてのグループが同じじゅんばんでさがすようにすると、出発する時間をずらしたのかな？あるいは、木をさがすじゅんばんのルートを何種類か作っておいて、グループがばらばらになるように工夫したのかな？

まち中や森の中、山の中で歩いて(走って)やるオリエンテーリングは、せいかくにルートをまわってきて、時間がみじかいチームが一番になりますが、グリーンオリエンテーリングは、どうやったのかな？時間をきょうそうしたのかな？木の名前を正しくみつけるきょうそうかな？どのような工夫をしたのか、知りたいです。

みんなはスタートとゴールだけでなく、ところどころに立って参加者に「がんばれ！」とか「どの木を探しているのかな？あっちのほうじゃないかな、こっちのほうじゃないかな？」などと声をかけたのかな？

オリエンテーリングのやり方を考えているだけでも、私はとても楽しく、おもしろくなってきます。ですから参加者は、むずかしくても楽しかったと思います。見つけたぞー、がんばるぞー、なんという名前かなー、つぎに早く行こうよ、という声が聞こえてくるようです。

大崎小アースフレンドリー②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

アースフレンドリー②のみなさん！壁新聞ははんのおかもとです。こどもエコクラブに入ってくれてありがとう。これからは楽しい、おもしろいゲームや工作あるいは自然かんさつ、緑化活動をやって、少しでもかんきょうに関心を高めて、かんきょうをよくすることで自分ができることを続けてやるようにするとよいと思います。

1年目の壁新聞は、すずめの命をすくえということで巣箱作りにチャレンジしたことを書いてくれました。長さを正しくはかって、のこぎりを使って木を切りました。ドリルで穴をあけました。そして金づちを使って、くぎを打ち巣箱を作りました。ふだん、あまりやらないこと、あるいは初めてのけいけんの人もいたでしょう。一人だけで木を切ったり、穴をあけるのはむずかしいので、ほかの人ときょうりょくして、やったと思います。金づちでくぎを打つとき、ゆびを打ってしまった子もいたようですね。くぎを打つのは、言うのはかんたんですが、ちゃんとくぎの頭を金づちで打つのは、いがいとむずかしいですよ。ドリルで穴をあけるのは、とてもむずかしかったのではありませんか？ちょっとむずかしいし、きけんなので、講師の安田さんにあけてもらったのかな？でも、26人全員がやったー！見て見て！とじまんの巣箱をみんなが持っている写真を見るとりっぱにできているのが分かります。

このようすが南日本新聞にとりあげられたようで、すばらしい活動でしたね。

写真やみんなの感想文のどこにも、みんながすずめよ！早く来てくださいとのねがいがいっぱい書いてあります。ねがいの気持ちがあふれている写真でした。私もとおくから、すずめにおねがいします。

つぎの壁新聞には、すずめがいっぱい来ましたとのほうこくがあることをきたいしています。だいじょうぶ！みんなの気持ちがすずめに伝わるでしょう。



とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

このような巣箱づくりをやろうとした動機が書いてありました。すずめが少なくなったからという理由だけでなく、すずめが少なく、いなくなるとほかの生き物にもえいきょうが出て、自然がかわっていくのが、しんぱいだから、すずめをふやそうと考えたようです。自然の変化まで考えているところがとてもすばらしいです。今、日本のあちこちで生き物が少なくなったり、外から持ちこまれた生き物で、生き物の分布がかわり、自然が変化しつつあることがほうこくされています。自分たちの身近なところに目をむけて、自分たちができることをやろうとしているみなさんは、とてもすばらしいですよ。

かんせいした巣箱を学校の中だけでなく、電柱にもつけました。家に持ち帰りベランダや庭の木につけたりしたようですね。まだ、すずめは巣箱に入っていないようですが、すずめは4月から8月にかけてたまごを産みひなを育てるようです。今回巣箱を作ったのは11月のようですね。ですからまだすずめは巣箱に入らないと思います。でも冬場の2月ごろに巣箱をおいておくと、すずめは巣箱を試みするそうです。そして4月ごろから巣箱に入ってたまごを産みます。年間に3回から5回ほどたまごを産むようです。ですから、春になるとそのうちに入ると思います。きながに待ちましょう。一つの巣箱に何羽ものすずめが入るのかわかりませんが、たまごをうみ、ひながかえるのが楽しみです。

神奈川県に住んでいる私は、庭にシジュウカラの巣箱を2つ別々の木にとりつけました。おどろくことに、2つの巣箱に同時にシジュウカラが入ってたまごをうみ、ひながかえりました。何羽ひながとびたつのか、数えながらかんさつしました。シジュウカラは年2回たまごを産み、ひなを育てます。4月ごろと7月ごろです。

巣箱のたまごやひなをねらって、ねこやへびが入るようです。巣箱を低いところにつけるとねこが入るので、高いところ、そして巣箱の下はねこがよじのぼらないように、枝などを切ったほうがよいようです。へびが入らないようにするのは、どうしたらよいのでしょうか？私の庭にはへびがいないので、ねこたいさくだけはしましたが。

穴の大きさも鳥の大きさにあわせるようですね。シジュウカラの場合、穴の直径は28mmです。すずめは30mmより大きくしたのでは、ありませんか？

巣箱の方向もだいじです。南の太陽が当たる方向は、巣箱の中が暑くなってひなが死んでしまうようです。日かげのところや北向きに巣箱をつけるのがよいようです。

OMRC こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言――

一年間、いろいろなものを作りましたね。どれも作るのがとても楽しそうです。いつも活動レポートもたくさん出してくれていますが、その総まとめの壁新聞ですね。そのなかでも、ソテツの葉やサンゴなど、沖縄らしい材料もあって、地域の自然を知ることにもつながったと思います。それぞれに、材料や作り方がていねいに書いてあって、読む人もイメージがしやすいです。また、むずかしかったことや感想がしっかり書いてあります。楽しいだけでなく、充実した体験だったからこそ、こうやってしっかり文章が書けたのではないかなと思います。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
いろいろな工作をしたので、ぜひ一年間のまとめも書いてみるとういいますね。工作をして、自然について考えたことや、普段の生活で物をどう大切にするか、考えてアイデアを書いてみると、みなさんの体験がさらに充実したものになると思いますよ。



西表ヤマネコクラブのみなさんへ
師範から一言――

西表ヤマネコクラブのみなさん、またまた素晴らしい壁新聞を制作し、送ってくれましたね！とにかく素晴らしいの一言です。
イリオモテヤマネコ発見 50 周年、おめでとうございます。50 周年を記念してクラブの代表 6 名が対馬環境スタディーツアーに参加して、対馬野生生物保護センターを見学し、ツシマヤマネコについていろいろと学んできたのですね。
イリオモテヤマネコとツシマヤマネコについて、まとめてくれ、現状はどうなっているかも詳しく書いてくれました。どちらもベンガルヤマネコの亜種と同じですが、エサ、骨格、毛、しっぽ、産む頭数などを比較して書いてくれました。とっても良く分かりやすいです。これは記事を書いた人達が、イリオモテヤマネコとツシマヤマネコのことをしっかりと理解し、且つ新聞を読む私たちが何を知らたいかを十分に理解して書いたからだだと思います。
<これからの保全>の記事を読んで、非常に感心しました。何が感心したかと言うと、これからイリオモテヤマネコをどう保全したら良いか？をツシマヤマネコの実情を見学して来て、自分たちの問題としてとらえて、しっかりと議論したことです。そして西表の自然や環境などをしっかりと把握して、対馬のやり方をそのまま持ち込めないと考えました。でも、何とかイリオモテヤマネコを保護、増やしたいと頭をしばりました。結論がすぐ出るわけではないと考え、これからも検討していこうとしました。素晴らしい議論が出来ていることに本当に感心しました。自然と人間とヤマネコが共存できるには、どうしたら良いか？自分たちができることは何か？をこれからも模索してください。

イリオモテボタルとオオシママドボタルを長年観察していますね。工事が終わって、ようやくホテルがもどってきて、増えて来てよかったですね。前にも書きましたが、9 月中旬から 1 月中旬の冬にホテルに会えるのは、うらやましいです。私は、ホテルは夏の風物詩として、こどもの時から教え込まれていましたので、冬に見られるとはおどろきでした。
12 月 12 日から 12 月 18 日まで毎日、欠かさず丹念に観察をしましたね。天気、気温、風向、風速そしてホテルの数を調べました。えらい！イリオモテボタルが毎日、増えていったのはうれしかったです。オオシママドボタルは数多く発見できて良かったですね。



沖縄県竹富町 西表ヤマネコクラブ
壁新聞のタイトル:西表山猫新聞

ところで12月でも沖縄は20℃くらいあって温かいのですね。でも雨や曇りでこの1週間は晴れなかったのですね。それでも20℃ということは、晴れれば25℃位にはなるのでしょうか。私の住んでる川崎とは全く違います。だから生き物の宝庫なのでしょう。

サバイバルキャンプは今年で5回目だそうで、ようやくメンバーだけでテントを張ることができて、おめでとうございます。去年も試みたけれど、最後は大人の人に助けってもらったと書いてありました。これまでの反省を活かして、今回は何と無事にメンバーだけでできたとのこと。ここでもみんなの素晴らしさが書いてありました。これまでの反省を踏まえて、どうしたら倒れないようにするかを図解して説明、実行しました。自分たちで問題を解決した経験をしました。これからいろいろ問題や課題が出てくるとありますが、今回の経験を活かして解決できるでしょう。

料理作りは、自分たちで料理をして食べるのですから、楽しいのは当たり前ですが、去年から2つのグループで対決するようにしたので、楽しさ、面白さが増えて良かったですね。対決の結果はどちらが勝ったのですか？勝ち負けの判定は、時間と美味しさで決めるのかな？引き分けだったのかな？地元の野菜や魚などを使って料理をしたのですね。いわゆる地産地消でエコな料理ですね。

ビーチクリーンで海岸に漂着したごみ拾いをしたのですね。浮き球は漁業で使っていたものですね。発泡スチロールやプラスチック、ペットボトルはいずれも長い間、分解せず、海岸に漂着したのですが、たくさんありましたね。日本の品物だけでなく外国からの漂着物もあったと思います。どこから来たかなども調べると良いと思います。品物には外国語も書いてあるようですから、どこの国かも予想できるでしょう。

西表ヤマネコクラブの壁新聞の良さは、全部自分たちのことばで、字で書いてあることです。はではでしさはありませんが、一生けんめいに製作したことがにじみ出ている新聞です。それと一つ一つの出来事を大きな字でタイトルを書き、色も付けて、枠で囲み、分かりやすく書いてあるのも大変良かったです。もっと素晴らしいことは、活動した結果だけを書いたのではなく、その事実をどうとらえ、考え、どうしたら良いかなど、考察をしっかりと書いていることです。その意味で私はみんなの壁新聞を高く評価します。

沖縄県竹富町 西表ヤマネコクラブ
壁新聞のタイトル:西表山猫新聞

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

オオシマドボタルは日本で最大のホタルのようですね。イリオモテボタルとオオシマドボタルが復活して、増えた理由をしっかりと書いてくれました。調査したら増えました、という観察結果だけの報告が多い中で、何故、変化したのかをいろいろとみんなで話し合っ、て、こうだろう！と考え、書いたことがとても素晴らしいです。読んでいて私も納得しました。でも、一つ聞きたいことがあります。ほとんど絶滅したようにいなくなったのが、どうして増えたのですか？工事をしても卵が土の中に残っていたのかな？オオシマドボタルのオスは羽があるので別の所へ避難していて、もどってきたのかな？羽のないメスはどうやって過ごしていたのだろうか？イリオモテボタルは、芋虫のようだからどこかに移動するのは大変ですね。工事中でも少しはそばに生き残っていたのかな？そして工事が終わり、枯葉・腐った植物と湿地がよみがえりヤスデが増えて、イリオモテボタルもエサにありついて繁殖したのかな？

水質調査を3つの川で行いました。川の様子とCODのパックテストの結果が必ずしも合っていないようですね。ナガレ川は、どうも汚れているようですので、CODの数値も高いですが、浦内川は水はきれいだがCODは8以上、野崎川は腐卵臭がするが、CODは低くてきれいとなっています。野崎川は海水が入り込んでいるようですので、海のおいかな？海藻などがあるので海独特のにおいがありますので、腐卵臭と表現したのかな？浦内川のCODが8以上ですが、ナガレ川より8になる時間がおそいと書いてあります。CODは色から数値を出しますが、CODパックテストでは温度によって色の付き具合が変化します。色の判別は30℃位では、4分後に調べなさいとなっていますと思います。時間が過ぎていくと全て濃い色になるので注意が必要です。使っているCODパックテストは最大の数値が8以上のですから、水につけて取り出し、長い時間経つとみな8以上になりますので、時間には気を付けてください。CODのパックテストは低濃度用0~8mg/Lと高濃度用0~100mg/Lがありますので、8以上になってしまう場合は、高濃度用のパックテストで調べるのも良いかもしれません。

ところで西表島は石灰岩の島ではありませんか？私は石垣島に行ったことがあります。石垣島は石灰岩の島で、海岸には海藻類が無かった、少なかったようです。海の独特のにおいはありませんでした。海の独特のにおいは海藻などが腐った臭いだそうです。西表島はどうなっているのだろうか？

毎年、継続して活動を進めています。後輩を育てることと共に自分たちも成長していることが読み取れます。来年も、また楽しい、感心する記事の壁新聞を待っています。